更新世段丘Ⅱ	更新世段丘Ⅲ	更新世段丘Ⅳ	完新世段丘Ⅰ	完新世段丘Ⅱ
現氾濫原	開析谷	河川	調査区	人工改変地

第２図　坂元遺跡付近の地形面と調査区

段丘が北西―南東方向に長く延びる。これは印南野台地における段丘分布の特徴であり、そこでは各段丘が南西に向かって階段状に配列する。

〔更新世段丘Ⅲ～Ⅴ〕 更新世段丘ⅢとⅣは白ヶ池川中～下流部でみられる。これらは、白ヶ池川に沿って断続的に分布し、遺跡の北側と南側では概ね南北に延びる。これらの段丘はそれぞれ比高２～３ｍの段丘崖をもつ。他方、更新世段丘Ⅴは遺跡より約300m 南西に分布する。この段丘は、白ヶ池川沿いに認められず、白ヶ池川はその形成にほとんど関係しなかったと考えられる。

〔完新世段丘Ⅰ〕 この段丘は、白ヶ池川の下流部でよく発達している。これは、とくに南西方向へ連続して延び、加古川下流沖積低地の南東端を縁取るように細長く分布する。白ヶ池川の下流部では、この段丘が現流路の両岸にみられ、なかでも南岸には東西方向に約600m の長さをもつ段丘面が広がる。これは、西方へ緩やかに傾斜し、完新世段丘Ⅱと比高２ｍ前後の段丘崖で接する。

調査区の多くがこの段丘上に位置し、白ヶ池川南岸の段丘面には、２～７区、９～14区、17～18区、19区の南西部、20～27区、29区、31～35区、37～40区、45～46区、および53区の南西部がみられる。他方、白ヶ池川北岸の段丘面は南岸と比べて発達しておらず、そこには36区と48～51区が位置する。

〔完新世段丘Ⅱ〕 これは白ヶ池川に沿って断続的に認められる。段丘面は、現氾濫原より約50cm 高く、白ヶ池川の下流へ行くほど高度を下げる。１区と56区がこの段丘面に位置し、それらは白ヶ池川下流部の北岸に分布する。

〔現氾濫原〕 この地形面は、最も低く、河川の氾濫に伴って冠水する危険性がある。これは白ヶ池川の中～下流部とそれが合流する別府川沿いに認められる。白ヶ池川中～下流部の現氾濫原は、現流路に沿って細長く延び、幅は最大でも150m 前後しかない。ここには、15区、16区、19区の北東部、および53区の北東部が位置する。一方、別府川の南東岸では、完新世段丘Ⅰの段丘崖下に低湿な現氾濫原が認められる。そこには、28区と30区の北西部、52区、ならびに54～55区が分布する。

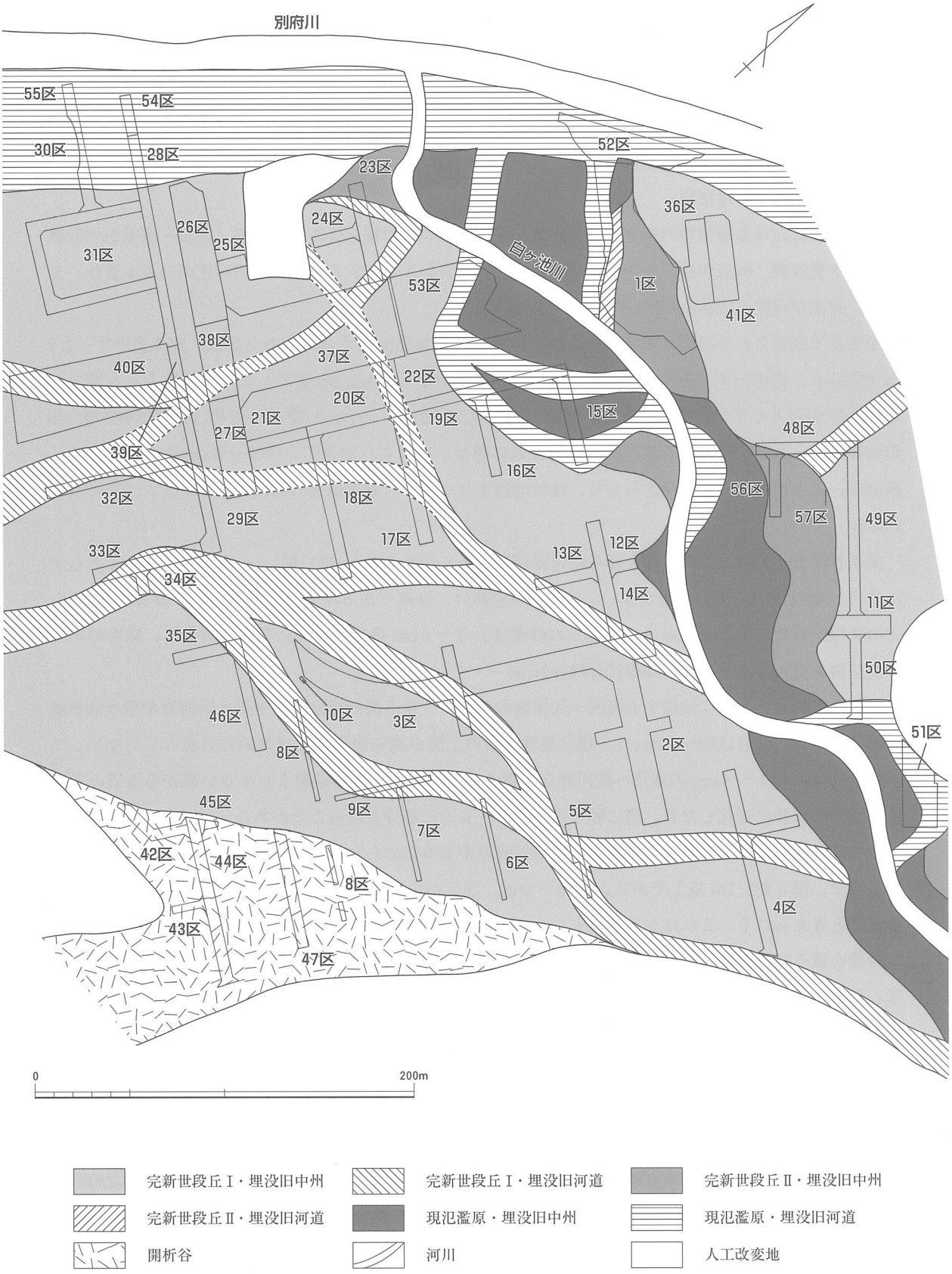
〔開析谷〕 遺跡周辺には、比較的大規模な開析谷が２ヶ所でみられる。ひとつは白ヶ池川中流部の東岸から南東へ延びるものである。この谷は100～350m の幅でほぼ直線状に数 km 発達し、白ヶ池川付近では更新世段丘Ⅰ～Ⅳを下刻している。他の一つは遺跡の南端から南へ延びるものである。これは、更新世段丘Ⅳを下刻して発達しており、100m 前後の幅をもつ。谷底は、北へ緩やかに傾斜し、完新世段丘Ⅰの段丘面と傾斜変換線で接する。この谷の出口(北端)付近には、８区、42～44区、および47区がみられる。

(2) 遺跡付近の微地形

多くの調査区が位置する完新世段丘ⅠとⅡは埋没した扇状地が段丘化したものであり、白ヶ池川沿いの現氾濫原には地下浅所に扇状地が発達する。そのため、これらの地形では、扇状地の微地形である旧中州と旧河道が埋没している(第３図)。旧中州の埋没地点は旧河道が埋もれている箇所より地表が数十 cm 高い。

白ヶ池川北岸の完新世段丘Ⅰでは、埋没旧中州が少なくとも２ヶ所で、南岸のそれでは約10ヶ所で認められる。旧河道は、これらの間に延び、白ヶ池川南岸の完新世段丘Ⅰでは６～７本みられる。これらはやや蛇行し、全体としては網状を呈する。旧河道の多くは白ヶ池川の流路跡で、48区付近の旧河道と23区から37・38区を経て40区に至るものとは、その方向からみて加古川の分流跡と考えられる。

完新世段丘Ⅱは、白ヶ池川に沿って断続的にわずかの面積しかみられない。そのため、旧河道は１区



完新世段丘Ⅰ・埋没旧中州　完新世段丘Ⅰ・埋没旧河道　完新世段丘Ⅱ・埋没旧中州
完新世段丘Ⅱ・埋没旧河道　現氾濫原・埋没旧中州　現氾濫原・埋没旧河道
開析谷　河川　人工改変地

第3図　坂元遺跡付近の微地形分類図

の南西端に認められるだけであり、他には埋没旧中州が分布する。現氾濫原は白ヶ池川と別府川に沿ってみられる。これらのうち白ヶ池川に沿う現氾濫原では、埋没旧中州と白ヶ池川の旧河道とがそれぞれ約５ヶ所に分布する。他方、別府川沿いには、比較的大規模な旧河道が認められる。これは加古川の分流跡と考えられる。

３．遺跡調査区における堆積物について

(1) 完新世段丘Ｉの堆積物

この段丘における堆積物の基本的な層序は、下位から順に橙褐～橙灰色の砂礫、橙灰～灰褐色の砂礫～シルト質砂礫、灰色の砂～シルト質砂、黄灰色の砂質シルト～シルト、灰～暗灰色のシルト質砂～シルト、および現耕土である(第４・５・６図の南西部)。

最下位で観察される橙褐～橙灰色の砂礫は扇状地堆積物に該当する。その上面は、現地表下１～1.7ｍでみられ、旧中州が分布するところで高い。厚さは少なくとも1.2ｍある。この砂礫はそれを構成する礫の径からみて２つに細分される。下位の砂礫は主に径４～９cmの礫からなり、最大で径十数cmの大礫がみられる。他方、上位の砂礫に含まれる礫は、それより小さく、径２～５cmを主体とする。両者は、ともに亜角～亜円礫からなり、比較的締まりがよい。両堆積物の間には、砂がレンズ状に挟まれる。

完新世段丘Ｉでは、この砂礫を切る旧河道が最も多く認められる(第15図)。その深さは少なくとも１ｍあり、幅は10ｍ以上のものが多い。旧河道堆積物は、砂礫である場合と、砂礫と砂、砂質シルト[1]などの互層からなる場合とがある。これらの砂礫は、２～５cmの亜角～亜円礫を主体とし、前者の多くは間に砂を挟んで上下２つの砂礫に分けられる。

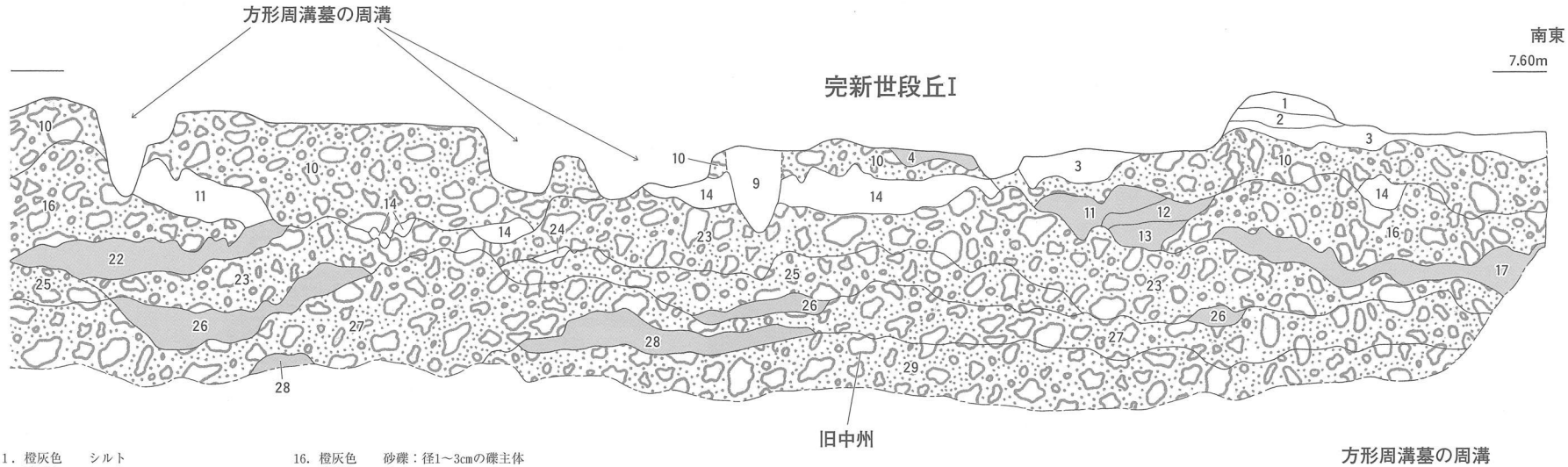
扇状地堆積物の上位に位置する橙灰～灰褐色の砂礫～シルト質砂礫は、旧中州と旧河道を覆う洪水堆積物にあたる。厚さは20～60cmで、扇状地堆積物の上面が高い箇所では局地的に分布していない。この堆積物は、径１～４cmの亜角～亜円礫を主体としており、下位の砂礫より小さい礫からなる。これは、部分的に砂に変化したり、間に砂を挟んで２～３つに細分されることがある。

本遺跡の西部では、このような砂礫を切る旧河道が２本認められる。ひとつは23区の北西端にみられるもので、深さが1.1ｍ以上である。他の一つは、23区から37区を経て40区に至る旧河道で、加古川の分流跡と考えられる。これは少なくとも1.6ｍの深さをもつ。

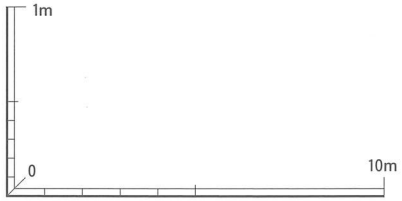
砂礫を覆う灰色の砂～シルト質砂は、多くの場合３つ前後の砂やシルト質砂からなり、砂質シルトを挟むことがある。これらは洪水堆積物に相当する。全体の厚さは20～80cmで、調査区のほぼ全域で認められる。この上位にみられる黄灰色の砂質シルト～シルトは、調査区のほぼ全域に分布し、２～３つに分けられることがある。これらの堆積物には、黒灰色のシルトが局地的に認められ、そこには小規模な湿地が形成されていたと考えられる。40区にみられるこうした黒灰色のシルトからは10,470±50yrBP(IAAA-80858)の放射性炭素年代測定値[2]が得られている。

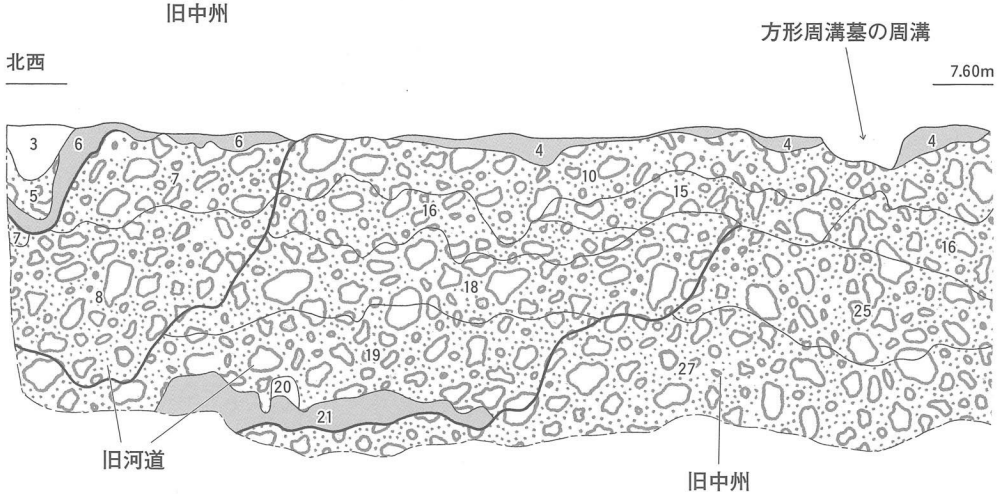
こうした砂質シルト～シルトのうち、最上位の黄灰色シルトを切る旧河道が少なくとも４本認められる[3]。旧河道の幅は３～10ｍと比較的小規模で、遺跡の西部を北東―南西方向にやや曲がりながら延びる。これらは、白ヶ池川や加古川の分流跡と考えられ、橙灰色の砂礫や砂、シルト質砂によって埋積されている。

黄灰色のシルト上面からは、縄文時代晩期以降の遺構が検出される。完新世段丘Ｉの埋没旧中州上で



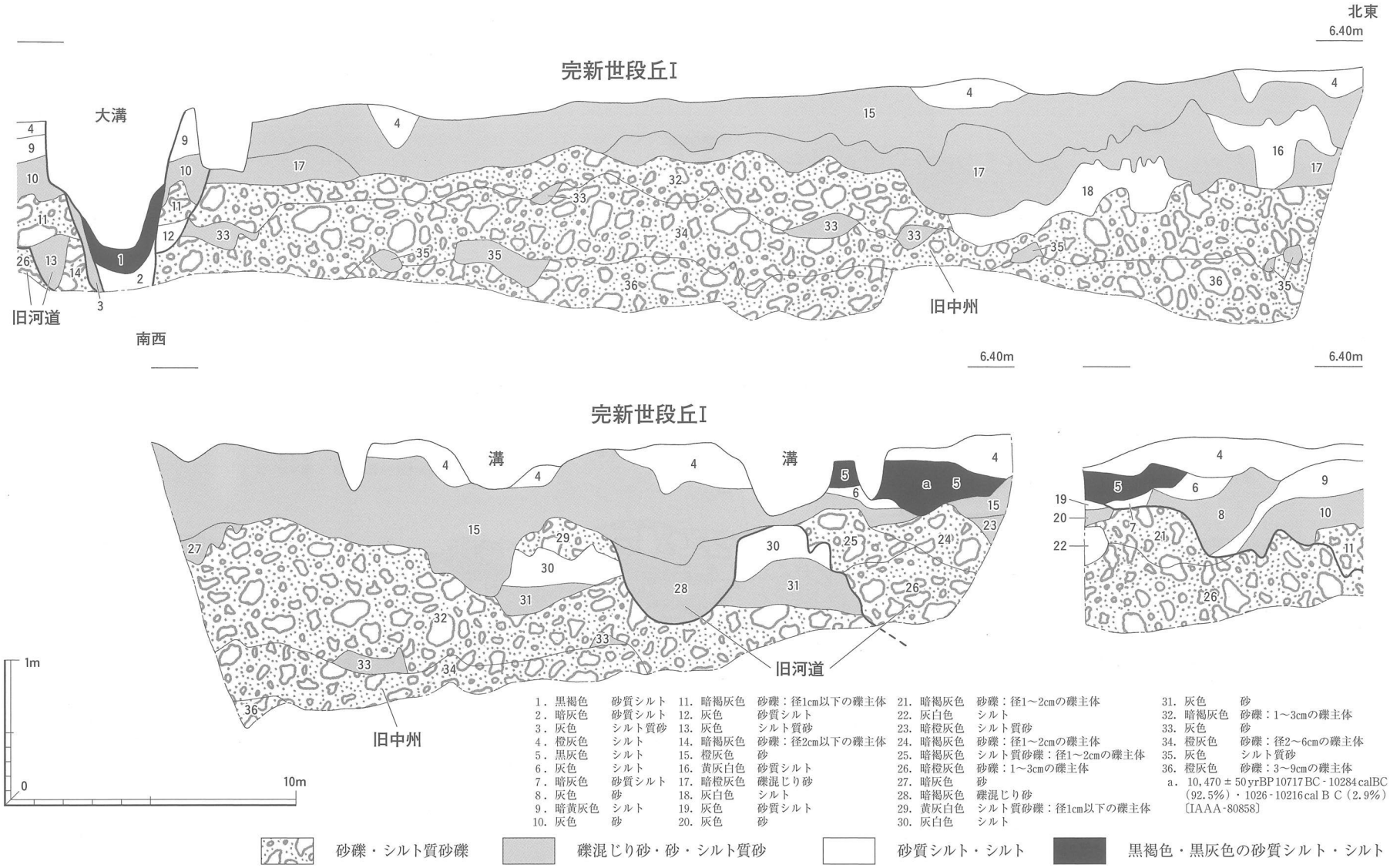
1．橙灰色　シルト
2．暗灰色　シルト
3．灰褐色　砂質シルト
4．橙灰色　シルト質砂
5．褐色　砂礫：径1～2cmの礫主体
6．灰褐色　砂
7．黄灰色　砂礫：1～4cmの礫主体
8．灰白色　シルト質砂礫：1～4cmの礫主体
9．風倒木跡
10．暗橙灰色　砂礫：径1～5cmの礫主体
11．橙灰色　砂
12．橙灰色　礫混じり砂
13．灰色　砂
14．黄灰色　砂質シルト
15．橙灰色　シルト質砂礫：径1～4cmの礫主体
16．橙灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
17．橙褐色　砂
18．褐灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
19．橙灰色　砂礫：径3～7cmの礫主体
20．灰白色　シルト
21．橙灰色　砂
22．灰白色　シルト質砂
23．暗褐灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
24．橙灰色　砂質シルト
25．橙灰色　シルト質砂礫：径1～3cmの礫主体
26．橙灰色　砂
27．橙灰色　砂礫：径3～9cmの礫主体
28．橙灰色　砂
29．橙褐色　砂礫：径5～12cmの礫主体





砂礫・シルト質砂礫　礫混じり砂・砂・シルト質砂　砂質シルト・シルト

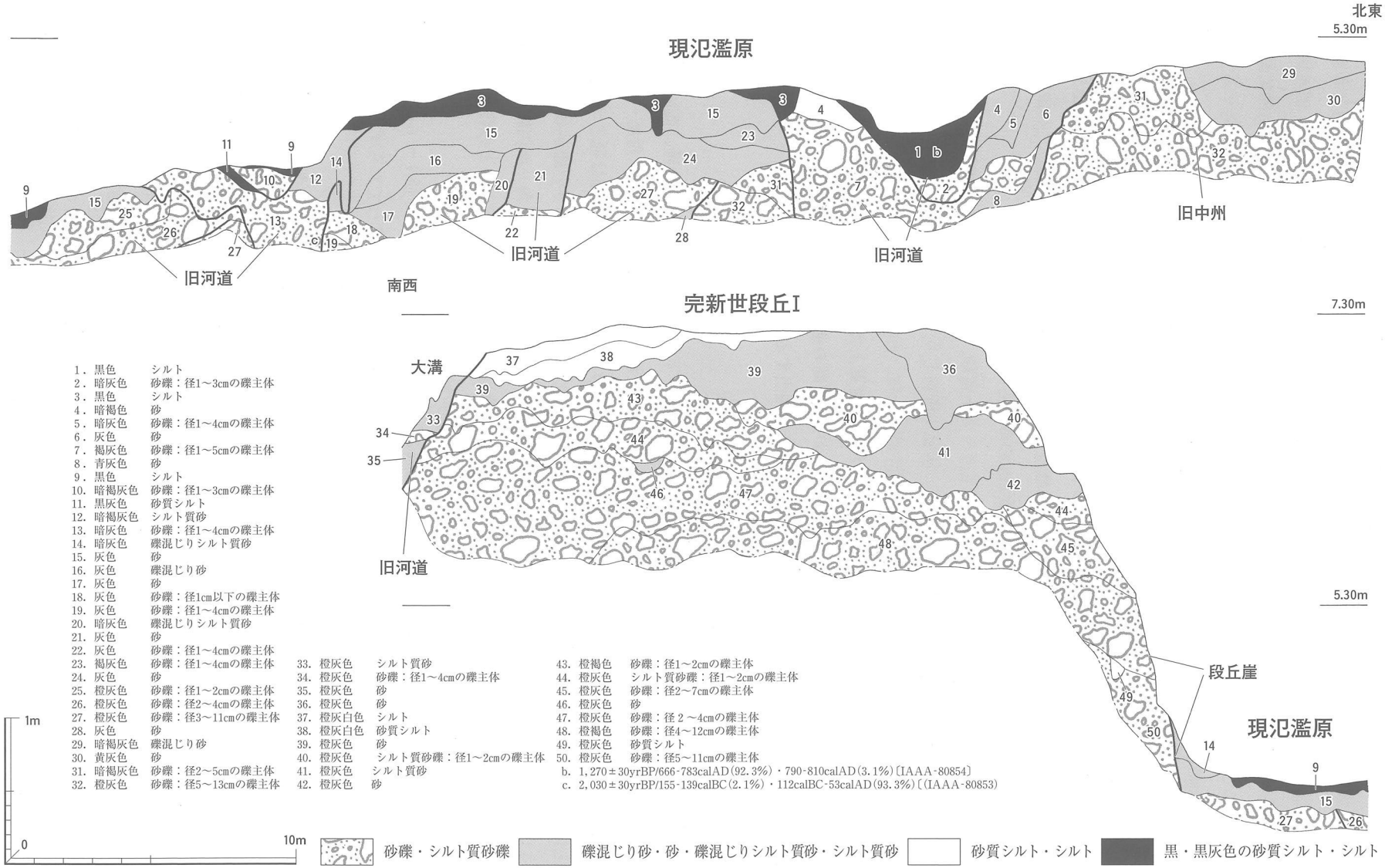
第４図　12・13区における遺構検出面以深の地質断面図



1．黒褐色　砂質シルト
2．暗灰色　砂質シルト
3．灰色　シルト質砂
4．橙灰色　シルト
5．黒灰色　シルト
6．灰色　シルト
7．暗灰色　砂質シルト
8．灰色　砂
9．暗黄灰色　シルト
10．灰色　砂
11．暗褐灰色　砂礫：径1cm以下の礫主体
12．灰色　砂質シルト
13．灰色　シルト質砂
14．暗褐灰色　砂礫：径2cm以下の礫主体
15．橙灰色　砂
16．黄灰白色　砂質シルト
17．暗橙灰色　礫混じり砂
18．灰白色　シルト
19．灰色　砂質シルト
20．灰色　砂
21．暗褐灰色　砂礫：径1～2cmの礫主体
22．灰白色　シルト
23．暗橙灰色　シルト質砂
24．暗褐灰色　砂礫：径1～2cmの礫主体
25．暗褐灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの礫主体
26．暗橙灰色　砂礫：1～3cmの礫主体
27．暗灰色　砂
28．暗褐灰色　礫混じり砂
29．黄灰白色　シルト質砂礫：径1cm以下の礫主体
30．灰白色　シルト
31．灰色　砂
32．暗褐灰色　砂礫：1～3cmの礫主体
33．灰色　砂
34．橙灰色　砂礫：径2～6cmの礫主体
35．灰色　シルト質砂
36．橙灰色　砂礫：3～9cmの礫主体
a．10,470±50yrBP 10717BC-10284calBC（92.5%）・1026-10216cal B C（2.9%）〔IAAA-80858〕

砂礫・シルト質砂礫　礫混じり砂・砂・シルト質砂　砂質シルト・シルト　黒褐色・黒灰色の砂質シルト・シルト

第５図　40区における遺構検出面以深の地質断面図



1．黒色　シルト
2．暗灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
3．黒色　シルト
4．暗褐色　砂
5．暗灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
6．灰色　砂
7．褐灰色　砂礫：径1～5cmの礫主体
8．青灰色　砂
9．黒色　シルト
10．暗褐灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
11．黒灰色　砂質シルト
12．暗褐灰色　シルト質砂
13．暗灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
14．暗灰色　礫混じりシルト質砂
15．灰色　砂
16．灰色　礫混じり砂
17．灰色　砂
18．灰色　砂礫：径1cm以下の礫主体
19．灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
20．暗灰色　礫混じりシルト質砂
21．灰色　砂
22．灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
23．褐灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
24．灰色　砂
25．橙灰色　砂礫：径1～2cmの礫主体
26．橙灰色　砂礫：径2～4cmの礫主体
27．橙灰色　砂礫：径3～11cmの礫主体
28．灰色　砂
29．暗褐灰色　礫混じり砂
30．黄灰色　砂
31．暗褐灰色　砂礫：径2～5cmの礫主体
32．橙灰色　砂礫：径5～13cmの礫主体
33．橙灰色　シルト質砂
34．橙灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
35．橙灰色　砂
36．橙灰色　砂
37．橙灰白色　シルト
38．橙灰白色　砂質シルト
39．橙灰色　砂
40．橙灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの礫主体
41．橙灰色　シルト質砂
42．橙灰色　砂
43．橙褐色　砂礫：径1～2cmの礫主体
44．橙灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの礫主体
45．橙灰色　砂礫：径2～7cmの礫主体
46．橙灰色　砂
47．橙灰色　砂礫：径２～4cmの礫主体
48．橙褐色　砂礫：径4～12cmの礫主体
49．橙灰色　砂質シルト
50．橙灰色　砂礫：径5～11cmの礫主体
b．1,270±30yrBP/666-783calAD(92.3%)・790-810calAD(3.1%)〔IAAA-80854〕
c．2,030±30yrBP/155-139calBC(2.1%)・112calBC-53calAD(93.3%)〔(IAAA-80853)

第６図　16・19区における遺構検出面以深の地質断面図

は、縄文時代晩期の土坑(11区)、弥生時代中期後半の方形周溝墓(12・19・26・53区など)、弥生時代中期後半と後期、古墳時代後期の竪穴住居跡(28・31・37・40区など)、ならびに弥生時代中期と8世紀、13世紀の掘立柱建物跡(2・25・26・28・31・37・38・40区など)などが認められる。また、旧河道を利用した溝も4条検出されている。これらは、黄灰色のシルトを切る小規模な旧河道[3]を人為的に掘削してつくられており、他に溝に比して大きい。4条のうち3条は弥生時代中期に、40区を通過する1条は弥生時代後期につくられ、いずれも8世紀に埋もれたものである。

その上位に位置する灰～暗灰色のシルト質砂～シルトは、下位の堆積物と異なり、完新世段丘Ⅰの段丘化後に段丘面上に堆積したと考えられる。すなわち、この堆積物は降雨の量が多かった時などに遺跡南側の開析谷から流れ出た洪水によってもたらされた可能性が高い。これは、32・33・40区などの遺跡西部を中心に認められ、主に埋没旧河道上から埋没旧中州の斜面上にかけて堆積する。この堆積物は5つ前後に細分され、それぞれ厚さ数cm～十数cmの薄いものである。

40区では、この堆積物が下位から灰色の礫混じりシルト質砂、暗灰色のシルト、灰色のシルト、および黄灰色のシルトに分けられる。これらのうち、灰色の礫混じりシルト質砂には、9世紀の遺物が含まれる。その下面からは、埋没旧中州上で弥生時代中期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居跡、ならびに8世紀末～9世紀初頭の掘立柱建物跡が検出され、埋没旧河道上では8世紀後半の水田遺構が認められる。礫混じりシルト質砂の上にのる暗灰色のシルトは中世前期の遺物を含む水田土壌にあたる。さらに、その上位にみられる黄灰色のシルトはそれ以降の耕土に相当する。

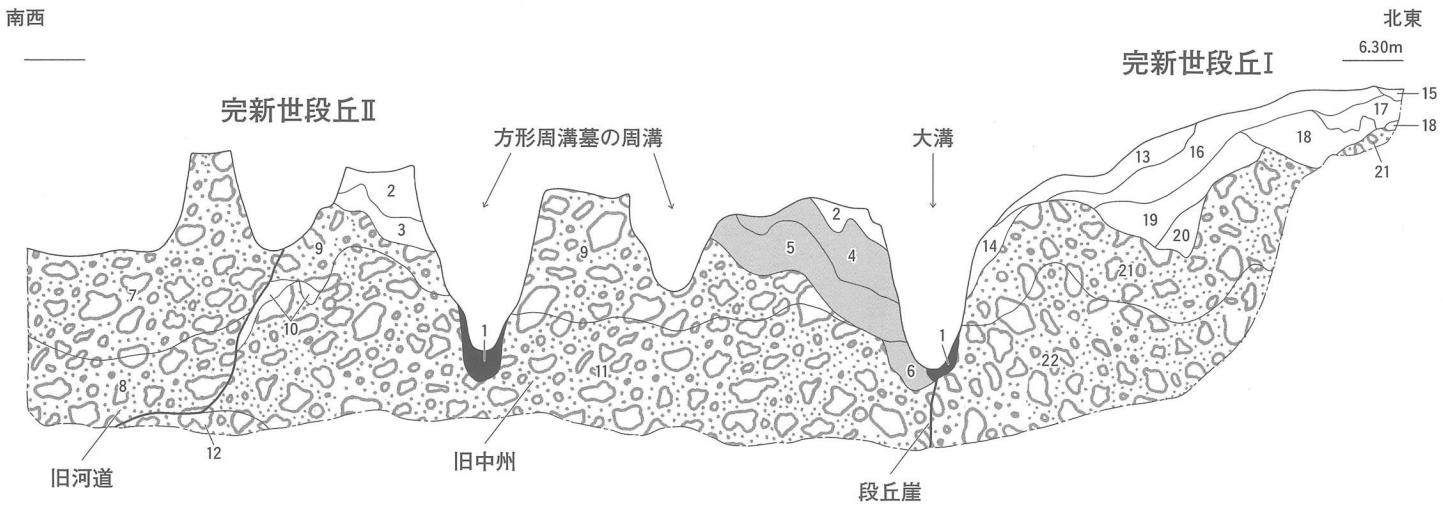
(2) 完新世段丘Ⅱの堆積物

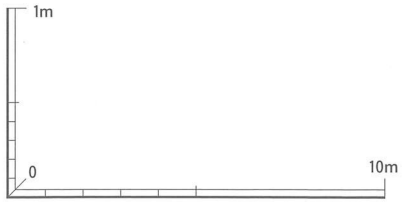
ここでは、砂礫の上を細粒堆積物が被覆する。1区では、下位から褐灰～灰色の砂礫、褐灰色のシルト質砂、暗褐～褐灰色の砂質シルト～シルト、および現耕土が認められる(第7図の南西部～中央部)。これらのうち、褐灰～灰色の砂礫は礫径からみて3つに分けられる。最下位の砂礫は径5～13cmの礫を主体とし、最大で径25cmの礫が混入する。これより上位の砂礫には、径の小さい礫が多く含まれるようになり、最上位の砂礫では径1～3cmの礫が主体となる。いずれも、主に亜角～亜円礫からなり、マトリックスは粗砂である。これらは扇状地の堆積物に該当する。1区では、ほとんどの範囲が埋没した旧中州上に位置しており、この砂礫の上面が高くなっている。

こうした砂礫を切って旧河道の堆積物が認められる。1区での旧河道堆積物は、径1～6cmの亜角～亜円礫を主体とし、細礫(グラニウル)～粗砂に充填されている。これは、締まっておらず、1区の南西端にみられる。

砂礫の上位に位置する褐灰色のシルト質砂ならびに暗褐色～褐灰色の砂質シルトやシルトは、旧中州や旧河道を被覆する。前者は主に砂礫上面の窪みに堆積し、後者は全体を覆う。両者は、50cm～1mの厚さで認められ、扇状地を埋没させている。これらのうち、最上位にみられる褐灰色のシルトは、土壌化した旧表土であり、遺物が含まれる。1区の埋没旧中州上では、その下面から弥生時代中期後半の方形周溝墓などが検出されている。

なお、56区は埋没旧中州上に位置しており、1区と同じ層位で縄文時代晩期の土坑および弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居跡などが認められる。





砂礫

砂・礫混じりシルト質砂・シルト質砂

礫混じり砂質シルト・砂質シルト・シルト

黒灰色のシルト

1．黒灰色　礫混じり砂質シルト
2．暗褐色　シルト
3．暗褐色　砂質シルト
4．暗褐灰色　礫混じりシルト質砂
5．褐灰色　シルト質砂
6．褐灰色　砂
7．灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
8．灰色　砂礫：径2～6cmの礫主体
9．暗褐灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
10．灰白色　砂質シルト
11．灰色　砂礫：径4～12cmの礫主体
12．灰色　砂礫：径5～13cmの礫主体
13．暗褐色　シルト
14．暗褐色　砂質シルト
15．黄灰白色　砂質シルト
16．黄灰色　シルト
17．黄灰色　砂質シルト
18．黄灰色　シルト
19．黄灰白色　砂質シルト
20．黄灰白色　シルト
21．暗褐灰色　砂礫：径2～4cmの礫主体
22．暗褐灰色　砂礫：径5～12cmの礫主体

第７図　１区における遺構検出面以深の地質断面図

(3) 現氾濫原の堆積物

別府川と白ヶ池川に沿う現氾濫原では、堆積物の様相が異なる。別府川に沿う現氾濫原では、旧河道堆積物の上に細粒堆積物がのる。28区では、完新世段丘Ⅰの段丘崖下を数度流れた流路の跡がみられ、これらは加古川の分流跡と考えられる。旧河道のうち最も新しいものは、幅が約7mで、深さが約1.8mに達する。旧河道堆積物は、黒褐色や灰色の砂質シルトとシルトからなり、褐灰色の砂を薄く挟むことがある。なかでも黒褐色のシルトが厚く、植物遺体が多く含まれることから、旧河道内は湿地的な環境下で埋積されたと考えられる。堆積物には、古墳時代後期の遺物が混入する。

他方、最も古い旧河道堆積物の上部には、礫混じり砂や砂質シルトがみられ、礫混じりシルトに混入する植物遺体からは2,240±30yrBP(IAAA-80856)の放射性炭素年代測定値が得られている。こうした旧河道堆積物を覆う細粒堆積物は、黄褐～褐色の砂質シルトで、洪水に伴うものである。これらからは古墳時代後期や8世紀の水田遺構(28・30・53・54・55区など)が検出されている。

一方、白ヶ池川に沿う現氾濫原の基本層序は下位から暗褐灰～橙灰色の砂礫、灰色の砂、黒灰色のシルト、灰色のシルト質砂、ならびに現耕土である(第6図の中央部～北東部)。これらのうち、暗褐灰～橙灰色の砂礫は扇状地堆積物に相当する。この堆積物は、径3～13cmの亜角～亜円礫を主体とし、最大で径24cmの礫を含む。厚さは50cm以上あり、現地表下およそ1mで認められる。その上位にみられる灰色の砂は、砂やシルト質砂からなり、2～3つに細分される。砂礫が部分的に挟まれ、これには径1～5cmの礫がみられる。

この砂を覆う黒灰色のシルトは2～3つに分けられる。これらは湿地性堆積物にあたり、19区の北東部ではその上面で畦畔と足跡が検出されている。15区と19区北東部では、この堆積物が調査区のほぼ全域に分布しており、現氾濫原では湿地的な環境が数度にわたって訪れ、その度に水田がつくられたと考えられる。この上位に位置する灰色のシルト質砂は、砂とシルト質砂の互層であり、3～4つに細分される。これらは白ヶ池川の氾濫堆積物であり、湿地的な環境の後洪水が繰り返し発生したことを物語る。こうした堆積物のうち、下位にみられるシルト質砂には、中世後期の遺物が含まれ、これより上位の砂とシルト質砂には江戸時代の遺物が混入する。

旧河道は、それが切り込む層位からみて3種類に分けられる。すなわち、暗褐灰～橙灰色の砂礫を切るものと、灰色砂の間および黒灰色シルトの下面から切り込むものである。暗褐灰～橙灰色の砂礫を切る旧河道は最も古い時期に形成されたもので、約12mの幅をもつ。これは径2～8cmの亜角～亜円礫からなる橙灰～灰色の砂礫によって埋積される。灰色砂の間から切り込む旧河道は、10m前後の幅であり、15区や19区で数本認められる。この旧河道堆積物は、砂礫、砂、およびシルト質砂が互層をなし、比較的層相変化が激しい。

黒灰色シルトの下面から切り込む旧河道は、幅5～8m、深さ80cm～1m程度であり、それ以前に形成されたものに比して浅く狭い。これらは、それ以前の旧河道堆積物を侵食して形成されており、同じ箇所を再び流れた河川の跡に該当する。旧河道の堆積物は砂礫や砂、シルトなど多様である。19区では、こうした旧河道が東西に3本延び、そのうち中央の旧河道堆積物からは8世紀後半の墨書土器と斎串が出土している。

これらの旧河道堆積物には、植物遺体が混入しており、旧河道の底にみられる植物遺体の放射性炭素年代測定値は2,030±30yrBP(IAAA-80853)[4]を示す。また、旧河道堆積物の上部にみられる黒灰色のシルトからは1,270±30yrBP(IAAA-80854)の年代測定値[5]が得られている。

(4) 開析谷の堆積物

開析谷の出口(北端)付近では、基本的に下位から青灰色の砂礫、灰色の砂礫、褐灰色のシルト質砂、褐灰色のシルト、および現耕土が観察される(第8図)。44区では、最下位にみられる青灰色の砂礫が、径2～7cmの亜角～亜円礫を主体とし、1.4m以上の厚さで堆積する。この堆積物は旧河道に切られている。旧河道は南から北西へ延びるもので、開析谷中を流下した小規模な流路の跡である。これは径1～4cmの礫からなる砂礫、砂、ならびに砂質シルトなどの互層によって埋積されている。

最下位の砂礫と旧河道堆積物を覆って、灰色の砂礫がみられる。これは、厚さ20～50cmで、径1～4cmの礫からなる。さらにその上位に位置する褐灰色のシルト質砂とシルトは44区のほぼ全域で認められ、このシルト上面が遺構検出面にあたる。これらは、いずれも締まりがよく、更新世に堆積したと推定される。

4．遺跡調査区付近の地形環境

これまでに述べた事柄から次のような地形環境が考察される。

〔ステージ1〕 更新世段丘Ⅰ～Ⅴが順次形成された後、本遺跡の南側では、更新世段丘Ⅳの下刻が進んだ。そこでは、更新世段丘Ⅳがほぼ南北方向に3m以上の深さで侵食され、100m前後の幅をもつ開析谷がつくられた。

〔ステージ2〕 更新世段丘Ⅴの段丘化後、遺跡付近には主に白ヶ池川によって砂礫がもたらされた。それに伴って、扇状地が発達し、遺跡付近では中州が約12ヶ所につくられた。白ヶ池川の流路は5本程度みられ、これらは流路変更の後、主に砂礫に埋積された。他方、開析谷の底には、小規模な河川が流れ、砂礫が堆積した。開析谷の出口にあたる44区では、この河川が北西方へ流下していた時期があり、その後流路跡は砂礫、砂、ならびに砂質シルトなどの互層によって埋積された。

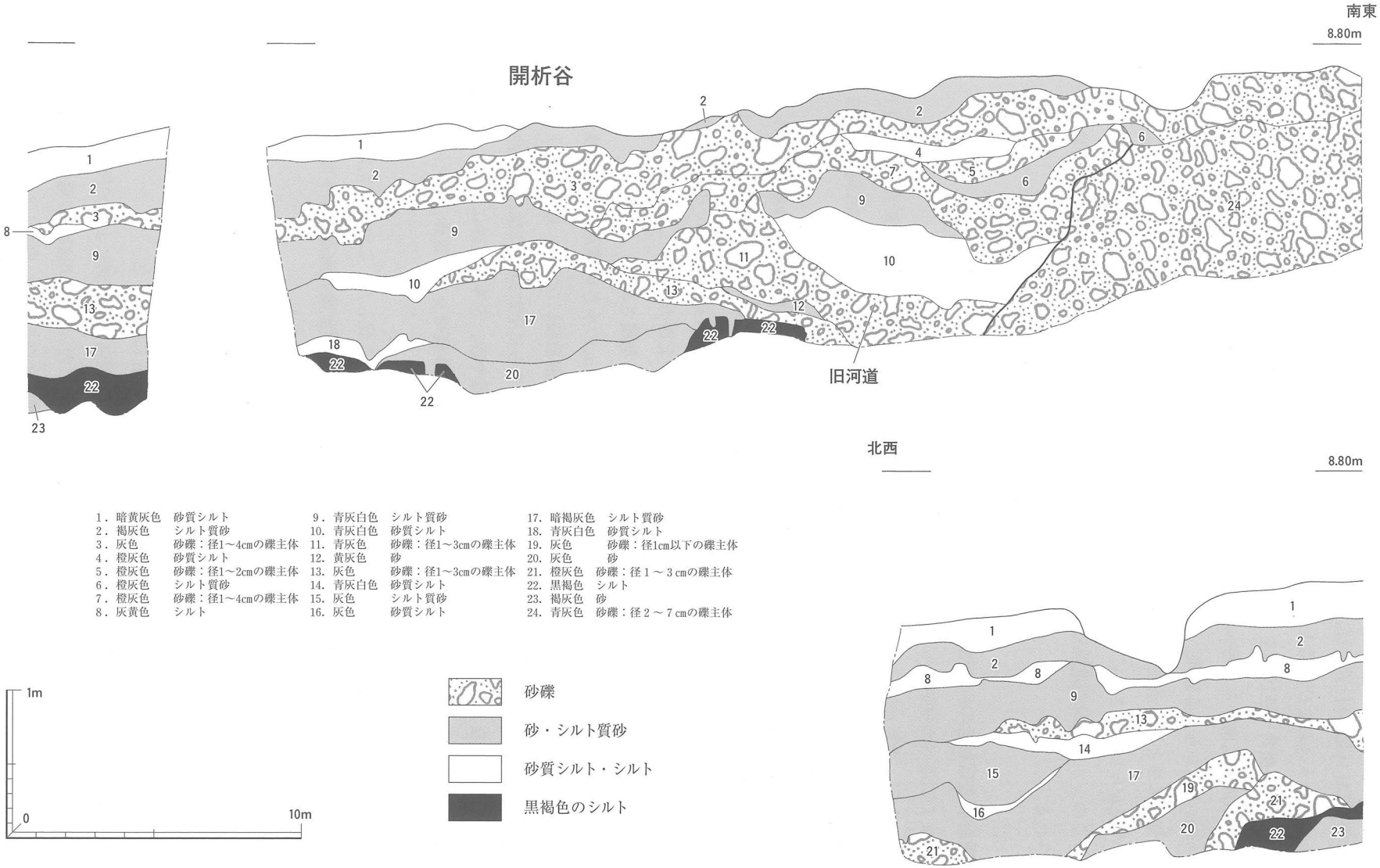
〔ステージ3〕 扇状地上では、約10,500年前までに径1～4cmの小さい礫からなる砂礫が洪水によって堆積し、ついで砂とシルト質砂がそれを覆った。10,500年前前後になると、砂質シルトやシルトが堆積し、旧中州と旧河道は地表下約1mの深さに埋没した。さらにそれ以降には、白ヶ池川や加古川の小規模な分流が少なくとも4本流下し、その後これらは砂礫や砂、シルト質砂によって埋積された。この時期、開析谷の出口付近では、谷中を流れる小河川によって砂礫やシルト質砂、シルトがもたらされ、旧河道を覆った。

〔ステージ4〕 遺跡付近は白ヶ池川と加古川の下刻によって段丘化した。これは、完新世に入ってから縄文時代晩期までのある時期に起こったことであり、縄文海進頂期直後の海退に伴う可能性が高い。白ヶ池川の中～下流部では、この段丘化によって狭長な低地が形成された。

〔ステージ5〕 白ヶ池川沿いの低地には、砂礫が堆積し、扇状地がつくられた。そこには、中州が形成され、流路跡は主に砂礫によって埋積された。

〔ステージ6〕 この扇状地は、白ヶ池川の度重なる氾濫に伴って、シルト質砂やシルトなどの細粒堆積物に覆われた。その結果、旧中州と旧河道は地表下およそ1mに埋没した。

〔ステージ7〕 白ヶ池川沿いの低地では、約2,240年前までに同河川の下刻によって段丘化が起こった。そのため、完新世段丘Ⅱが白ヶ池川に沿って断続的に形成された。白ヶ池川沿いで扇状地の形成、埋没、および段丘化が起こっていたころ、完新世段丘Ⅰ上では洪水の発生しない安定した環境が続いた。縄文時代晩期には、白ヶ池川北岸の完新世段丘Ⅰ上や完新世段丘Ⅱ上で人間活動がみられ、土坑がつくられ



1．暗黄灰色　砂質シルト
2．褐灰色　シルト質砂
3．灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
4．橙灰色　砂質シルト
5．橙灰色　砂礫：径1～2cmの礫主体
6．橙灰色　シルト質砂
7．橙灰色　砂礫：径1～4cmの礫主体
8．灰黄色　シルト
9．青灰白色　シルト質砂
10．青灰白色　砂質シルト
11．青灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
12．黄灰色　砂
13．灰色　砂礫：径1～3cmの礫主体
14．青灰白色　砂質シルト
15．灰色　シルト質砂
16．灰色　砂質シルト
17．暗褐灰色　シルト質砂
18．青灰白色　砂質シルト
19．灰色　砂礫：径1cm以下の礫主体
20．灰色　砂
21．橙灰色　砂礫：径１～３cmの礫主体
22．黒褐色　シルト
23．褐灰色　砂
24．青灰色　砂礫：径２～７cmの礫主体

第８図　44区における遺構検出面以深の地質断面図

た。

〔ステージ８〕 完新世段丘Ⅱの段丘崖下では、白ヶ池川によって砂礫がもたらされ、扇状地が発達した。15区や16区南東部では、白ヶ池川が何度も流下し、中州が流路間に形成されるとともに、流路は変更の度に砂礫を中心とする堆積物に埋積された。

〔ステージ９〕 白ヶ池川に沿って形成された扇状地は、約2,030年前までに洪水に伴う砂に覆われ、浅く埋没した。一方、遺跡北西端の別府川沿いでは、約2,240年前以前に加古川の分流が完新世段丘Ⅰの段丘崖下を流下し、それが埋積された。このような現象が現氾濫原でみられていた間、完新世段丘ⅠとⅡ上は安定した環境下にあり、弥生時代中期後半には、完新世段丘Ⅰの埋没旧中州上で竪穴住居と方形周溝墓などが、また完新世段丘Ⅱの埋没旧中州上でも方形周溝墓がつくられた。

〔ステージ10〕 約2,030年前から1,270年前にかけて、白ヶ池川沿いの現氾濫原では、小規模な流路の形成と埋積が数度みられた。また、別府川に沿う現氾濫原では、そのころ加古川の分流が流下し、古墳時代後期にそれがシルトによって埋積・埋没した。ここでは、その流路跡を被覆したシルトを土壌に水田稲作が営まれた。他方、完新世段丘ⅠとⅡでは、この時期も安定した環境が続き、弥生時代後期と古墳時代後期にも埋没旧中州上で竪穴住居が建てられた。

〔ステージ11〕 およそ1,270年前以降になると、白ヶ池川沿いの現氾濫原では、洪水に伴うシルトが２～３つ堆積した。ここでは、その度に湿地的な環境が訪れ、シルトは腐植化するとともに、白ヶ池川の小規模な流路が幾度か形成された。８世紀後半には、腐植化した黒灰色のシルトを土壌に水田稲作が営まれ、また小規模な流路では斎串を流す祭祀が行われた。同様に、別府川に沿う現氾濫原でも、埋没旧河道上にシルトが洪水堆積し、８世紀にはそれを土壌とした水田がつくられた。一方、完新世段丘Ⅰ上の埋没旧中州上では、８世紀や８世紀末～９世紀初頭に掘立柱建物が建てられた。

〔ステージ12〕 白ヶ池川沿いの現氾濫原では、その後中世後期までに洪水によるシルト質砂の堆積がみられた。さらに江戸時代に入ると、数度の洪水が発生し、砂やシルト質砂が堆積した。また、完新世段丘Ⅰ上では、９世紀以降に遺跡南側の開析谷から洪水が数度及んだ。そのため、礫混じりシルト質砂とシルトが主に遺跡西部の低所に薄く堆積した。こうした遺跡西部では、９世紀初頭以降に顕著な人間活動がみられず、東部では13世紀に掘立柱建物が建てられた。

５．おわりに

本遺跡は白ヶ池川下流部の完新世段丘ⅠとⅡ、現氾濫原、および開析谷に広がり、その北西端は別府川沿いの現氾濫原に位置する。これらのうち、完新世段丘Ⅰは縄文海進頂期後の海退期に、また完新世段丘Ⅱはそれ以降2,240年前までのある時期に段丘化したと考えられる。白ヶ池川に沿う完新世段丘ⅠとⅡ、および現氾濫原には、扇状地が埋没しており、２つの完新世段丘はそれが段丘化したものである。そのため、これらの地形面には、埋没した旧中州と旧河道が認められる。

完新世段丘Ⅰでは、段丘化の後に訪れた安定した環境下で、まず縄文時代晩期に人間活動がみられた。その後埋没旧中州上では、弥生時代中期後半に竪穴住居と方形周溝墓が、さらに弥生時代後期、古墳時代後期、ならびに８世紀に竪穴住居や掘立柱建物がつくられた。他方、段丘化の直前に形成された小規模な旧河道が段丘化後の弥生時代中期後半と後期に利用され、そこには比較的大規模な溝が掘削された。溝の周辺では水田が営まれ、旧河道付近には局地的な生産域が存在した。こうした段丘上の遺跡西部には、９世紀初頭以降に遺跡南側の開析谷から洪水が及ぶようになり、人間は13世紀に遺跡東部の埋

没旧中州上で居住した程度であった。

完新世段丘Ⅱでも、段丘化後の安定した環境下で人間活動がなされた。ここでの埋没旧中州上では、弥生時代中期後半に方形周溝墓が、また古墳時代後期に竪穴住居がつくられた。わずかに高い埋没旧中州上は、排水の便がよいため、完新世段丘ⅠとⅡで居住域や墓域に利用されたのである。

現氾濫原は、白ヶ池川流域で扇状地、別府川沿いで旧河道が埋没する過程で生産域に利用された。これらの埋没がなされていた8世紀の現氾濫原は、洪水が多発する低湿な環境であった。そのため、洪水に伴うシルトを土壌に水田稲作が営まれた。また、白ヶ池川流域では、小規模な流路で祭祀が行われ、居住は埋没旧中州上でもみられなかった。その後も洪水は繰り返され、白ヶ池川流域では中世後期までと江戸時代にも砂やシルト質砂が堆積した。

以上のように、本遺跡では地形面ごとに各時期の地形環境が異なり、人間はそれを巧みに利用して活動してきたのである。

注

1）3区と32区におけるこの堆積物には、植物遺体が混入しており、それらの放射性炭素年代測定値はともに53,900yrBP以前(IAAA-80852・IAAA-80855)である。これらの植物遺体は旧河道内における二次堆積のものと考えられる。

2）本報告書の(株)加速器分析研究所「Ⅴ－2．坂元遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)」による。

3）これらの旧河道は、小規模であるため遺構検出面からのトレンチ断面で確認したもので、第3図の微地形分類図には掲載していない。

4）前掲2）

5）前掲2）

2．坂元遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1．測定対象試料

坂元遺跡は、兵庫県加古川市野口町坂元（北緯34°45′35.3″、東経134°51′5.6″）に所在する。測定対象試料は、縄文包含層（2003198　2区）出土の炭（01：IAAA-80850）、SX0201（2003198　2区）出土の炭（02：IAAA-80851）、下層断割断面（2003198　3区）出土の植物片（03：IAAA-80852）、下層断割断面（2004001　19区）出土の木片（04：IAAA-80853）と木片（05：IAAA-80854）、下層断割断面（2004001　32区）出土の木片（06：IAAA-80855）、下層断割断面（2004001　28区）出土の炭（07：IAAA-80856）、SX4004（2004001　40区）出土の炭（08：IAAA-80857）、下層断割断面（2004001　40区）出土の土（09：IAAA-80858）、合計９点である。

2．測定の意義

遺構や地層の年代を特定する。

3．化学処理工程

(1)　メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

(2)　木片や炭化物は酸・アルカリ・酸（AAA）処理、泥炭は酸（HCl）処理を実施し、内面的な不純物を取り除く。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が１N 未満の場合、表中に AaA と記載する。

(3)　試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で２時間加熱する。

(4)　液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

(5)　精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

(6)　グラファイトを内径１mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4．測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5．算出方法

(1)　年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。

(2)　^{14}C 年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ^{13}C によって補正された値である。^{14}C 年代と誤差は、１桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3)　δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用

いる。加速器により$^{13}C/^{12}C$を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。

(4) pMC(per cent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。

(5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.0較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Pli cht and Weninger 2001)を使用した。

6. 測定結果

^{14}C年代は、縄文包含層(2003198 2区)出土の炭(01)が2450±30yrBP、SX0201(2003198 2区)出土の炭(02)が1200±30yrBPである。下層断割断面(2003198 3区)出土の植物片(03)は53860yrBPよりも古い。下層断割断面(2004001 19区)出土の木片は2030±30yrBP(04)、木片が1270±30yrBP(05)である。下層断割断面(2004001 32区)出土の木片(06)が53900yrBPよりも古い。下層断割断面(2004001 28区)出土の炭(07)は2240±30yrBP、SX4004(2004001 40区)出土の炭(08)が1330±30yrBPである。下層断割断面(2004001 40区)出土の土(09)は10470±50yrBPである。

炭や木片、植物片の炭素含有率は、すべて50%以上であり、十分な値であった。土は不純物を含まない粘土であり、炭素含有率が0.65%と低いものであったが、粘土としては標準的な値である。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

第2表 試料一覧

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$(‰)(AMS)	$\delta^{13}C$補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-80850	01	縄文包含層 2003198 2区	炭	AAA	−30.67±0.37	2,450±30	73.72±0.27
IAAA-80851	02	SX0201 2003198 2区	炭	AAA	−25.25±0.36	1,200±30	86.13±0.29
IAAA-80852	03	下層断割断面 2003198 3区	植物片	AAA	−30.71±0.85	>53,860	<0.12
IAAA-80853	04	下層断割断面 2004001 19区	木片	AAA	−30.88±0.41	2,030±30	77.67±0.28
IAAA-80854	05	下層断割断面 2004001 19区	木片	AAA	−26.46±0.43	1,270±30	85.39±0.29
IAAA-80855	06	下層断割断面 2004001 32区	木片	AAA	−27.22±0.46	>53,900	<0.12
IAAA-80856	07	下層断割断面 2004001 28区	炭	AAA	−27.31±0.44	2,240±30	75.67±0.28
IAAA-80857	08	SX4004 2004001 40区	炭	AAA	−19.56±0.40	1,330±30	84.70±0.27
IAAA-80858	09	下層断割断面 2004001 40区	土	HCl	−26.57±0.58	10,470±50	27.15±0.16

[#2374]

第3表　暦年較正年代

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-80850	2,540±30	72.86±0.27	2,449±29	741BC-690BC (21.0%) 663BC-648BC (5.8%) 549BC-484BC (24.8%) 465BC-416BC (16.6%)	753BC-685BC (24.9%) 668BC-633BC (9.9%) 625BC-612BC (2.0%) 597BC-410BC (58.5%)
IAAA-80851	1,200±30	86.08±0.29	1,199±27	780AD-793AD (10.9%) 803AD-871AD (57.3%)	719AD-743AD (4.1%) 769AD-894AD (91.3%)
IAAA-80852	>53,860	<0.12	>53,856		
IAAA-80853	2,130±30	76.74±0.27	2,029±29	86BC-80BC (3.7%) 54BC-19AD (64.5%)	155BC-139BC (2.1%) 112BC-53AD (93.3%)
IAAA-80854	1,290±30	85.14±0.28	1,268±27	689AD-730AD (38.1%) 736AD-772AD (30.1%)	666AD-783AD (92.3%) 790AD-810AD (3.1%)
IAAA-80855	>53,900	<0.12	>53,902		
IAAA-80856	2,280±30	75.31±0.27	2,239±29	380BC-354BC (20.1%) 292BC-231BC (48.1%)	390BC-346BC (26.3%) 322BC-206BC (69.1%)
IAAA-80857	1,240±30	85.65±0.27	1,333±26	655AD-688AD (68.2%)	648AD-714AD (82.2%) 745AD-768AD (13.2%)
IAAA-80858	10,500±50	27.06±0.15	10,474±46	10676BC-10493BC (55.8%) 10466BC-10430BC (10.4%) 10311BC-10301BC (10.4%)	10717BC-10284BC (92.5%) 10256BC-10216BC (2.9%)

[参考値]

参考文献

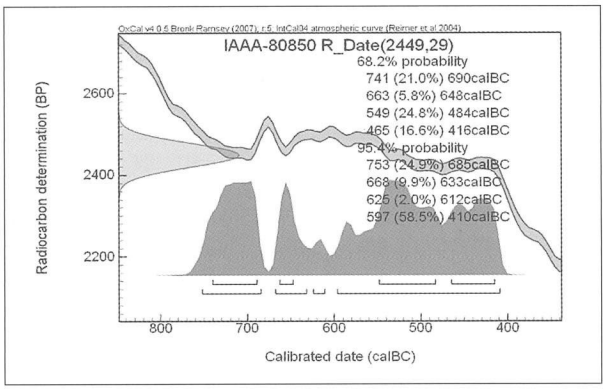
Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Dis cussion：Reporting of 14C data, *Radio carbon* 19, 355-363

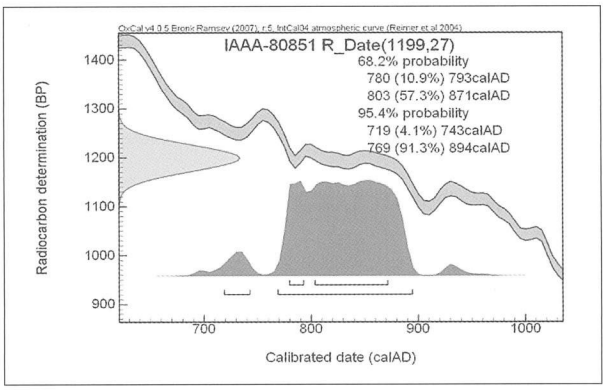
Bronk Ramsey C. 1995 Radio carbon calibration and analysis of stratigraphy：the OxCal Program, *Radio carbon* 37(2), 425-430

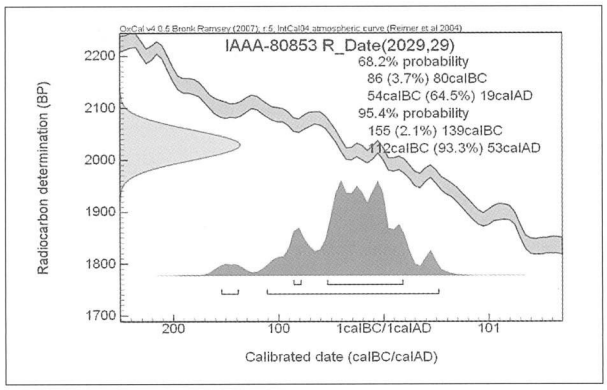
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radio carbon Program OxCal, Radio carbon 43(2A), 355-363

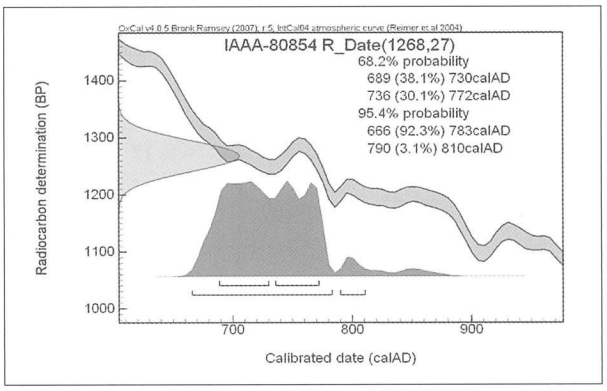
Bronk Ramsey C., van der Pli cht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Mat Ching' radio carbon dates, *Radio carbon* 43(2A), 381-389

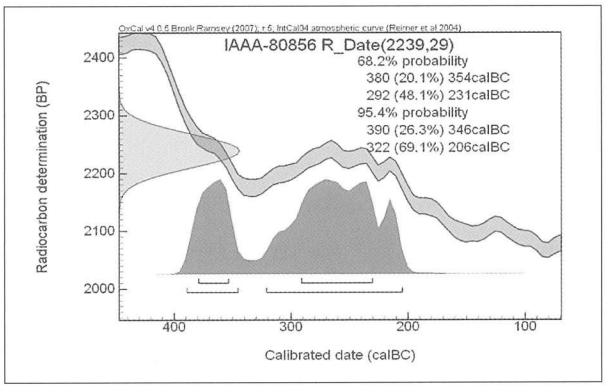
Reimer, P. J. et al. 2004 Int cal 04 terrestrial radio carbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, *Radio carbon* 46, 1029-1058

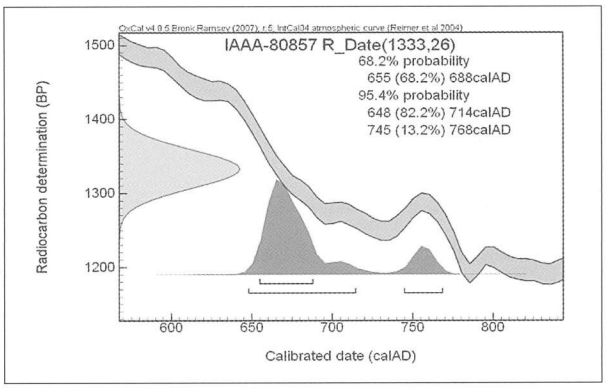


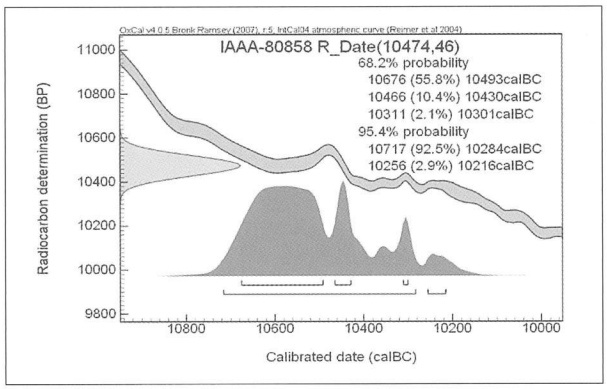












第９図　暦年較正年代グラフ

3．坂元遺跡Ⅱ出土弥生土器および埴輪の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社
矢作　健二・石岡　智武

はじめに

加古川市に所在する坂元遺跡Ⅱは、播磨平野東部を流れる加古川の下流域左岸に広がる「いなみの台地」の西端部付近に位置する。太田ほか編(2004)に掲載されたいなみの台地の地形面区分によれば、坂元遺跡の位置する台地は、いなみの台地の中でも最も低位の段丘群であり、約10万年前に形成された野口面に相当する。これまでの発掘調査により、弥生時代、古墳時代、奈良時代および中世までの各時期におよぶ墓や住居跡などの遺構が広い範囲で確認されており、各時期を示す土器などの遺物も多く出土している。特に古墳時代では、埴輪窯とされる遺構が検出され、その灰原からは埴輪が多く出土している。

本報告では、坂元遺跡Ⅱから出土した、弥生土器および埴輪について、その材質(胎土)の特性を明らかにすることにより、その由来する地域性や弥生土器と埴輪との間での胎土の類似性あるいは異質性を見出し、坂元遺跡の弥生土器や埴輪の製作事情に関わる資料を作成する。

1．試料

試料は、坂元遺跡Ⅱから出土した弥生土器片12点と埴輪片14点の合計26点である。弥生土器試料は、弥生時代中期の甕が1点と同時期の壺11点からなる。埴輪は、円筒埴輪が5点、形象埴輪が9点であり、形象埴輪の中には石見型盾とされた試料が6点ある。また、窯跡灰原から出土した試料が3点、窯跡床面から出土した試料が4点含まれている。

なお、各試料には1～26までの資料No.が付されている。各試料の資料No.、器形、出土地区、出土遺構などは一覧表にして第4表に示す。

2．分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

第４表　分析試料一覧および胎土分類

資料No.	種別	器形	出土地区	出土遺構など	報告No.	備考	胎土分類									
							鉱物・岩石組成		粒径組成					砂量		
							A1	A2	c	m	f	vf	cs	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
1	弥生土器	壺	1区	SX0104	128		■		■				●			■
2	弥生土器	壺	1区	SX0101	74		■			■						■
3	弥生土器	甕	1区	SX0102	96			■		●		■		■		
4	弥生土器	壺	1区	SX0103北溝	109			■							■	
5	弥生土器	壺	1区	SK0101	65			■			■			■		
6	弥生土器	壺	13区	SD1203	187		■		■							■
7	弥生土器	壺	13区	SD1203	195			■				■			■	
8	弥生土器	壺	13区	SD1203	191			■			■				■	
9	弥生土器	壺	13区	SD1203	186			■			■				■	
10	弥生土器	壺	13区	SD1203	188			■			■					■
11	弥生土器	壺	14区	SD1205	204		■			■		●				■
12	弥生土器	壺	17区	SK2201	362		■		●		■					■
13	埴輪	円筒	16区	SX1603			■			●		■		■		
14	埴輪	円筒	16区	SX1603			■		●				■		■	
15	埴輪	石見型盾	23区	SX2302			■		■		●				■	
16	埴輪	石見型盾	53区	SX5305窯跡灰原			■				■			■		
17	埴輪	馬形	53区	SX5305窯跡灰原			■			■		●			■	
18	埴輪	円筒	53区	SX5305窯跡灰原			■					■		■		
19	埴輪	動物脚	53区	SX5305窯跡灰原			■		●			■			■	
20	埴輪	石見型盾	53区	SX5305窯跡灰原			■			■					■	
21	埴輪	石見型盾	53区	SX5305窯跡灰原		円筒	■			■			●	■		
22	埴輪	家形	53区	SX5305窯跡灰原			■			■					■	
23	埴輪	円筒	57区	SK5701		淡輪型	■			■				■		
24	埴輪	円筒	57区	SK5701		淡輪型	■			■		●			■	
25	埴輪	石見型盾	23区横	表採			■		■		■				■	
26	埴輪	石見型盾	23区横	表採			■			■		●			■	

A1:岩石片の種類構成が主にチャートなどの堆積岩類と凝灰岩や流紋岩などの火砕岩類および花崗岩類からなる。
A2:岩石片の種類構成はA1類と同様(試料によっては一部認められない)であり、さらに火山ガラスを多く含む。
砂全体の粒径組成においてピークを構成する粒径:c;粗粒砂　m;中粒砂　f;細粒砂　vf;極細粒砂　cs;粗粒シルト　●;第二のピーク
Ⅰ:砕屑物の割合が15%前後　Ⅱ:砕屑物の割合が20%前後　Ⅲ:砕屑物の割合が25%前後

３．結果

観察結果を第５表、第10図～第16図に示す。鉱物片および岩石片の組成をみると、弥生土器試料間では大きく２つに分類され、埴輪試料間ではほぼ１つの組成に収まる結果を示す。これまでに兵庫県下各地における弥生土器～土師器の胎土分析で認められている鉱物・岩石組成分類と比較し、ここでは、それらを踏襲した分類を示す。

Ａ１類：Ａ類の特徴は、岩石片の種類構成が主にチャートや頁岩、砂岩などの堆積岩類と凝灰岩・流紋岩などの火砕岩類および花崗岩類などの深成岩類の３者からなることであった。また、試料によっては珪長岩、脈石英、変質岩、珪化岩なども微量含まれている。この典型的なＡ類の組成をＡ１類とした。Ａ１類は、これまでにも伊丹市小阪田遺跡の弥生土器や坂元遺跡に隣接する加古川市溝之口遺跡の弥生土器に多く認められている。今回の試料では、弥生土器試料12点の中の５点がＡ１類に分類され、埴輪試料は全点がＡ１類に分類された。

Ａ２類：上述したＡ類の特徴を有し、かつ、火山ガラス(形態は偏平板状のバブル型が多い)を比較的多く含む組成をＡ２類としている。これまでにＡ２類は、上述した小坂田遺跡の弥生土器や溝之口遺跡の土師器に認められている。今回の試料では、弥生土器試料の７点がＡ２類に分類され、埴輪試料には認められなかった。

胎土中の砂の粒径組成(第14図～第16図)では、弥生土器においては、鉱物・岩石組成とほぼ整合する傾向を示している。すなわち、Ａ１類の試料は粗粒砂または中粒砂をモードとし、Ａ２類の試料は細粒砂または極細粒砂をモードとしている。これは、Ａ２類の砂の中では細粒～極細粒の火山ガラスが比較的多く含まれることを反映している。一方、埴輪試料では、中粒砂をモードとする試料が多い傾向が窺えるが、粗粒砂や細粒砂、極細粒砂さらには粗粒シルトをモードとする試料もあり、全体的にはばらつ

第5表　薄片観察結果(1)

資料No.	砂粒区分		砂粒の種類構成																											合計
			鉱物片							岩石片															その他					
			石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑廉石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	斜長斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	赤鉄鉱塊	植物片	植物珪酸体	
1	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	2							3	2		3	2			1					1								14
		中粒砂	2	2								2	2	2		1														11
		細粒砂	5	1						1		1	2	1																11
		極細粒砂	2		3					1																				6
		粗粒シルト	2	1	6																									9
		中粒シルト			3																									3
	基質																													163
	孔隙																													12
2	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	3								1		2	2			1								1					10
		中粒砂	10	3	4					2	1	1	11	6		8	1	1				1								49
		細粒砂	12	3	5					7	1		6	1		2		1												38
		極細粒砂	8		2						1					1														12
		粗粒シルト	6		2																									8
		中粒シルト																												0
	基質																													340
	孔隙																													17
3	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	1							1							1													3
		中粒砂	1	1	2					1		1				2	1								4					13
		細粒砂	7	1												1									2					11
		極細粒砂	10	1	9	1										1									3					25
		粗粒シルト	9		11																								3	23
		中粒シルト	5		2																									7
	基質																													384
	孔隙																													15
4	砂	細礫																												0
		極粗粒砂								1			1																	2
		粗粒砂	1							1						2														4
		中粒砂	9	2	4					1						3									4					23
		細粒砂	21	1	7					2			1			6									11					49
		極細粒砂	31	1	14				1							3									3					53
		粗粒シルト	18	2	11																								1	32
		中粒シルト	2		3																									5
	基質																													637
	孔隙																													35
5	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	1											1																2
		中粒砂																							1					1
		細粒砂	4	2	12	1				2						1									6					28
		極細粒砂	12		5																				6					23
		粗粒シルト	4	1	4																								1	10
		中粒シルト	1																											1
	基質																													313
	孔隙																													14
6	砂	細礫																												0
		極粗粒砂								2							1													3
		粗粒砂	16	3	1					6	2		9	3	1	2	2													45
		中粒砂	8	1	1						1	1	4	1		3	2													22
		細粒砂	7		1				1		1		2			1														13
		極細粒砂	9	1	1																									11
		粗粒シルト	5	1	4																									10
		中粒シルト	1		1																									2
	基質																													310
	孔隙																													14

第5表　薄片観察結果(2)

資料No.	砂粒区分		砂粒の種類構成																											合計
			鉱物片							岩石片															その他					
			石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑廉石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	斜長斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	赤鉄鉱塊	植物片	植物珪酸体	
7	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	3							1						1														5
		中粒砂	2							4																				6
		細粒砂	4	1						1	2					3									2					13
		極細粒砂	8	3	1											1									1					14
		粗粒シルト	7		2				1																					10
		中粒シルト																												0
	基質																													173
	孔隙																													6
8	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂															1													1
		中粒砂	2		2																				3					7
		細粒砂	6		7																				14					27
		極細粒砂	3		5	1																			13				1	23
		粗粒シルト	2		7																				5				1	15
		中粒シルト	1		2																									3
	基質																													300
	孔隙																													15
9	砂	細礫																												0
		極粗粒砂									1					2														3
		粗粒砂	9							5						4						2			1	1				22
		中粒砂	8		1					6	2					6	1					2			1					27
		細粒砂	7		2				1	4	2					1									12					29
		極細粒砂	3		2					2															6					13
		粗粒シルト	2																											2
		中粒シルト																												0
	基質																													331
	孔隙																													13
10	砂	細礫																												0
		極粗粒砂								1																				1
		粗粒砂	1																						1					2
		中粒砂	7	1	1					3															6					18
		細粒砂	11	2	6	2							1			3									20					45
		極細粒砂	14	2	4					1															13					34
		粗粒シルト	4		2																				3				1	10
		中粒シルト	3																											3
	基質																													363
	孔隙																													13
11	砂	細礫																												0
		極粗粒砂											1			1														2
		粗粒砂	9	1						3	2		5	2		2	1	1			1	1	1							29
		中粒砂	9	1	2					3	1		6			3	3					2								30
		細粒砂	5		1											1														7
		極細粒砂	6		5											1														12
		粗粒シルト	5		4																									9
		中粒シルト	1																											1
	基質																													240
	孔隙																													9
12	砂	細礫																												0
		極粗粒砂											1																	1
		粗粒砂	6	1							1		5	2		2	1	1	1			1								21
		中粒砂	4	1	2					2			2	3		2		1				1								18
		細粒砂	12	3	5					2	1	1	5	2		3									2					36
		極細粒砂	15	1	8					2			1												1					28
		粗粒シルト	7	1	5		1																							14
		中粒シルト	1																											1
	基質																													323
	孔隙																													13

第5表　薄片観察結果(3)

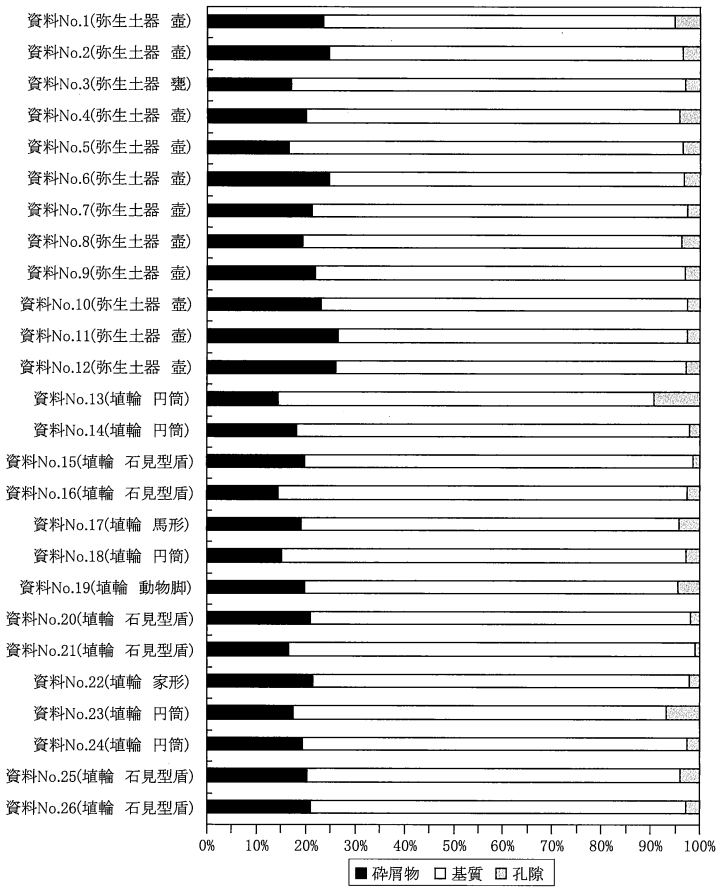
資料No.	砂粒区分		砂粒の種類構成																											合計
			鉱物片							岩石片															その他					
			石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑廉石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	斜長斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	赤鉄鉱塊	植物片	植物珪酸体	
13	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	6										2	1	2	1														12
		中粒砂	7	2	3					1			6			1		1												21
		細粒砂	5		4								1	1		1														12
		極細粒砂	14	1	5					3			1																	24
		粗粒シルト	3	1	10																									14
		中粒シルト			1																									1
	基質																													442
	孔隙																													54
14	砂	細礫										1																		1
		極粗粒砂								2				1																3
		粗粒砂	3	1						1			4	3			1				1	5								19
		中粒砂	6		1	1				1			3	1		1	2							2						18
		細粒砂	7	2	1					1	1					4														16
		極細粒砂	13	2	7		1			1	1																			25
		粗粒シルト	20	2	13		1																							36
		中粒シルト	6		4																									10
	基質																													564
	孔隙																													14
15	砂	細礫											1																	1
		極粗粒砂	3									1	3	1		2						4		3						17
		粗粒砂	7	1	1					3	2	1	10	4		4	7	1				8		7						56
		中粒砂	8		1	1				2			2	1		3	3					7		1						29
		細粒砂	14	3	3					2			1			11	2				1	2								39
		極細粒砂	16	2	5	1										3														27
		粗粒シルト	13		3																								1	17
		中粒シルト	3		1																									4
	基質																													756
	孔隙																													13
16	砂	細礫																												0
		極粗粒砂									1													1						2
		粗粒砂	5	1						3																		1		10
		中粒砂	11	2						3			2	1		1						1								21
		細粒砂	16		2					3	1		1			5														28
		極細粒砂	18	1	2					1			1			2														25
		粗粒シルト	13	1	2				1																				1	18
		中粒シルト	8		2																									10
	基質																													651
	孔隙																													20
17	砂	細礫																												0
		極粗粒砂									1		1			1														3
		粗粒砂	9	1	3					9	1		11			3	2	1				1		5						46
		中粒砂	13		2					8	3		11			8	1					3		2						51
		細粒砂	6	2	1					3	1		1			3														17
		極細粒砂	15		2		1																							18
		粗粒シルト	3		3																									6
		中粒シルト	1																											1
	基質																													568
	孔隙																													31
18	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	3	1						1			1	1		2						4								13
		中粒砂	8	2						5			2	1		4						1								23
		細粒砂	14	3	4					1			1			3						1								27
		極細粒砂	24	4	4	1				2						4														39
		粗粒シルト	14	1	6																									21
		中粒シルト	8		1																									9
	基質																													710
	孔隙																													24

第5表　薄片観察結果(4)

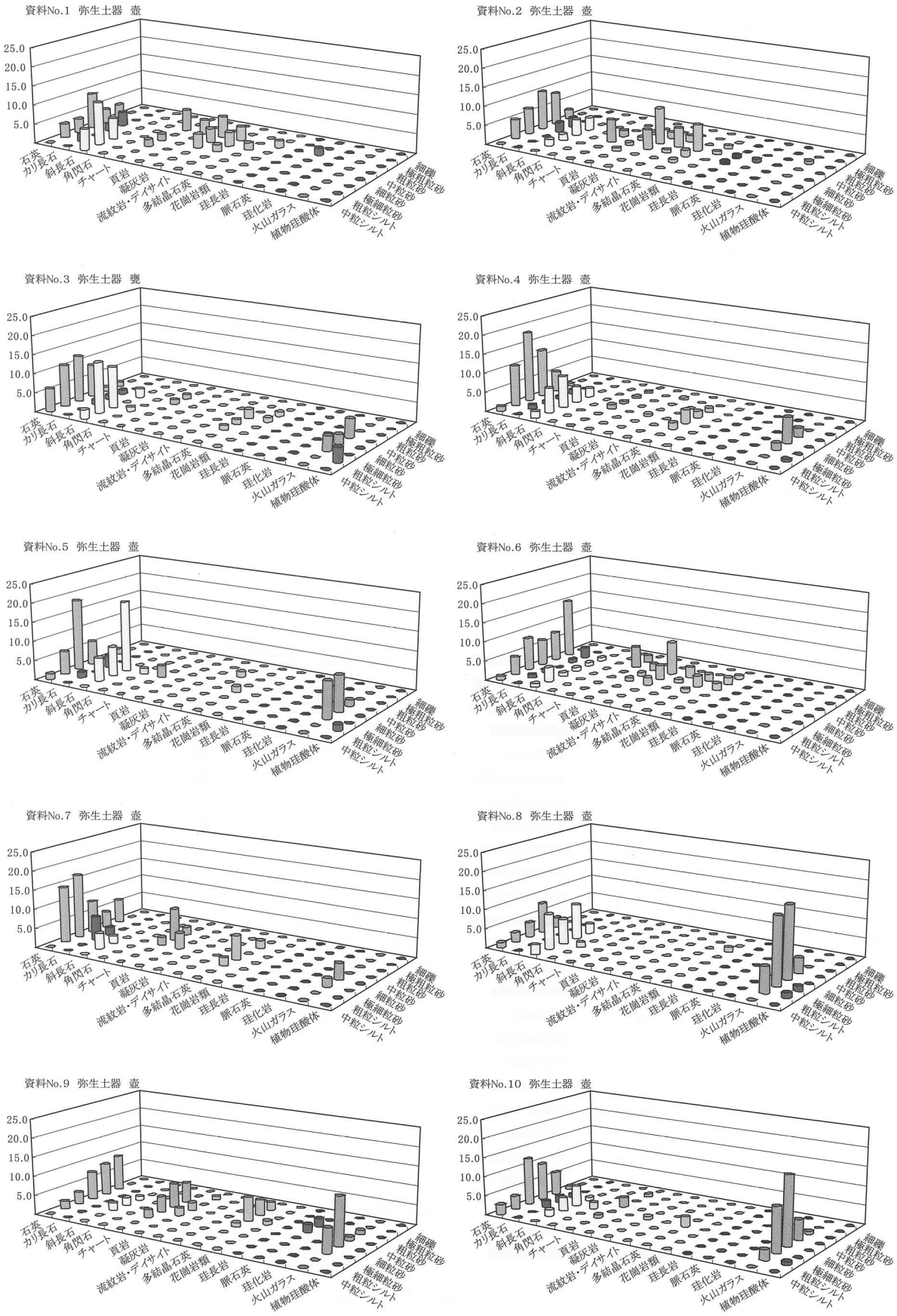
資料No.	砂粒区分		砂粒の種類構成																											合計
			鉱物片							岩石片															その他					
			石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑廉石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	斜長斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	赤鉄鉱塊	植物片	植物珪酸体	
19	砂	細礫																												0
		極粗粒砂								1																				1
		粗粒砂	6		2					3			3	1				1				1								17
		中粒砂	8							1			2			1						1								13
		細粒砂	13		1					2			1			2	1													20
		極細粒砂	13		4								1			3									1					22
		粗粒シルト	2	1	2																								1	6
		中粒シルト	3																											3
	基質																													313
	孔隙																													18
20	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																						1						1
		粗粒砂	12		1					1						4								1						19
		中粒砂	22	2	1					9			3	2		7						2								48
		細粒砂	16	3	2					3			2			8						2								36
		極細粒砂	16		3																									19
		粗粒シルト	12		3																									15
		中粒シルト	1	1	1																									3
	基質																													516
	孔隙																													13
21	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	2							1			1			2														6
		中粒砂	6	1						2			1	2																12
		細粒砂	8							2			1	1																12
		極細粒砂	4	1						1																				6
		粗粒シルト	6		4																									10
		中粒シルト	2		2																								1	5
	基質																													255
	孔隙																													3
22	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	8		2					3		1	5	3		5		1	1			3		1						33
		中粒砂	16		1					6			3	3	2	4						3								38
		細粒砂	6		2	2				2			1			3														16
		極細粒砂	9		5											1														15
		粗粒シルト	3		4																								1	8
		中粒シルト	1		1																									2
	基質																													400
	孔隙																													11
23	砂	細礫																												0
		極粗粒砂																												0
		粗粒砂	4	1						1		1	1			2						1								11
		中粒砂	11		1					4				1		5						1								23
		細粒砂	3													1														4
		極細粒砂	6																											6
		粗粒シルト	6		1																									7
		中粒シルト																												0
	基質																													222
	孔隙																													20
24	砂	細礫																												0
		極粗粒砂										1	1																	2
		粗粒砂	5	1						1				1		1	1													10
		中粒砂	10		1					3			3	1		4						1								23
		細粒砂	9		2								4			1														16
		極細粒砂	14	1	1					1																				17
		粗粒シルト	9		2																									11
		中粒シルト	1		1																									2
	基質																													329
	孔隙																													11

第５表　薄片観察結果(5)

資料No.	砂粒区分		砂粒の種類構成																											合計
			鉱物片							岩石片															その他					
			石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑廉石	黒雲母	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	珪長岩	斜長斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	赤鉄鉱塊	植物片	植物珪酸体	
25	砂	細礫											1			1														2
		極粗粒砂	2										1				2					5	1	4						15
		粗粒砂	7							2			4	1	1	5	4					3	4	2						33
		中粒砂	3		3								8			3	1					6	1		1					26
		細粒砂	16		1					2			2			9						3								33
		極細粒砂	9			1				1						2														13
		粗粒シルト	13		4																								1	18
		中粒シルト	7		1																									8
	基質																													550
	孔隙																													29
26	砂	細礫																	1											1
		極粗粒砂	2										3	1		2					1	3								12
		粗粒砂	7		1								8	3		1	1			1		4	2	4						32
		中粒砂	11		2			1		1			3	1		4	3					6		2	1		1			36
		細粒砂	6	1	2				1				2			5						1			1					19
		極細粒砂	20		5				1							1									1					28
		粗粒シルト	16		7																									23
		中粒シルト	8		1																									9
	基質																													584
	孔隙																													22

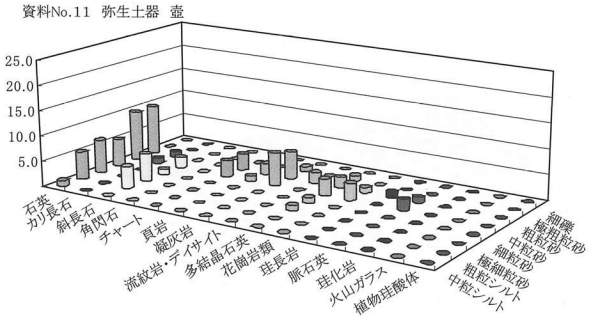


第10図　砕屑物・基質・孔隙の割合

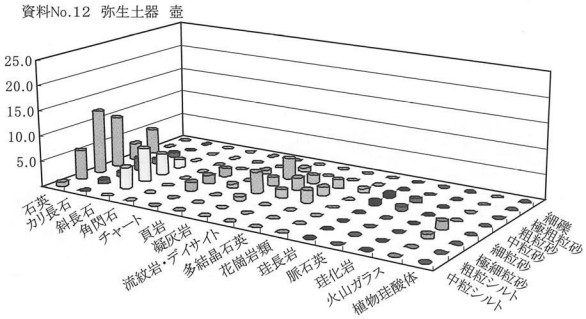


第11図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)(1)

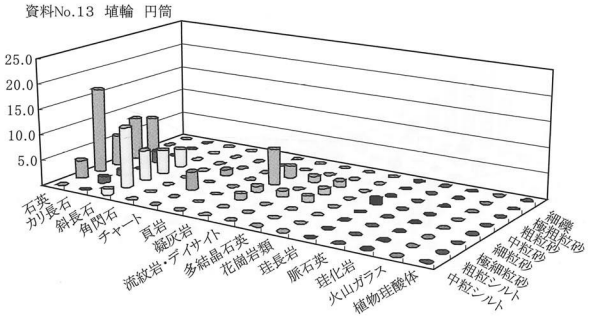
資料No.11 弥生土器 壺



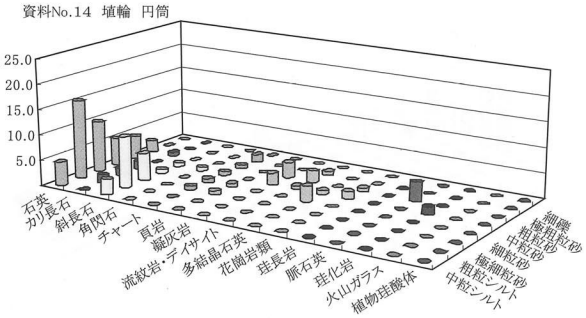
資料No.12 弥生土器 壺



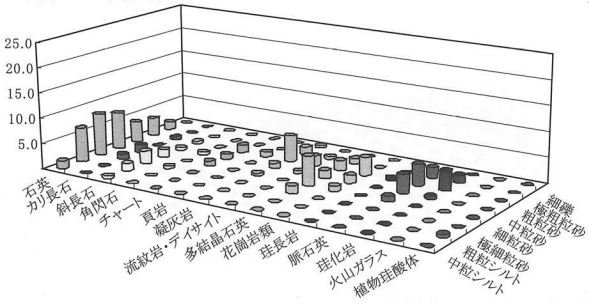
資料No.13 埴輪 円筒



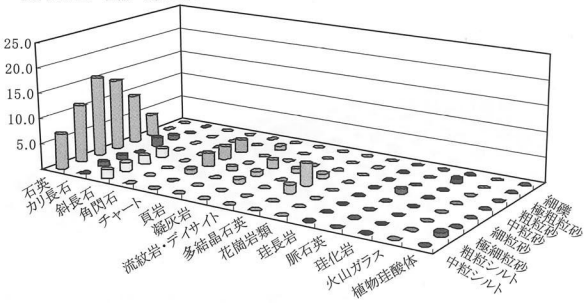
資料No.14 埴輪 円筒



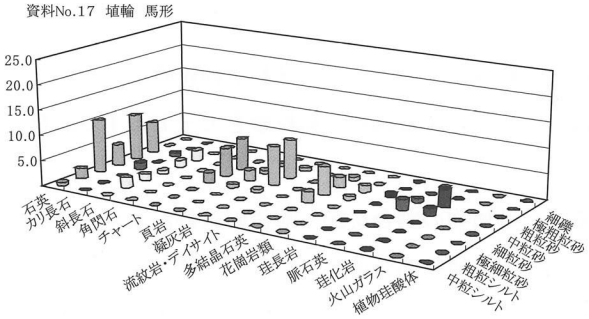
資料No.15 埴輪 石見型盾



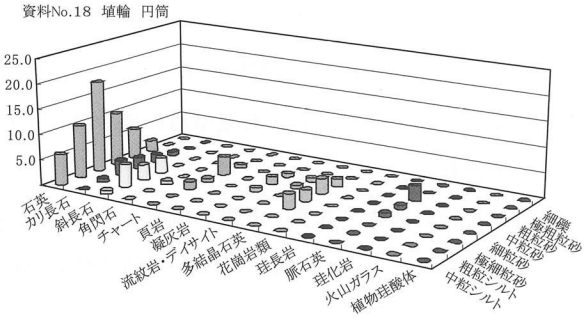
資料No.16 埴輪 石見型盾



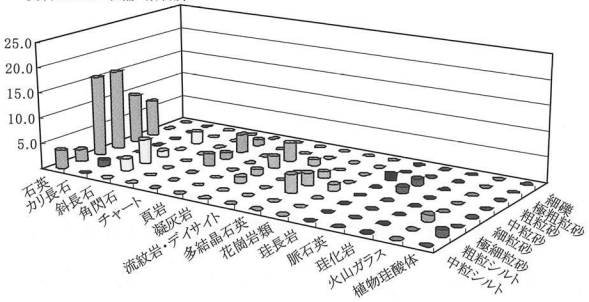
資料No.17 埴輪 馬形



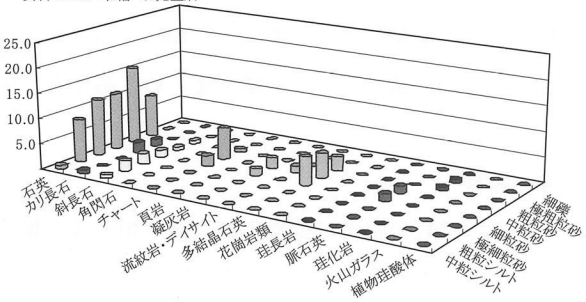
資料No.18 埴輪 円筒



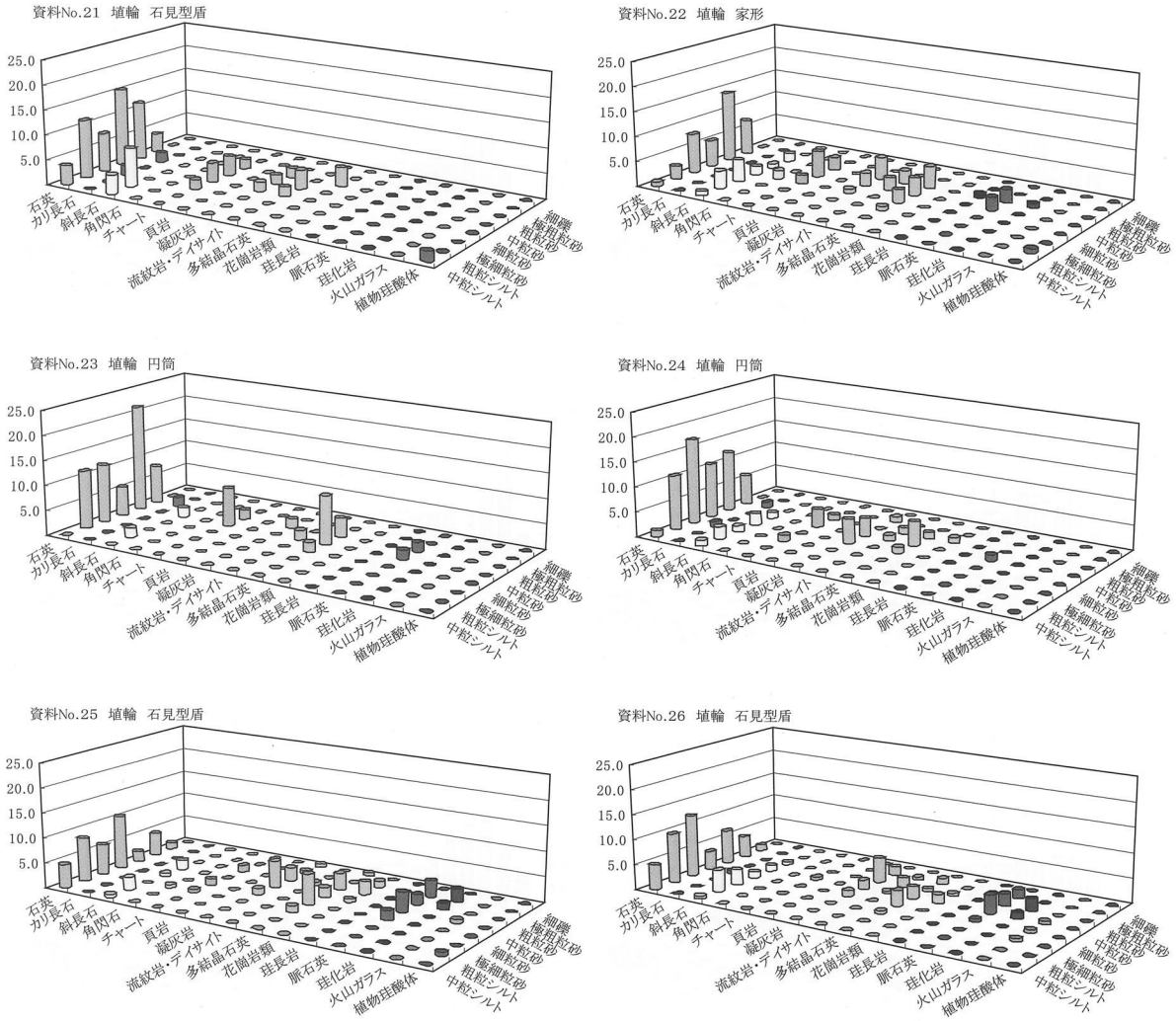
資料No.19 埴輪 動物脚



資料No.20 埴輪 石見型盾



第12図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)(2)



第13図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)(3)

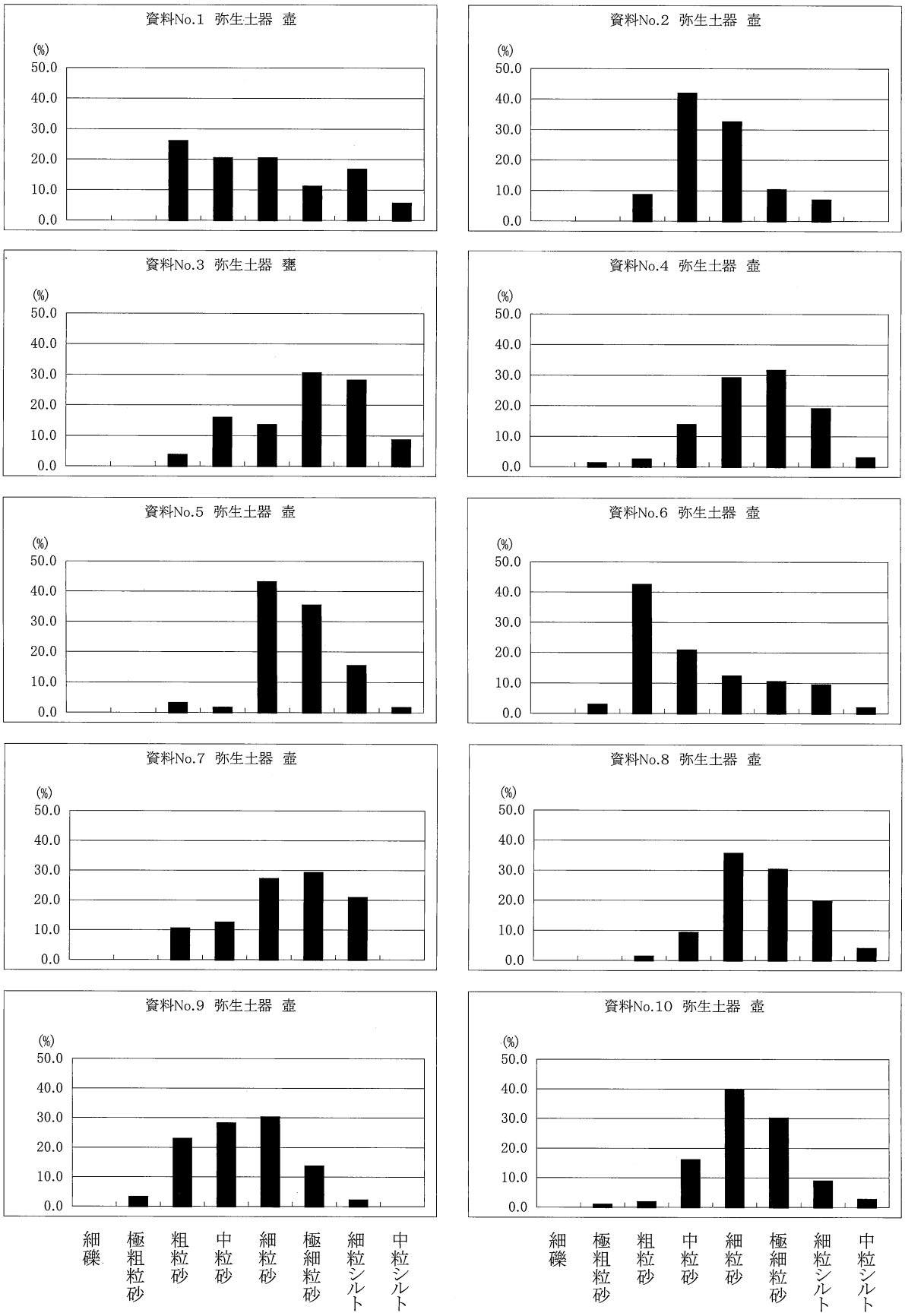
いた印象が感じられる。器形別にみた場合、円筒埴輪は、中粒砂をモードとする試料と細粒砂以下をモードとする試料とに分かれ、石見型盾の場合は、中粒砂をモードとする試料と粗粒砂をモードとする試料とに分かれる。

各試料の砕屑物・基質・孔隙の割合(第10図)をみると、砕屑物の割合が20%前後の試料が多く、26点中半数の13点を占める。残り13点は、砕屑物15%前後に7点、砕屑物25%前後に6点とほぼ二分される。ここでは、砕屑物が少ない順にⅠ、Ⅱ、Ⅲ類とした。種別にみると、弥生土器試料で最も多いのはⅢ類であり、Ⅲ類の全点が弥生土器試料である。次いでⅡ類が4点、Ⅰ類は2点である。埴輪試料では、Ⅲ類がなく、Ⅱ類が9点と多く、Ⅰ類は5点である。

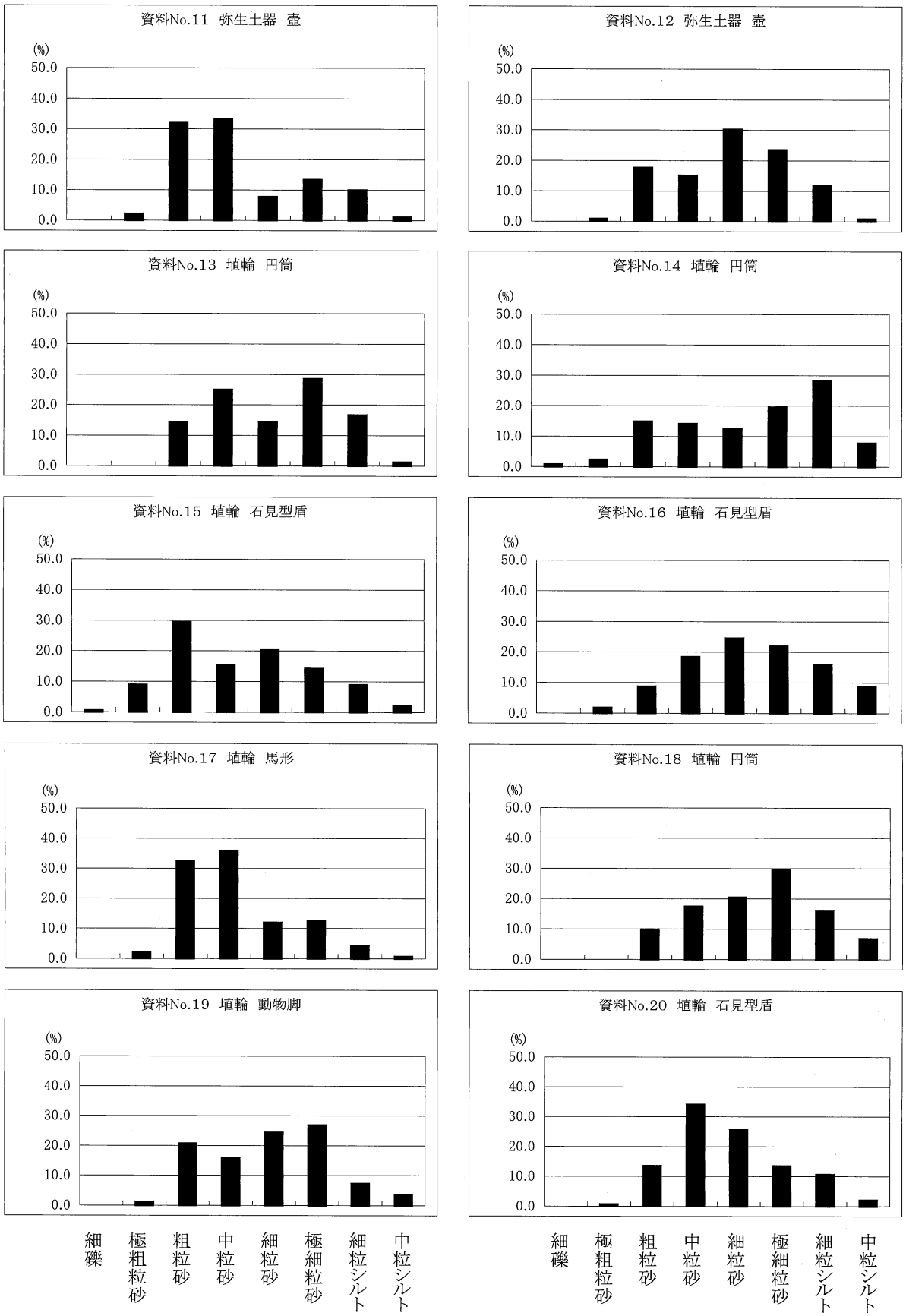
以上述べた試料の胎土分類をまとめて第4表に併記する。

4．考察

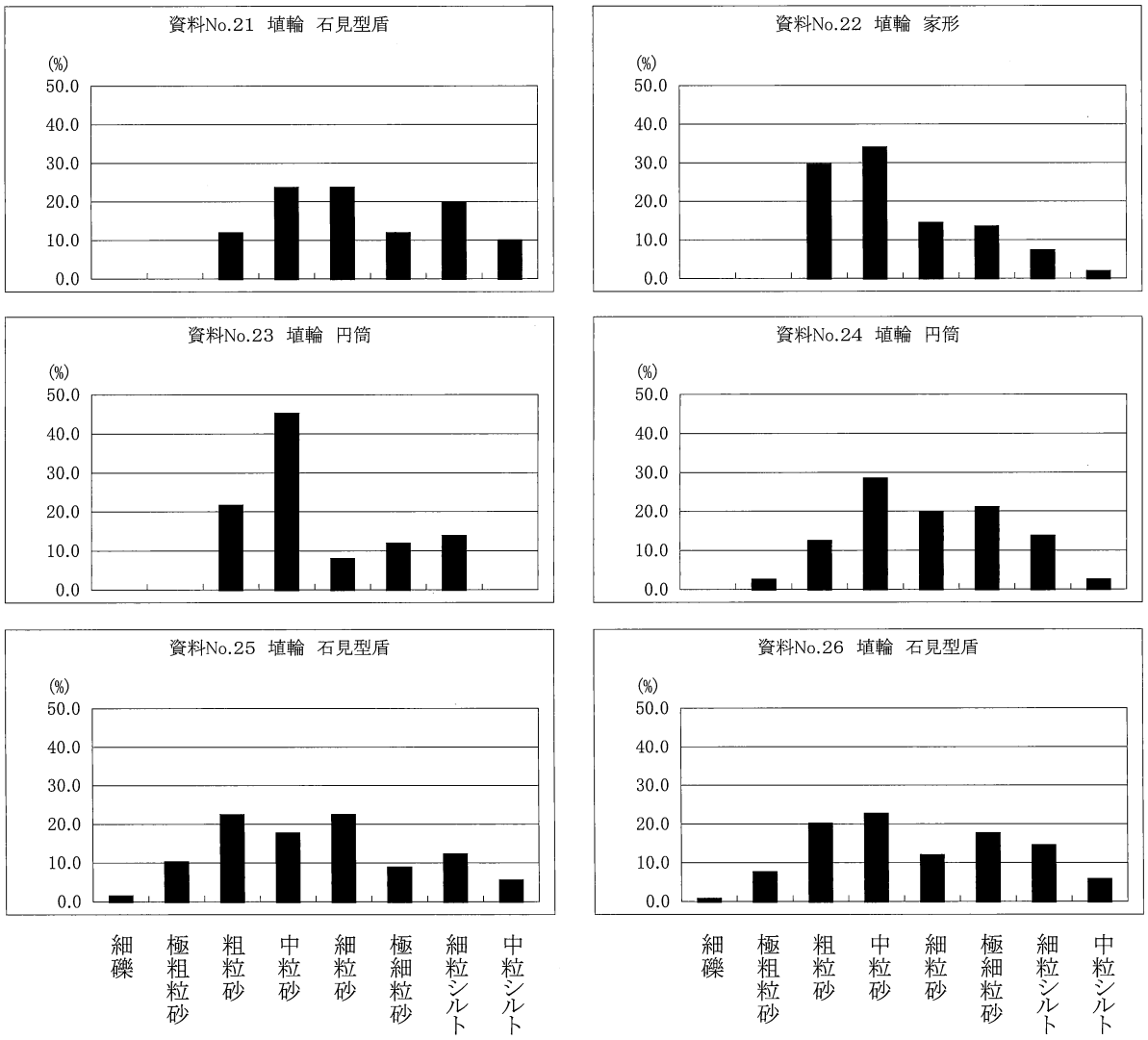
今回の試料の胎土に認められたＡ１類とＡ２類の鉱物片・岩石片の組成は、隣接する溝之口遺跡から出土した弥生土器および土師器の胎土と同様である。矢作・石岡(2006)による分析結果では、溝之口遺跡から出土した弥生時代後期とされた弥生土器の甕・壺・高坏およびイイダコ壺までいずれもＡ１類に



第14図　胎土中の砂の粒径組成(1)



第15図　胎土中の砂の粒径組成(2)



第16図　胎土中の砂の粒径組成(3)

分類され、古墳時代中期とされた土師器の甕と高坏はＡ２類に分類された。同報告では、Ａ類の由来する地質として、猪木(1981)、日本の地質「近畿地方」編集委員会編(1987)および尾崎ほか(1995)などの記載から、加古川流域に分布する地質であると考えた。すなわち、加古川下流域から中流域の左岸側に分布する台地や丘陵を構成する鮮新世～更新世の湖成・河成堆積物である大阪層群、右岸側に分布する山地を構成する流紋岩やデイサイト質の溶岩および火砕岩(凝灰岩)からなる相生層群および相生層群に観入する播磨花崗岩類、さらには加古川上流域の山地を構成するチャート・砂岩・頁岩からなる丹波帯の以上新旧取り混ぜた各地質が混在する加古川下流域の堆積物の砕屑物の鉱物片・岩石片組成が、Ａ類には反映されていると考えられた。坂元遺跡も溝之口遺跡とは同様の地質学的背景にあることから、坂元遺跡から出土した弥生土器および埴輪は、いずれも遺跡周辺域に分布する粘土や砂が材料として使用されている可能性が高い。

なお、今回のＡ２類に分類された試料における砂分中の火山ガラスの割合が比較的高いことから、おそらく、大阪層群からなる段丘や丘陵の崖面などに露出した火山灰層が意識的に選択された可能性がある。坂元遺跡より上流の加古川右岸に位置する都台の露頭では、厚さ10～25cm のバブル型火山ガラス

を主とする火山灰層が確認されており(佐藤ほか，1999)、このような露頭があれば火山灰層を採取することは可能である。現時点では、今回のＡ２類の試料の火山ガラスの採取地を特定することはできないが、今後、播磨平野東部地域におけるＡ２類の分布を蓄積することにより、Ａ２類の由来する地域をより詳細に推定することが可能になることが期待される。

また、今回の分析では、弥生土器試料ではＡ２類の方がＡ１類よりも多く、それに対して埴輪試料にはＡ２類は認められなかった。さらに、溝之口遺跡では、弥生土器試料は全てＡ１類、土師器試料は多くがＡ２類という結果もある。このような状況は、Ａ１類とＡ２類の違いは決して偶然ではなく、何らかの事情の違いを示唆している可能性がある。ここで、溝之口遺跡の弥生土器の胎土の砂粒の粒径組成をみると、細粒砂または極細粒砂をモードとしており、今回の坂元遺跡の弥生土器のＡ１類の試料が粗粒砂または中粒砂をモードとしている結果とは異なっている。さらに、砕屑物の割合も、溝之口遺跡の弥生土器は30%を超えており、坂元遺跡の弥生土器よりも高い傾向が明瞭である。一方、Ａ２類の溝之口遺跡出土土師器の胎土の粒径組成は、粗粒砂や中粒砂をモードとするものがあり、坂元遺跡のＡ２類の弥生土器とは異なる傾向を示す。これだけの例ではあるが、互いに近接する溝之口遺跡と坂元遺跡ではあるが、両遺跡の弥生土器は、地質学的に共通する材料を使用していても、両遺跡間でそれらが交換されるということはおそらく稀であったと考えられる。

Ａ１類とＡ２類の違いという問題に戻るならば、上述の溝之口遺跡と坂元遺跡との比較から、粒径組成や砕屑物の割合と必ずしも整合するものではないと考えられる。この場合、Ａ１類とＡ２類の違いは、素地土の可塑性や粘性、乾き具合の速さなど物理的な性質の違いには連動していない可能性がある。すなわち、Ａ１類とＡ２類の背景にあると考えられる様々な事情の違いのうち、物理的な材質による使い分けという可能性はやや低くなる。使い分けではない場合に考えられることとして、製作者の違いという可能性がある。坂元遺跡の弥生土器の場合、Ａ１類の土を好む製作者とＡ２類の土を好む製作者とがいたというような事情も想定できる。Ａ２類の土を好む製作者は、ある場所の火山灰層を取りに行っていたことも想像される。

いずれにしても、現時点ではまだ想像の域を出ることはなく、少しでも検証を進めるためには、様々な事例での分析結果を蓄積し、検討していく必要があると考えられる。

引用文献

猪木幸男，1981，20万分の１地質図幅「姫路」．地質調査所．

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高，1999，瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－．日本文化財科学会第16回大会発表要旨集，120-121.

日本の地質「近畿地方」編集委員会，1987，日本の地質６　近畿地方．共立出版，297p.

尾崎正紀・栗本史雄・原山　智，1995，北条地域の地質．地域地質研究報告(５万分の１図幅)，地質調査所，100p.

佐藤裕司・加藤茂弘・井上史章・兵藤政幸，1999，兵庫県，播磨平野東部で発見された酸素同位体ステージ7.3の海進堆積物．第四紀研究，38，401-410.

4．和同開珎の材質同定

坂元遺跡の確認調査№59トレンチから出土した和銅開珎は、別府川左岸の段丘直下に立地する低地に埋蔵されていた。このため良好な遺存状況を示している。保存処理にあたって、事前に保存担当の岡本が蛍光X線分析による材質調査を行った。なお、対比資料として姫路市上原田遺跡（「上原田遺跡調査概報」『播但連絡有料自動車道建設にかかる埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』兵庫県教育委員会）から出土した和銅開珎の内、１点の分析も行なったため、併せて報告する。

1．試料調査の方法

調査は、兵庫県立考古博物館において行った。試料が小さく表面の風化が進みもろいため、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SPECTRO 社製 MIDEX M）を用いた非破壊による調査を行った。ターゲットはモリブデン（Mo）、管電圧45kv、管電流0.25mA、測定時間300sec、コリメーターは１㎜を使用し大気圧中で測定した。

坂元遺跡の試料の全体的な表面の色調は、緑黒色を呈し良好な状態である。顕微鏡で見ると一部に調査時の擦痕が見られ、赤銅色を呈している。測定個所は、坂元遺跡は第17図、上原田遺跡は第18図の様に比較的風化の進んでいない部分２箇所を選び、分析を行なった。

2．坂元遺跡の出土和同開珎の分析結果

今回の分析した２箇所の結果は差異がほとんど認められなかったが、個々の形状の違いを少なくするため裏面の①を代表として第６表のデータと第19図の分析スペクトルを提示する。分析試料からはCu（銅）・Sn（錫）・Pb（鉛）以外にFe（鉄）・Ag（銀）・Sb（アンチモン）・As（砒素）等が検出された。分析値はAg以下については微量なので計算しない。Cu：Sn：Pb：Feの４元素の数値は75％：７％：18％：0.4％である。Sn/Cuは0.09、Pb/Cuは0.24であり、「鉛系」の新和同銭である。

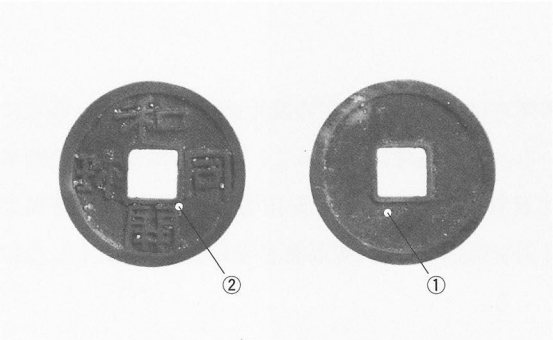
3．上原田遺跡の出土和同開珎の分析結果

今回の分析した２箇所の結果は差異がほとんど認められなかったが、風化が少ない表面の③を代表として第６表のデータと第20図の分析スペクトルを提示する。分析試料からはCu（銅）・Sn（錫）・Pb（鉛）以外にFe（鉄）・Ag（銀）・Sb（アンチモン）・As（砒素）等が検出された。分析値はAg以下については微量なので計算しない。Cu：Sn：Pb：Feの４元素の数値は63.5％：8.5％：25％：３％である。Sn/Cuは0.13、Pb/Cuは0.39であり、「鉛系」の新和同銭である。

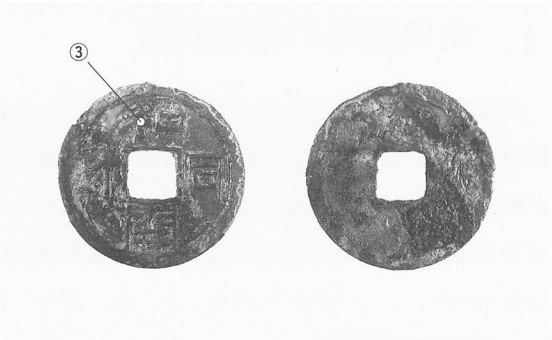
4．まとめ

遺存状況が良好な坂元遺跡出土の和同開珎に比べて上原田遺跡の和同開珎はCuの含有量が少なく、Sn・Pbの含有量が高いのは、風化に伴い酸化物となったときにCuよりSn・Pbの酸化物の方が比較的残存しやすいためと考えられる。

Feについては、試料が埋蔵されていた周囲の土の中に含まれていたものが試料中に取り込まれ検出されたものと考えられる。AgとAsは、今回の分析値を見る限りでは非常に微量であるためCuやPb鉱石の不純物として混入したものと見られる。Sbは、最近、奈良の飛鳥池遺跡の富本銭や和同開珎に意図的にSnの代用として混入されていたとして注目されているが、今回の試料の場合は意図的なものではなく不純物として混入したものと思われる。



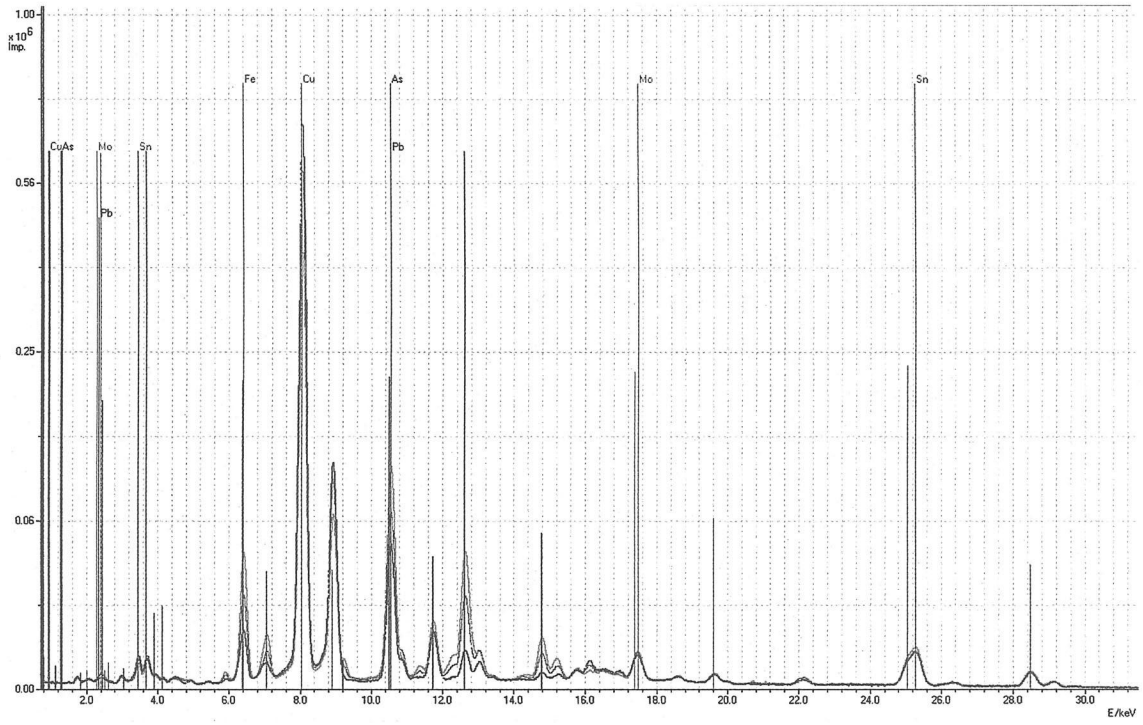
第17図　坂元遺跡出土和同開珎全体像と測定箇所



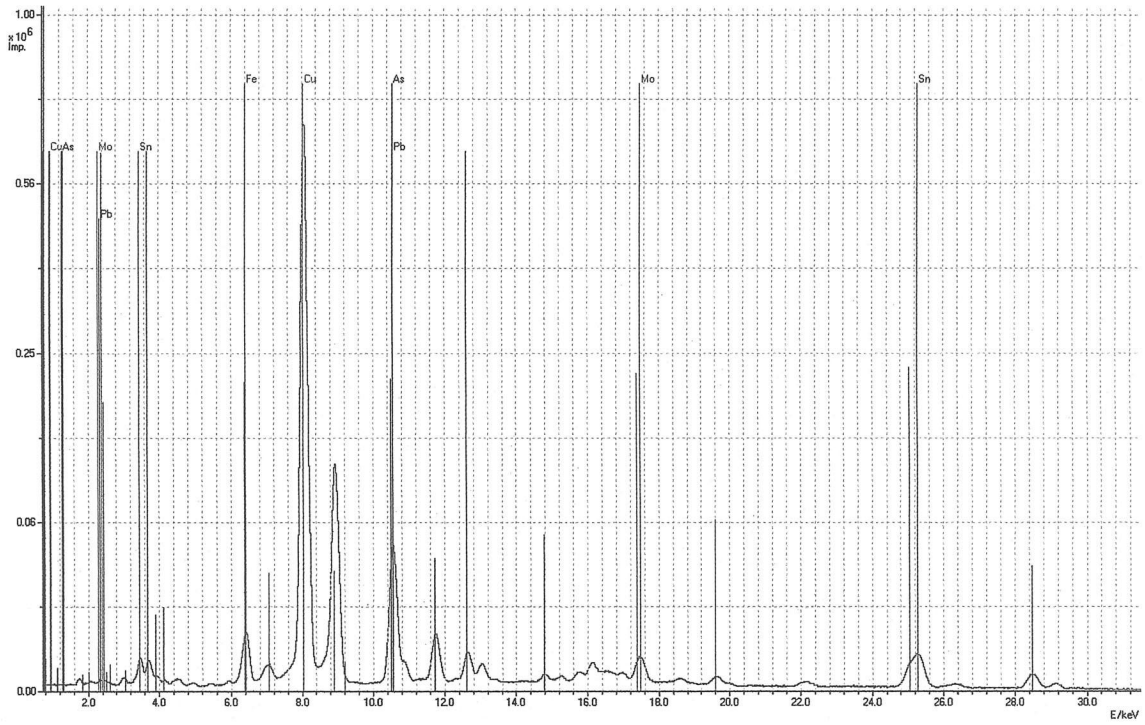
第18図　上原田遺跡出土和同開珎全体像と測定箇所

第６表　和同開珎測定表

			坂元遺跡011		上原田遺跡111	
Z	Symbol	Element	Concentration	Abs.Error	Concentration	Abs.Error
22	Ti	Titanium	0.0847%	0.0077%	0.2310%	0.0100%
23	V	Vanadium	<0.0081%	(0.0043)%	0.0365%	0.0041%
24	Cr	Chromium	<0.0031%	(0.0)%	<0.0034%	(0.0)%
25	Mn	Manganese	0.0151%	0.0017%	0.0776%	0.0024%
26	Fe	Iron	0.3717%	0.0038%	2.996%	0.010%
27	Co	Cobalt	0.0961%	0.0015%	0.0587%	0.0017%
28	Ni	Nickel	0.00591%	0.00021%	<0.0026%	(0.0)%
29	Cu	Copper	74.11%	0.06%	62.82%	0.05%
30	Zn	Zinic	<0.0051%	(0.0)%	<0.0049%	(0.0)%
31	Ga	Gallinm	<0.0034%	(0.0)%	<0.0054%	(0.0)%
33	As	Arsenic	0.01284%	0.0%	0.02157%	0.0%
39	Y	Yttrium	<0.0020%	(0.0)%	<0.0039%	(0.0)%
40	Zr	Zirconium	<0.050%	(0.0)%	<0.050%	(0.0)%
41	Nb	Niobium	0.04055%	0.00088%	0.1540%	0.0024%
42	Mo	Molybdenum	<0.30%	(0.0)%	<0.30%	(0.0)%
45	Rh	Rhodium	0.0020%	(0.0)%	<0.0020%	(0.0)%
46	Pd	Palladium	0.0084%	0.0034%	<0.0075%	(0.0)%
47	Ag	Silver	0.2235%	0.0058%	0.3558%	0.0074%
48	Cd	Cadmium	<0.0089%	(0.0)%	<0.0100%	(0.0)%
49	In	Indium	<0.011%	(0.0)%	<0.012%	(0.0064)%
50	Sn	Tin	6.937%	0.027%	8.446%	0.031%
51	Sb	Antimony	0.2667%	0.0093%	0.181%	0.011%
73	Ta	Tantalum	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
74	W	Tungsten	<0.025%	(0.0)%	<0.025%	(0.0)%
75	Re	Rhenium	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
77	Ir	Iridium	<0.0010%	(0.0)%	<0.0010%	(0.0)%
78	Pt	Platinum	<0.020%	(0.0)%	<0.020%	(0.0)%
79	Au	Gold	<0.020%	(0.0)%	<0.020%	(0.0)%
82	Pb	Lead	17.82%	0.03%	24.61%	0.04%



第19図　坂元遺跡出土和同開珎の蛍光X線定性分析スペクトル



第20図　上原田遺跡出土和同開珎の蛍光X線定性分析スペクトル

Ⅵ　まとめ

1．弥生時代

当遺跡における弥生時代の遺構と遺物は中期を中心とし、一部後期におよぶ。中でも1区、12区、37区からはまとまった形で中期の土器が出土しており、それらの概要を述べた後、弥生時代における坂元遺跡の変遷にもふれてみたい。

出土土器の分類については、出土量の多い壺類を中心とした一覧を第22図に示した。篠宮氏による分類[1]に準拠しているが、一部簡略化したところや、1区・12区・37区以外から出土したものについては紙幅の都合もあり図示できていない点があることを最初にお断りしておく。

広口壺は口頸部が大きく広がる壺で、いくつものバリエーションがある。ここでは口縁内部に突帯を持つものを口縁内突帯広口壺、体部最大径をしのぐ口縁部径を持つものを大型広口壺、口頸部が太く外反するものを太頸広口壺とした。直口壺は口頸部が直立し、縦長の体部を持つものである。短頸壺は外傾する口縁部と直立するごく短い頸部が細長い体部に付くものと、直立する短い口頸部と胴の張る体部を持つものがある。大型短頸壺は外傾する口縁部を持ち、頸部に突帯を付加する。細頸壺は直立した細い口頸部と扁平な体部を持つものである。水差は直立する口縁部を持つ短頸壺に把手と脚台がつくものである。無頸壺は頸部を持たない壺で、脚台を伴うものといわゆるタコツボ形のものも含めている。高杯は口縁が水平に張り出す水平口縁高杯と椀形の杯部を持つ椀形高杯がある。この他にも甕、鉢も出土しているが、各地区の概要の中で触れていきたい。なお、12区出土土器に関しては、友久の素描を元にしているが、最終的な文責は鐵にある。

1区出土土器

この地区の出土土器は、方形周溝墓の可能性を持つ溝の出土資料を含めて、約80個体を図示している。ほとんどのものに焼成後穿孔があり、供献土器と考えている。以下、器種ごとに特徴を見ていきたい。

広口壺に分類できるものが全体の3割を占める。その中でも口縁部・体部上半に櫛描き文・浮文を多用し、体部の張るものが優位を占める。これらは口縁部に凹線を施すと共に頸部にも突帯に代わって凹線を加えている。また、口縁内突帯を持つものは2点と少なく、このうち**94**は頸部に突帯が残存し、口縁端部の拡張もなく、古い要素を残す。加飾された広口壺以外にもプロポーションは同じであるが体部の文様が欠落する、あるいは刺突文だけを施すものが少量認められるが、これらについても口縁部には凹線の上から浮文を付加している。太頸広口壺は3点確認された。頸部から体部にかけての形態に変化はあるものの、文様には加飾広口壺と同じく櫛描き文と浮文を用いる。

直口壺は6点確認した。うち4点は口縁部直下に複数条の凹線をめぐらせるだけの簡素な形態である。残りの2点はいずれも特異な形態である。**126**は口縁部・頸部に突帯を付加し、櫛描き文で飾り、体部も横に張り出すものである。**128**は口縁部に刻み目と突帯、頸部から体部に櫛描直線文のみを施し、頸部と体部の境界がやや不明瞭である。短頸壺は口縁が直立する形態のものが2点確認された。うち1点はミニチュアともいうべき小型のもの、1点は口頸部全体に凹線をめぐらせ体部上半を櫛描き文で飾るものである。細頸壺は4点確認された。口縁部に凹線をめぐらせ、頸部から体部上半にかけて櫛描き文・浮文で加飾するものである。ただ、**80**については口頸部のみの破片であるが、頸部には凹線以外の文様は認められず、肩部にも文様はないようである。無頸壺は5点で、形態の変化に富む。タコツボ形

のもの２点、算盤玉状の体部を持つもの、口縁が内側に折れ脚台を持つもの、口縁に把手状の突起が付くものがある。水差は４点あり、基本的には口縁部の凹線以外の文様を持たないが、**129**は櫛描き文と突帯を付加し、**149**は刺突文を施している。高杯は口縁部が残存する３点を含め、５点出土しており、水平口縁高杯と椀形高杯の双方が認められる。水平口縁高杯については、口縁端部の垂下がかなり進んでいる。甕は12点で器種別では広口壺に次いで出土している。口縁端部をつまみ上げ、外面調整がハケのものとヘラミガキのものがある。この他には分類では示していないが、くの字口縁の鉢が１点認められる。これらの土器は、広口壺の口縁部だけではなく、頸部にも凹線文が採用される事をはじめとして、すべての器種で凹線が採用される点、壺類の体部が算盤玉状を呈する点、水差が出現している点、水平口縁高杯の端部が垂下する点からみて、東播磨Ⅳ－３期を中心とする時期のものと考えられる。

12区出土土器

この地区の出土土器は27点を図示している。１区と同様方形周溝墓の供献土器である。

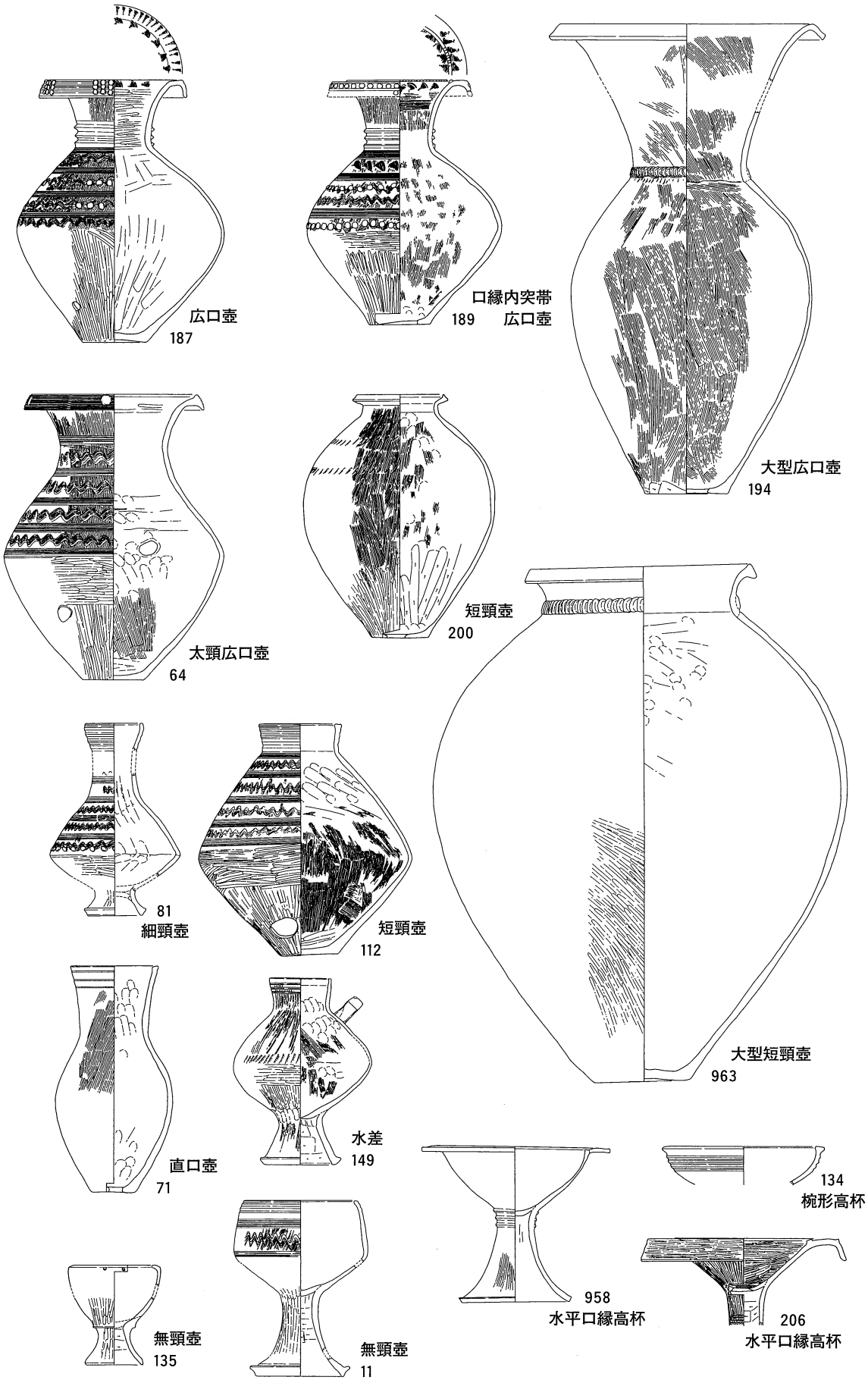
広口壺に分類されるものは全体の1/3近くにおよび、優位を占めているのは口縁・体部上半に櫛描き文・浮文等による多くの加飾を施し体部が算盤玉形に張るものである。いずれも、口縁端面には凹線文が、頸部には断面三角形突帯が２～３条めぐらされる。加飾は口縁内面にも及び、波状文・扇形文が施され、２帯が組み合わされているものもある。同時期の西播磨で優勢な壺には口縁内突帯が残るが、ここでは１点に見られるのみで、複数帯めぐるものも見られない。櫛描きによる加飾を持たない広口壺は３点見られ、そのうち大型の**194**は体部最大径を凌ぐ大きな口縁部を持ち、頸部に指頭圧痕文突帯がめぐる。上記分類では大型広口壺としたが、系統や器種の内容には再考の余地がある。また、比較的短い口頸部を持つ２点には櫛状工具による刺突文がめぐらされるが、口縁部への凹線文は施されない。太頸広口壺は１点見られ、加飾手法・文様構成は加飾広口壺と同様である。口縁内面は無文である。

直口壺は口縁部に凹線文、刻み目をめぐらせるものがある。**190**では口縁の一部に抉りが入り、その直下に２個１対の小円孔が穿たれている。頸部に刺突文がめぐる。

短頸壺では、口縁端部に斜行文、頸部に指頭圧痕突帯をめぐらせ、大型短頸壺を小型化したような**212**、口頸部の短い直口壺ともみえる**193**の他、短い口縁部が屈曲して開き、体部上半に櫛状工具による刺突文が２段にめぐらされる**200**がある。これには中部瀬戸内地域に類似例が認められる[2]。

第21図　SD1203出土土器

細頸壺も櫛描きによる直線文・波状文・円形浮文による加飾が頸部および体部に施されたもので、加飾広口壺に準ずる供献品であろう。無頸壺には複数の形態が認められる。195は深いカップ状の体部に高い脚が付き、ヘラミガキで丁寧に仕上げられ赤色化粧土が塗布される。この時期の中部瀬戸内地方で見られるタイプの台付鉢に類似する[3]。**215**は口縁部直下に突帯がめぐり、注ぎ口の剥離痕が残る。**201**は深いコップ状で、いわゆるイイダコ壺であろうと思われる。高杯は水平口縁の端部を程度の差はあれ下方に垂下させ、脚柱部中位に沈線がめぐらされる。杯部底の充填された円盤の中央に焼成後穿孔が穿たれる。甕はくの字口縁で、端部を上方へ引き上げている。これらの土器については、壺の口縁部に凹線文が採用されるものの、頸部には断面三角形突帯が残ること、口縁部に突帯をめぐらせる無頸壺が残る点、水平口縁高杯で端部の垂下に長短がある点、水差が出現していない点か


広口壺
187
口縁内突帯
189　広口壺
大型広口壺
194
太頸広口壺
64
短頸壺
200
81
細頸壺
短頸壺
112
大型短頸壺
963
直口壺
71
水差
149
134
椀形高杯
958
水平口縁高杯
206
水平口縁高杯
無頸壺
135
無頸壺
11

第22図　弥生土器分類

らみて東播磨Ⅳ－２期にあたると考えられる。

37区・38区出土土器

37区の**SD3704**では多数の土器が廃棄されていた。図示できたのは20点である。広口壺が1/3を占め、うち半数に口縁内突帯があり、二重に突帯を巡らせるものもある。口縁端面は拡張されておらず、凹線ではなく刻み目を施す。頸部には断面三角形突帯が付加されている。全体の判明する良好な資料がないため、体部の加飾状況は不明瞭であるが、**966**や**SK3809**出土の**944**からみて、櫛描きによる複数の文様で加飾されていたと思われる。壺類では他にも数は少ないものの、断面三角形突帯を巡らせる直口壺や、口縁端部に斜格子文を施した無頸壺があり、頸部に指頭圧痕突帯を巡らせた大型短頸壺が出土している。高杯は水平口縁高杯であり、口縁端部の垂下はなく、端面に刻み目を施している。また、**958**については脚柱部に断面三角形突帯を加える。甕はくの字口縁甕で、端部の引き上げがあるものと無いものがある。**956**のようにかなり胴部が膨らむものについては無頸壺とした方がよいかもしれない。

これらの土器は壺に凹線の採用が無く、頸部の加飾が断面三角形突帯である事、大型短頸壺の存在、水平口縁高杯の形態から見て、本文中でも触れたとおり、東播磨Ⅲ－２期にあたると考えられる。

他の地区出土土器

他の地区で出土している弥生土器についてもごく簡単に述べる。22区の**SK2201**でⅣ期の直口壺、25区の**SB2502**でⅢ期の水平口縁高杯、26区の**SX2604**でⅢ期の直口壺・広口壺・外反口縁高杯・直口鉢が出土している。28区の**SH2801**からはⅢ期の広口壺・くの字口縁甕・脚台とⅣ期の大型受口壺が出ている。**SK2801**・**SK2802**でもⅣ期の壺・甕が出土している。31区ではピットからⅢ期の直口鉢、**SK3106**・**SK3112**・**SK3116**からⅢ期の口縁内突帯広口壺を含む壺や大型短頸壺と無頸壺の中間形態を示すような壺、外反口縁高杯、**SK3103**・**SK3115**からⅣ期の広口壺・くの字口縁甕が出土している。45区・48区・50区の溝からはⅤ期後半の土器が出土している。53区の**SX5303**・**SX5304**・**SX5307**からは量は少ないものの東播磨Ⅲ－２期と思われる土器群が出土している。広口壺は口縁部に凹線が採用されず、頸部には断面三角形突帯が付加されている。特に加飾性の強い**1130**は、口縁内突帯が二重にめぐり、口縁内面に櫛描きと二種類の浮文、端面に格子文と浮文、頸部に突帯と浮文、体部上半にも三種の櫛描き文と円形浮文を施している。また、口縁部と頸部に突帯を持つ直口壺**1132**は１区の**128**と共通するものがある。56区の**SH5601**からは東播磨Ⅴ－４期の直口壺・短頸壺・器台・鉢がまとまって出土している。

以上、坂元遺跡の弥生土器を概観した。結果的に中期はⅢ－２期、Ⅳ－２期、Ⅳ－３期の３段階があり、少し断絶があった後、Ⅴ期後半の土器が認められる。Ⅲ－２期に調査地域南西部の段丘上で遺構が営まれ始める。この段階では住居跡・土坑が確認されている37区南半から31区にかけてが居住域であり、その北側に近接して墓域が営まれている。次のⅣ－２期では墓域が12区周辺にも営まれるようになり、集落範囲が拡大する。そして、Ⅳ－３期には新たな墓域が白ヶ池川の北側の段丘面に築かれる。ただ、Ⅳ期の居住域についてはⅢ期のそれと重なる形で想定されるが、Ⅳ期の土坑がⅢ期のものと混在して検出されている以外に、それを証明する材料はほとんどない。Ⅴ期前半の断絶のあと、新たな居住域が57区周辺に営まれると共に、31区周辺でも再び居住が始まるが、遺構や遺物の点から見ると、調査範囲内においては、中期よりも規模が縮小したものと思われる。（鐵）

注

（１）　篠宮　正「東播磨地域における弥生土器編年」『弥生土器集成と編年－播磨編－』(2007)

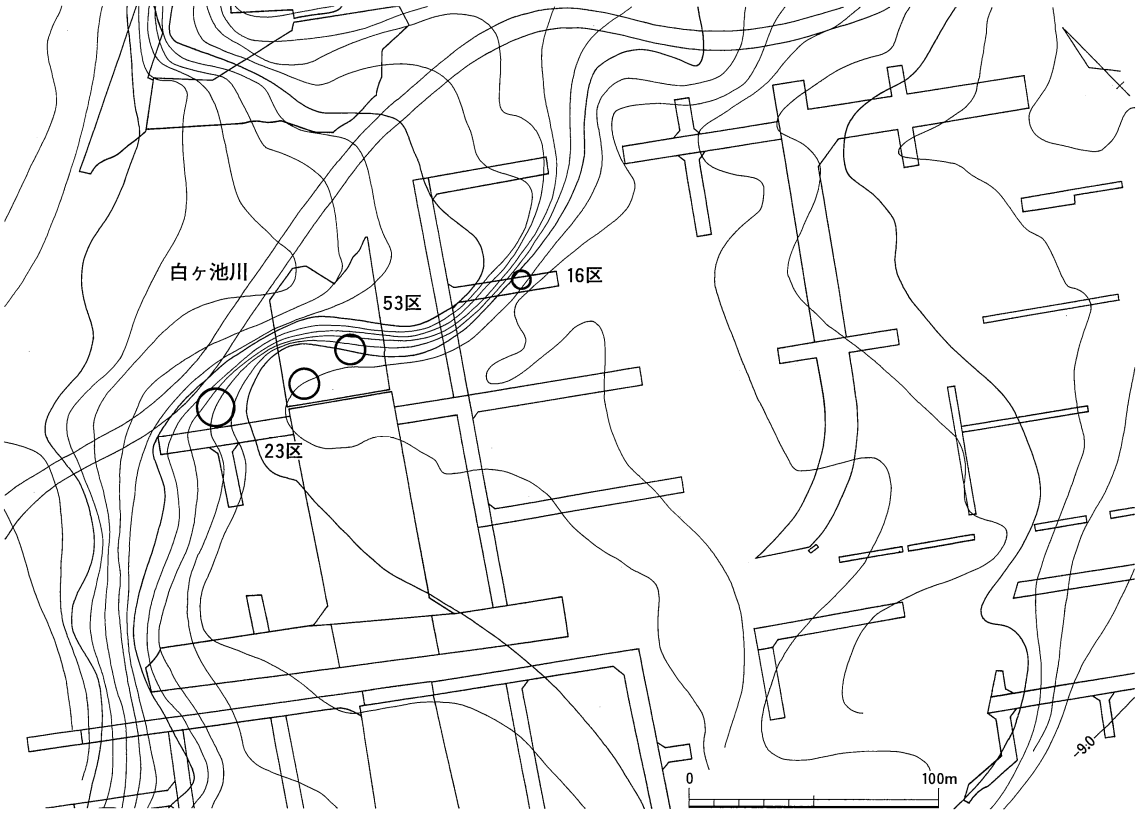
（２）・（３）　正岡睦夫「備前地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』(1992)

2．古墳時代

古墳時代の遺構は竪穴住居跡11棟・埴輪窯跡２基・古墳３基と水田跡を検出している。白ヶ池川南岸の微高地上に古墳が築造されている。弥生中期の墓域と同じ地域であるが低地にまでは広がっていない。今まで日岡丘陵や西条には多くの古墳が知られているが、坂元近辺の平地では良野の具平塚古墳だけが存在し、さらに南側長砂に前期古墳の聖陵山古墳が立地しているだけである。古墳以外の遺構や別時期の遺構も今回の調査ではじめて知られるようになった。埴輪窯跡は段丘崖を利用して構築しており、水田跡は低地に広がっている。生産域は低地とその縁辺となる。居住域は段丘面上である。

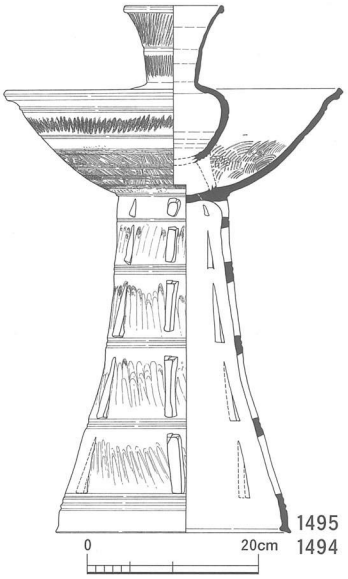
竪穴住居跡は31区・37区・40区・56区で検出している。56区だけが白ケ池川北岸になるので、小単位の集団は異なっているかもしれない。祭祀土坑が17区・19区にあり、土坑も段丘上には広がっているので、全域に生活の痕跡を残している。その中でも別府川に近い低い部分を選択している。７世紀に遡る水田が確認されたのは、28区・30区の低地部分であり、水田部と近接していることに起因している可能性がある。

古墳は白ケ池川南岸の縁辺部に並んでいる。３基を確認し、53区の**SX5302**の埴輪が多数出土している地点にも古墳の可能性を求めれば、４基となる。すでに削平された古墳があり、未だ知られていない埋没古墳が存在するものと思われ、それ以上に古墳が並んでいたことは確実であろう。３基の古墳は東から**SX1603**・**SX5301**・**SX2301北**となり、**SX5301**以外は埴輪が出土している。年代は、**SX1603→SX2301北→SX5301**の順になる。**SX1603**出土の埴輪は粗い縦方向のハケメが見られ、色調も黄橙で胎土が緻密であることから、埴輪窯跡などから出土した埴輪とは異なっている。円筒埴輪以外に武人埴輪・人物埴輪(腕のみ)と家形埴輪が出土している。１段階古い６世紀前半(初頭)であろうか。**SX2301北**は円筒埴



第23図　坂元遺跡古墳分布図

輪・朝顔形埴輪が出土している。切り合い関係にあるSX2302からは石見型盾の脚台部が出土している。北側で工事中採集された石見型盾や須恵器装飾器台も同一古墳のものと想定している。そうなると大形の土器である朝顔形埴輪・石見型盾形埴輪・装飾器台を周囲(主体部)に樹立させた(巡らせた)古墳となる。SX1603の次代であろう6世紀中ごろと思われる。SX5301は周溝から須恵器が出土している。杯・高杯が出土していないので確実ではないが、TK10からTK43くらいで、6世紀中ごろから後半までと思われる。3基の古墳は時代的に継続している。



第24図　器台復原図

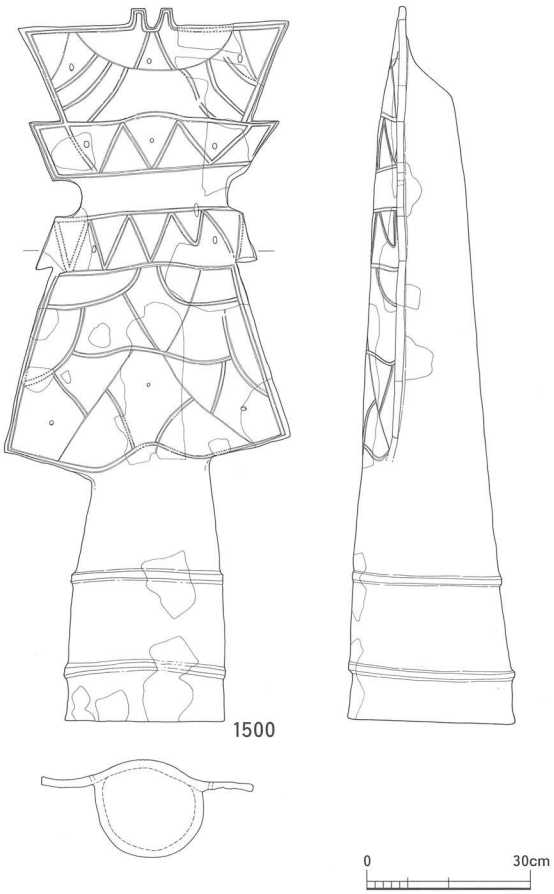
埴輪窯跡は兵庫県下ではじめての調査例である。分布調査をはじめ調査段階でもまったく埴輪を採集することが出来なかったので予想外であった。段丘崖を利用した築造位置も今後の分布調査にあたって注意すべき教訓となった。SX5305は段丘面を利用した幅1.8～2.0m、長さ4.5m窖窯で、床面下半は18°と緩やかで上部煙出し近くで40°の急斜面となる。形象埴輪を主体に焼成した窯跡である。もしかすれば、円筒埴輪は全くない形象埴輪専用窯の可能性は高い。石見型盾形埴輪を主に家・人・鹿・馬を焼成している。石見型盾は最も多く出土している4段の鰭があるタイプで円孤文を描いている。全国で80数例の出土が畿内を中心にあり、広島県から群馬県までの広がりを持つ遺物である。窯跡例も奈良県・大阪府の4遺跡と岡山県・愛知県・三重県での例があるが、数少ない調査例である。県下で窯跡出土は坂元遺跡だけであるが、その他古墳などから8遺跡の出土が知られている。明石川流域に5遺跡と集中し、姫路平野で2遺跡と摂津・揖保川に各1遺跡である。坂元遺跡では窯跡と古墳の両者から出土しており、それは需給関係にある。周辺の明石・姫路の埴輪は文様構成や形態が異なり別物である。坂元遺跡の窯跡SX5305は短期間の操業で、小範囲しか供給していなかったかもしれない。石見型埴輪も興味深いが、57区SK5701の淡輪技法の埴輪も注目される。分布調査での確認は困難な小規模な焼土坑で埴輪を焼成している。粗い外面成形は23区の古墳との関連が窺われる。6世紀初頭から前半に坂元遺跡の白ヶ池川南岸の段丘上を利用して埴輪を製作し古墳を造営したものと思われ、今回調査した以上に眠っているものと思われる。日岡古墳群や西条古墳群を築造した首長クラスとは異なり、次代の1ランク下の系譜を求めるのが妥当であろう。

(渡辺)

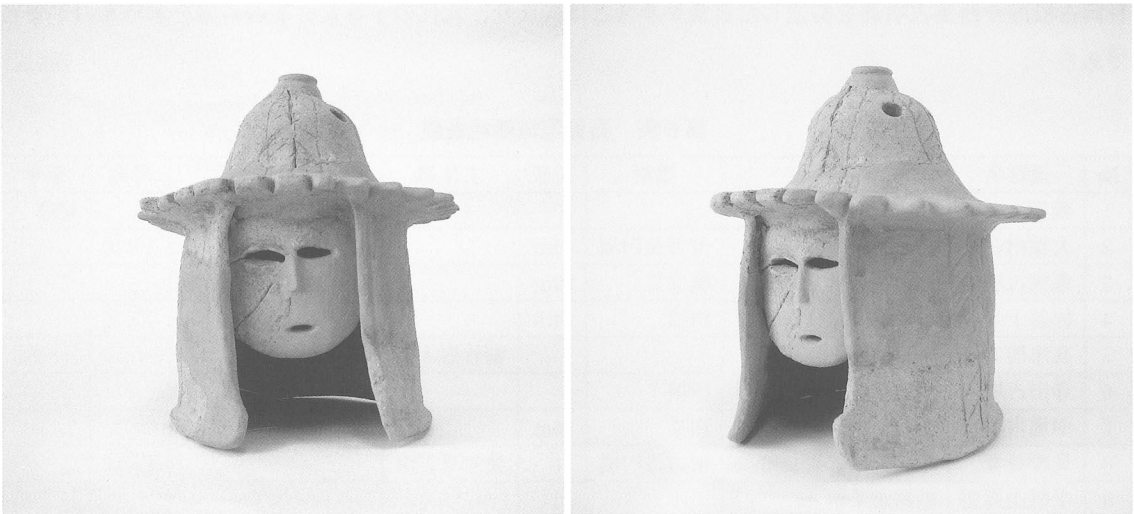
第6表　石見型埴輪地名表

No.	遺跡名	所在地	墳形	規模	主体部	伴出埴輪	時期	備考
1	坂元	加古川市野口町				馬・鹿・人・家		窯跡
2	大塚山古墳	尼崎市南清水	前方後円墳	44m		蓋・靫	TK10	
3	亀塚古墳	神戸市西区玉津町	帆立貝	29m		家・太刀・人・動物		
4	柿谷1号墳	神戸市西区伊川谷町	円墳	14m		家・人	TK10	
5	高津橋大塚	神戸市西区玉津町			割竹形木棺	家・人	5C末	遺跡出土
6	寺山古墳	明石市魚住町長坂寺	円墳？					
7	中尾古墳	明石市中尾	円墳	16m				
8	見野長塚	姫路市四郷町見野	前方後円墳		横穴式石室		TK10	
9	手柄山周辺	姫路市手柄						採集品
10	西宮山古墳	たつの市龍野町日山	前方後円墳	35m	横穴式石室	蓋・家	MT10	

第25図　石見型盾



第26図　石見型盾復元実測図



第27図　武人埴輪

3．奈良時代の中心遺構

坂元遺跡の大きな成果の１つとして多数の掘立柱建物を検出したことである。今回報告する坂元遺跡Ⅱ分で86棟の掘立柱建物を検出した。そのうち**SB2502**だけが弥生時代の掘立柱建物である。それ以外に**SB0201**や**SB5101**のように低地で検出した平安時代末以降と時代の下る掘立柱建物を７棟調査している。それを除く78棟が律令期のものである。JR山陽本線高架工事に伴う調査(26区と28区の間「坂元遺跡Ⅰ」）では20棟の掘立柱建物が調査されている。調査面積は遺跡全体の３割に満たない数字であることを考慮すると、非常に多くの掘立柱建物が存在することになる。

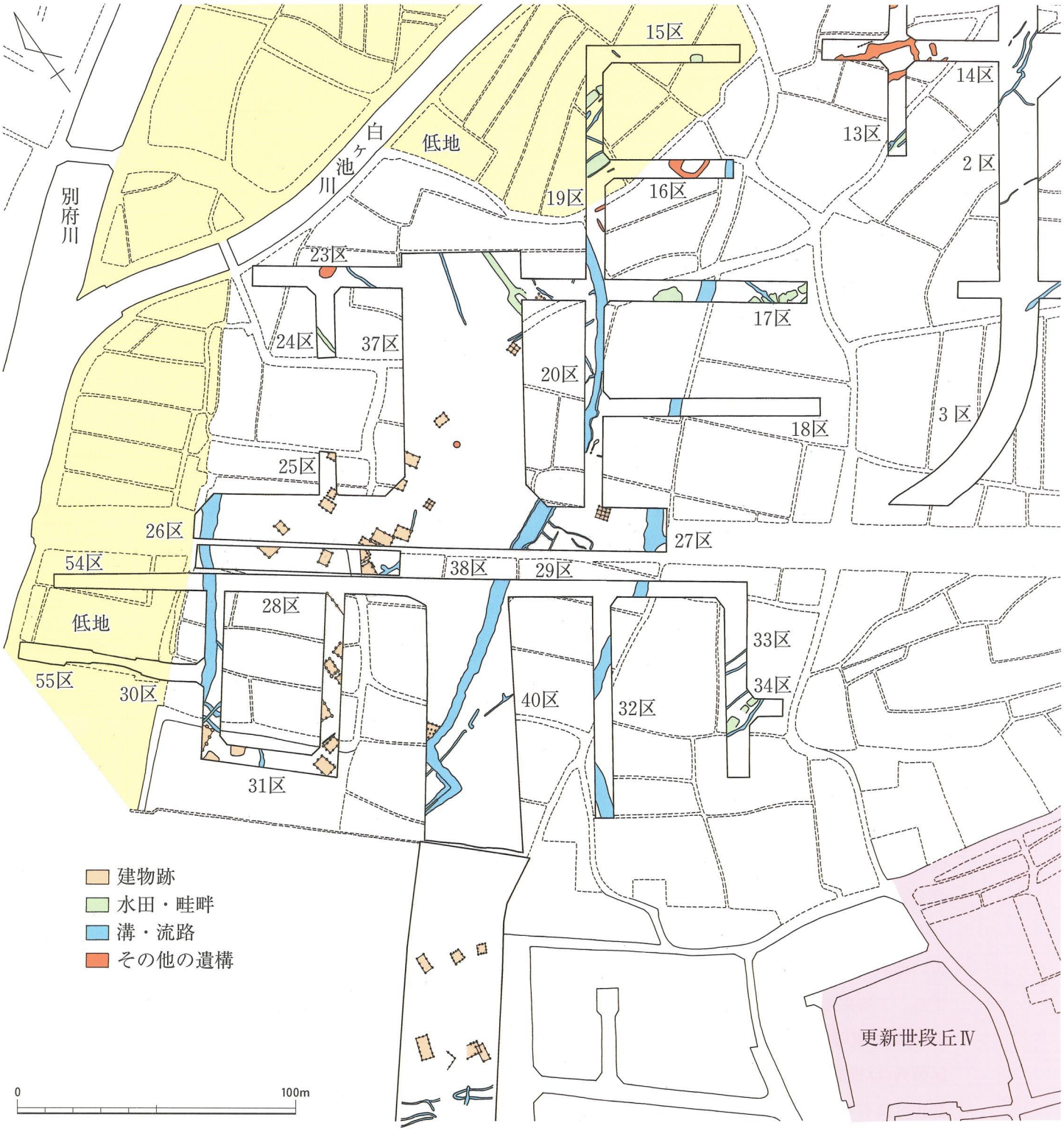
第28図　空中写真(西上空から)

ただ、その中でも26区・28区・31区・37区・38区と坂元遺跡Ⅰ部分の地域は遺構が密集した地域である。掘立柱建物の主軸方向から分類した正方位を採るＡプランの時期は多少の広がりを有する。白ヶ池川の北側にも広がっている。総柱建物はすべて北側に存在し、この時期の特徴を示しているようである。ところが、８世紀後半のＢプランの時期になると36区**SB3602**１棟だけが前代から継続して総柱建物を建てているが、それ以外の６棟は中心地に建設されている。Ｂプラン全体の掘立柱建物の数量でも中心地域に26棟あり、他地域は２棟だけと大きな較差がある。出土遺物の内容からみても明らかである。量的にも内容的にも圧倒的に多くの遺物がこの部分から出土している。

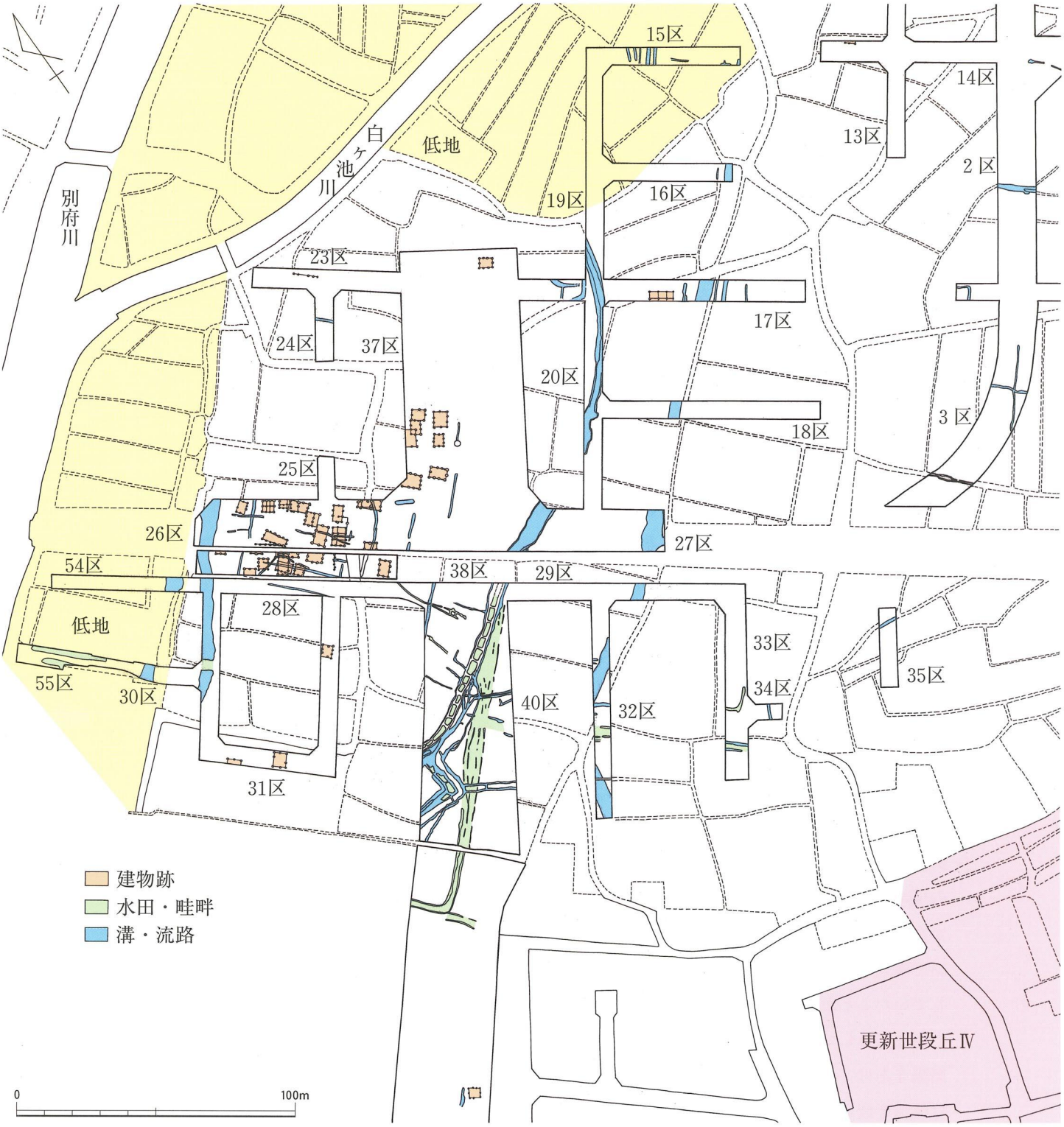
遺構からその中心地域の外部ラインを追うと、大きくは西側26区から31区に流れる流路(**SR2601**・**SR2801**・**SR3101**)、東側は19区から20区・27区・40区を通るやはり旧流路(**SR1901**・**SR2001**・**SR2701**・**SR4001**)のラインである。北側は37区の遺構の希薄部分かと思われる。小さく見ると西辺は26区**SR2601**の東側に平行する溝もしくはその東にある**SD2603**である。南辺は28区**SD2809**から40区に入り、東辺は**SR4001**西側の断続的な溝痕跡が北へ延びる。38区**SD3801**から37区**SD3703**となる。北側で浅くなり削平を受けているようである。北辺は残存度が悪いが２条の溝があり、いずれかが北辺に当たるものと思われる。

その規模は東西80m(**SD2603**で限れば70m)、南北80mの方形となり、これが中心区画と考えられる。古い時期の井戸**SE3701**はこの東辺の溝と同じ位置にある。この中にＢプランの掘立柱建物は20棟存在する。Ⅰ時期ではないかもしれないが、相当数の建物が建っていたことになる。総柱建物は26区西端**SD2603**の東側に１棟(**SB2601**)位置する。北側調査区外に延びているが３間×３間と思われる。東側の区画外(巨視的にみた内側)であるが**SB2701**がやはり３間×３間の総柱建物である。中心区画東西と南側40区にも**SB4001**があり周囲に倉庫があることになる。中心区画にある建物はほとんどが２間×３間のもので、極めて大きな規模や特徴的な建物は確認されていない。37区西側が未調査で、80m四方の居域からすると中央部分は未調査地に位置するものと思われる。

出土遺物は周辺の流路を中心に、この区画は量的に多い。特に**SR2601**などの西側流路には大量に遺物が包含している。その多くは日常雑器であることが特徴であるが、播磨国府系軒丸瓦や多嘴壺・円面硯など官衙的な代表遺物もここから出土している。この両面性が駅家郷として相応しい状況と言える。瓦そのものは中心地で多く出土していることは確実である。　(渡辺)



第29図　奈良時代前半の坂元遺跡



第30図　奈良時代後半の坂元遺跡

4．条里型地割の復元と集落の考察

はじめに

坂元遺跡では弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されているが、大きな割合を占めるものは律令期の集落及び水田跡を主とした生産遺跡である。ここでは、主に検出された水田畦畔や水田に伴う水路の方位をまとめ、坂元遺跡内で検出された主に大畦畔跡をもとに更に現地表の地割痕跡を参考に遺跡及びその周辺における条里型地割の復元を行う。

加古川市域には現地表に１町方格の水田区画がよく残っており、加古川左岸の溝ノ口、更に野口町にかけても条里型地割が存在することがわかっている。その成果は、『加古川市史』においても復元図が提示されている。

加古川市域のなかで、加古川左岸において判明している条里型地割は２種存在する。

１つは、正方位ではなく、北東へ軸をもつ条里型地割である。この地割は現地表に非常によく残っており、条里型地割は正方位から約44°東へ振る。先学の研究成果を参考にすれば、古代山陽道を基準に方格地割を施行したことが判明している。坂元遺跡の南・西側を中心に広範囲に存在している。

いま一つは、東西南北の正方位に地割を行うもので、主に坂元遺跡の東側、野口町の東半、教信寺・野口廃寺の立地する台地上を中心に存在する方格地割である。高橋美久仁はこの地割が古代山陽道を越え更に南側(古大内遺跡＝賀古駅家)周辺にまで広がることを指摘している。

結論を先に提示すれば、坂元遺跡にはその両者が存在しており、前者が新しく後者が古いという時期差が遺構から認められた。ここでは、坂元遺跡における正方位の方格地割を条里型地割プランＡ(以下プランＡ)、北東に軸をもつ方格地割を条里型地割プランＢ(以下プランＢ)としておく。

条里型地割プランＢの復元

遺構として顕著な大畦畔は南北方向では40区、東西方向では東から33区・32区・40区・31区・30区・55区を走る１条の大畦畔が検出されている。

40区において北東・南西方向に検出された大畦畔は数条の溝が掘られており、対になる溝間の距離は約1.8mをはかる。この大畦畔は現地表に残る条里型地割りの南北方向の延長上にあり、一部は調査前の現地表にも畦畔として残っていたもので、今回の調査において、現地表の地割の下から、及び延長上からも畦畔が確認されたことになる。この畦畔の延長上には37区の東側にも同方位の畦畔が現地表において確認でき、北側の段丘崖に向かって現地表に一部残る坪境の大畦畔が、過去には調査地点内を北上していたことが判明した。

南北に対して東西については、33区・32区・40区において大畦畔と考えられる２本の溝が約1.2mの間隔をあけて検出されている。その延長上にあたる31区では流路**SR31001**を渡る土橋があり、30区では湿地を渡る木芯を入れた大畦畔**SX3001**が、更に55区では張り石を施した大畦畔が確認され、立体的な構造物として畦畔を検出している。これら各地区の大畦畔を図上におとした所、ほぼ一直線となることが確認された。

この南北及び東西方向に検出した大畦畔を図上におとし、更に１町方格を設定したものが第32図右である。

この図から40区の南北方向の大畦畔(イ)に対して１町西側の坪境線(ア)が現地表の段丘崖端上の土地区画線にあたること、(イ)に対して１町東側の坪境線(ウ)が現地表の農道に一部遺存していることが明

らかである。また図よりはみ出したが、6区の**SD0602**、7区の**SD0703**・**SD0704**、2区東端の**SD0208**は更に1町東側の南北の坪境線に伴う溝と考えられる。

対して、東西方向の大畦畔(C)に対して1町北側の坪境線(b)が3区の南端溝にあたること、及び現地表の東西方向の農道に一部遺存していることも分かる。2町北側の坪境線(a)が2区の溝**SD0209**にあたることも明らかである。

以上の結果から、坂元遺跡には少なくとも南北4条、東西3条の坪境線が存在することが推断できる。

第31図は、復元した坂元遺跡内の坪境線をさらに広い範囲の地図に落とし込んだものである。図左側から延びる現地表に残る条里型地割の延長上に坂元遺跡内の坪境線(条里型地割プランB)が合致することが分かる。この現地表の方格が主に『加古川市史』において復元図が提示されている古代山陽道を基準に方格地割を施行した条里型地割である。

次にこれらのプランBを構成する大畦畔の成立時期が問題となる[1)]。

通常、現代に遺るいわゆる条里型地割の時期は概ね中世以前遡ることは少ないが、坂元遺跡では32区・33区・40区において検出される畦畔の側溝は、何れも9世紀代と考えられる黄白色洪水砂礫によって埋没あるいは被覆されている。ここより各地区の大畦畔の成立が9世紀より古いと推定できる。

また、30区において検出された**SX3001**は9世紀代の洪水砂によって埋没しているが、畦畔が跨ぐ**SR3001**埋土からは8世紀前葉を中心とする土器が一定量出土している。段丘際(ア)に沿って通ると考えられる**SD3002**についても9世紀代の洪水砂によって埋没している。これらのことから、30区即ち段丘下の湿地では9世紀代には大畦畔が洪水によって埋没しており、8世紀前葉には造られていなかった可能性が指摘できる。

55区では30区から延伸した大畦畔が検出されている。この部分では張り石が認められ、更に畦畔構築時に土馬・桃・木皿を使用した祭祀が行われていることが今回の調査において明らかとなった。

以上のことから条里型地割プランBの方格は、少なくとも坂元遺跡においては8世紀後半には成立し、一部が9世紀に入って埋没したことが明らかである。

条里型地割プランAの復元

正方位に軸をもつ畦畔・溝の存在が複数の地点において明らかとなっている。また、現地表においても極部分的に正方位に畦畔・農道が存在している。これらの要素をつなぎ、正方位に軸をもつ条里型地割Aの復元を行う。

遺構として顕著な畦畔は南北方向では29区・37区、東西方向では東から33区に畦畔が検出されている。これ以外には、2区・15区・19区・31区において東西南北方向の溝・水田が確認されているほか、現地表において東西方向の畦畔が部分的に残っていることが明らかとなった。

この南北及び東西方向に検出した畦畔・溝を図上におとし、更に1町方格を設定したものが43図左である。

この図から40区の南北方向に想定した大畦畔(あ)に対して1町東側の坪境線(い)が29区**SD2903**と37区の南北方向の大畦畔にあたること、また、南側の現在の農道がその企画を継承していることが明らかである。更に、大畦畔(い)に対して1町東側の坪境線(う)が15区の**SD1501**・**SD1509**の南北溝が集中する地点にあたることも読み取れる。少なくとも調査区内に1町間隔で南北3条の坪境線が存在する可能性が浮かびあがる。これに対して、東西方向については、まず、33区において検出された下層水田と南側を通る**SD3328**の延長上に現地表に東西方向に走る畦畔が続くことに注目する。この東西のラインを

基線に半町分北側を**SD4077**と**SD2906**を結ぶ線が通る。さらに１町北側には37区南側の現地表に東西方向の畦畔が存在している。更に半町北側には19区**SD1904**・15区**SD1516**よりなる東西方向の溝・水田が確認されている。以上の結果を43図に落とし込んだところ、坂元遺跡には少なくとも南北３条、東西方向には半町間隔で５条の方格地割線が存在することが推断できた。

では、復元したこれら東西南北の地割線が坂元遺跡周辺の局地的なものであるのか、更にとくに東西方向の５本の地割線のどれをもって坪境線と認識できるのか、以下、検討する。

図42は、復元した坂元遺跡内の坪境線(プランA)をさらに広い範囲の地図に落とし込んだものである。

まず、図右側の教信寺が所在するいわゆる野口台地上に正東西南北方向をむく条里型地割が存在することが分かる。

野口台地上に正方位の条里型地割が存在することが指摘された歴史は古く、吉本昌弘は野口廃寺周辺に残る正方位の条里型地割から野口台地上に賀古郡衙の存在を推定している[2)]。また、高橋美久仁は野口台地上の正方位の条里型地割が賀古駅家推定地である古大内遺跡周辺にまで及び、古大内遺跡自体が正方位の方格地割に則って位置していることを指摘している[3)]。この先学の研究成果を受け、特に古大内遺跡周辺の方格地割については高橋美久仁が掲載した字限り図の成果を参考に空中写真・昭和45年代の都市計画図・現地踏査によって野口台地上の方格地割の復元を行った。

坂元遺跡において復元した方格が、野口台地・古大内遺跡周辺から延びる現地表に残る東西南北の条里型地割と合致することが分かる。古大内遺跡が１町方格内に入り、教信寺と不動院を結ぶ線が坪境線となる。また、野口廃寺(野口神社)が東西１町・南北２町の方格内に収まる。古大内遺跡の南西隅から10町で40区内を東西に走る方格線にあたる。即ち、43図では、南北あ・い・う、東西A･B･Cの各３条が坪境線として復元でき、その中を半町ごとに区画していた可能性が高いのである。

次にこれらプランAを構成する大畦畔の成立時期が問題となる。プランAを構成する南北方向を指向する溝・畦畔あるいは現地表に残る畦畔についてもその大半がプランBよりも古いこと(あるいは終焉が早いこと)は各調査区の結果、及び現地表ではプランAの畦畔がプランBの地割に埋没し僅少であることからも明らかである。

プランBが８世紀後半には成立していることは先に述べた。40区ではプランAの方格に則った遺構として、**SD4015**が存在する。**SD4015**は、飛鳥Ⅱ～Ⅲ期の遺物をもつ**SR4001**の３層を切って掘削されており、溝内からは、７世紀末～８世紀前半の遺物が出土している。大まかな時期比定を行うならば、**SR4001**が埋没する７世紀後葉よりも新しくプランAの遺構は営まれ、30区の成果を勘案するならば、８世紀後半にはプランBへと切り替わると考えることができる。７世紀末から８世紀前半にはプランAの条里型地割が坂元遺跡内に及んでいた可能性が指摘できる。

条里型地割A・Bについてまとめるならば、**1**．７世紀末から８世紀前半には坂元遺跡周辺には正方位の方向をもつ条里型地割プランAが存在した。**2**．正方位の地割プランAは東側の野口台地上を中心に存在する地割の一部である。**3**．地割プランAは野口台地上を中心に野口廃寺(白鳳期の寺院か)、古大内遺跡(賀古駅家推定地)をその方格内に納めている。**4**．坂元遺跡周辺の条里型地割は８世紀後半には北東の方位をもつ条里型地割プランBに切り替わる。**5**．条里型地割プランBは加古川左岸一帯に広がる、古代山陽道を基線として施行された条里型地割である。

以上、２種の条里型地割の復元を行い、７世紀末以降、坂元遺跡では計画的な土地区画が行われてい

ることについて述べた。特に８世紀後半に行われた条里型地割プランＢは古代山陽道を基線として加古川左岸(賀古郡)全域に施行されており、郡規模で行われた大規模な計画的な土地区画に坂元遺跡周辺が含まれていたことを示すものである。

次に、主に水田域について行ってきた地割の復元作業を集落域に広げ、８世紀を中心とした集落の動態を検討したい。

律令期の集落

７世紀末～９世紀にかけて、段丘上の北西端に建物跡が集中する。図版１からも明らかなように集落は28区・31区・37区周辺の約20,000㎡の範囲に集中していることが分かる。今回の調査では、その全てを発掘した訳ではなく、内約30%が調査されたと考えてよく、単純に考えれば250棟近くの建物が存在したと推測できる。

調査した建物は、３棟の竪穴住居跡(工房跡か)を除き、全て掘立柱建物跡である。総数は80棟を越えており、その殆どが８世紀代に収まるものと考えている。これは、県下の律令期の掘立柱建物跡群としては最大級である。

ここでは、条里地割検討から導きだした、正方位を指向する建物群(Ａ群)と北東方向を指向する建物群(Ｂ群)を抽出し、図43の復元した条里型地割プランに分けて書き入れた。以下のことが指摘できる。

集落の配置　８世紀前半の建物群は31区を中心に大畦畔を越えて37区にまで散漫に認められる。また、40区より南側の南北道関連の調査区(今回は未報告)においても集落の単位が認められる。

８世紀後半の建物群は26区を中心とした部分に集中する。それは、１町方格の中に収まり、更に微細にみれば、方格内に存在する区画溝によって南・東を画された約80m四方内に密集する。

即ち、８世紀後半に賀古郡全域において行われた土地区画の変更と連動して、坂元遺跡では計画的な集落配置が行われ、１か所に集められたことが明らかである。

集落の性格について　坂元遺跡では、和同開珎・円面硯・墨書土器・木製祭祀具(斎串・人形・馬形)・稜椀・緑釉陶器・灰釉陶器、微量であるが軒平瓦(播磨国府系瓦)が出土しており、やや新しいが呪符木簡など官衙的な遺物が多数出土している。しかし、同時に、土錘やイイダコ壺、土師器甕・鍋・竈類などの雑器も多く出土していること、集落自体は条里型地割りに規制されているが、１棟ごとの規模は倉庫と考えられる総柱建物を除けば、８世紀を通じて、ほぼすべてが２×３間の側柱建物で構成されており、官衙的な配置もまた確認できないこと。以上の要素は、遺跡が官衙関連遺跡ではなく、一般集落の範疇を出ないことを指している。そのなかで注目すべきものとして、『大家』・『吉家ヵ』といったいわゆる『家』＝ヤケを指す墨書土器の存在がある。ヤケの性格について今回触れる紙数はないが、吉田　孝のヤケ(ヤカ)を『門をもつ垣に囲まれ、内部に屋・倉などをもつ施設(屋敷)であり在地首長、豪族層の農業経営の拠点』と捉えるならば、県下では『大家』・『中家』といった墨書土器が郡家・駅家などの官衙関連遺跡を除けば、坂元遺跡と同質の一般集落の範疇をでない大規模な集落遺跡から出土していることも、然りである。

さて、坂元遺跡の南南東約１kmの地点には古代山陽道最大の規模を誇った賀古駅家(古大内遺跡)が存在している。播磨国風土記には『駅家里』の存在が記されており、野口町を含む範囲にあった可能性が指摘されている。その所在はおおよそJR東加古川駅と加古川駅の間付近とされ、坂元遺跡・野口廃寺・古大内遺跡はすべて、駅家里のなかに所在したと考えられる。駅家には、施設としての駅家があり、運営を行うために編成された『駅戸』と駅戸より選ばれた駅長(駅戸中の有力者)がおり、財政基盤としての

駅田・駅稲がある。高橋美久仁は賀古駅家(古大内遺跡)を経営するための駅田を、台地上の教信寺と野口廃寺の間にある字前田に求めており、岸本道昭は播磨国内の駅家と寺院の関連を考察するなかで、賀古駅家経営に携わった駅戸が8世紀初頭に創建された野口廃寺の檀越であると位置付けている。

即ち、同じ方格地割にのった賀古駅家(古大内遺跡)・駅田・野口廃寺が非常に強い連関を持って『駅家里』に存在していたことが推測できるのである。坂元遺跡もまた、同じ方格にのる集落遺跡である。播磨国風土記が編まれた8世紀初頭には、坂元遺跡が駅家・駅田・関連寺院に最も近い、最も大規模な、同じ方格地割に規制された拠点集落として存在していたことはあきらかである。賀古駅家を経営し、野口廃寺の檀越となり、駅田を耕作する駅戸集団が坂元遺跡に存在していた可能性は非常に高いと考えられる。

では、8世紀後半についてはどうか。集落が条里型地割の変更に伴い、1町方格内に集中することを述べた。8世紀の中葉から後半は、山陽道の駅家が、『続日本紀』に記された『造駅』－瓦葺き駅家への転換期にあたり、古代山陽道の各駅が整備された時期にあたる。また、駅家運営の財源が兵部省から民部省に替るなど大きな変革が行われた時期である。

これらの駅路に関わる変革と、賀古郡における山陽道を基線とした条里型地割への変更・集落の集中化の動きに関連を見出すか否かによって8世紀後半代の坂元遺跡の評価は大きく変わるだろう。駅戸は駅制を円滑に運営する上で、駅家付近に置く必要があり、駅家の設置間隔に連動して計画的に集住させられていた可能性が指摘される。坂元遺跡における計画的な集落の集中を駅戸の集住の一環と捉えることができるなら、駅路に関わる変革が路線周辺における広範囲の土地区画の改編や駅戸集落の再編成などを伴っていたことの証左となり、大きな問題を描出することになる。本稿ではそこまで踏み込む準備がないが、1辺約80mの溝区画内に集中した部分(古大内遺跡や小犬丸遺跡が示す駅家中枢の規模と近似することは非常に興味深い)を『ヤケ』とみて、賀古駅家と密接に係わった『駅家里』(駅家郷)を構成する集落の中枢部の一つであった可能性を考えておきたい。　(西口)

注

1)　遺物の時期決定については以下の文献を参考にした。

兵庫県教育委員会　『志方窯跡群Ⅱ－投松支群』　2001年

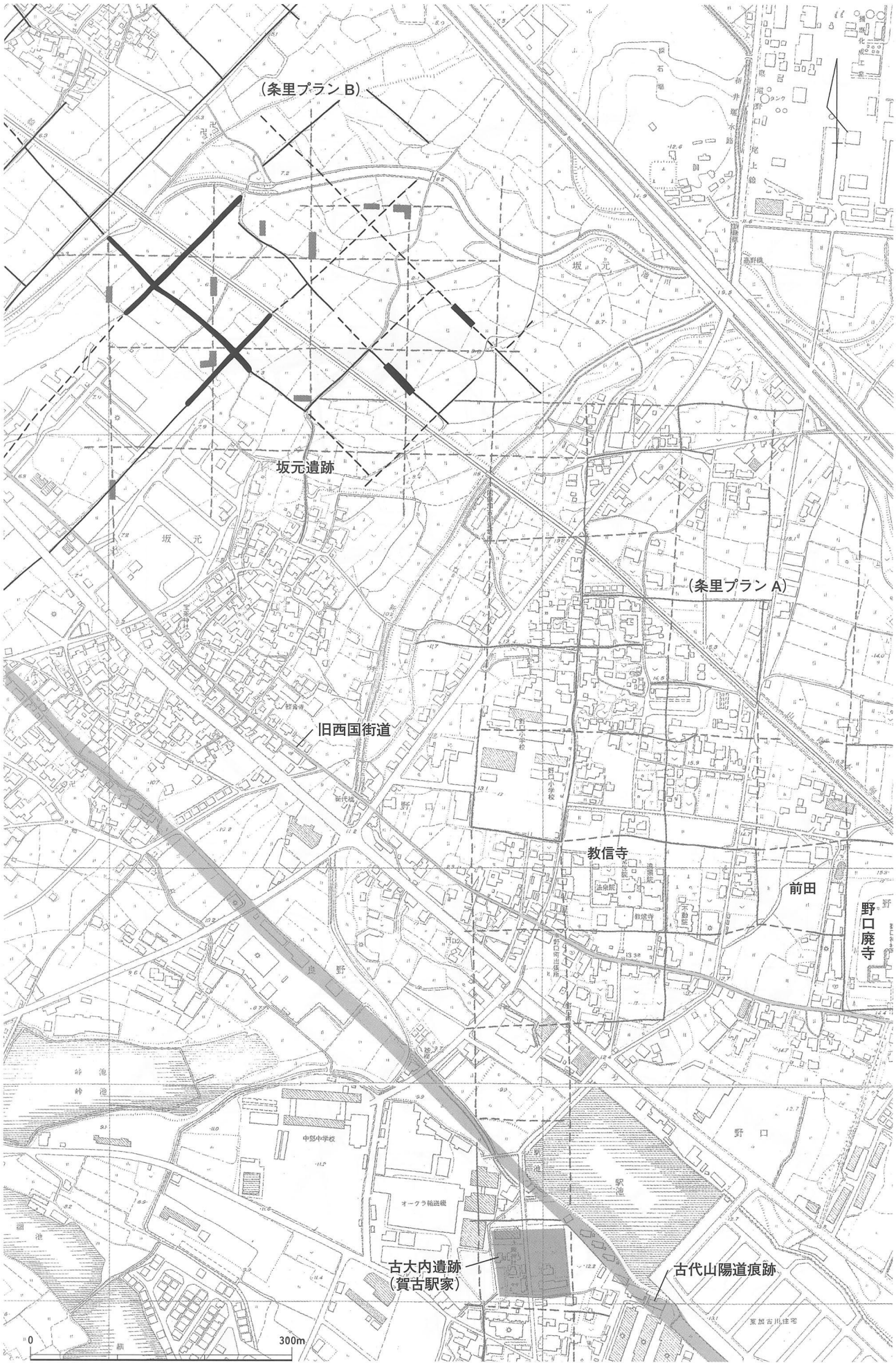
佐藤　隆　「難波地域の新資料からみた7世紀の須恵器編年」『大阪歴史博物館研究紀要』第2号　2003年

佐藤　隆　「8世紀の須恵器編年と難波宮・平城宮の並行関係」『大阪歴史博物館研究紀要』第3号　2004年

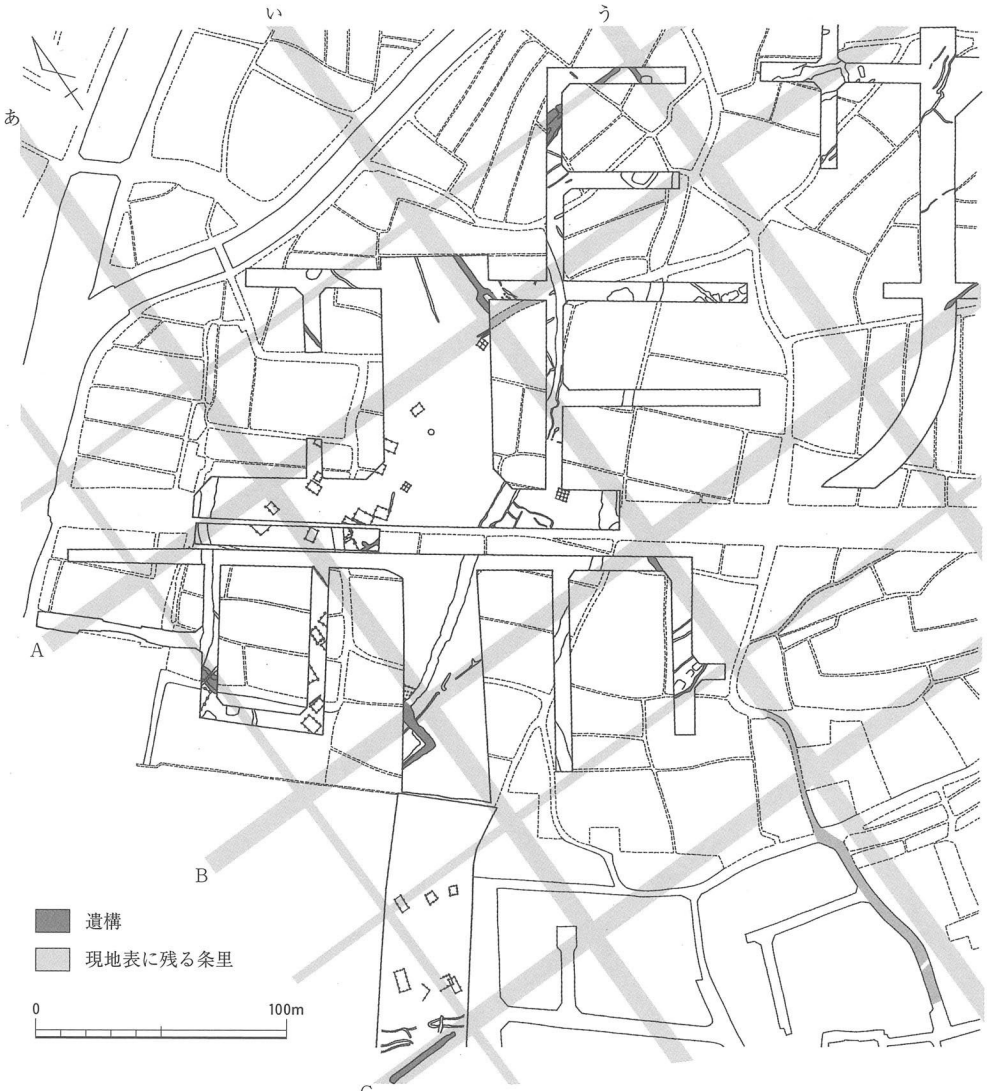
古代の土器研究会編『古代の土器千煮炊具』　1996年

2)吉本昌弘　「古代播磨における山陽道と郡家の復元的研究」『新地理』25－1　1977年

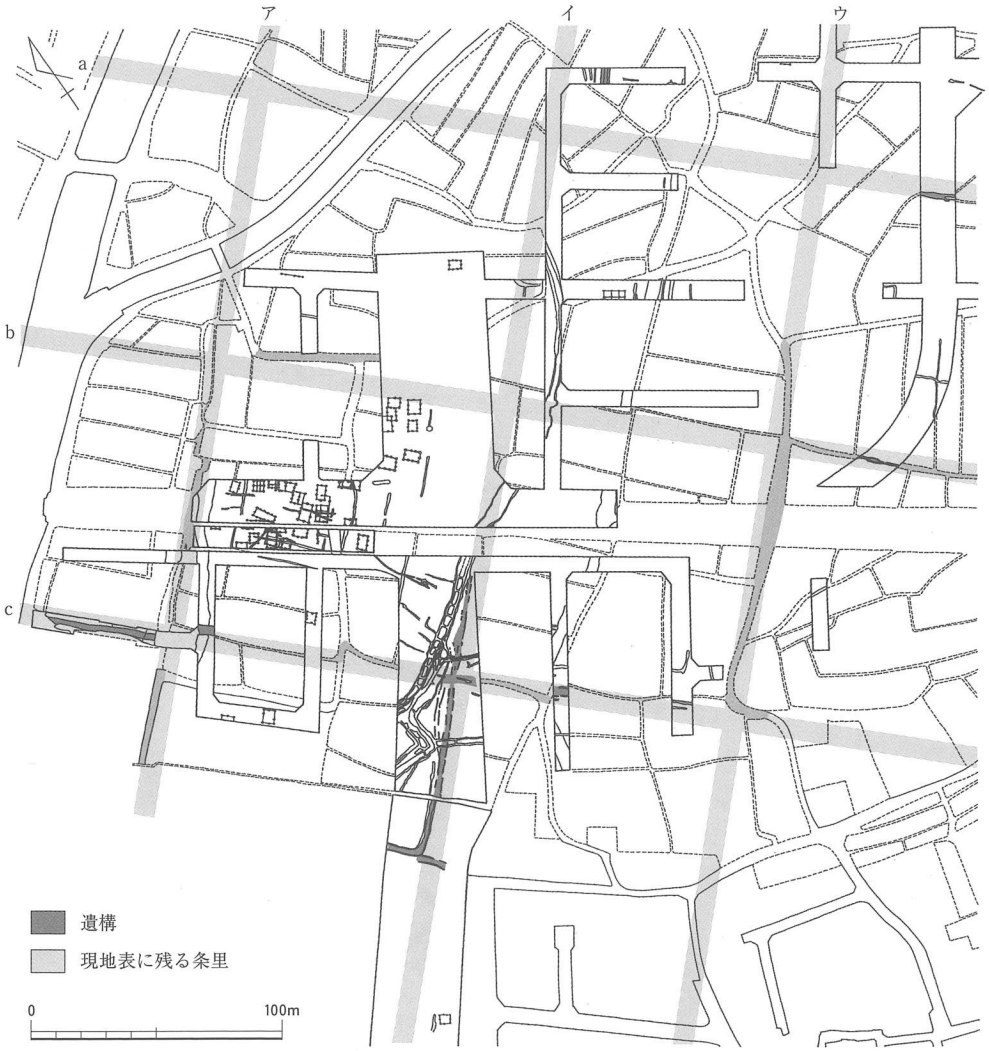
3)高橋美久二　『古代交通の考古地理』大明堂　1995年



第31図　坂元遺跡と山陽道(古大内遺跡)



奈良時代前半の条里型地割（プランA）



奈良時代後半の条里型地割（プランB）

第32図　坂元遺跡と条里地割

Ⅶ　おわりに

3ヶ年で約32,000m²の坂元遺跡の発掘調査によって縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが判明し多大な成果を上げることができた。面積の合計は大きいが調査面積は10m²を最小とし最大でも3,600m²で、57地区の調査の集合であり、調査地区の移動に苦慮し調査期間に追われる調査であった。その反面小面積のわりには、区画街路を方眼状に調査することによって、幸いにも古代の地割りの検討ができるという好資料を得ることができた。それ以外にも多くの成果があり列挙すると、

1．縄文晩期の埋甕群を確認した。4基の小土坑に甕を埋納したもので3個体はほぼ完形に近く復することができた。2区・11区でも同時期の土坑を検出しているので、低い段丘面に墓域が広がっている。

2．弥生時代中期後半になってムラを構えるようになる。低地は水田として土地利用されたであろうが、調査では確実な遺構は検出できなかった。白ケ池川両岸の段丘上から低地を墓地としており、方形周溝墓群が検出されている。計15基の方形周溝墓を調査している。低地部分の方形周溝墓は主体部も残存しており、11基の木棺墓を検出した。石剣・石鏃とともに多数の土器が溝に供献されていた。

3．中期後半の住居域は南側の別府川東岸の低い段丘面上で4棟の竪穴住居跡を検出している。また、集落周辺では土器棺墓かと思われる土坑もあり、方形周溝墓と土器棺墓との区別があるようである。1棟だけであるが、掘立柱建物を確認した。

4．坂元遺跡が広がっている段丘上に4本流路が流れている。早い時期は中期後半と思われ、集落開始と関連があるものと思われる。水路として開削された可能性が高く、少なくとも流路を維持するために人工的な掘削が行われたと思われる。

5．弥生後期の竪穴住居跡は中期と同じ位置に2棟、縄文埋甕のあった白ケ池川北側段丘面(56区)に1棟確認している。小規模ながらムラの分散・移動が確認された。

6．古墳時代前期から中期にかけての遺構は検出していない。ただ、流路内から古式土師器が少量出土していることから、周辺で生活していたであろう。

7．6世紀はじめに古墳が段丘面縁辺に築かれるようになる。そこに樹立する埴輪を焼成するために、ムラの中に埴輪窯跡を構築したと思われる。古墳は6世紀後半まで営造されるが、6世紀末までは継続していない。埴輪窯跡も短期間の操業活動を終える。

8．埴輪窯跡は2基あり、1基は窖窯で石見型埴輪を中心に形象埴輪専用の窯跡であり、もう1基は上屋構造のない土坑で淡輪技法の埴輪を焼成している。形象埴輪の種類は石見型盾以外に武人・盾持ち人・家・鹿・馬で少数ながら変化に富んでいる。

9．古墳後期になると、再度集落を営むようになる。弥生後期の竪穴住居跡確認部分と同じ地域で竪穴住居跡を検出している。南側の段丘面は奥に入った37区まで集落域を広げている。

10．遺構として古墳後期から水田も確認している。低地部分を中心に生産域としている。流路もこの時期の遺物から増加する。

11．流路に向かって6世紀後半に土坑が築かれており、中に須恵器などを埋納し、細い溝が流路に流れるように築いている。2基並んで存在し焼土を伴っている。火を使った祭祀行為が行われたと考えられる。

12．飛鳥期も南側の段丘面では竪穴住居跡が継続しているが、北側の56区では終焉している。羽口・焼土が出土していることから、通有の住居ではなく工房かと思われる。

13. 飛鳥期から遺物量が急増する。掘立柱建物もこの時期から建てられているであろうが、明確ではないことからすべて奈良時代とした。

14. 奈良時代前半の建物は正方位を採っている(Aプランの地割)。13棟の建物を調査している。そのうち3棟は総柱建物である。総柱建物は白ケ池川北側に存在する。

15. 奈良時代後半の建物は、主軸方向はN44°Wに採っている(Bプランの地割)。27棟あり、そのうち5棟が総柱建物である。

16. Bプランの地割の時期に26区・37区を中心とする方形に画する浅い溝が存在する。駅子の館を画する溝ではないかと思われる。

17. 奈良時代後半の集落は賀古駅家を支える駅子の集落と考えている。山陽道沿いに位置することと、播磨国府系瓦や木簡・墨書土器・律令期木製祭祀具(人形・斎串)・土馬・古代銭貨(和同開珎)・硯・稜椀などの官衙的遺物が豊富に出土していること、逆に炊飯具や土錘・イイダコ壺など日常の遺物も多く出土していること。それらの点から考えて、半官半民の生活をしている駅家郷の状態そのものを表徴しているのではと考えている。坂元遺跡の調査例が駅家郷の代表例になろうかと思われる。

18. Aプランの集落に比べてBプランの方が26区周辺に凝縮しており、散らばっていた集落が1ヶ所に集中した印象を受ける。

19. 墨書土器のなかに**540**「大家」**659**「吉家」**587**「小殿」があり、駅子館の存在を示唆するものである。また、**667**「美作」の文字は駅路に関するとすれば興味深い。**654**「山方寺」は加古川西岸の平荘町山角廃寺を表したものなら、氏族関係が予測される資料となる。

20. 37区で唯一井戸が確認されている。素掘りで井側を伴わないが菰が出土しており、それを井筒に利用していたと思われる。中層から出土した須恵器の一群は口縁部を意図的に欠いており、井戸鎮めの祭祀かと思われる。出土した杯セットには蓋に「二廿」身に「廿二」と逆字が記されている。呪符木簡によく記される九九の反対の安息を願う意識が高いまじないであろうか。

21. 西側低地と北側低地の両者から律令期木製祭祀具が出土している。1ヶ所でなく、駅家郷でも複数の地点で祭祀行為を行っているのは注目される。

22. 平安時代おわり頃になると集落規模は縮小するが、依然掘立柱建物は確認され、水田も認められる。

報告書作成も綱渡り状態が続き、かろうじて発刊に辿り着くことが出来た。調査現場で汗を流してくれた調査関係の方々や整理作業を支えていただいた嘱託員・担当職員の方々の協力・努力があってのことでその賜物である。感謝いたします。

第９表　出土土器観察表

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
272	1	6T		最下層 黒褐6層下方	土師器	小型丸底壺	(8.20)	7.10	－	体部はやや扁平な球形で、屈曲して直線的に外傾する口頸部が付く。	体部はハケ調整、口縁部はヨコナデ。	
272	2	10T		暗褐	土製品	土錘	長(4.20)	幅1.90	厚1.60	棒状土錘で両端に孔を穿つ双孔土錘の半折した破片である。断面は円形であるが、孔部分は扁平である。	手づくね。	重さ13.1g
272	3	22T		黒	土師器	高坏	(11.80)	(6.80)	(8.30)	椀形の坏部に短い脚台を貼り付ける。	坏部は成形ヒビのまま未調整。口縁部と脚裾部はヨコナデ。	
272	4	22T		黒	土師器	小型器台	9.40	(6.30)	－	有稜の受部に外反する脚台が付く。	磨滅が著しい。	
272	5	22T		黒	土師器	製塩土器	－	(2.50)	2.20	小さめの脚台から体部を手づくねで作り出す。	手づくね。	
272	6	18T		暗褐	須恵器	椀	(13.80)	(3.80)	－	体部から底部にかけて丸く、口縁内に沈線あり。	内外ともに回転ナデ。底部は手糸切り。	
272	7	20T	北側 落ち込み		須恵器	甕	－	(4.10)	－	外傾する頸部の破片。	頸部に沈線を巡らし、櫛描き波状文を施文する。	
272	8	14T		包含層	須恵器	鉢	－	(2.70)	－	口縁端部が肥厚し、内側に段を作る。	内外ともに回転ナデ。	口縁部に重ね焼の痕跡。
272	9	46T	SK01		弥生土器	広口壺	(26.00)	29.00	8.10	算盤玉形の体部に屈曲して短く外反する口頸部が付く。口縁端部は上下に拡張する。	頸部下端には３条の凹線が巡る。口縁端部は４条の凹線が巡り、縦位に３個単位の円形浮文を貼り付ける。口縁内面の段に沿って円形浮文が巡る。その内側には４個単位の小孔が穿たれている。体部上半はハケ調整の後、二枚貝の腹縁による列点文３帯を交互に施文する。体部下半は下部を縦位のミガキ、上部を横位のミガキを行う。	底部中央に穿孔を行っている。体部下半外面には接地黒斑が存在する。
272	10	46T	SK01		弥生土器	広口壺	20.50	30.90	7.80	最大径部分がやや張った球形の体部に屈曲して短く外反する口頸部が付く。口縁端部は上下に拡張する。	頸部下端には３条の凹線が巡る。口縁端部は４条の凹線が巡り、３本１単位の縦位の棒状浮文を貼り付ける。口縁内面の段に沿って櫛描の波状文を施文する。体部上半はハケ調整の後、櫛描の直線文と波状文を交互に施文する。体部下半は縦位のミガキを行う。	底部中央に穿孔を行っている。
272	11	46T	SK01		弥生土器	無頸壺	(15.80)	(24.80)	(12.00)	壺部は口縁部が内傾する。脚部との接合は円盤充填法。脚端部は拡張する。	体部はハケ調整の後、櫛描の直線文と波状文を交互に施文している。脚部外面は縦位のミガキ、内面は横位のケズリを行う。	
272	12	46T	SK01		弥生土器	甕	(20.00)	(3.10)	－	くの字状口縁甕で口縁端部は上方に拡張し、段を作る。	内外とも磨滅が著しく調整は不明。	
272	13	46T	SK01		弥生土器	甕	－	(9.75)	7.80	平底から体部は直線的に外傾する。	体部外面は縦位のミガキ。他は磨滅が著しく調整不明。	底部中央は穿孔している。
272	14	46T	SK01		弥生土器	イイダコ壺	(5.50)	(9.10)	－	球形の底部のコップ形を呈する。口縁直下には小孔を１個穿つ。	内面は指調整の痕跡が残る。	
272	15	46T		褐灰砂層	須恵器	鉢	－	(2.60)	(8.30)	底部端は張り出す。	回転ナデ。底部は置き板の痕跡がある。	
273	16	35T		暗褐 人力掘削	須恵器	鉢	(20.00)	(3.10)	－	口縁端部が肥厚し面を作る。内側に段を作る。	内外ともに回転ナデ。	
273	17	50T		黒	土師器	羽釜	(31.60)	(5.40)	－	体部から水平に突出する鍔を貼り付ける。	外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。	
273	18	59T		黒	弥生土器	台付鉢	－	(5.40)	(10.80)	鉢部から外反する脚台。円盤充填法。	鉢部内面はミガキ。外面はハケ調整後ミガキ。	
273	19	59T		灰砂	土師器	甕	(11.80)	(12.60)	－	球形の体部に短く外反する口頸部が付く。口縁端部は面を持ち、内面に段を作る。	体部は短い単位のハケ調整。口縁部はヨコナデ。	底部内面にコゲあり。
273	20	59T		灰砂	土師器	坏	(16.20)	3.80	13.00	平底で丸い腰部から外傾する口体部を持つ。口縁内面に段がある。	内外ともに回転ナデ。底部は手持ちケズリを行う。	底部外面中央にヘラ描の「×」の後、墨書「旡」。
273	21	59T		灰砂	土師器	坏	－	－	－	底部の破片。	内面ナデ、外面切り離し後ナデ。	底部外面に墨書「神」。
273	22	59T		灰砂	土師器	坏	(11.60)	3.40	－	丸い体部から短く外反する口縁部。	内外面とも回転ナデ、底部切り離し後ナデ。	
273	23	59T		黒	土師器	高坏	(28.40)	(1.40)	－	坏部の破片で浅い皿状を呈する。口縁端部は肥厚する。	外面はケズリの痕跡が残る。	
273	24	59T		包含層	土師器	椀	(14.60)	(4.60)	－	内弯気味に立ち上がる口体部に高台を貼り付ける。	回転ナデ、高台部貼り付けナデ。	
273	25	59T		灰砂	須恵器	坏蓋	－	－	－	天井部の破片。	外面は回転ナデの後、中央部を回転ケズリ。内面は仕上げナデ。	内面に墨痕が残る。
273	26	59T		灰砂	須恵器	皿蓋	(21.80)	(1.70)	－	天井部が扁平で口縁部は短く屈曲する。	回転ナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
273	27	59T		黒	須恵器	皿	(19.70)	2.30	(17.40)	平底の底部から外傾する口縁部。	回転ナデ底部は回転ケズリ後、回転ナデ。	
273	28	59T		黒	須恵器	甕	(15.80)	(4.70)	−	内弯気味に立ち上がる短い口頸部。体部の肩は大きく張る。	体部はタタキ。内面に同心円当て具痕。口頸部は回転ナデ。	
273	29	59T		黒	須恵器	提瓶	−	−	−	肩部破片。断面長方形の環状把手を貼り付ける。	回転ナデ、口縁部と把手部分は貼り付けナデ。	
273	30	59T		黒	須恵器	甕	−	(4.50)	−	大型の甕口縁部。段を作り外傾する。	回転ナデ、口縁外面に櫛描き波状文。	
273	31	67T		黒	弥生土器	甕	−	(4.50)	4.00	平底で葉脈が残る。	体部は右上がりのタタキ。内面はハケ調整。	内面に熾溜り黒斑がある。
273	32	76T	SD01	黒	弥生土器	(底部)	−	(2.00)	(3.60)	平底で直線的に体部が外傾する。	体部は左上がりのタタキ。底部未調整。	底部から体部外面にかけて接地黒斑がある。
273	33	76T	SD01	黒	弥生土器	壺	−	(5.00)	(4.20)	突出した平底から体部が延びる。	底部内面に工具の痕跡。	内面に熾溜り黒斑がある。
273	34	76T	SD01	黒	弥生土器	鉢	−	(2.90)	(5.00)	ドーナツ底。底部に葉脈痕跡。	内面ハケ調整。	底部から体部外面にかけて接地黒斑がある。
273	35	76T	SD01	黒	弥生土器	鉢	−	(2.90)	4.30	底部端は指オサエで突出する。	内面ハケ調整、外面指オサエ・ナデ。	体部外面に接地黒斑がある。
273	36	76T	SD01	黒	弥生土器	(底部)	−	(4.10)	(5.00)	平底。	内面磨滅、外面ハケ調整。	
273	37	76T	SD01	黒上面	土師器	椀	(15.60)	7.00	(16.00)	半球形で口縁内面に段を作る。	底部は指オサエ後ナデ。	口縁直下に黒斑がある。
273	38	76T	SD01	北サブトレ 上層	土師器	甕	(13.40)	(14.60)	−	球形の体部に短く外反する口頸部が付く。口縁端部は面を持ち、内面に段を作る。	体部は短い単位のハケ調整。口縁部はヨコナデ。	
273	39	76T	SD01	黒上面	須恵器	壺	13.00	(20.00)	−	肩が張った丸底の体部で最大径部に2本の沈線が巡る。外反する頸部に直立する口縁部を作る。	回転ナデ。底部のみ手持ちケズリ。	
274	40	61T		包含層	土師器	高坏	−	(7.90)	−	脚部は太く短い。脚柱状部はケズリで12面の面取りを行う。		
274	41	61T	サブトレ		土師器	イイダコ壺	(6.00)	(10.00)	−	釣鐘形。		
274	42	61T		包含層	土師器	イイダコ壺	(5.20)	11.90	−	釣鐘形。		
274	43	61T		包含層	土師器	甕	(24.60)	(6.20)	−	口縁部は体部から屈曲して大きく外反する。口縁端部に面を作る。	外面の一部に縦ハケ調整が残るが、全体に磨滅が著しい。	
274	44	61T		褐灰	土師器	甕	(33.20)	(4.90)	−	口縁部は体部から屈曲して大きく外反する。口縁端部に面を作る。	外面の一部に縦ハケ調整が残るが、全体に磨滅が著しい。	
274	45	61T	サブトレ		土製品	土錘	長4.20	幅1.00	厚0.90	管状土錘。		重さ3.3g
274	46	61T		褐灰	土師器	円筒形土器	−	(9.60)	−	円筒部分に突帯を貼り付ける。内面に幅1.2cm〜1.8cmの粘土紐痕跡が残る。	外面の一部に縦ハケ調整が残るが、全体に磨滅が著しい。	
274	47	61T	サブトレ		土師器	竈	−	−	−	左半部の受口部から庇部分の破片。受口の形状は断面三角形に肥厚する。	外面の一部にハケ調整が残るが、全体に磨滅が著しい。	
274	48	61T		包含層	土師器	竈	−	−	−	焚口左半部底部の庇部分の破片。	磨滅により不明。	底面に接地黒斑がある。
274	49	61T		褐灰	須恵器	坏	(12.00)	(3.50)	−	丸い腰部から外傾する口体部を持つ。	内外とも右回転ナデ。底部切り離し後、ナデ。内面仕上げナデ。	歪あり。
274	50	61T		包含層	須恵器	坏	(12.80)	3.70	(10.00)	平底から外傾する口体部を持つ。	内外とも右回転ナデ。底部ヘラ切り後、ナデ。	
274	51	61T	サブトレ		須恵器	坏	(11.70)	3.20	(9.20)	外傾する口体部を持つ。	内外とも回転ナデ。	
274	52	61T		包含層	須恵器	坏	(11.80)	3.00	−	丸い腰部から外傾する口体部を持つ。	内外とも右回転ナデ。底部ヘラ切り後、ナデ。	
274	53	61T	サブトレ		須恵器	坏	(11.60)	2.80	(8.00)	丸い腰部から外傾する口体部を持つ。	内外とも右回転ナデ。底部ヘラ切りし未調整。	
274	54	61T	サブトレ		須恵器	坏	(15.00)	3.90	(11.20)	丸い腰部から口縁部は直線的に外傾する。底部に高台を貼り付ける。	内外とも右回転ナデ。底部切り離し後、ナデ。	
274	55	61T	サブトレ		須恵器	坏蓋	(19.00)	(2.40)	−	天井部を丸い笠形に作っており、口縁部は強く屈曲する。	内外とも回転ナデ。天井部切り離し後、回転ケズリ。天井部内面研磨。	天井部外面の中心部分には降灰のない部分が存在する。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
274	56	61T	サブトレ		須恵器	坏蓋	(18.00)	(3.00)	−	天井部が扁平で頂部が突出するつまみを持つ。口縁部は短く屈曲する。	内外とも回転ナデ。天井部切り離し後、回転ナデ。	天井部には中心に向かって放射状に「全」2箇所の押印がある。
274	57			表採	須恵器	坏蓋	−	−	−	天井部の一部の破片。	内外とも回転ナデ。天井部ヘラ切り後、回転ナデ。	天井部には中心に向かって「全」の押印がある。
274	58	61T		包含層	須恵器	壺	−	(16.80)	(11.00)	大きく張り屈折する肩を持つ体部に大きく外反する口頸部が付く。底部に高台を貼り付ける。	内外とも回転ナデ。体部外面回転ケズリ。	
274	59	61T		包含層	須恵器	甕	−	−	−	肩部に環状把手を貼り付ける。	外面タタキ、内面同心円当て具痕跡。	
274	60	61T		褐灰	須恵器	鉢(鉄鉢)	(21.50)	(7.30)	−	体部から口縁部にかけて内弯する。口縁端部は面を作る。	内外ともに回転ナデ。体部は左回転ケズリ後、横位のミガキ。	
274	61	61T		包含層	須恵器	鉢(鉄鉢)	(22.20)	(8.30)	−	体部から口縁部にかけて内弯する。口縁端部は面を作る。	内外ともに回転ナデ。	
274	62	61T		包含層	須恵器	甕	−	(7.20)	−	外傾する頸部の破片。	頸部にヘラ描きの単位の細かい波状文を施文し、波状文を切るように沈線が巡る。	
275	63	1区	SK0101		弥生土器	広口壺	12.80	26.30	7.20	底部は平底で、算盤玉状の体部を持つ。頸部は直立気味に短く立ち上がり、口縁部を大きく外側に折り曲げる。	頸部に4条の凹線文を施す。頸部から体部上半に櫛描波状文4列と櫛描直線文3列を交互に施す。口縁部はヨコナデ、外面は体部下半にヘラミガキを施す。内面は体部にハケを施し、底部付近にはユビナデも残る。	底部に焼成後穿孔を施す。
275	64	1区	SK0101		弥生土器	広口壺	23.00	40.00	8.60	平底に胴の張った体部を持つ。体部と頸部の境界は不明瞭なまま大きく口を開き、口縁を折り曲げるとともに端部を上方に拡張する。	口縁に8条の凹線文を施し、6方向に円形浮文を付加する。頸部から体部上半にかけて、櫛描直線文4列と櫛描波状文4列を交互に施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部上半にハケ、下半にヘラミガキを施す。内面は頸部にヘラミガキ、体部上半にナデ、下半にハケを施す。	体部に焼成後穿孔を施す。
275	65	1区	SK0101		弥生土器	広口壺	21.60	43.60	9.70	底部は平底で、算盤玉状の体部を持つ。頸部は斜めに短く立ち上がり、口縁部を大きく外側に折り曲げて垂下させる。	口縁部は外面に8条の沈線を施し、6本1組の棒状浮文と円形浮文を交互に巡らせる。内面には円形浮文を巡らせ、3個1組の円孔を4ヶ所配する。頸部に凹線を4条巡らせ、体部上半に櫛描直線文5列と櫛描波状文4列を交互に施した後、方形浮文1列と円形浮文2列を巡らせる。口縁部から頸部外面はヨコナデ、外面は体部上半にナデ、下半にヘラミガキを施す。内面は頸部にヘラミガキ、体部に板ナデとユビナデを施す。	底部付近に焼成後穿孔を施す。
275	66	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	(14.00)	(6.20)	−	直立気味に立ち上がる頸部から口縁部は屈曲して水平に伸び、端部を上下に拡張する。	口縁外面に凹線4条を巡らせ、4個1組と思われる円形浮文を配する。頸部外面に凹線2条を施す。口縁部はヨコナデ、頸部外面はハケ、内面は横方向のヘラミガキを施す。	
275	67	1区	SK0101		弥生土器	広口壺	(15.60)	(5.10)	−	大きく開く口縁部を持ち、口縁端部は上下に肥厚させる。	口縁内面の一部に刻みを入れた突帯を巡らせ、口縁外面に4条の凹線を施し、縦に連なる円形浮文を配する。頸部には指頭圧痕突帯を巡らせる。口縁部はヨコナデ、頸部外面はハケを施し、内面は摩滅が著しく調整不明。	
275	68	1区	SK0101		弥生土器	細頸壺	−	(12.50)	−	算盤玉状の体部に脚部と細い頸部が付く。底部は円盤充填法。	体部上半に櫛描波状文と櫛描直線文を交互に施し、胴の突出部に櫛状工具による連続刺突文を加える。体部外面上半はナデ、下半はヘラミガキ、体部内面はユビナデと板ナデを施す。	
276	69	1区	SK0101		弥生土器	広口壺	21.40	(37.50)	8.50	平底に胴の張った体部を持つ。体部と頸部の境界は不明瞭なまま大きく口を開き、口縁を折り曲げるとともに端部を上方に拡張する。	口縁部に4条の凹線と8方向に円形浮文を施す。頸部から体部上半にかけて4列の櫛描波状文と3列の櫛描直線文を交互に施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部上半にハケ、体部下半にヘラミガキを施す。内面は頸部から体部上半が板ナデとナデ、下半には強い指ナデを施し、指頭圧痕が認められる。	底部に焼成後穿孔を施す。
276	70	1区	SK0101		弥生土器	甕	(14.60)	(3.50)	−	屈曲して、外反気味に開く口縁部で、端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面にはハケ、内面には板ナデを施す。	
276	71	1区	SK0103		弥生土器	直口壺	(12.30)	(31.80)	(6.00)	底部は平底で胴の張らない体部、直立気味に伸びる頸部を持ち、口縁端部は上方に面を持ち、わずかに内傾する。	口縁部外面に凹線3条を巡らせる。口縁部はヨコナデ、体部外面上半はハケ目、体部内面はユビナデ。	底部に焼成後穿孔を施す。黒斑あり。
276	72	1区	SK0107		弥生土器	小型直口壺	(5.00)	(10.00)	3.80	底部は平底で算盤玉状の体部に斜めに伸びる頸部を持つ。	口縁部はヨコナデ、外面はヘラミガキ、内面はユビナデを施す。	底部に焼成後と考えられる穿孔を施す。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
276	73	1区	SK0107	黒褐シルト(下層)	縄文土器	浅鉢	−	(3.20)	−	丸みを帯びた体部で、口縁端部は内傾する。	外面に沈線2条が認められる。全体に摩滅が著しく調整不明。	
276	74	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	21.90	(38.70)	10.00	底部は平底で、胴の張る体部を持つ。頸部から口縁部は大きく開き、口縁端部を斜め下方に拡張する。	拡張した口縁部の外面に3条の凹線を施す。頸部下半に強いヨコナデで4条の凹線を施し、突帯状の突起を形作る。頸部下から体部上半に歯櫛描直線文4列と櫛描波状文3列を交互に施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部下半には一部にタタキが残り、ハケとヘラミガキを施す。体部内面にハケとナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
276	75	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	(13.50)	(20.80)	(5.00)	底部は平底で算盤玉状の体部を持つ。頸部は短く立ち上がり、口縁部は大きく開いて、端部を上下に肥厚させる。	口縁部に2条の凹線文を施し、感覚不定で棒状浮文(残存4ヶ所)を付加する。頸部に突帯状の隆起を形成する。体部上半に櫛状工具による連続刺突文を2列施す。口縁部はヨコナデ、外面は体部上半にハケ、下半にヘラミガキを施す、内面はナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
277	76	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	18.00	30.60	6.70	底部は平底で、胴の張る体部を持つ。頸部から口縁部は大きく開き、口縁端部を斜め上方に拡張する。	拡張した口縁部の外面に3条の凹線を施し、5個1組の円形浮文を4ヶ所付加する。頸部下半に強いヨコナデで3条の凹線を施し、突帯状の突起を形作る。口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部上半にハケ、下半にはヘラミガキを施す。体部内面には指頭圧痕があり、板ナデを施す。	体部下半に焼成後穿孔を施す。
277	77	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	17.20	(6.60)	−	大きく開く口縁部で、端部は下方に肥厚させる。	口縁内側に5個1組の浮文を配し、口縁部外面に4条の凹線文と推定4方向の円形浮文を配する。頸部に凹線4条を巡らせる。口縁部はヨコナデ、頸部外面は縦方向のハケ、内面は摩滅が著しく調整不明。	
277	78	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	14.80	(5.50)	−	大きく開く口縁部を持ち、口縁端部は屈曲して斜め下方に垂下する。	口縁部外面に凹線5条を巡らせ、円形浮文を6方向に配する。口縁部から頸部内面はヨコナデ、頸部外面はハケを施す。	
277	79	1区	SX0101		弥生土器	広口壺	(24.40)	(23.50)	7.10	底部は平底で、胴の張った体部を持つ。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は大きく開いて端部を垂下させる。	口縁部に6条の凹線文を施し、円形浮文が2箇所に残存する。頸部から体部上半にかけて櫛描波状文5列と櫛描直線文5列を交互に施文する。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から肩部にかけてハケあるいは板ナデ、体部下半にヘラミガキを施す。内面はナデと板ナデを併用する。	底部に焼成後穿孔を施す。
277	80	1区	SX0101		弥生土器	細頸壺	4.80	(9.60)	−	直立して伸びる細い頸部で、口縁部は端部をわずかに内傾させる。	口縁部直下に凹線5条を巡らせる。口縁部から頸部外面上半はヨコナデ、下半はハケ、頸部内面下半はナデ、体部との境界に絞り目がある。	
277	81	1区	SX0101		弥生土器	細頸壺	(7.80)	(27.00)	(7.50)	胴部最大径が低い位置に来る算盤玉状の体部に直線的に立ち上がる細い頸部が付き、口縁部は少し開いた後内彎する。斜めに開く低い脚部は裾端部を上方に肥厚させる。	口縁部直下に凹線5条を施し、頸部から体部上半にかけて櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施し、腰部に円形浮文を配する。口縁部は強いヨコナデ、外面は頸部下他体部上半にハケとナデ、体部下半にヘラケズリ、体部内面はユビナデと板ナデ、脚部はヘラミガキとヨコナデを施す。	
277	82	1区	SX0101		弥生土器	直口壺	(5.50)	(30.00)	5.20	底部は平底で、腰の張らない体部を持つ。直立気味に立ち上がる頸部を持ち、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部直下に2条の凹線を施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部にかけてハケ、底部付近はヘラケズリを施す。内面はナデを施し、指頭圧痕が認められる。	底部に焼成後穿孔を施す。
278	83	1区	SX0101		弥生土器	壺	−	(6.20)	−	体部片である。	沈線が2条残存する。摩滅が著しく調整不明。	
278	84	1区	SX0101		弥生土器	壺	−	(7.80)	(6.60)	底部は平底で、体部は丸みを帯びて立ち上がる。	外面はヘラミガキ、内面はハケを施し、指頭圧痕も認められる。	燃成後穿孔を施す。黒斑あり。
278	85	1区	SX0101		弥生土器	壺	−	(6.00)	7.00	平底。	外面はヘラミガキ、内面はナデを施す。	
278	86	1区	SX0101		弥生土器	甕	(11.60)	(19.20)	(4.00)	底部は平底で、倒卵形の体部を持つ。頸部は鋭く屈曲し、口縁部は斜めに開き、端部を上方へ肥厚させる。	口縁部ヨコナデ、外面はハケ、内面はナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
278	87	1区	SX0101		弥生土器	甕	17.20	30.30	5.80	底部は平底で、倒卵形の体部を持つ。頸部は鋭く屈曲し、口縁部は水平気味に開き、端部を上方へ肥厚させる。	口縁部はヨコナデ。外面は体部上半に板ナデ、下半にヘラミガキを施す。内面は上半に板ナデとナデ、下半にヘラケズリを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。煮炊きに使った痕跡が顕著。
278	88	1区	SX0101		弥生土器	高杯	27.60	(10.60)	−	皿状の杯部、口縁部は水平に伸びた後、直角に垂下する。杯部底部は円盤充填法を用い、直立する脚柱部が付く。	口縁部内面に突帯、口縁部に凹線を1条施す。脚柱部の残存部分に4条のヘラ描沈線と2条のヘラ描沈線が残る。口縁部ヨコナデ、杯部内面と外面はヘラミガキ、脚柱部は外面にヘラミガキ、内面にケズリを施す。	杯底部に焼成後穿孔を施す。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
278	89	1区	SX0101		弥生土器	無頸壺	(14.00)	(5.00)	−	透かしのある脚部が付き、内彎気味に立ち上がる体部を持つ。口縁部は上方に面も持ち、取っ手状の突起が付く。	口縁部ヨコナデ、体部内外面にヘラミガキを施す。	
278	90	1区	SX0101		弥生土器	鉢	(12.00)	(4.70)	−	丸みを帯びて立ち上がる体部を持つ。口縁部は上方に面を持ち、わずかに内側に肥厚する。	口縁部下に4条の凹線文を巡らせる。口縁部はヨコナデを施す。	黒斑あり。
278	91	1区	SX0101		弥生土器	脚台	−	(4.45)	(9.80)	斜めに開く低い脚部で、裾端部を上方に肥厚させる。	3条1組のヘラ描沈線文を2単位巡らせ、裾部に凹線2条を施す。脚部外面はハケ、裾端部はヨコナデ、内面はヘラケズリを施す。	
278	92	1区	SX0101		弥生土器	脚台	−	(5.10)	(16.20)	大きく開く脚部で、裾端部を上方に肥厚させる。	脚部外面は縦方向のハケ、内面はヘラケズリ、裾端部はヨコナデを施す。	
278	93	1区	SX0102		弥生土器	広口壺	16.00	(30.50)	7.00	平底で胴の張った体部を持つ。頸部は斜めに伸び、口縁部を大きく外側に折り曲げる。	口縁部に3条の凹線文を施し、円形浮文を推定9箇所(現存7箇所)付加する。体部上半に櫛状工具による連続刺突文を2列配する。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部上半にハケ、下半にヘラミガキを施す。内面は口縁部直下にヘラミガキ、頸部から体部にハケとナデを施す。	
278	94	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	広口壺	(15.60)	(32.60)	(7.80)	底部は平底で、胴の張った体部を持つ。直立した短い頸部から口縁部は大きく開き、端部を下方に曲げて、外側に面を持つ。	口縁部内面に突帯を巡らせ、突帯と端部の間に扇形文を施す。突帯内側にうがった2個1組の小孔が3カ所残る。頸部に突帯を2条、体部上半に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施す。口縁部ヨコナデ、内面はハケ、外面は頸部から体部上半はハケ、体部下半はヘラミガキを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。黒斑あり。
279	95	1区(16T)	SX0102		弥生土器	壺	−	(4.70)	−	体部片。	鋸歯文？	確認調査。
279	96	1区	SX0102		弥生土器	甕	(20.40)	(33.00)	7.80	底部は平底で、倒卵形の体部を持つ。頸部は大きく屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面は板ナデを施す。	
279	97	1区	SX0102		弥生土器	高杯	12.00	(6.00)	−	浅い鉢状の杯部を持ち、口縁部は水平に伸びた後端部を垂下させる。	口縁内面に突帯を巡らせる。口縁部はヨコナデ、杯部外面から脚部にかけてはヘラミガキ、杯部内面はナデを施す。	杯底部に焼成後穿孔を施す。
279	98	1区	SX0102		弥生土器	高杯	−	(16.40)	14.70	直線的に垂下する脚柱部から裾部は大きく開き、裾端部は上下に肥厚する。	脚部外面はヘラミガキ、裾端部はヨコナデ、脚部内面はヘラケズリを施す。	
279	99	1区	SX0102		弥生土器	高杯	−	(9.70)	(13.35)	大きく開く脚部で、裾端部を上方に肥厚させる。	脚部外面は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラケズリ、裾端部はヨコナデを施す。	
279	100	1区	SX0102		弥生土器	脚台	−	7.80	10.20	斜めに開く低い脚部で、裾端部を上方に肥厚させる。	体部内面はハケ、体部外面から脚外面は摩滅が著しく調整不明、裾端部から脚内部はヨコナデを施す。	
279	101	1区	SX0102	中・下層	弥生土器	脚台	−	(4.00)	(12.00)	大きく開く脚部で、裾端部を上下に肥厚させる。	ヘラ描直線文を2単位と鋸歯文を施す。脚端部はヨコナデ、内面はヘラケズリを施す。	
279	102	1区	SX0102	中・下層	縄文土器	深鉢	−	(2.70)	−	体部片である。	貼り付け突帯を巡らせ、刻み目を入れる。摩滅が著しく調整不明。	
279	103	1区	SX0102	中・下層	縄文土器	鉢	−	(3.80)	−	口縁部片で、口唇部直下を肥厚させる。	ナデ。	
279	104	1区	SX0103		土師器	鍋	(28.00)	(6.50)	−	直立気味に立ち上がる体部から口縁部は斜め上方に、端部は内側に肥厚する。	口縁部はヨコナデ、体部内外面にナデを施す。	
279	105	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	(19.70)	(2.35)	−	大きく開く口縁部で、端部を上下に肥厚させる。	口縁部に4条の凹線を巡らせ、6本1組の棒状浮文を配する。口縁部はヨコナデ。	黒斑あり。
279	106	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	21.60	9.40	−	斜めに立ち上がる頸部から大きく開く口縁部を持ち、口縁端部は屈曲して斜め下方に垂下する。	口縁部内面に扇形文を2重に施し、垂下した口縁部には6条の凹線と21〜24個を1単位とする円形浮文を6方向に廃する。頸部には低い断面三角突帯を3条巡らせ、頸部下に櫛描波状文も残る。口縁部はヨコナデ、頸部外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケを施す。	
279	107	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	(15.60)	29.80	7.70	平底で胴の張る体部を持つ。頸部から口縁部は大きく開き、口縁端部を斜め下方に拡張する。	拡張した口縁部の外面に3条の凹線を施し、3個1組の円形浮文を付加する。頸部下半に強いヨコナデで3条の凹線を施し、突帯状の突起を形作る。口縁部はヨコナデ、外面は体部上半にハケ、下半にはヘラミガキを施す。内面は頸部に横方向のハケ、体部上半に横方向のハケ、下半に縦方向のハケを施す。	体部下半に焼成後穿孔を施す。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
279	**108**	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	(17.70)	(13.40)	−	屈曲して斜めに開く頸部を持ち、口縁端部を折り曲げて上下に拡張する。	口縁部に2条の凹線を施し、3個1組の円形浮文が一箇所に残る。口縁部内面にも円形浮文を巡らせる。頸部に強いヨコナデを施し、突帯上の隆起をつくる。頸部下に刺突列点文を巡らせる。口縁部はヨコナデ、体部外面にはハケを施す。	
280	**109**	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	23.50	(53.50)	9.10	底部は平底で、胴の張った体部を持つ。直立した短い頸部から口縁部は大きく開き、端部を上下に肥厚させる。	口唇部内面に波状文と連続円形浮文、口縁部外面には5条の凹線の上に6方向の円形浮文。頸部に突帯を意識した4条の凹線。体部上半に交互に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施し、胴部は櫛描直線文で区画を作り、斜格子文を充填し、さらに円形浮文を付加する。口縁部ヨコナデ、体部外面はナデ、内面は板ナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
280	**110**	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	(20.40)	(27.70)	−	胴の張った体部、頸部は短く直立し、口縁部は大きく開く。口縁端部を上下に肥厚させる。	口縁部に凹線2条と棒状浮文を施す。頸部に凹線2条と指頭圧痕突帯1条を巡らせる。器面調整は摩滅が著しく不明。	黒斑あり。
280	**111**	1区	SX0103		弥生土器	広口壺	(13.00)	(5.75)	−	短く立ち上がる頸部から口縁部は大きく開き、端部を下方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、外面には粗いハケを施す。	
280	**112**	1区	SX0103		弥生土器	短頸壺	10.10	32.50	8.30	平底で腰の張った胴部に短く直立する口頸部が付く。口縁端部は上方に面を持ち、やや肥厚する。	口頸部に凹線を4条、体部上半に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に巡らせる。口縁部はヨコナデ、外面は体部上半がハケ後ナデ、体部下半はヘラミガキ、体部内面は上半がナデ、下半がハケを施す。	底部付近に焼成後穿孔を施す。
280	**113**	1区	SX0103		弥生土器	小型無頸壺	7.00	11.80	4.00	平底で、ややふくらみを持って直立する体部を持ち、口縁部はわずかに内彎する。	口縁部はヨコナデ、体部外面は板ナデ、内面はユビオサエとナデ。	黒斑あり。
280	**114**	1区	SX0103		弥生土器	小型無頸壺	5.00	8.80	−	丸底から直立気味に伸びる体部を持ち、口縁部は僅かに内傾し、内側に面を作る。	ユビ成形とナデを施す。	
280	**115**	1区	SX0103		弥生土器	壺	−	(3.10)	(7.20)	平底。	摩滅が著しく調整不明。	焼成後穿孔を施す。
280	**116**	1区	SX0103		弥生土器	甕	(21.85)	(8.70)	−	体部と頸部の境にナデによる微かな段があり、頸部は鋭く屈曲して、口縁部は斜めに伸びる。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面は摩滅が著しく調整不明、内面はハケ。	
280	**117**	1区	SX0103		弥生土器	甕	(18.05)	(9.20)	−	体部と頸部の境にナデによる微かな段があり、頸部は鋭く屈曲して、口縁部は斜めに伸びる。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面は摩滅が著しく調整不明。	
281	**118**	1区	SX0103		弥生土器	脚台	−	(7.30)	9.85	斜めに開く低い脚部で、裾端部を上下に肥厚させる。	体部内面はハケとナデ、体部外面から脚外面はヘラミガキ、裾端部はヨコナデ、脚内面はハケを施す。	
281	**119**	1区	SX0103		弥生土器	脚台	−	(6.10)	8.20	斜めに広がる脚部で、裾端部を肥厚させる。	脚部中央にヘラ描沈線を2条、長楕円形の穿孔が2カ所に残る。	
281	**120**	1区	SX0103	黒褐砂	弥生土器	脚台	−	(10.20)	(14.30)	斜めに広がる脚部で、裾端部は内側に肥厚させる。	外面はハケ、内面はヘラケズリ。	
281	**121**	1区	SX0103		土師器	高杯	−	(8.80)	(10.50)	斜めに開く脚柱部から裾部が大きく水平に広がる。穿孔を3箇所に施す。	外面はナデ、内面はケズリとユビナデを施す。	
281	**122**	1区	SX0104		弥生土器	広口壺	(16.80)	(26.20)	6.10	底部は平底で、胴の張った体部から大きく開く口縁部を持ち、口縁端部を大きく折り曲げて垂下させる。	口縁部内面に扇形文、口縁外面にも扇形文、体部上半に櫛描直線文と櫛描波状文を施す。口縁部ヨコナデ、頸部外面はハケ、内面はナデ。体部外面はナデとヘラミガキ、内面はハケ。	底部に焼成後穿孔を施す。
281	**123**	1区	SX0104		弥生土器	広口壺	20.40	9.40	−	斜めに立ち上がる頸部から大きく開く口縁部を持ち、口縁端部は屈曲して斜め下方に垂下する。	口縁内面に楕円形の浮文を巡らせる。垂下した口縁部に凹線8条を施し、6方向に配した大型円形浮文の間に5〜7個の小型円形浮文を配する。頸部に低い断面三角突帯を5条巡らせる。外面はヨコナデ、頸部内面は横方向のヘラミガキを施す。	黒斑あり。
281	**124**	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	無頸壺	(7.80)	(10.30)	(9.05)	胴の張った体部を持つ。頸部はなく、口縁部は丸くおさめる。接合点はないが、同一個体と思われる脚部を持つ。	体部上半に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施す。摩滅が著しく調整不明。	
281	**125**	1区	SX0104		弥生土器	広口壺	10.30	17.90	6.50	底部は平底で、算盤玉状の体部を持つ。体部と頸部の境界は不明瞭で、口縁部は大きく開き、端部を上下に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面は上半に縦方向のハケ、下半は横および縦方向のヘラミガキを施す。内面は上半に指ナデと工具による条痕、下半にハケと荒いヘラミガキを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
281	126	1区	SX0104		弥生土器	直口壺	15.10	40.20	7.50	底部は平底で、倒卵形の体部を持ち、頸部は斜め上方に直線的に伸びる。口縁端部は外側に拡張し、僅かに外傾する。	口縁部直下と頸部に各2条の貼付突帯を施し、体部上半に櫛描直線文2列と櫛描波状文1列を施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部上半にナデ、下半にヘラミガキを施す。内面は頸部にユビナデ、体部にハケを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
281	127	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	直口壺	(12.80)	(27.50)	−	胴の張りらない体部で、頸部は直立気味に伸び、口縁端部は上方に面を持ってわずかに肥厚する。口縁部下に2個1組の小孔を内側から穿つ。	口縁部直下に凹線4条を巡らせる。口縁部はヨコナデ、頸部から体部外面はハケ、内面はユビオサエの後ナデを施す。	黒斑あり。
282	128	1区	SX0104		弥生土器	直口壺	13.20	37.00	6.40	底部は平底で、腰の張らない体部を持つ。体部と頸部の境界は不明瞭で、緩やかに開く頸部を持ち、口縁部は僅かに内彎する。口縁部直下に突帯状に粘土を張る。	口縁端部にヘラによる刻み目を入れる。頸部から体部上半にかけて、8単位の櫛描き直線文を施す。口縁部はヨコナデ、頸部から体部上半はハケの後ナデ、体部下半は縦方向のヘラミガキを施す。内面は指押さえの後、ハケとナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
282	129	1区	SX0104		弥生土器	水差	(10.00)	(23.20)	(10.10)	やや扁平な算盤玉状の体部に、直立する頸部が付き、口縁部は僅かに内彎する。肩部に横方向の取っ手が着く。斜めに開く脚部は端部を上下に肥厚させる。	口縁直下に凹線2条を施す。頸部には指頭圧痕突帯、体部上半には櫛描直線文と櫛描波状文を交互に配し、腰部に突帯を2条巡らせる。摩滅が著しく調整不明。	
282	130	1区	SX0104		弥生土器	甕	(14.00)	(21.90)	5.50	底部は平底で、倒卵形の体部を持ち、頸部は鋭く屈曲して口縁部は斜め上方に伸びる。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部上半にハケを施した後、体部中位から過半にかけてヘラミガキを施す。体部内面はハケを施し、底部付近にヘラケズリを行う。	黒斑あり。
282	131	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	甕	(24.30)	41.00	8.70	倒卵形の体部を持つ。頸部は大きく屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部ヨコナデ、体部外面上半はハケ、下半はヘラミガキ、体部内面は上半がハケ、下半にヘラケズリを施す。	
282	132	1区	SX0104		弥生土器	甕	−	(6.50)	(5.30)	平底の底部と体部の一部である。	外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリを施す。	
282	133	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	鉢	(17.60)	(16.80)	7.50	平底で丸みを帯びた短い体部から、頸部は大きく屈曲して、口縁部は直線的に開く。口縁体部を上方に肥厚させる。	口縁部ヨコナデ、体部外面はハケ、内面は摩滅が著しく不明。	黒斑あり。
282	134	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	高杯	(20.50)	(5.40)	−	丸みを帯びた浅い鉢状の杯部で、口縁端部は上方に面を持ち、外側に肥厚する。	口縁部直下に凹線3条を巡らせる。口縁部はヨコナデを施す。	
282	135	1区	SX0104		弥生土器	無頸壺	(11.40)	(15.00)	(8.80)	丸く立ち上がる体部、口縁部を内側に屈曲させる。脚部は斜めに開く。	口縁部ヨコナデ、体部内面はナデ、外面はヘラミガキ。脚部外面はヘラミガキ、内面はケズリ。	
283	136	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	高杯	−	(7.60)	−	杯部と脚柱部の接点片。	脚柱部外面に6条と5条の沈線が認められる。外面はヘラミガキ、杯部内面はナデ、脚柱部内面には絞り痕がある。	杯底部に焼成後穿孔を施す。
283	137	1区	SX0104	暗青灰礫混シルト	弥生土器	脚台	−	(8.90)	(12.00)	斜めに広がる脚部で、裾端部を肥厚させる。	外面はヘラミガキ、裾端部はヨコナデ、裾内面はケズリ。	
283	138	1区	SX0104		縄文土器	鉢	−	(3.70)	−	外反する口縁部で、端部を外側に肥厚させる。	全体に摩滅が著しく調整不明。	
283	139	1区	SX0105		弥生土器	広口壺	(16.50)	29.10	7.50	平底に胴の張った体部を持つ。頸部は大きく開き、口縁端部を上方に拡張する。	口縁部に3条の凹線と6箇所の円形浮文を施す。頸部に指頭圧痕突帯を巡らせる。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部上半にハケ、体部下半にヘラミガキを施す。内面は頸部にヘラミガキ、体部にハケを施し、底部付近には指頭圧痕がある。	底部に焼成後穿孔を施す。
283	140	1区	SX0105		弥生土器	細頸壺	9.30	(16.00)	−	すぼまった頸部は斜めに伸びる。口縁部は内彎気味で、端部を僅かに内傾させる。	口縁部下に凹線を5条施す。頸部に櫛描直線文を4列施し、肩部には交互に施文された櫛描波状文2列と櫛描直線文が認められる。口縁部はヨコナデ、頸部内面はナデ、体部内面は板ナデを施す。	
283	141	1区	SX0105		弥生土器	甕	(20.70)	(13.00)	−	肩のあまり張らない体部を持ち、頸部は大きく屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面にはハケを施す。	
283	142	1区	SX0105		弥生土器	甕	14.10	25.30	6.00	平底で肩の張った体部を持つ。頸部は鋭く屈曲して口縁部は短く開く。口縁端部を上方に拡張する。	口縁部はヨコナデ、外面は体部上半にハケ、下半にヘラミガキを施す。内面は体部上半が板ナデ、下半にヘラケズリを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
283	143	1区	SX0105		弥生土器	高杯	−	(9.90)	8.90	緩やかに開く脚柱と大きく開く裾部を持つ。	杯部外面はハケ、脚部外面はヘラミガキ、裾端部はヨコナデを施す。脚部内面には絞り痕跡があり、ナデとヘラケズリを施す。	杯部底面に焼成後穿孔を施す。
283	144	1区	SX0106		弥生土器	甕	(13.20)	(23.80)	5.50	底部は平底で、余り肩の張らない体部を持つ。頸部は大きく屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁端部を僅かに肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、体部外面はヘラミガキ、内面は板ナデあるいはナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
284	**145**	1区	SX0107		弥生土器	広口壺	14.20	27.30	7.10	平底で胴の張る体部を持つ。頸部から口縁部は大きく開き、口縁端部を斜め下方に垂下させる。	垂下した口縁部の外面に4条の凹線を施し、3個1組の円形浮文を推定8箇所付加する。口縁内面直下に円形浮文を巡らせる。頸部と体部の境に強いヨコナデを施し、突帯を形作る。口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部下半にハケとヘラミガキ、体部内面にハケとユビナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
284	**146**	1区	SX0107		弥生土器	広口壺	14.50	29.90	7.30	平底で胴の張る体部を持つ。頸部から口縁部は大きく開き、口縁端部を斜め下方に垂下させる。	垂下した口縁部の外面に4条の凹線を施し、3個1組の円形浮文を推定8箇所付加する。口縁内面直下に4個1組の円形浮文と2個1組の小円孔を交互に各4箇所施す。頸部と体部の境に強いヨコナデで3条の凹線を施し、突帯状の突起を形作る。頸部下から体部上半に歯櫛描き直線文と櫛描き波状文を交互に各3列施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部下半にハケとヘラミガキ、頸部内面はヘラミガキ、体部内面にハケとユビナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
284	**147**	1区	SX0108		弥生土器	直口壺	(12.50)	35.40	6.30	平底で腰の張らない体部を持つ。体部と頸部の境界は不明瞭で、直立気味に立ち上がる頸部を持ち、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部直下に3条の凹線文を施す。口縁部はヨコナデ、外面は全体にヘラミガキを施す。内面は頸部にユビナデ、体部にハケを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
284	**148**	1区	SX0109		弥生土器	広口壺	15.00	31.30	7.80	平底で胴の張った体部を持つ。頸部は直立気味に短く立ち上がり、口縁部を大きく外側に折り曲げる。	口縁部に3条の凹線文を施し、10個1組の円形浮文を推定4方向に付加する。頸部に指頭圧痕突帯をめぐらせ、体部上半に櫛状工具あるいは二枚貝による連続刺突文を3列施す。口縁部はヨコナデ、外面は頸部から体部上半にハケ、下半にヘラミガキを施す。内面は体部上半に板ナデ、下半にヘラケズリを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
284	**149**	1区	SX0109		弥生土器	水差	8.10	26.00	11.40	胴の張る体部に直立する頸部が付き、口縁端部は僅かに内傾する。肩部に横方向の取っ手が着く、斜めに開く脚部は端部を上方に肥厚させる。	口縁部外面直下に3条の凹線、胴部に櫛状工具による烈点文を施す。外面調整は口縁部はヨコナデ、体部上半は強いハケ、下半はヘラミガキを施す。内面は頸部から体部上半に指頭圧痕が残り、下半にハケが残る。脚部外面はヘラミガキとハケ、内面はヘラケズリを行い、シボリ痕が残り、端部にはヨコナデを施す。	底部に焼成後穿孔を施す。
285	**150**	1区	SD0101	上層	弥生土器	広口壺	(16.20)	(6.30)	−	直立気味の頸部から屈曲して大きく開く口縁で端部は上下に肥厚する。	口縁外面に凹線4条を巡らせ、頸部に凹線2条を施す。口縁部はヨコナデ、頸部外面はハケと強いヨコナデ、内面は摩滅が著しく調整不明である。	
285	**151**	1区	SD0101	下層	弥生土器	壺	−	(7.50)	−	大きく開く口縁部で、複合口縁が剥離した痕跡が残る。	端部はヨコナデ、外面はナデで、内面にはハケを施す。	
285	**152**	1区	SD0101		弥生土器	甕	(13.50)	(8.80)	−	丸みを帯びた体部から屈曲して斜め上方に伸びる口縁部を持ち、端部は上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、外面は頸部にヘラミガキ、体部はタタキの後ナデを施す。内面は板ナデとナデを施す。	
285	**153**	1区	SD0101	下層	土師器	甕	32.30	(37.35)	−	休憩の体部から屈曲して斜め上方に伸びる口縁部を持ち、端部は内傾してわずかに肥厚する。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケの後平行タタキ、内面は摩滅が著しく調整不明である。	
285	**154**	1区	SD0101 上層		須恵器	台付壺	−	(5.10)	(14.00)	斜めに開く台部を持ち、端部は内側に肥厚する。	回転ナデを施す。	台部外面に自然釉付着。
285	**155**	1区	SD0102		弥生土器	広口壺	(9.80)	(13.20)	5.80	平底で算盤玉状の体部を持つ。頸部は大きく開いた後、口縁部を外側に折り曲げて垂下させる。	頸部に凹線を3条、体部上面に櫛描直線文と波状文を施す。口縁部はヨコナデ、体部内面にユビナデを施すが、全体に器壁の痛みが激しく詳細は不明。	
285	**156**	1区	SD0102		弥生土器	水差	(8.05)	(20.20)	(8.90)	やや扁平な算盤玉状の体部に、直立する頸部が付き、口縁部は僅かに外反する。肩部に横方向の取っ手が着く。斜めに開く脚部は端部を下方に肥厚させる。	体部上半にヘラミガキを施すが、それ以外は摩滅のため調整不明。	黒斑あり。図上復原。
285	**157**	1区	SD0102		弥生土器	水差	8.00	21.30	9.40	やや扁平な算盤玉状の体部に、直立する頸部が付き、口縁部は僅かに内傾する。肩部に横方向の取っ手が着く。斜めに開く脚部は端部を上方に肥厚させる。	口縁部外面直下に3条の凹線を施す。口縁部はヨコナデ、体部下半から脚部はヘラミガキ、脚端部はヨコナデを施す。内面は体部にナデ、脚部は絞り痕とヘラケズリが認められる。	
286	**158**	2区	SB0201 P007		土師器	鍋	(33.40)	(6.60)	−	緩く開く口縁部を持つ。端部は外側に面を持つ。	口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ、内面はナデ。	
286	**159**	2区	SB0201 P007		須恵器	椀	(13.10)	4.90	4.60	平底で体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	体部外面に重ね焼の痕跡。
286	**160**	2区	SK0203		須恵器	椀	(14.50)	5.40	5.60	平底で体部は外反気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
286	161	2区	SK0203		須恵器	椀	14.70	5.50	6.10	平底で体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	
286	162	2区	SK0203		須恵器	椀	(14.50)	5.70	(5.20)	平底で体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反し、丸く収める。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	
286	163	2区	SK0204		土師器	托	(13.70)	(4.10)	(5.50)	平底で、大きく開く体部を持つ。	体部は回転ナデ。	
286	164	2区	SK0204		土師器	鍋	(28.40)	9.50	−	体部は直線的に立ち上がる。緩く開く口縁部を持ち、僅かに凹んだ片口部を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はタタキの後ナデ、内面はナデ。	
286	165	2区	SK0208		須恵器	椀	−	(4.50)	(5.30)	平底で体部は内彎気味に立ち上がる。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	
286	166	2区	SD0203		弥生土器	(底部)	−	(3.30)	5.50	平底。中央に焼成前穿孔。	内面はナデを施す。	
286	167	2区	SD0208		須恵器	椀	14.00	5.30	5.60	平底で体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反し、丸く収める。	体部は回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕跡。	
286	168	2区	SD0208		土師器	鍋	(23.00)	(20.00)	−	縦長の体部で、口縁部は緩く開く。端部は外に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部内外面は板ナデとナデを施す。	被熱により赤変し、外面に煤、内面にコゲが付く。
286	169	4区	SD0401		須恵器	甕	(20.40)	(6.40)	−	屈曲して、斜めに立ち上がる口縁部を持つ。	口縁部は回転ナデ、体部内面には当て具痕、外面にはカキ目を施す。	
286	170	5区	SD0503		須恵器	椀	(15.60)	(2.80)	−	外傾し端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
286	171	5区	SD0504		須恵器	椀	(16.50)	(3.00)	−	外傾し端部丸く肥厚する。	ロクロナデ、灰。	
286	172	5区	SD0504		須恵器	椀	−	(3.30)	(6.50)	削り出しのベタ高台で、糸切りと思われる。体部は僅かに内湾する。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
286	173	5区	SD0504		須恵器	捏鉢	(28.00)	(2.70)	−	外傾する体部で口縁部直立し端部尖る。砂粒多く含む。	ロクロナデ、灰〜暗灰。	
287	174	11区	P003		須恵器	杯蓋	(15.00)	(1.40)	−	内湾ぎみで端部丸い。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
287	175	11区	P003		須恵器	小皿	(9.80)	1.95	(5.70)	平底で回転糸切り。外傾する体部で端部は丸い。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
287	176	11区	P008		須恵器	椀	(14.60)	(3.05)	−	体部内湾し端部丸くやや開く。	ロクロナデ、灰白。	
287	177	11区	SK1102		縄文土器	深鉢	(33.80)	(15.10)	−	内湾する体部で頸部甘く、外傾する口縁部。端部角張る。角閃石含む。	条痕文、端部・内面はナデ、にぶい黄橙。	
287	178	11区	SX1101		土師器	皿	(9.50)	2.30	−	体部内湾し端部丸い。	橙〜灰黄橙。	
287	179	11区	SX1101		須恵器	杯身	(11.00)	(4.40)	−	外傾する口縁部で端部尖りぎみ。砂粒多く含む。	ロクロナデ、灰白。	
287	180	11区	SX1101		土師器	皿	(15.30)	3.70	−	内湾する体部で端部丸い。	淡黄橙。	
287	181	11区	SX1101		須恵器	高杯	(11.80)	(4.25)	−	体部薄く仕上げる。外傾する体部から口縁部。	ロクロナデ、灰白〜黄灰。	
287	182	11区	SX1101		土師器	甕	(20.60)	(3.55)	−	外反する口縁部で端部角張る。	ヨコナデ、橙〜黄橙。	
287	183	11区	SX1101		須恵器	甕	(11.50)	(5.90)	−	体部内湾しタタキ成形。口縁部外反し端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
287	184	11区	SX1102		須恵器	杯身	9.90	3.60	−	丸底で内湾する体部。口縁部内湾し端部丸い、歪んで砂粒含む。	ロクロナデ、灰白。	
287	185	11区	SD1101		土師器	椀	−	(2.00)	(10.50)	外傾し水平ぎみに広がる高台で端部丸い。	ナデ、ヘラミガキ、橙。	
288	186	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	(21.00)	(36.50)	9.50	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から外反して下方に大きく垂下する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはヨコナデを施す。内面の口縁部と頸部の境界は稜線を持って屈曲し、その内側に櫛描き扇形文を外側に波状文を施しその上に3個1組の円形浮文を8方に貼付する。端部外面には凹線文を3条施し、3本1組の棒状浮文を5方に貼付する。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し内面はハケを施す。体部上半に施された櫛描直線文5単位で画された上3段と最下段には波状文を、4段目には斜格子文を施す。	底部中央に焼成後穿孔を施す。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
288	**187**	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	19.20	(36.70)	8.90	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から外反して斜め下方に大きく垂下する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはヘラミガキを施す。口縁部内面には櫛描き扇形文を二重に施し、端部外面には3条の凹線文とその上に9個または12個1組の円形浮文を5方に貼付する。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し、内面はユビナデとハケメ。体部上半には櫛描直線文と波状文を交互に4単位施し、波状文中2段に3個1組の円形浮文をそれぞれ6方に貼付する。	体部下方に焼成後穿孔を施す。
288	**188**	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	24.80	37.40	9.80	重心の下方に偏った体部から外反して立ち上がり大きく開く口縁部で、端部を上下に肥厚する。	口縁ヨコナデ、大きく肥厚された端面には4条の凹線文が巡らされ縦位に3個1組になった円形浮文を貼り付ける(残存3組・推定12組)。外面頸部～体部はハケ後ナデ櫛描き直線文と波状文が各2帯交互に、その下に直線文で挟まれた斜格子文が施される。以下にヘラミガキ内面頸部はナデ、体部はハケメ。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
288	**189**	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	(19.10)	(34.20)	8.60	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から外反して斜め下方に大きく垂下する口縁部を持つ。端部は欠損している。	口縁部ヨコナデ、頸部内外面にはハケを施す。内面の口縁部と頸部の境界に突帯を貼り付け、連続する刻み目を施す。また、突帯を挟むように櫛描き扇形文を二重に施し、端部外面には2段に円形浮文を連続貼付する。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し、内面はハケを施す。体部上半に施された櫛描直線文3単位で画された上段には櫛描き扇形文を、波状文を中段に2帯、最下段に1帯施す。また波状文の上に円形浮文を連続して貼付する。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
289	**190**	13区	SD1203		弥生土器	直口壺	9.80	(21.00)		球形の体部から筒状に立ち上がり、わずかに外反して開く口縁で、端部を肥厚する。一方に抉りが入る。	口縁ヨコナデ、抉り直下に2個1組の小円孔が穿たれる。内外面共にハケメ、口頸部内面はナデ仕上げ、頸部下端に櫛状工具による刺突列点文がめぐる。	
289	**191**	13区	SD1203		弥生土器	細頸壺	－	(14.90)		算盤玉状に胴の尖って張った体部から、細く窄まって立ち上がる口頸部。	外面頸部～体部上半ナデの後櫛描き直線文と波状文を交互に施し、連続した円形浮文を2段に貼り付ける。下半はヘラミガキ内面頸部は絞り目が残り、体部にはハケメ、いずれもナデで仕上げられる。	
289	**192**	13区	SD1203		弥生土器	直口壺	(11.00)	(9.00)	－	体部から外傾気味にほぼ直立して立ち上がる口縁部、端部をわずかに肥厚する。	口縁ヨコナデ、端部外側にヘラ刻み目を巡らせる。頸部外面ハケ、内面ハケ後ナデ。	
289	**193**	13区	SD1203		弥生土器	壺	(7.00)	(5.10)	－	球形の体部から屈曲してほぼ直立する短い口縁部で、端部を内側に肥厚する。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面ユビナデ。	
289	**194**	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	(39.20)	(66.00)	11.60	倒卵状で長い体部から大きく外反して開く口頸部で、端部を折り曲げ外方に大きく垂下する。	口縁ヨコナデ、頸部・体部内外面共にハケメ、頸部下端に指頭圧痕文突帯が貼り付けられ、その際に付いたと思われる爪形痕が一部に見られる。底部下端はヘラケズリで整えられている。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
289	**195**	13区	SD1203		弥生土器	無頸壺	(9.20)	(24.90)	11.90	口縁部が内傾する細い椀状の体部に筒状中空の脚台部が付く。体部と脚柱部は連続成形され、円盤充填を行う。口縁端部は内側に肥厚され、脚端部は上方に引き上げられる。	口縁部はヨコナデ、体部内外面はハケ調整、下半部にはヘラミガキが残り脚台部外面に至る。脚柱部内面にはヘラケズリが施される。外面口縁部直下に3条の凹線文とヘラ状工具による刻み目が巡らされる。脚端部外面にも3条の凹線文が巡らされる。	赤色の化粧土塗布か？吉備系。
289	**196**	13区	SD1203		弥生土器	甕	(10.80)	(3.90)	－	体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部で端部をわずかに上方に引き上げる。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面板ナデ。	
289	**197**	13区	SD1203		弥生土器	(底部)	－	(2.90)	－	上げ底。	外面ハケメ、内面板ナデ、底面ナデ。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
289	**198**	13区	SD1203		弥生土器	(底部)	－	3.00	(4.00)	平底から直立気味に立ち上がる体部。薄手・小型品。	内面ユビナデ、外面ヘラケズリ。	
289	**199**	13区	SD1203		弥生土器	壺	－	(22.40)	(6.60)	倒卵形の壺の体部。	外面ハケ後ヘラミガキ、内面ハケメ。	下方に焼成後穿孔を施す。
290	**200**	13区	SD1203		弥生土器	短頸壺	12.20	32.50	8.30	倒卵形の体部から短く筒状に立ち上がり、屈曲して外方に開く口縁、端部を上下に肥厚する。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、下半はヘラミガキされる。肩部に櫛状工具による刺突列点文が2段に巡らされる。内面はハケ後ナデ、下半にはヘラケズリが見られる。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
290	**201**	13区	SD1203		土師器	イイダコ壺	4.45	9.10	(3.15)	コップ形の体部。口縁部は内湾してすぼまる。薄手である。	口縁部はヨコナデ、体部内面は板ナデ、外面はナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
290	**202**	13区	SD1203		弥生土器	広口壺	(18.40)	(30.80)	7.60	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から大きく外反して斜め下方に垂下する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはヘラミガキを施す。口縁端部外面には4条の凹線文とその上に斜めに刻み目、4個1組の円形浮文で飾る。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し、内面はユビナデとハケメ。体部上半には櫛描直線文を3単位、その間に波状文と斜格子文を交互に施し、最下段に櫛描列点文を1単位施す。直線文中段に3個1組、下段に4個1組の円形浮文をそれぞれ6方に貼付する。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
290	**203**	14区	SD1204		弥生土器	直口壺	(13.00)	34.10	6.50	長胴形の体部から緩やかに立ち上がってわずかに外反する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ、外面はハケ調整の後、頸部と体部下半にヘラミガキで仕上げる。内面は頸部ユビナデ、体部はユビ成形の後、板ナデ、ナデが施される。口縁部直下には3条の凹線文が巡らされる。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
290	**204**	14区	SD1205		弥生土器	広口壺	16.40	32.20	7.50	わずかに胴の張った体部から外反して開く口縁部を持つ。端部はわずかに肥厚される。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはヘラミガキを施す。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。体部外面中位には櫛状工具による刺突列点文が巡らされる。	
290	**205**	14区	SD1205		弥生土器	甕	(19.20)	(7.20)	−	体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部、端部を上方に引き上げる。	口縁ヨコナデ、体部内外面ハケメ。	
290	**206**	14区	SD1205		弥生土器	高杯	19.50	(12.20)	−	外反して開く口縁、端部を大きく垂下する。杯部内面に断面矩形の突帯を貼り付ける。脚部との連続成形により円盤充填を行う。	杯部内外面共にヘラミガキ、脚柱部内面ヘラケズリ、外面に4条の沈線文が巡る。	充填円盤中央に焼成後穿孔を施す。
291	**207**	14区	SD1206 南壁		弥生土器	甕	−	(6.50)	(6.00)	平底から内湾して立ち上がる体部。	外面ハケメ？内面調整不明。	
291	**208**	14区	SD1206		弥生土器	高杯	−	(2.40)	(16.90)	大きく開く脚端部を上方に肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
291	**209**	14区	SD1207 東半		弥生土器	広口壺	(20.80)	(37.80)	3.20	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から大きく外反して開く口縁部を持つ。口縁端部は上下に肥厚される。	口縁部ヨコナデ、頸部内外面にはハケを施す。口縁部内面には櫛描き波状文、端部外面には2条の凹線文とその上に斜めに刻み目、4個1組の円形浮文で飾る。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し、内面はユビナデと板ナデによる。体部上半には櫛描直線文と波状文を2単位交互に、その下に直線文に挟まれた斜格子文を施す。	底部中央に焼成後穿孔を施す。
291	**210**	14区	SD1207 東半		弥生土器	壺	−	(13.30)	7.20	内湾して大きく開く壺の体部。	外面ヘラミガキ、内面上半板ナデ、下半ナデ。	体部下方と底部中央に焼成後穿孔を施す。
291	**211**	14区	SD1207 西半		弥生土器	細頸壺	4.00	(5.00)	−	細く外反気味に立ち上がる口縁端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面絞り後ケズリ。	
291	**212**	14区	SD1207 東半		弥生土器	短頸壺	12.00	(4.80)	−	外反して開く口縁、端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、肥厚した端部にヘラ状工具による刻み目を施す。頸部に指頭圧痕文突帯を巡らす。	
291	**213**	14区	SD1207 西半		弥生土器	(底部)	−	(3.40)	(10.60)	平底から外方に立ち上がる体部。厚手・大型品。	風化顕著で調整不明。	
291	**214**	14区	SD1207 東半		弥生土器	甕	(21.40)	(12.70)	−	体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部、端部を上方に引き上げる。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面ナデ。	
291	**215**	14区	SD1207		弥生土器	無頸壺	(15.50)	(17.60)	−	口縁部が内傾する低い椀状の体部に筒状中空の脚台部が付く。体部と脚柱部は連続成形され、円盤充填を行う。口縁下方にはおそらく注口部の根元であろう痕跡が残る。(注口部分は欠落)	口縁部はヨコナデ、体部内外面はハケ調整、下半部にはヘラミガキが残り、脚柱部外面に至る。外面口縁部直下に断面三角形の貼付突帯を1条巡らせるが、注口部近くではとぎれる。	
291	**216**	14区	SD1207 東半		弥生土器	高杯	20.50	(13.00)	−	筒状中空の脚柱部から杯部が直線的に大きく開き、屈曲して水平に伸びる口縁部を持ち、口縁端部は外に面を持つ。杯部と脚柱部は連続成形され、円盤充填行う。	口縁部はヨコナデ、杯部内外面にはヘラミガキが残り、脚柱部外面に至る。内面の口縁部と杯部の境界に断面四角形の貼付突帯を1条巡らせる。脚柱部内面には絞り目が残り、ヘラケズリが施される。脚柱部上端には涙滴形透孔が3方に、下方にヘラ描き沈線文が2条残存する。	杯部中央充填された円盤に焼成後穿孔を施す。
291	**217**	14区	SD1207 西半		弥生土器	高杯	−	(5.55)	−	内湾気味に開く杯部、脚部との連続成形により円盤充填を行う。	外面ハケメ？内面調整不明。	
291	**218**	14区	SD1207 西半		弥生土器	高杯	−	(3.40)	(11.60)	脚端部を上方に肥厚する。	外面ハケメ？3条の細い沈線文が巡る。端部～内面ヨコナデ。	
291	**219**	14区	SD1207		須恵器	甕	(11.15)	(3.65)	−	外反して開く口縁、端部を折り曲げ肥厚する。	回転ナデ。	
291	**220**	14区	SD1207		須恵器	杯身	−	(3.40)	−	丸みを帯びた体部、受部はほぼ水平に延びる。	回転ナデ、底部にヘラケズリ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
292	221	14区	SD1208		弥生土器	広口壺	(15.80)	26.20	7.30	算盤玉状に胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から大きく外反して斜め下方に垂下する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ頸部内外面にはハケを施す。口縁部内面には櫛描き波状文と扇形文、端部外面には4条の凹線文と6個1組の円形浮文で飾る。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。体部外面はハケ、下半部にはヘラミガキを施し内面はユビナデと板ナデによる。体部上半には櫛描直線文と波状文を3単位交互に施し、3個1対の円形浮文を中段の直線文上に6方、最下段の波状文上に7方貼付する。	底部中央に焼成後穿孔、体部下半に煤状炭化物の付着がみられる。
292	222	14区	SD1208		弥生土器	直口壺	(11.60)	(13.70)	−	体部から外反気味に筒状に立ち上がる口縁部、端部を内側に肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面に5条の凹線文が巡る。内面は板ナテ、頸部はナデ。	
292	223	14区	SD1208		弥生土器	直口壺	(11.80)	(8.60)	−	体部から外反気味に筒状に立ち上がる口縁部。	口縁ヨコナデ、上端部に1条の凹線文が巡る。頸部外面ヘラミガキ、内面は板ナデ。	
292	224	14区	SD1208		弥生土器	直口壺	−	(7.80)	5.40	緩やかに内湾して立ち上がる体部。	外面ヘラミガキ、内面は板ナデ。	
292	225	15区	SD1501		弥生土器	壺	(11.40)	(9.30)	−	球形の体部から立ち上がり、外反して開く口縁部を持つ。	口縁ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ユビ成形後板ナデ。	
292	226	15区	SX1504		弥生土器	甕	−	(2.40)	5.40	やや不安定な平底。	風化顕著で調整不明。	
292	227	16区	SD1601		土師器	小型丸底壺	9.90	13.15	−	丸底で球形の体部。口縁部は外反し、端部尖りぎみ。内面はヘラケズリで成形する。	外面はハケ整形で口縁部はヨコナデで仕上げる。	体部下半に煤付着。
292	228	16区	SD1602		土師器	壺	(11.70)	(6.55)	−	内傾する体部から直立する頸部になる。水平ぎみに開く口縁部で端部は肥厚する。	ハケ整形後ナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙〜橙。	黒斑あり。
292	229	16区	SX1602		弥生土器	甕	(17.00)	(7.65)	(15.80)	内湾する体部に短く外傾する口縁部が付く。	ハケ整形から板ナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい褐〜橙。	
292	230	16区	SX1602		弥生土器	壺	−	(7.00)	−	壺体部上半部。	内外面共にナデ、外面にヘラ描き木葉痕。	
292	231	16区	SX1602		弥生土器	(底部)	−	(5.70)	5.20	わずかに上げ底状の安定した底部。	外面ミガキ？内面ハケ調整。	
293	232	16区	SX1603 東半		須恵器	甕	(37.60)	(7.50)	−	外反する口縁部で端部面となり肥厚する。	ロクロナデ、刺突文、灰白。	自然釉付着。
293	233	16区	SX1603 南肩付近		須恵器	椀	(18.30)	4.45	−	削り出しのベタ高台で、糸切りと思われる。平底で体部は内湾し端部丸い。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
293	234	16区	SX1603		須恵器	甕	−	(14.30)	−	外傾する体部上部とやや外反する頸部。タタキ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、波状文、褐灰。	
293	235	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(26.70)	(5.90)	−	外反し端部肥厚する。粘土紐痕明瞭、ユビ成形。	粗い縦方向のハケ整形、ヨコナデ、ナデ、にぶい黄橙。	
293	236	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(23.80)	(5.25)	−	外傾し端部角張る。ユビ成形。	粗い縦方向のハケ整形、ヨコナデ、ナデ、にぶい黄橙。	
293	237	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(22.90)	(12.80)	−	外反し端部付近で大きく開く、タガ1条で断面台形。ユビ成形。	縦方向のハケ整形、ヨコナデ、浅黄橙。	
293	238	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(20.00)	36.50	(12,1)	外傾し端部は外に開き角張る。裾部は内側につまみ出すように曲げて端面になる。突帯2条で上のタガの方が高く、下の方が幅広。円形透孔1。	縦方向のハケ整形からナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
293	239	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(23.30)	36.30	(16.10)	外傾し口縁部外反し角張りぎみ、裾は直立し端部角張る。ユビ成形断面M字のタガ2段で上は高く下は幅広である。	縦方向のハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙、砂粒含む。	
294	240	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(16.60)	(6.10)	−	外傾し端部下で外反し、端部角張る。ユビ成形。	粗い縦方向のハケ整形、ヨコナデ、ナデ、にぶい黄橙。	
294	241	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(24.00)	(13,90)	−	内湾ぎみに開き端部外に開く。ユビ成形、粘土紐明瞭。	粗い縦方向のハケ後ナデ、にぶい黄橙、タガ剥離か。	
294	242	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	(24.50)	(26.00)	−	外傾し口縁端部下で外反し丸く納める。高いタガで断面台形、粘土紐痕明瞭、ユビ成形、タガ2段(下欠)、透孔1ヶ所。	斜め方向の粗いハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
294	243	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(28.90)	(16.20)	ユビ成形、粘土紐痕跡明瞭、裾端部近くは直立し端部は肥厚する。内湾ぎみに開く。タガ1条でしっかりしており断面M字形の台形。透孔1。	縦方向のハケ整形、ヨコナデ、浅黄橙、砂粒多く含む。	
294	244	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(5.50)	(18.30)	直立し端部角張る。ユビ成形。	粗いハケ整形、内面横方向のハケ、ナデ、にぶい黄橙〜にぶい褐。	
294	245	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(26.00)	13.40	緩やかに外傾し、裾端部は内側に曲げている。粘土紐も痕跡明瞭、タガ1条で低いM字形。ユビ成形。	縦方向のハケ整形からナデ、にぶい黄橙〜にぶい褐。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
294	**246**	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(21.00)	−	内湾ぎみに開く、タガ１条で幅広く低い台形。ユビ成形。	縦方向のハケ整形からナデ、にぶい黄橙〜浅黄橙。	形象埴輪の脚台か。
294	**247**	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(7.50)	(12.00)	直立し端部内外に肥厚し器壁厚くなる。端部やや反る。	ハケ整形、ナデ、にぶい黄橙。	形象埴輪の脚台か。
294	**248**	16区	SX1603 北半		埴輪	円筒	−	(24.80)	(14.40)	直立し上部僅かに開きぎみ、裾部不定に丸みを持つ。タガ１条で断面台形。ユビ成形。	縦方向のハケ整形、突帯周辺はナデ仕上げ、砂粒含む。浅黄橙〜にぶい黄橙。	形象埴輪の脚台か。
295	**249**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(人物)	−	(4.60)		肩の張る半球形で小孔２ヶ所。ユビ成形。	４方に文様を施す、３本の縦線に綾杉状にヘラで施文、冑の上部、にぶい黄橙〜浅黄橙。	
295	**250**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(人物)	−	(4,80)		人物の右目から額部分の破片で冑を装着している。突帯状に庇が付き三角の切り込みを周縁に施す。ユビ成形。	ハケ整形後ナデ、にぶい黄橙〜浅黄橙、綾杉状にヘラで施す。	
295	**251**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(人物)	−	(4.90)	13.90	直立し端部外反し角張る。端部僅かに肥厚。ユビ成形。	ヘラによる文様、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
295	**252**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(人物)	−	(6.20)	−	人物の体部裾と思われる部分、内側に延び脚台と接合するか。ユビ成形。	粗い縦方向のハケ後ナデ、にぶい黄橙。	
295	**253**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(人物)	−	(5,10)	−	断面楕円形で中空、先細りになる右手部分。ユビ成形、上部に円孔１。	ハケ整形、ナデ、にぶい黄橙。	
295	**254**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(鳥？家形？)	−	(5.70)	−	頂部が厚くなり、湾曲する中空のもので鳥の尾部かと思われる。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、明黄褐〜浅黄橙。	
295	**255**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(家形)	−	長(7.60)	−	ユビ成形、歪な縁で弧状を呈する。絞り目、僅かに内湾する。	板ナデ、ナデ、にぶい黄橙〜灰黄褐、上部に円孔あり。	
295	**256**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(家形)	−	長(4.50)	−	直立し端部内側に肥厚し角張る。ユビ成形。	ナデ、ヘラ描き文様、明黄褐。	
295	**257**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(家形)	−	長(4,80)	−	直立する。ユビ成形。	ナデ、ヘラ描き文様、明黄褐。	
295	**258**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(家・囲形)	−	長(2.90)	−	ユビ成形、直線で窓状に作る。	ナデ、明黄褐。	
295	**259**	16区	SX1603 北半		埴輪	形象(家形)	−	長(4.10)	−	直交する部分で端部が外側に肥厚する。ユビ成形。	ナデ、明黄褐。	
296	**260**	17区(22区)	SB1702 P005		須恵器	甕	(20.00)	(5.25)	−	体部内傾し口縁部外反する。端部丸い。体部タタキ成形。砂粒多く含む。	ロクロナデ。	自然釉付着。
296	**261**	17区	SD1704 (SD2204)		須恵器	台付皿	(14.10)	2.20	(7.40)	断面台形の低い輪高台で、内湾ぎみの口縁部、端部僅かに水平につまみ出す。	ロクロナデ、ロクロケズリ、底部未調整、灰白。	
296	**262**	17区	SD1710	上面鎌倉時代埋土中	須恵器	杯蓋	(16.00)	(2.20)	−	平坦な底部から内湾しやや上方に短い受部。立ち上がりは外反し薄い。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ仕上げ、灰白。	重ね焼の痕跡。
296	**263**	17区	SX1704		須恵器	杯蓋	14.90	4.40	−	天井部丸く、内湾する体部から口縁部になる。端部丸く、稜線を有さない。	ロクロナデ、ロクロケズリ、天井部未調整、灰白。	
296	**264**	17区	SX1704		須恵器	杯蓋	14.05	4.30	−	天井部平坦で器壁厚い。内湾する体部で口縁端部薄く丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	自然釉付着。
296	**265**	17区	SX1704		須恵器	杯蓋	14.60	4.00	−	稜線を持たない肩部で天井部は平坦、口縁部内湾し端部外側に尖らす。砂粒多い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜青灰。	天井部外面にヘラ記号。自然釉付着。
296	**266**	17区	SX1704		須恵器	杯蓋	14.40	4.60	−	天井部丸く、内湾する体部から口縁部になる。端部丸く、稜線を有さない。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	自然釉付着。
296	**267**	17区	SX1704		須恵器	杯蓋	14.50	4.60	−	天井部やや平坦で内湾して口縁部になる。端部細くなる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
296	**268**	17区	SX1704		須恵器	杯身	12.80	4.30	−	平坦な底部から内湾しやや上方に短い受部。立ち上がりは外反し薄い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、底部未調整、灰白。	
296	**269**	17区	SX1704		須恵器	杯身	12.50	4.90	−	丸底で内湾する体部で受部短い。立ち上がり内傾する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
296	**270**	17区	SX1704		須恵器	杯身	13.05	4.10	−	内湾する体部から受部水平に短く延び端部丸い。立ち上がり外反する。砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、暗灰〜灰。	
296	**271**	17区	SX1704		須恵器	杯身	12.90	4.40	−	平底で直線的に広がって短い水平な受部に続く。立ち上がりはやや反った直立で端部は丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	重ね焼の痕跡。自然釉付着。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
296	272	17区	SX1704		須恵器	杯身	13.00	4.20	−	内湾する体部から受部上方に短く延び端部丸い。立ち上がり外反する。砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
296	273	17区	SX1704		須恵器	甕	(15.80)	24.50	−	尖り底ぎみで、内湾する体部で肩の張る器形。頸部は短く口縁部は大きく外反し端部は内外に肥厚する。タタキ(内面同心円・外面格子)で成形する。	ロクロナデ、色調は灰。	
296	274	17区	SX1704		土師器	甕	(20.00)	(7.70)	−	内傾する体部から外反する口縁部に、端部角張る。砂粒含む。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、橙〜浅黄橙。	
296	275	17区	SX1704		須恵器	甕	18.30	17.60	−	最大腹径が肩部の高い位置にあり、倒卵形に近い体部で底部は尖り気味の丸底。肩が張り外反する口縁部で端部内外に肥厚する。砂粒多く含む。	ロクロナデ、外面下半はロクロケズリ、上半はカキメを施す。色調は内外とも灰である。	
296	276	17区	SX1704		須恵器	提瓶	4.30	12.85	−	小型の提瓶。円形の体部に断面丸い輪状の把手が両肩部に付く。頸部は短く口縁部直線に開き端部は丸い。外面は格子タタキで成形する。砂粒僅かに含む。	円板充填で成形し、把手はナデで調整する。口縁部はロクロナデ、体部にヘラ記号あり。内外面とも灰白。	肩部から口縁部にかけて自然釉付着。
297	277	17区	SX1706		須恵器	杯蓋	(14.40)	(3.45)	−	甘い稜線で口縁部直立する。端部外側に尖る。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
297	278	17区	SX1706		須恵器	台付壺	−	(9.60)	−	球形の体部、下半はタタキ成形。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
297	279	17区	SX1706		須恵器	甕	(27.30)	(9.20)	−	内傾する体部から大きく外反する口縁部、端部内外に肥厚する。タタキ成形後カキメ調整。	ロクロナデ、内面ナデ、灰〜灰白。	
297	280	17区	SX1706		須恵器	甕	−	(4.50)	−	外反する口縁部で端部肥厚する。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
297	281	17区	SX1711		土師器	羽釜	(20.20)	(4.00)	−	僅かに内湾する口縁部で端部角張る。鍔は断面三角形で低い。	ヨコナデ後ナデ、にぶい橙。	
297	282	17区	SX1711		土師器	羽釜	(27.00)	(4.90)	−	直立する口縁部で断面台形の鍔が端部直下に付く。砂粒含む。	ヨコナデか？浅黄橙〜橙。	
297	283	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	杯	(13.60)	(2.90)	−	外傾する口縁部で端部尖る。	ナデ仕上げ、口縁部ヨコナデ、橙。	
297	284	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	杯蓋	(16.00)	(2.10)	−	天井部平坦で内湾する体部から端部直になり丸い。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
297	285	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	稜椀	(17.50)	(4.10)	−	内湾する体部下半から稜線を持って外反して丸い端部になる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
297	286	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	杯	(12.00)	4.50	(8.40)	平坦な底部に外傾する口縁部が付く。端部尖りぎみ。やや肥厚する方形の輪高台。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ仕上げ、黄灰。	
297	287	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	杯	12.20	4.40	9.20	水平な底部に丸みのある輪高台が付く。口縁部は外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜暗灰。	自然釉付着。
297	288	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	土師器	甕	(12.70)	(9.20)	−	肩の張る球形の体部から短く外反する口縁部、端部丸い。ユビ成形、砂粒多い。	ナデ調整、口縁部ヨコナデ、にぶい橙。	二次焼成。
297	289	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	須恵器	杯	13.20	4.00	10.15	僅かに内湾する底部から内湾する口縁部。端部やや反って丸い。底部ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	見込み部にヘラ記号。
297	290	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	土師器	マダコ壺	11.40	(13.00)	−	僅かに内湾する長胴の体部で、甘い稜線の頸部に外傾する口縁部。端部上方につまみ出す。	ハケ整形後板ナデ・ナデ、口縁部ヨコナデ、淡橙〜橙。	
297	291	17区(22区)	SR1701	Ⅲ層	土師器	台付鉢	(26.70)	(8.90)	15.20	内湾する体部から口縁部外反する。端部丸い。断面三角の輪高台。	ロクロナデ、橙。	椀か。
298	292	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	土師器	甕	(16.60)	(7.65)	−	内傾する体部から外傾する口縁部になる。角張りぎみで内側に尖る。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、にぶい橙。	
298	293	17区(22区)	SR2201		土師器	鍋	(27.50)	(5.65)	−	内湾する体部から外反する口縁部で、端部丸く僅かにつまみ出す。	ヨコナデ、板ナデ、灰褐〜にぶい黄橙。	
298	294	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	(18.60)	(3.25)	−	内湾する天井部から屈曲して口縁部に続く、端部下につまみ出し丸い。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
298	295	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	杯	(13.80)	3.75	(8.80)	平底から外傾し端部近くで反り端部丸い。僅かに外傾する台形の輪高台で、底部ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
298	296	17区(22区)	SR2201		須恵器	平瓶	−	(5.20)	(14.60)	外側に開く断面方形の輪高台で、体部外傾し稜線を持って内傾する。底部ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
298	297	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	皿	(7.90)	2.10	(12.30)	厚い平底から外反ぎみの口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、底部仕上げナデ、灰〜灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
298	**298**	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	杯	(15.80)	(4.85)	−	外傾し端部丸い。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
298	**299**	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	杯	(13.60)	2.95	(10.00)	平底で内湾ぎみの口縁部、端部丸い。砂粒含む。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
298	**300**	17区(22区)	SR2201	Ⅰ層	須恵器	椀	(19.00)	(7.50)	−	外傾する体部から口縁部になり端部丸い。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
298	**301**	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	台付壺	−	(7.70)	(12.60)	丸みのある底部から内湾する体部で器壁厚い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
298	**302**	17区(22区)	SR2201	Ⅱ層	須恵器	壺	−	(14.20)	−	長胴の算盤玉状で頸部外反する。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
298	**303**	17区(22区)	SR2201 直上	土壌層 (洪水砂礫層より上)	須恵器	高杯	−	(9.20)	(12.00)	外反し端部下方に延びる。杯部底平たい。	ロクロナデ、にぶい橙。	
298	**304**	18区	SK1802		須恵器	蓋	(13.30)	(2.90)	−	内湾する体部で肩部に稜線を持つ。端部内外に肥厚し平坦。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
298	**305**	18区	SD1801		須恵器	杯蓋	(11.00)	(4.10)	−	内湾する体部で頸部の稜線不明瞭口縁部直立ぎみ、端部尖る。ヘラ切り後未調整。	ロクロナデ、灰。	重ね焼の痕跡。
298	**306**	18区	SD1801		須恵器	壺	−	(5.00)	−	内湾する体部で頸部の稜線不明瞭。	ロクロナデ、刺突文帯、灰白。	
298	**307**	18区	SD1806		土製品	土錘	長 (7.50)	幅2.00	厚1.90	断面円形で平面長方形、頭部は張り出さない。ユビ成形。	ナデ、淡黄。	重さ35.7g
299	**308**	19区	SK1905		須恵器	杯蓋	14.10	4.85	−	内湾する体部で天井部も丸い。器壁厚く、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
299	**309**	19区	SK1905		須恵器	杯蓋	(15.40)	5.10	−	平坦な天井部から段状に内湾する。端部は外側に尖らす。	ロクロナデ、ロクロケズリ、青灰。	
299	**310**	19区	SK1905		須恵器	杯蓋	(15.00)	4.50	−	丸みのある天井部から内湾する体部になり、端部外側に尖らす。	ロクロナデ、ロクロケズリ、浅黄。	焼成不良で生焼け。
299	**311**	19区	SK1905		須恵器	杯身	13.00	4.20	−	内湾する体部で受部やや上方に延びる。立ち上がりは外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	底部外面にヘラ記号？
299	**312**	19区	SK1905		須恵器	杯身	(15.40)	4.95	−	平底で体部内湾し器壁厚い。受部は水平で端部丸い。立ち上がりは薄く外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	自然釉付着。
299	**313**	19区	SK1905		須恵器	杯身	(13.30)	5.10	−	平底で内湾する体部から短い受部になる。立ち上がりは直線的で端部丸い。砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
299	**314**	19区	SK1905		須恵器	杯身	13.00	5.10	−	内湾する体部から上方に延びる受部。立ち上がりは大きく外反し、端部角張る。内面に当て具痕。砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	底部外面にヘラ記号。
299	**315**	19区	SK1905		須恵器	杯身	12.40	4.50	−	平底ぎみから内湾する体部、受部短い。立ち上がり薄く外反する。内面に当て具痕。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜黄褐。	
299	**316**	19区	SK1905		須恵器	高杯	(12.90)	(4.05)	−	内湾する体部で受部は短く水平。立ち上がりは外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜暗灰、断面は灰赤。	
299	**317**	19区	SK1905		須恵器	高杯	12.60	8.50	11.80	外反し屈曲して裾部になり端部肥厚する。杯体部は内湾し立ち上がり外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜暗灰。	
299	**318**	19区	SK1905		須恵器	高杯	12.85	8.95	10.15	平坦な杯底部から外傾し、上方に短く延びる受部、立ち上がりは外反する。脚部は外反し端部肥厚する。円孔4ケ所あり。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	
299	**319**	19区	SK1905		須恵器	高杯	12.70	8.50	9.60	器高の高い杯部、内湾する体部で立ち上がり外反する。脚部外反し屈曲して外傾する。端部肥厚する。円孔3ヵ所、内面に当て具痕。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
299	**320**	19区	SK1905		須恵器	高杯	12.90	7.70	10.50	内湾する体部から受部になる。立ち上がりは外反する。脚部は外傾し裾は屈曲して水平に開く。円孔3ヶ所、内面に当て具痕。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
299	**321**	19区	SK1905		須恵器	短頸壺	8.70	8.90	−	半球形の体部下半から内傾し、短く直立する口縁部、端部丸い。ヘラ切り後ナデ。	ロクロナデ、灰〜青灰。	
299	**322**	19区	SK1905 東側小口部		須恵器	甕	−	(23.00)	−	不安定な平底から倒卵形の体部。タタキ。	灰。	
299	**323**	19区	SX1901	被覆洪水砂礫中	須恵器	壺	(20.70)	(3.10)	−	外傾し折り返して端面となる。	ロクロナデ、灰。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
299	**324**	19区	SX1904 (SD1905)		弥生土器	広口壺	(15.00)	(32.50)	8.00	胴の張った体部を持ち、屈曲して開く頸部から外反して下方に垂下する口縁部を持つ。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはヨコヘラミガキを施す。端部外面上下端にヘラ刻み目を施し2個1組の円形浮文を5方に貼付する。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。体部外面はハケ、上半に櫛描直線文と波状文をそれぞれ3帯施す。下半部にはヘラミガキを施し、内面はハケを施す。	体部下半に焼成後穿孔を施す。
299	**325**	19区	SX1904 (SD1905)		弥生土器	壺	(9.40)	(11.80)	5.50	小型・長胴の体部から外反して開く口縁部を持つ。端部はわずかに肥厚される。	口縁部ヨコナデ、体部内面ユビナデ、外面ハケ調整の後、中位に櫛状工具の刺突痕を巡らせ、以下に粗いヘラミガキを施す。	
300	**326**	19区	SR1901	上層	土師器	杯蓋	(22.60)	(2.20)	−	内湾する天井部・口縁部で端部反る。	橙〜浅黄橙。	
300	**327**	19区	SR1901	上層	土師器	杯	(13.60)	2.90	−	丸底ぎみで、明瞭な稜線を持たずに外傾する口縁部に続く。端部は丸く反らす。	ロクロナデ、橙。	
300	**328**	19区	SR1901	上層	土師器	椀	−	(2.60)	(9.40)	内湾する体部。高台は高く断面三角形。砂粒含む。	橙〜灰黄。	
300	**329**	19区	SR1901	上層	土師器	皿	(19.80)	1.90	(15.80)	平底から内湾する口縁部に、端部丸い。	内外面ともヘラミガキ、内面は暗文か。明赤褐〜浅黄橙。	
300	**330**	19区	SR1901	中層	土師器	杯	(13.60)	3.20	(8.50)	平底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。砂粒含む。	ロクロナデ、橙。	
300	**331**	19区	SR1901	中層	土師器	皿	(14.70)	1.25	(11.00)	歪な平底から外反する口縁部になる。端部反りぎみで丸い。ユビ成形。	ナデ、橙。	
300	**332**	19区	SR1901	中層	土師器	甕	(13.00)	(4.50)	−	如意状のくの字口縁で端部丸い。砂粒含む。	内面ハケ整形、口縁部ヨコナデ、明赤褐。	
300	**333**	19区	SR1901	上層	須恵器	脚台	−	(1.25)	(9.90)	屈曲する裾部で端部は肥厚する。円孔あり(数不明)。	ロクロナデ、灰。	
300	**334**	19区	SR1901	上層	須恵器	稜椀蓋	(16.20)	3.30	(8.80)	口径の大きいつまみ部で僅かに内湾し、端部肥厚する。天井部は平たくヘラ切りで外傾する。体部から端部反る。	ロクロナデ、灰白。	
300	**335**	19区	SR1901	上層	須恵器	杯蓋	(17.80)	(3.10)	−	平坦な天井部からは屈曲する口縁部になる。端部は内側につまみ出し丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	転用硯。
300	**336**	19区	SR1901	上層	須恵器	杯	(12.80)	2.60	(10.00)	平底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、内面仕上げナデ、灰白。	
300	**337**	19区	SR1901	中層	須恵器	杯	(13.40)	2.60	(9.00)	平坦な底部から外傾する口縁部になる。端部外側に尖らす。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	火襷あり。
300	**338**	19区	SR1901	上層	須恵器	杯	(14.20)	2.60	(10.60)	平坦な底部から外傾する口縁部になる。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
300	**339**	19区	SR1901	中層	須恵器	杯	−	(4.00)	(9.70)	平底から内湾する体部で、稜線を持って外傾して口縁部に続く。外傾し端部肥厚する高台で、底部はヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
300	**340**	19区	SR1901	上層	須恵器	皿	(16.50)	2.70	12.30	平たい底部で、口縁部は外傾し端部丸い。高台は方形で端部僅かに肥厚する。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白。	
300	**341**	19区	SR1901	中層	須恵器	皿	(24.30)	(2.10)	−	底部やや口縁部側に上がり、口縁部短く外傾する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
300	**342**	19区	SR1901	中層	須恵器	蓋	(21.20)	5.10	9.20	低く断面台形の輪高台状のつまみ部で、外傾し端部大きく反る。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
300	**343**	19区	SR1901	下層 黒褐シルト	須恵器	脚台	−	3.60	11.80	脚部外傾し屈曲する裾部になる。端部肥厚する。3方透孔あり。	ロクロナデ、灰。	
300	**344**	19区	SR1901	上層	須恵器	壺	(10.30)	(7.30)	−	外反する口縁部で、端部開いて内外に肥厚する。頸部は水平に開く。	ロクロナデ、灰。	
300	**345**	19区	SR1901	中層上半	須恵器	甕	(20.50)	(6.90)	−	内傾する体部から稜線甘い頸部で、外傾する口縁部になる。端部肥厚する。体部タタキ成形。	ロクロナデ、灰〜褐灰。	
300	**346**	19区	SR1901	中層	須恵器	甕	−	(6.40)	−	僅かに外反する口縁部で、端部内側につまみ出す。	ロクロナデ、灰白。	
300	**347**	19区	SR1901	中層	土製品	土錘	長4.75	幅1.00	厚1.00	手づくね。	にぶい黄橙〜褐灰。	重さ5.3g
300	**348**	20区	SK2005		土師器	甕	(33.60)	(6.00)	−	直立する体部から外傾する口縁部。端部角張り、端面に沈線。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、浅黄橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
300	349	20区	SK2005		須恵器	杯蓋	(11.70)	3.40	−	丸い天井部で口縁部外傾し、端部丸い。ヘラ切り後未調整。歪みあり。	ロクロナデ、灰白。	
300	350	20区	SK2008		須恵器	杯蓋	−	(1.95)	−	内湾する天井部に中央の窪んだつまみ部が付く。	ロクロナデ、ナデ、灰白～青灰。	
300	351	20区	SX2002		須恵器	杯	(10.80)	3.10	(7.60)	内湾する体部で端部やや反る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
301	352	21区	SR2101 北半		土師器	皿	(22.50)	2.80	(18.20)	僅かに内湾する底部から外傾する口縁部に、端部肥厚する。高台は逆台形の低いもの。ヘラ切り。	ナデ、ミガキ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
301	353	21区	SR2101 北半		土師器	甕	(26.40)	(6.70)	−	直立する体部から外傾し、端部上につまみ出す。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
301	354	21区	SR2101		須恵器	杯蓋	(18.60)	(1.80)	−	平たい天井部で、内湾して端部下方につまみ出す。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白～褐灰。	自然釉付着。
301	355	21区	SR2101 北半		須恵器	杯身	(13.70)	3.20	(11.10)	平底から外傾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
301	356	21区	SR2101 北半		須恵器	皿	(14.70)	2.10	(11.20)	平底から外傾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、浅黄～橙。	生焼け。
301	357	21区	SR2101 北半		須恵器	皿	(17.60)	2.10	(15.40)	やや歪な平底から外傾する口縁部。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白～にぶい黄橙。	
301	358	21区	SR2101 北半		須恵器	壺	−	(10.70)	(12.80)	平底から外傾する体部。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	
301	359	21区	SR2101		須恵器	壺	−	(10.60)	(12.40)	平底から内湾する体部下半になる。稜線を有して肩部に続く。高台は短く外側に開く台形。	ロクロナデ、灰白～暗灰。	自然釉付着。
301	360	21区	SR2101 北半		須恵器	甕	(15.90)	(6.40)	−	内傾する体部から外反する口縁部になる。端面となり角張る。体部タタキ。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
301	361	21区	SR2101 北半		須恵器	甕	(28.00)	(8.30)	−	僅かに内湾する体部から外反する頸部、口縁端部は屈曲し端部方形。タタキ。	ロクロナデ、灰。	
301	362	22区	SK2201		弥生土器	直口壺	10.80	27.80	5.80	やや長胴の体部から、緩やかに外傾気味に立ち上がる口縁部を持つ。	剥離が著しく調整不明。	
301	363	22区	SD2201		土師器	杯	(12.80)	(3.40)	(7.40)	平底から外反ぎみに外傾する口縁部で、端部丸い。	表面磨滅、橙。	
301	364	22区	SD2201	最上層	土師器	皿	(15.90)	3.00	(8.60)	平坦な底部から内湾する体部になり、端部尖る。	浅黄橙～にぶい橙、表面磨滅。	
301	365	22区	SD2201		須恵器	杯蓋	(13.60)	2.60	−	平たい天井部から内湾し端部直立する。つまみは低い宝珠で扁平。	ロクロナデ、灰～灰白。	
301	366	22区	SD2201 西肩	灰褐土(礫混じり)	須恵器	杯蓋	(19.80)	(1.85)	−	内湾する天井部から屈曲して下に短く延びる。端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
301	367	22区	SD2201 西肩	最上層	須恵器	皿	(18.80)	2.90	(17.20)	丸みのある底部で口縁部外傾する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	重ね焼の痕跡。
301	368	22区	SD2201		土師器	甕	(13.70)	(5.70)	−	球形の体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部。端部を上方に引き上げる。	ハケ整形後ナデ、口縁部ヨコナデ、橙。	
301	369	22区	SD2201 西肩	灰褐土(礫混じり)	須恵器	皿	(14.70)	2.40	(7.40)	平たい底部からS字状に屈曲し端部丸い。高台は外側にやや開く台形。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ、灰白。	
301	370	22区	SD2201		須恵器	壺蓋	(12.20)	(2.40)	−	内湾する天井部に直立する口縁部で、端部やや肥厚する。	ロクロナデ、灰白。	
301	371	22区	SD2201	最上層	須恵器	椀	(15.40)	5.85	8.10	平底から内湾する体部で、端部やや反る。外側に開く輪高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、高台貼り付けナデ。	
302	372	22区	SD2202		須恵器	椀	(18.00)	(4.45)	−	僅かに内湾する体部で端部反る。	ロクロナデ、灰白。	
302	373	22区	SD2204 (SD1704)		須恵器	椀	(14.60)	5.00	6.70	ベタ高台でヘラ切り。内湾する体部で端部丸い。	ロクロナデ、にぶい褐～黄灰。	生焼け。
302	374	22区	SD2204 (SD1704)		土師器	羽釜	(26.00)	(4.80)	−	外傾する口縁部で端部角張る。端部下に断面長方形の鍔が付く。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、灰黄褐。	
302	375	23区	SK2302		弥生土器	広口壺	(14.00)	(6.50)	−	外反して開く口縁部で、端部を上下に肥厚する。	口縁ヨコナデ、肩部外面ヘラミガキ、2帯の櫛描き直線文を巡らせる。内面はナデ。	
302	376	23区	SX2301		埴輪	円筒(朝顔)	(42.50)	(11.20)	−	外反し端部角張り、外側に僅かに肥厚する。粘土紐継ぎ目明瞭、タガ付く。	縦方向のハケ整形、口縁部内面は横方向で仕上げる灰白～褐灰、砂粒含む。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
302	377	23区	SX2302		須恵器	杯	(12.40)	3.85	(10.00)	歪んだ平底から薄く外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、青灰～灰白。	
302	378	23区	SX2302		埴輪	円筒	－	(18.70)	23.10	外傾し端部角張る。内面粗いユビ成形、低いM字形のタガ付く。	縦方向の粗いハケ整形、突帯周辺はナデ仕上げ、砂粒含む。灰白。	石見型盾の脚台か。
302	379	23区	SD2301		弥生土器	甕	－	(4.60)	(6.60)	やや上げ底状を呈する。	外面ヘラミガキ？、内面一部に工具痕。	
302	380	23区	SD2301		弥生土器	高杯	－	－	－	僅かに外反する。砂粒含む。内面ケズリ。	外面ヘラミガキ、灰白～橙。	
302	381	24区	SD2404		須恵器	甕	－	(8.60)	－	外傾し端面となる。	ロクロナデ、波状文帯2帯、灰～灰白。	
302	382	25区	SB2502 P009		弥生土器	高杯	(19.20)	(3.25)	－	口縁内面に突帯をめぐらし、やや下降気味に外方へ大きく張り出す。端部はわずかに肥厚される。	風化顕著で調整不明。	
302	383	25区	SB2502 P007		弥生土器	壺	－	(4.65)	(8.00)	安定した平底。	外面ヘラミガキ、内面不明。	
302	384	25区	SK2502		弥生土器	(底部)	－	(3.80)	(6.10)	やや不安定な平底から体部が大きく開く。	風化顕著で調整不明。	
302	385	25区	SK2502		弥生土器	(底部)		(4.00)	(7.20)	平底。	風化顕著で調整不明。	
302	386	25区	SK2502		弥生土器	壺	－	12.30	7.30	ほぼ球形の体部、安定した平底。	外面ヘラミガキ、内面不明。	
302	387	25区	SK2501		縄文土器	鉢	－	(2.80)	－	わずかに肥厚されて開く口縁部。	風化顕著で調整不明。	
303	388	26区	SB2608 P208		須恵器	杯	(13.80)	3.30	(10.70)	平底から外傾する口縁部で、端部内側に尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
303	389	26区	SB2609 P018		土師器	杯	(14.30)	3.30	(10.20)	平底から外反ぎみの口縁部で、端部丸く肥厚する。	ロクロナデ、内面ミガキ、橙。	
303	390	26区	SB2615 P069		須恵器	杯	(12.70)	4.10	9.70	平底から外傾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白。	
303	391	26区	SB2615 P064		須恵器	杯	(14.00)	3.85	(10.80)	厚い平底から外傾する口縁部で、端部外側に尖る。	ロクロナデ、ナデ、灰白～灰。	
303	392	26区	SB2615 P063		須恵器	杯	(11.80)	(2.80)	－	僅かに外反する口縁部で端部丸い。砂粒やや多い。	ロクロナデ、暗灰～灰、断面赤褐。	
303	393	26区	SB2615 P071		須恵器	杯	－	(3.10)	(10.00)	湾曲する底部から体部、高台は方形。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	
303	394	26区	SB2617 P105		須恵器	杯蓋	(18.00)	(1.70)	－	外傾し端部下につまみ出す。	ロクロナデ、自然釉、灰～灰白。	
303	395	26区	SB2617 P105		土師器	椀	－	(3.40)	－	内湾する口縁部で端部細く尖る。	ヨコナデ、明褐～黒褐、暗文。	
303	396	26区	SB2617 P106		土師器	イイダコ壺	－	(7.20)	－	円形の把手で断面は方形、内湾する体部。ユビ成形。	ナデ、灰白～にぶい黄橙。	
303	397	26区	SB2619 P191		須恵器	杯	(14.00)	(4.40)	(11.20)	僅かに外反する口縁部で端部丸い。輪高台は内側に向く。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～褐。	外面に有機質付着。
303	398	26区	P012		須恵器	蓋	13.85	2.35	－	内湾する天井部から、外傾して内外に肥厚する端部になる。つまみは平坦でボタン状。	ロクロナデ、内面仕上げナデ、灰。	
303	399	26区	P012		土師器	甕	(15.60)	(6.25)	－	内湾する体部から外反する口縁部、端部丸い。	ハケ整形、灰黄褐。	
303	400	26区	P012		土師器	甕	(26.00)	(14.50)	－	僅かに内湾する体部から内湾ぎみの口縁部、端部角張る。砂粒多く含む。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、にぶい黄褐。	
303	401	26区	P024		土師器	イイダコ壺	－	(6.20)	－	ユビ成形。	ナデ、ヨコナデ。	
303	402	26区	P062		土師器	甕	(21.30)	(3.70)	－	体部内傾し器壁厚く、口縁部外反する。端部内外に肥厚。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、褐灰～灰白。	
303	403	26区	P254		土師器	杯	(17.80)	4.75	(7.60)	内湾する体部で口縁端部反って丸い。砂粒含む。	表面磨滅、橙～灰白。	
303	404	26区	P261		須恵器	杯	(11.40)	3.10	(5.50)	平底から内湾する体部で口縁部外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
304	405	26区	SK2601		須恵器	台付長頸壺	－	(18.30)	15.10	平底から内湾する体部下半、輪高台は高く外側に開き端部肥厚する。稜線を持って体部上半は内傾する。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、肩部に刺突文帯・沈線あり。灰白。	
304	406	26区	SK2603		土師器	椀	(13.40)	4.00	－	内湾する底部から体部、端部丸い。	ハケ整形後ナデ・ケズリ、端部ヨコナデ、内面ミガキ、にぶい黄褐。	
304	407	26区	SK2607		土師器	甕	(25.00)	(3.80)	－	内傾する体部から外反する口縁部で端部肥厚する。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
304	408	26区	SD2603		須恵器	瓏	−	8.50	4.60	扁平な球形で頸部は外反ぎみ。円孔あり。	ロクロナデ、灰〜灰白。	自然釉付着。
304	409	26区	SD2613 南半		須恵器	杯	(12.80)	2.75	(8.40)	平底から外傾する口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
304	410	26区	SD2613 南半		須恵器	高杯	−	(3.80)	(10.50)	外反する裾部で端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
305	411	26区	SX2604		弥生土器	直口壺	(11.50)	(4.50)	−	ほぼ直立して立ち上がる口縁部。端部を肥厚する。	内外面ヨコナデ、外面に3帯の断面三角形突帯を貼り付ける。	
305	412	26区	SX2604		弥生土器	広口壺	(15.10)	7.45	−	外反気味に大きく開く口縁部。	口縁ヨコナデ、頸部外面ハケメの後3帯の断面三角形突帯を貼り付ける。	
305	413	26区	SX2604		弥生土器	壺	−	(10.50)	−	球形体部の上半部分。	外面ハケメの後、櫛描き直線文と波状文を各3帯交互に施す。	
305	414	26区	SX2604		弥生土器	甕	(19.80)	(3.25)	−	くの字状に屈曲して開く口縁部を持つ。	風化顕著で調整不明。	
305	415	26区	SX2604		弥生土器	甕	(14.40)	(9.60)	−	くの字状に屈曲して開く口縁部を持つ。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面上半ハケメ、下半ナデ。	
305	416	26区	SX2604		弥生土器	甕	(31.70)	(8.25)	−	くの字状に屈曲して開く口縁部、端部を肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
305	417	26区	SX2604		弥生土器	(底部)	−	(8.85)	(12.00)	大型の平底。	外面ハケメ、内面調整不明。	
305	418	26区	SX2604		弥生土器	蓋	(24.60)	(7.00)	−	大きく外反して開く口縁部、端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面ヘラミガキ、内面ハケメ。	内面口縁端部に輪状に煤付着。
305	419	26区	SX2604		弥生土器	高杯	−	(22.60)	13.70	一体成形により中央を絞り円盤充填する。脚部は外反して開き、端部を上方に引き上げる。	外面ハケメ後ヘラミガキ、内面杯部ハケメ後ヘラミガキ、脚部ハケメ、脚端部ヨコナデ。	
305	420	26区	SX2604		弥生土器	甕	−	(4.80)	(4.95)	わずかに中央部の窪む平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
305	421	26区	SX2604		弥生土器	鉢	(15.40)	13.00	7.60	平底、内湾気味に立ち上がる体部。	外面ヘラミガキ、内面ユビオサエ。	
305	422	26区	SX2605		弥生土器	(底部)	−	(5.50)	4.20	わずかに中央部の窪む平底。	内外面板ナデ。	
305	423	26区	SX2608		弥生土器	(底部)	−	(6.85)	(8.00)	平底。	風化顕著で調整不明。	底面中央に焼成後穿孔を施す。
306	424	26区	SR2601 北		弥生土器	短頸壺	(35.00)	(4.90)	−	外反して大きく開く口縁部。端部を肥厚する。	頸部外面にハケ調整痕、指頭圧痕文突帯を巡らせる。内面は調整不明。	
306	425	26区	SR2601 北		土師器	高杯	−	(6.90)	(11.30)	外反する裾部で端部角張る。内面ヘラケズリ。	外面ハケ整形後ヘラミガキ、橙。	
306	426	26区	SR2601 南		須恵器	蓋	(11.00)	(3.70)	−	内湾する天井部から外傾する口縁部、端部尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
306	427	26区	SR2601 北		須恵器	瓏	(18.00)	(3.90)	−	外反する頸部から外傾し肥厚して面になる。端部丸い。	ロクロナデ、暗灰〜灰白。	自然釉付着。
306	428	26区	SR2601 南		土師器	甕	−	(4.50)	−	内傾する体部から外反する口縁部で端部角張る。砂粒多い。	ヨコナデ、明黄褐〜褐灰。	
306	429	26区	SR2601 北		須恵器	瓏	(10.70)	(4.00)	−	外反する頸部から外傾し肥厚して面になる。端部丸い。	ロクロナデ、沈線2条、灰〜暗灰。	
306	430	26区	SR2601 北		土師器	鍋	(31.60)	(7.50)	−	内湾する体部から外反し端部上方につまみあげる。砂粒多い。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、浅黄橙口縁部ヨコナデ、橙。	
306	431	26区	SR2601 北		須恵器	横瓶	(9.20)	(9.00)	−	内湾する体部から外反し端部近くで直立する口縁部、端部角張る。タタキ。	ロクロナデ、灰〜暗緑灰。	自然釉付着。
306	432	26区	SR2601		須恵器	杯	(13.70)	(3.50)	(11.50)	平たい底部から内湾ぎみに外傾する口縁部、端部尖る。高台は低く外に広がる。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白〜灰。	
306	433	26区	SR2601 南		土師器	壺	(13.90)	(7.40)	−	内湾する体部から外反し、端部角張り僅かに肥厚する。砂粒含む。ユビ成形。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、灰〜褐灰。	
306	434	26区	SR2601		土師器	甕	(11.40)	(4.30)	−	内傾する体部から外反する口縁部で、端部肥厚する。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、浅黄橙。	
306	435	26区	SR2601 南		土師器	竈	−	−	−	直立ぎみで把手は中空で、体部に突き刺すように付加。突帯が付く。ユビ成形。砂粒多い。	ハケ整形。にぶい橙〜橙。	
306	436	26区	SR2601 南		土師器	イイダコ壺	−	(8.30)	−	方頭で裾広がりになる。ユビ成形、砂粒多い。	ナデ、橙。	
307	437	27区	SX2701		土師器	甕	(29.00)	(7.50)	−	直立する体部から外反する口縁部、端部尖る。	口縁部ヨコナデ、浅黄橙。	
307	438	27区	SR2701		土師器	鍋	(35.40)	(8.10)	−	内湾する体部から外反する口縁部、端部上方につまみ出す。	ハケ整形、ヨコナデ、ナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
307	439	27区	SR2701		土師器	高杯	(15.00)	(5.00)	−	内湾する杯部で端部外側に尖らす。	ヨコナデ、ヘラミガキ、浅黄橙。	
307	440	27区	SR2701		土師器	高杯	(15.00)	(11.00)	(11.60)	内湾する杯部で裾部は外反し端部丸い。内面に絞り目、胎土精良である。	ナデ、浅黄橙。	
307	441	27区	SR2701		須恵器	杯	9.60	3.30	−	内湾する底部から口縁部、端部丸い。砂粒やや多い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	底部外面にヘラ記号？
307	442	27区	SR2701		須恵器	杯	(10.00)	3.30	(6.60)	厚い平たい底部から外傾する口縁部になり端部丸い。ヘラ切り。砂粒多い。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
307	443	27区	SR2701		須恵器	高杯	−	(10.30)	(11.40)	外反する裾部で端部直立し丸い。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
307	444	27区	SR2701		須恵器	甕	(27.40)	(7.70)	−	外傾する口縁部で端部肥厚する。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
307	445	27区	SR2701		須恵器	甕	(23.00)	(15.90)	−	内湾する体部から外反する口縁部、端部角張り肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、灰白。	
307	446	27区	SR2702		須恵器	杯	(9.70)	5.20	(7.10)	平底から外傾する口縁部、端部丸い。外側に開く高台。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜暗オリーブ灰。	
308	447	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	広口壺	(13.60)	(0.90)	−	大きく外反してほぼ水平に開く口縁部。端部を上下に肥厚する。	内外面ヨコナデ、端面にヘラ状工具による斜行刻み目がめぐり、小円孔が1個残存する。	
308	448	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	広口壺	18.80	(7.60)	−	筒状の頸部から外反して大きく開く口縁部。端部を肥厚し、垂下する。	口縁ヨコナデ、端面にヘラ描き斜格子文を施す。頸部外面ハケメ、下端に3帯の断面三角形突帯を貼り付ける。	
308	449	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	受口壺	(32.00)	(15.30)	−	外反して開き途中屈曲気味に立ち上がる口縁部。端部を水平に肥厚する。	口縁ヨコナデ、以下調整不明。頸部下端に指頭圧痕突帯を巡らせる。	
308	450	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	壺	−	(9.20)	(12.20)	平底。	風化顕著で調整不明。	
308	451	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	甕	(18.00)	(14.70)	−	倒卵状の体部から屈曲して開く口縁部。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面調整不明。	
308	452	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	甕	(16.30)	25.40	5.60	倒卵形の体部からくの字状に屈曲して外方に開く口縁部を持つ。	剥離が著しく調整不明。	体部外面一部に煤の痕跡。底部中央に焼成後穿孔。
308	453	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	甕	(22.00)	(3.10)	−	くの字状に屈曲して開く口縁部。端部を肥厚する。	口縁部ヨコナデ、体部外面一部にハケメ残存。	
308	454	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	甕	(21.80)	(9.70)	−	器壁薄く、内湾する体部から外反する口縁部になり端部丸い。	磨滅のため調整不明。浅黄橙。	
308	455	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	壺	−	(2.00)	(7.60)	平底。	外面ヨコナデ、内面ナデ。	外面一部に有機物付着。
308	456	28区	SH2801 下層土坑		弥生土器	高杯	−	(8.65)	(10.30)	緩やかに外反して開く脚部、端部を内側に肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
308	457	28区	SB2801 P008		土師器	甕	(18.10)	(4.65)	−	内傾する体部から外反する口縁部、端部内外に肥厚。	ハケ整形、ヨコナデ、浅黄橙〜橙。	
308	458	28区	SB2802 P007		土師器	高杯	(16.60)	(4.10)	−	外傾し僅かに外反する口縁部で、端部外側に尖らす。	ロクロナデ、にぶい黄橙。	杯か。
308	459	28区	SB2803 P037		須恵器	高杯	−	(1.25)	(10.00)	外反し端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、灰白。	
308	460	28区	SB2803 P036		須恵器	円面硯	−	(3.20)	−	外傾する。方形透孔あり。ケズリ。	ロクロナデ、灰白。	
308	461	28区	SB2804 P060		須恵器	杯蓋	(10.80)	3.40	−	内湾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
308	462	28区	SB2806 P082		弥生土器	甕	(44.00)	(6.25)	−	くの字状に屈曲して開く口縁部を持つ。直線的で端部角張る。	磨滅のため調整不明。橙〜浅黄橙。	
308	463	28区	SB2806 P082		土製品	土錘	長7.90	幅2.05	厚1.80	平面長方形で両側に円孔あり。断面は円形。	ナデ、灰白。	重さ37.0g
309	464	28区	SB2802 P002		須恵器	杯身	(11.80)	(3.50)	(6.00)	内湾する底部から体部で口縁部は外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰黄〜灰白。	
309	465	28区	SB2802 P004		須恵器	高杯	(13.70)	(3.75)	−	内湾し端部尖る。段を有す。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
309	466	28区	SB2802 P007		須恵器	甕	(33.00)	(4.70)	−	外傾し端部外側に大きく肥厚し端面となり沈線を持つ。	ロクロナデ、沈線、カキメ後2本単位の斜線を施文。灰〜灰白。	
309	467	28区	P021		土師器	椀	(15.40)	(5.90)	−	内湾し端部外反し尖る。ユビ成形。	外面ハケ、口縁部ヨコナデ、灰白〜橙。	
309	468	28区	SB2802 P038		須恵器	(口縁)	(8.30)	2.95	−	外傾し端部やや反り尖る。	ロクロナデ、灰白〜灰。	自然釉付着。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
309	469	28区	P054		弥生土器	高杯	－	(10.00)	(15.50)	外反して開く脚部。端部を肥厚する。	外面ヘラミガキ、内面ナデ。	
309	470	28区	P063		弥生土器	甕	(20.60)	(7.60)	－	くの字状に屈曲して開く口縁部を持つ。	口縁ヨコナデ、体部外面ハケメ、内面調整不明。	
309	471	28区	P068		弥生土器	広口壺	(20.50)	(1.40)	－	大きく外反してほぼ水平に開く口縁部。端部を肥厚する。	端面に波状文の施文？後円形浮文を貼り付ける。内面にも円形浮文を貼り付けるが小片のため、それぞれ残存は2個。	
309	472	28区	P080		弥生土器	脚台	－	(5.00)	9.00	ハの字状に開く低い脚台。	体部内面ナデ、工具痕が残る。脚部は強いユビナデにより付加される。脚端部ヨコナデ。	
309	473	28区	SB2807 P085		弥生土器	無頸壺	(26.60)	(10.75)	－	球形の体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部。端部を内側に肥厚する。	口縁ヨコナデ、頸部に指頭圧痕文突帯を巡らせる。肩部に櫛描き直線文2帯・波状文1帯を交互に施す。内面ケズリの後ナデ。	
309	474	28区	P095		土師器	甕	(21.10)	(8.55)	－	内湾する体部から僅かに外反する口縁部、端部角張る。ユビ成形。	ハケ整形後ナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい橙～褐灰。	
309	475	28区	P095		須恵器	鉢	(13.00)	(3.70)	－	内湾する体部から屈曲し外傾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
309	476	28区	P095		須恵器	高杯？	(9.80)	(3.90)	－	内湾する体部から外傾し端部丸い。	ロクロナデ、灰～灰白。	
309	477	28区	P095		須恵器	(脚部)	－	(1.10)	(13.00)	外反し端部上方に延びる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	
309	478	28区	P095		須恵器	蓋	(12.70)	4.15	－	内湾する天井部から口縁部になり、端部薄く丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	
309	479	28区	P095		須恵器	高杯	11.65	7.45	(9.60)	外反する脚部で端部肥厚、杯部は内湾し受部短く丸い。立ち上がりは薄く外反する。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	生焼け。自然釉付着。
309	480	28区	P095		須恵器	杯身	(13.80)	(2.30)	－	外傾する体部で受部も延びる。立ち上がり短く外反する。	ロクロナデ、灰。	生焼け。
309	481	28区	P103		須恵器	蓋	(10.85)	3.65	－	内湾し口縁部直立ぎみで端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
310	482	28区	SK2801		弥生土器	直口壺	(16.40)	(8.60)	－	わずかに外傾して立ち上がる口縁部。端部を水平に肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面頸部下端に指頭圧痕文突帯を巡らせる。内面にハケメ。	
310	483	28区	SK2801		弥生土器	(底部)	－	(7.55)	7.80	中央がわずかに窪む平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
310	484	28区	SK2801		弥生土器	(底部)	－	(4.70)	8.80	中央がわずかに窪む平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
310	485	28区	SK2801		弥生土器	(底部)	－	(9.30)	7.80	平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
310	486	28区	SK2801		弥生土器	甕	(27.30)	(37.00)	8.40	倒卵形の体部から、くの字状に屈曲して開く口縁部。端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面下半ヘラミガキ、内面ナデ。	図上復原。
310	487	28区	SK2801		須恵器	長頸壺	(9.20)	7.75	－	緩やかに外反する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、沈線、灰白。	自然釉付着。
310	488	28区	SK2801		須恵器	短頸壺	(16.70)	(3.70)	－	内傾する体部から直立する口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、灰～灰白。	
310	489	28区	SK2802		弥生土器	(底部)	－	(6.80)	9.85	中央がわずかに窪む平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
310	490	28区	SK2804		須恵器	杯	(10.80)	(2.30)	－	内湾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
310	491	28区	SK2804		土師器	皿	－	(2.40)	－	内湾する口縁部で端部外側につまみ出す。	ヨコナデ、ヘラミガキ、橙。	
310	492	28区	SK2804		土師器	皿	－	(2.70)	－	内湾する口縁部で端部外側につまみ出す。	ヨコナデ、ヘラミガキ、橙～浅黄橙。	
310	493	28区	SD2805		須恵器	短頸壺蓋	(9.80)	(2.40)	－	内湾し端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、灰白～暗灰。	自然釉付着。
310	494	28区	SD2805		須恵器	杯身	(10.90)	2.90	－	緩やかに内湾する体部で受部は水平で丸く、立ち上がりは内傾する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
310	495	28区	SD2805		須恵器	杯身	(10.20)	3.00	－	平底から内湾する体部で受部は水平、立ち上がりは短く外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
310	496	28区	SD2805		須恵器	杯身	(11.00)	4.00	(6.40)	平底から内湾する体部で受部は水平、立ち上がりは短く外反する。	ロクロナデ、浅黄橙。	
310	497	28区	SD2805		須恵器	甕	(29.60)	(8.70)	－	緩やかに屈曲しつつ外傾し、端部角張りつつ外側に開く。	ロクロナデ、沈線、灰～暗灰、断面灰赤。	自然釉付着。
310	498	28区	SD2807		須恵器	杯身	(11.80)	(3.75)	(5.50)	内湾する口縁部で端部尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、沈線、灰白～青灰。	自然釉付着。
310	499	28区	SD2810		須恵器	杯	(13.80)	(3.70)	(9.60)	平底から外反する口縁部で端部尖る。高台は方形で外側向き。ヘラ切り。	ロクロナデ、青灰。	
310	500	28区	SD2810		土製品	土馬	長(8.20)	幅3.70	厚3.00	断面円形で手づくね。	にぶい黄橙。	
310	501	28区	SD2810		土製品	土錘	長8.75	幅2.80	厚2.40	やや大きめで両側に円孔を持つ。断面円形。	灰黄褐。	重さ77.4g

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
310	502	28区	SD2812		弥生土器	(底部)	−	(4.00)	(9.70)	中央がわずかに窪む平底。	外面ヘラミガキ、内面調整不明。	
311	503	28区	SX2804		須恵器	杯蓋	(12.10)	4.40	−	内湾する体部で端部丸く、器壁厚い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
311	504	28区	SX2804		須恵器	杯身	11.30	3.60	−	内湾する体部で受部短く外反する。立ち上がりも外反。	ロクロナデ、灰。	自然釉付着。
311	505	28区	SX2804		須恵器	杯身	11.50	4.10	−	内湾する底部から外傾し、受部に続き端部丸い。立ち上がりは短く外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白。	
311	506	28区	SX2804		須恵器	杯身	(10.80)	4.00	(5.40)	平底から内湾する体部で、水平に短く延びる受部で端部丸い。立ち上がりは短く外反する。	ロクロナデ、灰白。	
311	507	28区	SX2804		須恵器	椀	12.20	6.20	−	器高高く、内湾する底部から外傾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、沈線、灰。	
311	508	28区	SX2804		須恵器	椀	(10.70)	5.20	−	内湾する体部から直立ぎみに延び端部外側に尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、褐灰。	
311	509	28区	SX2804		須恵器	盤か皿	(20.60)	(3.70)	−	内湾し端部外側に尖る。	ロクロナデ、橙。	生焼け。
311	510	28区	SX2804		須恵器	器台	−	(5.30)	(13.20)	外反し端部近くは内湾し端部角張り肥厚する。透孔１ヶ所あり。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
311	511	28区	SX2804		須恵器	脚台	−	(3.80)	11.20	外反する裾部で端部角張る。	ロクロナデ、灰白。	
311	512	28区	SX2804		土師器	竈	(35.50)	21.50	−	庇は内湾し、外面にタガ回る。ユビ成形。	ハケ整形、灰白。	
311	513	28区	SX2804		土師器	竈	−	(23.25)	−	ユビ成形、僅かに外反する庇。	ナデ、にぶい黄橙。	
311	514	28区	SX2808		須恵器	杯身	(10.70)	4.25	(5.20)	不安定な平底から内湾する口縁部、端部丸く外反ぎみ。ヘラ切り。	ロクロナデ、黄灰。	
311	515	28区	SX2809		須恵器	杯	(16.40)	4.20	(11.70)	平底から外傾する口縁部、端部尖る。外側に開く断面台形の高台。	ロクロナデ、灰白。	
312	516	28区	SR2801	黒	弥生土器	(底部)	−	(4.35)	5.80	やや上げ底になる平底から外反する体部。	外面タタキ、内面板ナデ、にぶい黄橙〜灰黄褐。	
312	517	28区	SR2801	最下層 灰礫	弥生土器	広口壺	13.80	(26.00)	(4.40)	球形の体部から屈曲・外反して立ち上がる口縁部。端部を下方に肥厚する。	口縁ヨコナデ、外面ヘラミガキ？内面肩部ユビ成形後板ナデ、底部ハケメ。	図上復原。
312	518	28区	SR2801	黒シルト	土師器	壺	(15.30)	(8.60)	−	内湾する体部から二重口縁部になる。外傾から外反し端部丸い。刻み目あり。	ヨコナデ、にぶい黄橙。	図上復原。
312	519	28区	SR2801	最下層 灰礫	土師器	高杯	−	(12.00)	(16.00)	外反する裾部で端部角張る。２段の円形透孔、絞り目、円板充填。	ヘラミガキ、浅黄橙〜にぶい橙。	
312	520	28区	SR2801	黒シルト	土師器	甕	(13.60)	(5.70)	−	緩やかに内湾する体部から明瞭な頸部を持たずに外傾し、端部丸く反る。	ハケ整形、ヨコナデ、橙〜淡赤橙。	二次焼成。
312	521	28区	SR2801	黒シルト	土師器	円筒形土器	(15.40)	(9.30)	−	直立し口縁部は外反する。端部中央が窪み内外に肥厚する。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙〜暗灰。	黒斑あり。
312	522	28区	SR2801	黒シルト	土師器	甕	(22.60)	(8.50)	−	内湾する体部から外反する口縁部、端部丸い。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、内面板ナデ、灰白〜橙。	
312	523	28区	SR2801	黒シルト	土師器	甕	(24.60)	(6.05)	−	内傾する体部から外反する口縁部で、端部角張り肥厚する。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい橙〜灰白。	
312	524	28区	SR2801	黒シルト	土師器	甑	(23.40)	(12.05)	−	直立ぎみで、わずかに外反する口縁部、端部近くで短く外傾し、内外に肥厚する。	ハケ整形、ヨコナデ、橙〜赤橙。	
312	525	28区	SR2801	黒	土師器	鉢	33.90	30.90	12.00	球形の体部から外反して開く口縁部を持つ。端部をわずかに上方に引き上げる。一方に注ぎ口が付けられる。	口縁ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケ・ナデ。底部の一部に粗いヘラミガキを施す。内面ハケ、下半一部に粗いヘラミガキ。底面縁辺にタタキメ。	
312	526	28区	SR2801	黒シルト	土師器	竈	−	(12.10)	(51.20)	内傾し端部角張る。突帯断面台形、ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、にぶい褐〜浅黄橙。	
313	527	28区	SR2801	黒シルト	土師器	竈	−	(15.70)	(42.00)	直立より裾部が開き端部角張る。端部より上に断面三角の突帯付く。ユビ成形。	ハケ整形、板ナデ、灰褐〜にぶい橙。	外面に有機質付着。
313	528	28区	SR2801	黒シルト	土師器	竈	−	(11.40)	(44.70)	内湾ぎみに裾広がりになり、端部外側に開き肥厚する。裾上部に断面台形の突帯付く。ユビ成形。	縦方向のハケ整形、板ナデ、にぶい橙〜灰白。	
313	529	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	蓋	9.00	(3.50)	−	内湾する天井部から外傾する口縁部で、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	
313	530	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	蓋	(10.70)	(4.60)	−	平たい天井部から内湾する体部・口縁部になり端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	自然釉付着。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
313	531	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	蓋	(14.00)	(2.70)	−	内湾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、灰。	
313	532	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	蓋	(12.30)	3.70	6.95	内湾する底部から口縁部で端部は薄くやや反る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	杯か。
313	533	28区	SR2801		須恵器	杯蓋	(17.60)	(1.90)	−	内湾する天井部から屈曲して開く。端部角張り下方につまみ出す。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰〜暗灰。	
313	533	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	蓋	(12.30)	3.70	6.95	内湾する底部から口縁部で端部は薄くやや反る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
313	534	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	杯身	(10.10)	2.90	(7.40)	平底から外傾して上向きの受部で丸く納める。立ち上がりは外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
313	535	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	杯身	(10.00)	4.00	−	内湾する体部で短く水平になる受部、立ち上がりは内傾し尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
313	536	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	杯	(12.20)	3.60	(5.80)	平底から内湾する体部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
313	537	28区	SR2801	暗褐	須恵器	杯	(11.60)	4.00	(7.40)	平底から内湾する体部・口縁部で、端部薄く外側に尖る。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
313	538	28区	SR2801	暗褐	須恵器	杯	(15.20)	4.35	(11.20)	尖り底状の平底から外傾する口縁部で、端部薄く丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
313	539	28区	SR2801	上層 砂礫	須恵器	杯	(16.00)	3.75	(10.60)	平底から外傾する口縁部で、端部丸い。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
313	540	28区 谷部	SR2801	上層 砂礫	須恵器	杯	−	(1.80)	8.40	内湾する底部から体部で、内側に肥厚する高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	底部外面に墨書「大家」。
313	541	28区	SR2801	暗褐	須恵器	皿	(8.10)	(2.90)	−	平底から内湾する体部・口縁部で、端部薄く外側に尖る。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
313	542	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	高杯	−	(6.50)	(10.20)	内湾する杯部に外反し端部肥厚する脚部。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
313	543	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	瓏	−	(7.20)	−	球形の体部。	ロクロナデで下半はロクロケズリ。	
313	544	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	壺	(9.50)	17.60	−	不安定な平底で上げ底ぎみ。体部は扁平な球形で頸部は広く、口縁部は外傾する。端部は丸く、厚めである。	ロクロナデ。外面下半はロクロケズリ、最大径の下に刺突文帯を施す。色調は内外とも灰である。	内外面ともスプレー状に自然釉が付着。
314	545	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	三耳付壺	22.60	(34.50)	−	扁平な球形で口縁部短く外傾する。タタキ、輪状の把手。	ロクロナデ、ナデ、灰白〜灰。	
314	546	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	甕	(42.90)	(6.20)	−	僅かに反るが、外傾する口縁部で端部大きく肥厚する。	ロクロナデ、沈線、刻み目、灰。	
314	547	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	甕	(15.80)	(5.80)	−	外湾する肩部から外反し端部肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、灰白。	
314	548	28区	SR2801	黒シルト	須恵器	円面硯	−	(2.75)	−	外傾する脚部に方形の透孔、海部は半円形で端部角張る。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
314	549	28区	SR2802		須恵器	杯蓋	(15.70)	2.10	−	扁平な宝珠形のつまみ部が平坦な天井部に付く、端部下方につまみ出し丸い。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
314	550	28区	SR2802		須恵器	壺	−	(8.30)	−	内湾する。	ロクロナデ、刺突文帯2条、灰白〜黄灰。	
315	551	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	椀	(11.40)	4.30	−	内湾する体部で口縁部内傾し、端部外側に尖らす。	ナデ、口縁部ヨコナデ、外面粗いヘラ調整、浅黄。	
315	552	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	椀	(14.80)	(5.25)	−	内湾する体部から口縁部で、端部短く外反する。	板ナデ、放射状のミガキ、口縁部ヨコナデ、灰黄〜灰白。	
315	553	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	椀	(16.00)	(5.65)	−	内湾する体部から口縁部で、端部丸い。	板ナデ、ヨコナデ後暗文、暗灰黄〜灰白。	
315	554	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	壺	(11.80)	(5.00)	−	内傾する体部で僅かに内湾する口縁部、端部面になる。内面ヘラケズリ。	ハケ整形、外面ミガキ、ヨコナデ、灰黄。	
315	555	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	甕	(21.20)	(5.90)	−	内傾する体部から外反する口縁部で端部内側に肥厚する。ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ、淡黄。	
315	556	28区	SR2803	下層 砂礫	土師器	小型丸底壺	8.60	(9.30)	−	やや扁平な球形の体部に外傾する口縁部が付く。端部近くで僅かに反り端部丸い。ユビ成形で、砂粒含む。	外面はハケ整形で口縁部はヨコナデで仕上げる。にぶい黄を呈する。	
315	557	28区	SR2803	上層 砂礫	土師器	(脚部)	−	(3.85)	10.25	中実の脚から外傾し端部下方に延びる。	ハケ整形、ナデ、にぶい黄橙〜灰黄。	
315	558	28区	SR2803	下層 砂礫	土師器	高杯	−	(10.25)	(11.40)	内湾する杯部に外反する裾部で端部外反する。裾部内面に円形浮文。	ハケ整形、杯部内面ミガキ、ヨコナデ、灰白〜浅黄。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
315	559	28区	SR2803	下層 砂礫	須恵器	杯蓋	(11.20)	(3.70)	−	内湾する体部から器壁薄くなり外傾する口縁部。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
315	560	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯蓋	10.60	5.00	−	内湾する天井部から直立する口縁部、端部外側に尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、黄灰。	自然釉付着。
315	561	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯蓋	12.00	4.20	−	内湾する天井部から体部、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ後1方向の仕上げナデ、黒褐〜灰。	
315	562	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯蓋	11.80	4.10	−	未調整のヘラ切りの天井部から内湾する口縁部になり端部丸い。砂粒多い。	ロクロナデ、暗灰〜灰。	
315	563	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯蓋	12.00	4.25	−	内湾する天井部からやや外反する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、沈線、灰。	自然釉付着。
315	564	28区	SR2803	下層 砂礫	須恵器	杯蓋	13.00	4.30	−	内湾する天井部から外傾する口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、不定方向のナデ、灰〜黒褐。	
315	565	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯身	(10.10)	(3.30)	−	内湾する体部からやや水平ぎみに短く開く受部、立ち上がりは内傾し端部尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
315	566	28区	SR2803	下層 砂礫	須恵器	杯身	11.90	4.00	−	丸底から内湾する体部に、口縁部外反し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、黄灰。	
315	567	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯身	(12.15)	4.55	−	内湾する体部から外傾する口縁部になり端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、黄灰〜灰。	
315	568	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯	(12.40)	(4.15)	16.00	内湾する底部から口縁部になり端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、黄灰〜灰。	自然釉付着。
315	569	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯	(11.40)	4.80	(5.70)	平底から内湾し、口縁部は外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、黒褐〜灰。	
315	570	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯	12.80	4.30	−	内湾する体部から口縁部は外傾する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
315	571	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	杯	12.40	4.30	−	内湾する底部から体部で、口縁部は外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、黄灰。	
315	572	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	皿	(18.00)	2.30	(15.60)	平底から外傾する口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、ナデ、黄灰〜褐灰。	転用硯か。
315	573	28区	SR2803	下層 砂礫	須恵器	瓶	7.75	(5.15)	−	外傾し端部近く内湾し端部尖る。	ロクロナデ、灰〜灰白。	自然釉付着。
315	574	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	脚台	−	(1.85)	(11.20)	外反ぎみで端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
315	575	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	脚台	−	(4.20)	(14.00)	歪な底部、外傾する脚台が付く。端部角張る。方形透孔あり。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
315	576	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	(脚部)	−	(1.75)	(9.60)	外反ぎみに延びる脚部で端部上方に延び、端部丸い。	ロクロナデ、灰。	
315	577	28区	SR2803	上層 砂礫	須恵器	(脚部)	−	(3.45)	12.10	外反する脚部で端部下方につまみ出す。	ロクロナデ、灰白〜灰。	自然釉付着。
316	578	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯蓋	(17.60)	(2.50)	−	平たい天井部から内湾する口縁部、端部直立し丸い。つまみは欠損。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	
316	579	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯	15.00	3.40	11.80	平底で外傾する口縁部、端部尖る。高台は内側に肥厚する方形。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白〜灰。	自然釉付着。
316	580	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯	12.00	3.55	8.20	内湾ぎみの平底から外傾し端部尖る。	ロクロナデ、沈線、灰〜灰白。	
316	581	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯	(12.00)	3.80	−	平底から内湾する口縁部で端部下内側に肥厚。ヘラ切り。	ロクロナデ、黄灰。	底部外面に漆記号。
316	582	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯	(11.80)	3.70	(7.10)	平底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
316	583	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	杯	13.80	5.00	9.80	平底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜オリーブ灰。	外側面にヘラ記号？
316	584	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	鉢	(18.60)	(7.80)	−	外傾する体部から内湾する口縁部、端部角張る。	ロクロナデ、灰。	
316	585	28区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	壺	−	(7.50)	−	内湾する体部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、肩部に沈線で上下に刺突文、灰〜灰白。	
316	586	29区 西側低地		ピート層とその下面〜青灰砂礫	須恵器	皿	−	−	−	平たい。	ロクロナデ、灰黄〜灰白。	墨書「□海□」。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
316	587	29区 西側低地		ピート層とその下面 ～青灰砂礫	須恵器	皿？	－	－	－	直線的で平たい。	ナデ、暗灰黄～黄灰。	墨書「小殿」。
316	588	30区 西側低地		ピート層とその下面 ～青灰砂礫	土師器	イイダコ壺	5.55	(9.50)	－	釣鐘形で把手部欠失。ユビ成形。	ナデ、灰黄～浅黄。	煤付着。
316	589	30区 西側低地		ピート層とその下面 ～青灰砂礫	須恵器	鉢	－	(7.80)	(9.90)	不安定な平底で、端部角張り突出する。体部内湾する。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白～灰。	
316	590	31区 西側低地		ピート層とその下面 ～青灰砂礫	土師器	竈	－	(28.40)	－	内傾する。大型で下になるほど器壁厚い。ユビ成形、把手外反する。庇は外傾。	ハケ整形、ナデ、褐灰～浅黄橙。	
317	591	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	土師器	小型丸底壺	7.50	9.40	－	球形の体部に外傾する口縁部で端部丸い。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
317	592	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	土師器	高杯	(15.70)		－	内湾する杯部で端部角張る。中実の脚部。	ヘラミガキ、ヨコナデ、浅黄～浅黄橙。	
317	593	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	土師器	甕	(20.10)	(4.35)	－	内傾する肩部から外傾する口縁部で、端部角張る。端部外側にやや肥厚。タタキ、ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ、淡黄。	
317	594	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	土師器	椀	17.20	5.90	9.60	不安定な平底から内湾し端部外側に尖らす。	ハケ整形、ヨコナデ、暗文、灰黄～浅黄。	
317	595	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	須恵器	蓋	10.70	3.85	－	天井部から口縁部に内湾し、端部薄く丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰～暗灰。	
317	596	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	須恵器	蓋	13.40	4.20	－	内湾する天井部から口縁部になり端部丸い。歪みあり、ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
317	597	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	須恵器	蓋	(12.35)	3.75	－	内湾する天井部で口縁部薄く外反し、端部尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
317	598	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	須恵器	瓶	(6.80)	(5.40)	－	内湾ぎみの口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、灰～灰白。	自然釉付着。
317	599	28区 谷部		青灰砂礫 (黒シルト層)	須恵器	椀	(12.50)	(6.40)	－	内湾する下半から直立し、端部付近で外反する。端部丸い。	ロクロナデ、沈線、灰。	
317	600	28区 谷部		黒シルト	須恵器	甕	(25.50)	(8.50)	－	内傾する体部から外反する口縁部で端部肥厚し内湾ぎみ。タタキ。	ロクロナデ、沈線、灰。	
317	601	28区 谷部		黒シルト	須恵器	甕	(24.20)	(6.40)	－	内湾ぎみの体部から外傾する口縁部、端部内外に肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、褐灰。	
317	602	28区 谷部	旧河道	青灰砂	弥生土器	(脚部)	－	(9.30)	12.40	外反する脚部で端部内外に肥厚する。体部外形する。ユビ成形。	ハケ整形後ナデ。	
317	603	28区 谷部	旧河道	青灰砂	土師器	壺	－	(15.80)	－	やや肩の張る内湾する体部から直立する頸部、外傾する口縁部。	ハケ整形、ヘラミガキ、ヨコナデ、黄灰～にぶい黄橙。	
317	604	28区 谷部	旧河道	青灰砂	土師器	高杯	16.90	(6.20)	－	杯部下半は水平で口縁部はやや外反する。円板充填。	ハケ整形、ヘラミガキ、ヨコナデ、灰黄～浅黄。	
317	605	28区 谷部	旧河道	青灰砂	土師器	甑	10.00	(10.90)	－	丸底から肩の張る体部になる。全体的には球形で口縁部は外傾する。体部上部に焼成前の円孔がある。	ユビ成形後、内面下半はヘラケズリ。内外面ともハケ整形で、端部周辺のみヨコナデ。	体部下半と口縁部に煤付着している。焼成良好。
317	606	28区 谷部	旧河道	青灰砂	土師器	小型丸底壺	6.30	8.40	－	算盤玉状に近い球形の体部から直線的に延び、端部近くで外反する口縁部。端部は尖る。ユビ成形で、砂粒含む。	体部外面と口縁部内面はハケ整形で端部周辺はヨコナデで仕上げる。灰黄を呈する。	体部下半に黒斑あり。
317	607	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	蓋	12.20	4.00	－	内湾する天井部から口縁部になり、端部薄く丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰黄。	
317	608	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	蓋	10.70	4.70	－	内湾する天井部から口縁部になり端部薄く丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～暗灰黄。	
317	609	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	杯身	(11.20)	3.80	6.20	平底から内湾し端部尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、黄灰～灰白。	
317	610	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	椀	(11.40)	4.70	(5.10)	平底から内湾する口縁部で端部反りぎみで丸い。ヘラ切り後未調整。	ロクロナデ、灰～灰白・褐灰。	
317	611	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	高杯	12.40	(6.30)	－	内湾する杯部で端部丸い。裾部外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、仕上げナデ、灰～黒。	重ね焼の痕跡。
317	612	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	高杯	13.10	8.35	9.70	内湾する杯部で端部丸い。裾部外反し端部上方につまみあげる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
317	613	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	高杯	(13.00)	13.10	12.30	外反する裾部で端部垂下する。内面絞り目、杯部は内湾し端部丸い。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰。	
317	614	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	甕	(12.60)	(3.40)	−	くの字で器壁厚い。端部角張る。タタキ。	ロクロナデ、黄灰。	
317	615	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	横瓶	9.30	(6.65)	−	内湾する体部から直立ぎみに延び端部外側に尖る。タタキ。	ロクロナデ、沈線、灰〜青灰。	
317	616	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	𤮈	−	(12.30)	−	球形の体部で頸部外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、仕上げナデ、黄灰。	
317	617	28区 谷部	旧河道	青灰砂	須恵器	甕	(22.00)	(7.70)	−	外反する口縁部で端部内外に肥厚する。ユビ成形。	ロクロナデ、灰〜暗灰。	自然釉付着。
318	618	29区	SR2902	最下層	弥生土器	広口壺	22.70	(53.00)	10.20	球形の体部から外反して立ち上がる口縁部。端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、頸部外面ハケメ、下端に指頭圧痕文突帯を2段に貼り付ける。内面ナデ？体部外面上半は調整不明であるが櫛描直線文2帯残存。中位以下はヘラミガキ。内面ハケ調整。	図上復原。
318	619	29区	SR2902	黒灰シルト	弥生土器	高杯	−	(3.80)	(12.00)	ハの字状に開く脚部。端部を上方に肥厚する。	外面〜端部ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	
318	620	29区	SR2902		土製品	不明	長(5.40)	幅1.30	厚1.10	手づくね。断面円形。	浅黄橙。	
318	621	29区	SR2902	黒灰シルト	須恵器	杯	−	(4.50)	−	平底で内湾する体部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
318	622	29区	SR2902	黒灰シルト	須恵器	𤮈	−	(11.25)	−	やや扁平な球形の体部に外反する頸部が付く、下半静止ケズリ。	ロクロナデ、凹線、灰〜灰白。	
319	623	30区	P090		須恵器	椀	(17.40)	4.60	(9.10)	ヘラ切りの平底から外反し、緩やかに屈曲して外に開く体部、端部やや反る。	ロクロナデ、灰白。	
319	624	30区 段丘下	SD3001	Ⅲ層 黒褐腐植質シルト	須恵器	杯蓋	(20.50)	(1.30)	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部尖りぎみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
319	625	30区 段丘下	SD3002	洪水砂部分	須恵器	杯	13.70	3.50	−	平底から外傾する口縁部で端部尖る。砂粒含む。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
319	626	30区 南壁	SR3001 西肩	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	土師器	Ⅲ	(20.80)	(3.20)	−	内湾する底部から口縁部で端部外側に尖らす。	ヘラミガキ、端部ヨコナデ、浅黄橙。	
319	627	30区 段丘下	SR3001 北壁	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯蓋	(15.70)	3.00	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部下方につまみ出す。つまみ部は扁平なボタン状。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
319	628	30区 段丘下	SR3001 北壁	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	(19.20)	5.30	(13.30)	平底から外傾する口縁部、端部細く丸い。高台は断面方形で外に開く。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	
319	629	30区 段丘下	SR3001 北壁	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	土製品	土馬	−	−	−	手づくね。表面残存部僅か、内湾する。	ナデ、竹管文、灰。	
319	630	30区 段丘下	SR3001	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	土製品	不明	−	(2.55)	−	板状の本体に、外に開く脚部が付く。	ナデ、暗灰。	
319	631	30区 段丘下	SR3001	灰茶シルトⅡ	須恵器	杯蓋	17.80	3.10	−	内湾する天井部から口縁部、端部は下方につまみ出す。扁平な宝珠つまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白〜灰。	
319	632	30区 段丘下	SR3001	暗調灰茶シルトⅡ	須恵器	杯蓋	(14.60)	(1.85)	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部尖りぎみで下に出す。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白〜灰。	
319	633	30区 段丘下湿地	SR3001	灰茶洪水砂礫〜灰茶シルト直上	須恵器	杯	(17.00)	4.00	(15.40)	平底から内湾ぎみの口縁部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白〜灰。	転用硯。
319	634	30区 段丘下	SR3001 東肩	灰茶シルトⅡ	須恵器	杯	(11.80)	4.35	(8.40)	平底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
319	635	30区 段丘下	SR3001 東肩	灰茶シルトⅡ	須恵器	杯	(16.30)	4.80	(11.80)	平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り、内側に向く台形の輪高台。	ロクロナデ、灰白。	
319	636	30区 段丘下	SR3001 北壁	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	−	(1.20)	(10.10)	上げ底で外傾する体部。ヘラ切り後ナデ。	ロクロナデ、灰黄〜暗灰黄。	底部外面に墨書「西」。
319	637	30区	SR3001	灰茶シルトⅠ	土師器	杯	(11.80)	4.00	−	不安定な底部で外傾する口縁部、端部外側に尖らす。	ヨコナデ、ナデ、黒褐。	
319	638	30区 段丘下中央	SR3001	灰茶シルトⅡ	須恵器	杯	13.15	3.45	10.35	平底から外傾し端部近くで反る。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
319	639	30区 段丘下東半	水田土壌	Ⅲ層より上 灰礫混じり	須恵器	杯蓋	−	−	−	内湾する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜黄灰。	外面に墨書あり。
319	640	30区 段丘下湿地	水田土壌	Ⅲ層 暗褐腐植土層	土師器	Ⅲ	(14.30)	2.10	(8.00)	不安定な平底から内湾し、口縁部やや反る。	ロクロナデ、にぶい黄橙〜暗灰。	内面に墨痕あり。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
319	641	30区 段丘下	水田土壌	腐植土層中	土師器	Ⅲ	(19.90)	2.20	−	平底で内湾する口縁部、端部丸い。外面ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、にぶい黄橙。	
319	642	30区 段丘下湿地	水田土壌	Ⅲ層 黒褐シルト	土師器	椀	(11.80)	3.35	6.20	不安定な平底から外傾し端部丸く反る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰黄褐〜黒褐。	
319	643	30区 段丘下		黒褐腐植シルト〜ピート	須恵器	杯	(12.30)	4.00	−	丸底から外傾する口縁部で、端部丸くやや反る。ヘラ切り後未調整。	ロクロナデ、灰〜暗青灰。	
319	644	30区 段丘下	水田土壌	Ⅲ層〜灰茶極細砂	須恵器	杯	(14.30)	2.95	9.50	平底から外傾し端部薄く丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
319	645	30区 段丘下		黒褐腐植シルト〜ピート	須恵器	杯	(14.20)	4.10	11.60	やや内湾する底部で外傾する口縁部、端部丸く、外側に開く高台。	ロクロナデ、ロクロケズリ、暗灰〜灰白。	自然釉付着。
319	646	30区 段丘下	水田土壌	Ⅲ層 黒褐腐植質シルト	緑釉陶器	椀	(12.00)	3.80	6.30	内湾する底部に低い台形の削り出し高台が付く。体部も内湾し口縁部やや反る。	ロクロケズリ、暗オリーブ灰〜暗灰。	
320	647	30区 段丘下東半		Ⅳ層 ピート層	須恵器	杯	12.50	3.50	9.20	平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り、断面方形の高台。	ロクロナデ、１方向の仕上げナデ、灰オリーブ〜灰白。	自然釉付着。
320	648	30区		ピート層 下半〜砂礫面直上	土師器	杯	(13.00)	3.35	(8.00)	平底から外傾する体部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、にぶい黄橙。	炭化物付着。
320	649	30区 段丘下東半		ピート層 下半〜砂礫面直上まで	土師器	杯	13.00	3.90	7.60	不安定な平底から内湾し、口縁部やや反る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰黄褐。	
320	650	30区 段丘下	水田土壌	灰茶シルト〜砂礫面上	須恵器	杯	(13.00)	3.60	9.75	平底から外傾し、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
320	651	30区 段丘下	水田土壌	灰茶土Ⅰ	須恵器	杯	12.80	4.90	8.30	内湾する底部から口縁部で端部丸く反りぎみ。ヘラ切り、台形の輪高台が付く。	ロクロナデ、灰白。	
320	652	30区 段丘下東半		ピート層〜灰茶腐植質砂礫	土師器	椀	(14.20)	5.50	7.00	平たいベタ高台から内湾し、端部外側に開く。ヘラ切り。	ロクロナデ、黒褐。	
320	653	30区 段丘下東半		Ⅳ層 ピート層	須恵器	Ⅲ	(9.30)	(3.10)	−	内湾する体部で口縁部水平に開き、端部丸い。	ロクロナデ、灰白〜灰。	漆付着。
320	654	30区 段丘下中央	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯蓋	−	(2.80)	−	内湾する天井部で、低い宝珠形のつまみが付く。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	天井部外面に墨書「山方寺」。
320	655	30区 段丘下東半	水田土壌	Ⅲ層より上 灰礫混じり極細砂	須恵器	杯	−	(1.65)	(10.10)	内湾する底部から体部、直立する輪高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、１方向の仕上げナデ、灰白〜黄灰。	底部外面に墨書「□女」。
320	656	30区	北側溝内	礫面上灰茶シルト主	須恵器	杯蓋	(17.70)	3.10	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部下方につまみ出す。扁平なボタン状のつまみ。	ロクロナデ、ナデ、灰〜褐灰。	転用硯か。
320	657	30区 段丘下	水田土壌	灰茶シルト〜砂礫面上	須恵器	稜椀蓋	(21.80)	3.30	−	内湾する天井部から口縁部で屈曲して開き、端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	自然釉付着。
320	658	30区 段丘下東半	水田土壌	Ⅶ層 灰茶腐植質砂礫	須恵器	杯蓋	(29.80)	(3.40)	−	大型の蓋で内湾する天井部から口縁部になり、端部垂下するようにつまみ出す。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	自然釉付着。
320	659	30区 段丘下東半		Ⅳ層 ピート層	須恵器	杯	−	−	−	屈曲する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	底部外面に墨書「吉家」か。
320	660	30区 段丘下東半		Ⅳ層 ピート層	須恵器	杯	−	−	−	平底、ヘラ切り。	ロクロナデ、灰オリーブ〜灰白。	底部外面に墨書「郡」か「駅」。
320	661	30区 段丘下西半〜中央	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	−	−	−	平底、ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	底部外面に墨書「□」。
320	662	30区 段丘下中央	北側溝内	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯蓋	17.70	3.20	−	天井部平坦。外傾する口縁部で端部下につまみ出す。扁平なボタン状のつまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
320	663	30区 西半	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯蓋	15.80	3.00	−	天井部平坦。外傾する口縁部で端部下につまみ出す。扁平な宝珠状のつまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜暗灰。	重ね焼の痕跡。
320	664	30区 段丘下東半		Ⅳ層 ピート層	須恵器	杯	(14.80)	(3.00)	−	外傾する口縁部、端部やや反る。	ロクロナデ、灰白。	外側面に墨書「部」。
320	665	30区 段丘下東半	水田土壌	灰茶シルト最上層 谷部落ちカ	須恵器	杯	15.30	3.75	12.20	やや不安定な平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り後ナデ。	ロクロナデ、灰白〜灰。	底部外面に墨書「西」。
320	666	30区 段丘下東端		ピート層〜灰茶腐植質砂礫	須恵器	杯	13.00	3.30	7.95	平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜にぶい黄。	外側面に墨書「□殿」。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
320	667	30区 段丘下東半		ピート層～灰茶色腐植質砂礫	須恵器	杯	(14.40)	3.70	(8.30)	稜線の不明瞭な底部から体部で外反ぎみの口縁部、端部丸く肥厚する。ヘラ切り。	ロクロナデ、１方向の仕上げナデ、灰オリーブ～暗灰黄。	底部外面に墨書「美作」。
320	668	30区 南壁	SR3001 西肩	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	(14.00)	(1.90)	－	外傾する口縁部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	外側面に墨書「部」。
320	669	30区 段丘下中央	北側溝内	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	(13.20)	4.30	(10.30)	平底から外傾し、端部尖る。	ロクロナデ、灰白～灰黄褐。	
320	670	30区 西半	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	杯	16.40	3.65	12.20	平底に低い輪高台が付く。体部外傾する。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
320	671	30区 段丘下湿地	水田土壌	灰茶シルト～灰ベースシルト直上	須恵器	杯	(17.40)	4.10	12.50	平底で外傾する口縁部で、端部丸い。やや開く断面方形の輪高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、２方向の仕上げナデ、灰～灰白。	底部外面に墨書「□」。自然釉付着。
320	672	30区 段丘下	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	土師器	甕	(19.80)	(7.40)	－	内湾する体部から外反する口縁部になり、端部角張る。タタキ。	ロクロナデ、ハケ整形、板ナデ、浅黄。	
320	673	30区 段丘下	洪水砂	Ⅶ層 灰茶洪水砂礫	須恵器	甕	(18.30)	(13.00)	－	内湾する体部で口縁部外傾し、端部面となり角張る。タタキ。	ロクロナデ、灰白。	
320	674	30区 段丘下西端	流路内埋土	灰白ベース直上灰茶土Ⅱ	須恵器	横瓶	11.30	(5.20)	－	内傾する体部で明瞭な稜線を持って外反する口縁部で、端部角張る。タタキ。	ロクロナデ、灰白～オリーブ灰。	自然釉付着。
320	675	30区 段丘下西端	水田土壌	灰茶極細砂～細砂	須恵器	円面硯	－	(4.90)	(18.90)	内湾ぎみに開く。端部内側に僅かに肥厚し、断面三角の突帯。	ロクロナデ、綾杉状の文様、灰～灰白。	自然釉付着。
321	676	31－南区	SH3106		土師器	鉢	(14.80)	6.10	－	内湾する底部から口縁部で、端部外側に尖る。歪む。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい橙～灰白。	
321	677	31－南区	SH3106 中央土坑		弥生土器	高杯	30.80	(10.55)	－	内湾する杯部から屈曲し、外反して立ち上がる口縁部。	風化顕著で調整不明。	
321	678	31－東区	SB3101 P030		土師器	鉢	(29.60)	(7.50)	－	内湾する体部で、端部下で屈曲し端部反る。	ハケ整形からミガキ、口縁部ヨコナデ、橙～にぶい黄橙。	
321	679	31－南区	P034		土師器	甕	(12.60)	15.00	－	下膨れの球形の体部に外傾する口縁部で、端部内側につまみ、角張る。	ハケ整形、ヨコナデ、褐灰～にぶい黄橙。	二次焼成。
321	680	31－南区	P052		土師器	甕	(20.50)	(7.15)	－	内傾する体部からやや外反する口縁部で、端部肥厚ぎみで角張る。	ハケ整形、ヨコナデ、灰白～にぶい橙。	二次焼成。
321	681	31－東区	P091		土師器	把手付鍋	(25.00)	(14.10)	－	内湾する体部から外傾する口縁部で、端部下が薄くなり内外に肥厚する。外反する把手。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、明赤褐～にぶい黄橙。	
321	682	31－東区	P091		須恵器	甕	－	(12.50)	－	扁平な球形の体部で円孔１ヶ所、頸部から口縁部は大きく外反する。	ロクロナデ、沈線、カキメ、灰～灰白。	
321	683	31－南区	P132		土師器	高杯	－	(9.50)	－	外反する脚部で端部角張り内外に肥厚する。杯部は内湾し、円孔４ヶ所。	表面磨滅、にぶい黄橙～にぶい橙。	黒斑あり。
321	684	31－東区	SB3103 P186		弥生土器	鉢	(37.40)	(12.25)	－	内湾してわずかに窄まる口縁部で、端部を水平に肥厚する。	口縁ヨコナデ、上端部より３条の刻み目突帯を貼り付ける。体部内面ハケメ、外面ナデ。	外面に煤付着。
322	685	31－東区	SK3103		弥生土器	甕	(43.40)	(31.10)	－	僅かに内湾する体部で短く外傾する口縁部で、端部角張る。	ハケ整形、ナデ、灰白～にぶい橙。	
322	686	31－東区	SK3103		弥生土器	甕	(27.60)	(11.45)	－	くの字状に屈曲して開く口縁部で、端部を肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
322	687	31－東区	SK3115		弥生土器	甕	(31.30)	34.50	(10.10)	倒卵形の体部からくの字状に屈曲して開く口縁部で、端部を肥厚する。	体部外面にヘラミガキ、内面にハケメが一部残る。	体部下半に焼成後穿孔を施す。
322	688	31－東区	SK3115		弥生土器	広口壺	(17.50)	(6.90)	－	筒状の頸部から外反して開く口縁部で、端部を肥厚・垂下する。	口縁端面上下にそれぞれ凹線文を巡らし２個１組の円形浮文を貼り付ける。頸部下端に凹線文が２条認められる。調整不明。	
322	689	31－東区	SK3115		弥生土器	鉢	(15.40)	(10.80)	－	椀状の体部から屈曲して開く口縁部で、わずかに内側に肥厚する。	口縁ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ハケメ後ナデ。	
322	690	31－東区	SK3106		弥生土器	広口壺	(18.50)	(11.20)	－	外反して開く口縁部で、端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、端面ヘラ刻み目、頸部外面ハケメ、下端に指頭圧痕文突帯を２段に貼り付ける。内面ナデ？体部外面上半調整不明であるが、櫛描直線文３帯残存。浮文状の小粘土塊付着。	
322	691	31－東区	SK3106		弥生土器	広口壺	19.10	(9.55)	－	筒状の頸部から大きく外反して開く口縁部で、端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、端面にヘラ刻み目を施し、内面に刻み目突帯を巡らせる。２個１組の小円孔を６箇所に穿つ。頸部外面ハケメ、下端に断面三角形突帯を３帯貼り付ける。内面ナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
322	692	31－東区	SK3106		土師器	鉢	14.00	7.05	－	不安定な平底から内湾し端部丸く内傾する。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、灰白～にぶい橙。	
323	693	31－南区	SK3116		弥生土器	短頸壺	(29.80)	(15.10)	－	短い頸部から外反して開く口縁部で、端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、２段に指頭圧痕を付けた突帯が巡る。体部内面粗いハケメ、外面調整不明。	
323	694	31－南区	SK3116		弥生土器	甕	－	(13.45)	7.00	わずかに上げ底状を呈する。	風化顕著で調整不明。外面底部近くにヘラミガキ。	
323	695	31－南区	SK3117		土師器	甕	12.40	11.15	－	下膨れの球形体部に外傾する口縁部が付き、端部丸い。内面ユビ成形。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙～黒褐。	二次焼成。
323	696	31－南区	SK3117		須恵器	鉢	(31.60)	(18.00)	－	湾曲する体部で端部外側に尖らす。タタキ。	ロクロナデ、沈線。	
323	697	31－南区	SK3117		土師器	甑	(27.60)	30.95	11.10	僅かに内湾する体部で端部丸い。大きく外反する把手。ケズリ。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙～赤橙。	
323	698	31－東区	SK3122		弥生土器	広口壺	(12.80)	(3.20)	－	大きく外反して開く口縁部。端部を肥厚する。	口縁端面にヘラ状工具により斜めに刻み目を巡らせる。調整不明。	
323	699	31－東区	SK3122		弥生土器	高杯	(25.75)	(10.60)	－	椀状の杯部から屈曲してほぼ水平に開く口縁部。脚部を欠く。	口縁ヨコナデ、内面ナデ、外面一部にミガキ。	
323	700	31－東区	SK3122		弥生土器	短頸壺	(24.00)	(11.40)	－	くの字状に屈曲して開く口縁部。端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、端部にヘラ刻み目が巡る。体部内面ハケ後ナデ、外面ハケメ？	
324	701	31－西区	SX3101		須恵器	杯蓋	(18.60)	(2.50)	－	平坦な天井部から屈曲し端部下方に引っ張る。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～黄灰。	転用硯。自然釉付着。
324	702	31－西区	SX3101		土師器	杯	(14.10)	4.75	(10.30)	内湾する底部から体部、端部薄く丸い。断面方形の外に開く高台。	表面磨滅のため不明(ミガキか)、橙～灰。	化粧土塗布。
324	703	31－西区	SX3102		土師器	椀	(15.80)	6.20	－	丸底から内湾する口縁部で端部丸い。	ハケ整形、ヨコナデ、ミガキ、浅黄橙～褐灰。	黒斑あり。
324	704	31－西区	SX3102	下層	土師器	椀	(15.80)	4.70	(8.90)	平底から内湾する体部、端部丸い。ヘラ切り。	表面磨滅のため不明、橙～暗灰。	
324	705	31－西区	SX3102	下層	土師器	ミニチュア鉢	(3.50)	2.80	－	手づくね、内湾し端部角張りぎみ。	にぶい橙～灰。	
324	706	31－西区	SX3102	下層	須恵器	杯身	9.55	2.05	7.10	平底から外傾し、受部厚くやや反る。立ち上がり薄く短く外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	自然釉付着。
324	707	31－西区	SX3102		須恵器	杯身	(9.90)	3.40	(5.70)	平底から内湾する口縁部で、端部丸く反りぎみ。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
324	708	31－西区	SX3102	下層	須恵器	杯身	10.60	3.35	5.55	平底から内湾し端部近くで直立。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
324	709	31－西区	SX3104		須恵器	蓋	16.40	3.25	－	内湾する天井部から口縁部になり、端部下に延び尖る。扁平な宝珠つまみ。	ロクロケズリ、ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	自然釉付着。
324	710	31－西区	SX3104	床面	土師器	把手付盤	(43.20)	(10.35)	－	内湾する体部で端部丸い。輪状の把手が付く。	ハケ整形、ヨコナデ、浅黄橙～橙。	
324	711	31－南区	SX3105		須恵器	杯身	9.40	3.70	－	丸底ぎみから外傾する体部で受部が内湾する。立ち上がり短く外反。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
324	712	31－南区	SX3105		須恵器	瓏	－	(11.10)	－	扁平な球形の体部で肩部に凹線、外反する頸部、絞り目。	ロクロナデ、灰～灰白。	
324	713	31－南区	SX3106		土師器	甕	(13.70)	(5.30)	－	内湾する体部から外反する口縁部、端部丸い。	ハケ整形、ヨコナデ、ミガキ、にぶい黄～にぶい黄橙。	
324	714	31－南区	SX3106		弥生土器	(底部)	－	(3.05)	5.30	平底で器壁は厚手。	ユビ成形、風化顕著で調整不明。	
324	715	31－東区	SX3107		弥生土器	広口壺	(12.90)	(4.65)	－	筒状の頸部から外反して開く口縁部。端部を肥厚する。	口縁ヨコナデ、頸部外面ハケメ。	
324	716	31－東区	SX3107		弥生土器	甕	－	(6.50)	(5.80)	わずかに上げ底。中央に焼成前穿孔。	内外面共にヘラミガキ。	
324	717	31－東区	SX3108		土師器	甕	27.70	(13.30)	－	僅かに内湾する体部から外反する口縁部、端部角張り外側に肥厚。ヘラケズリ、タタキ。	ナデ、口縁部ヨコナデ、灰白～にぶい黄橙。	
324	718	31－東区	SX3108 畦畔		須恵器	杯身	(11.70)	3.50	－	やや上げ底から外傾する体部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、緑灰。	
324	719	31－西区	SD3103		須恵器	蓋	(13.10)	(1.60)	－	器高の低く内湾する天井部、反り外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、仕上げナデ、灰～灰白。	
324	720	31－西区	SD3103		須恵器	杯	16.80	4.55	13.40	平たい底から外傾する体部で端部近くでやや反る。断面台形の高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	
324	721	31－南区	SD3114		土師器	甕	(23.40)	(13.35)	－	内湾する体部から外反する口縁部、端部丸い。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、橙～にぶい橙。	
325	722	31－東区	SD3119		土師器	椀	13.00	(4.70)	－	内湾する体部から口縁部、端部丸い。	ナデ、ヘラミガキ、橙～浅黄橙。	
325	723	31－東区	SD3119		土師器	鉢	(19.00)	(8.00)	－	内湾する口縁部で端部角張りぎみ。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい黄橙～褐灰。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
325	724	31－東区	SD3119		土師器	甕	(16.70)	(5.70)	－	やや内湾する体部から外反する口縁部、端部外側につまみ出す。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
325	725	31－東区	SD3119		須恵器	壺	(11.00)	(3.40)	－	僅かに内湾する口縁部で端部内側に肥厚。	ロクロナデ、灰。	
325	726	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土師器	椀	(10.00)	3.40	－	内湾する底部から口縁部で端部薄く丸い。ユビ成形。	ナデ、灰白～浅黄橙。	
325	727	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土師器	椀	11.80	3.90	－	内湾し端部角張る。ユビ成形。	ナデ、橙～灰白。	化粧土塗布。
325	728	31－西区	SR3101		土師器	製塩土器	－	(2.10)	(6.40)	ユビ成形、丸底に粘土を貼り付け、上げ底にする。	ナデ、灰褐～明褐灰。	
325	729	31－西区	SR3101	黒シルト上面	土師器	鉢	12.60	6.55	(7.60)	平底で内湾する口縁部で端部丸い。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、板ナデ、ヨコナデ、褐灰～橙。	
325	730	31－西区	SR3101	黒シルト	土師器	鉢	(10.10)	7.10	3.80	不安定な平底から内湾する口縁部、端部丸い。ユビ成形。	ナデ、ヨコナデ、灰白～にぶい黄橙。	
325	731	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土師器	片口鉢	(21.60)	(10.80)	－	内湾する口縁部で、端部は僅かに外側につまみ出す。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～浅黄橙。	
325	732	31－西区	SR3101		土師器	甕	18.40	(4.70)	－	内傾する体部から僅かに外反する口縁部、端部角張り内外に肥厚する。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい橙。	
325	733	31－西区	SR3101	暗褐	土師器	甕	(15.80)	(8.65)	－	内湾する体部に外傾する口縁部、端部角張る。ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、褐灰～赤褐。	二次焼成。
325	734	31－西区	SR3101	黒シルト上面	土師器	甕	(17.40)	(21.50)	－	長胴の内湾する体部で底部は丸い。口縁部外傾し端部角張り外側に肥厚。ユビ成形、ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、口縁部ヨコナデ、橙～褐灰。	黒斑あり。
325	735	31－西区	SR3101	上層	土師器	甕	(18.50)	32.80	－	丸底から内湾する長胴の体部で外傾する口縁部、端部角張り肥厚する。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、浅黄橙。	
325	736	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土師器	甕	22.95	32.65	－	内湾する長胴の体部で口縁部外反し、端部肥厚。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～浅黄橙。	
326	737	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土師器	把手付鍋	－	(17.00)	18.80	平底から内湾する体部、ユビ成形、タタキ？	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、浅黄橙～にぶい橙。	
326	738	31－西区	SR3101	上層	土師器	把手付鍋	(24.00)	26.10	－	やや長胴の球形の体部から外傾する口縁部、端部角張る。ユビ成形、外反する把手。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、浅黄橙～橙。	
326	739	31－西区	SR3101	上層	土師器	把手付鍋	(29.80)	(27.40)	－	内湾する体部で短く外傾する口縁部、端部肥厚、外反する上向きの把手、ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、褐灰～灰白。	
326	740	31－西区	SR3101	上層	土師器	甑	(26.70)	(20.90)	－	外傾し端部角張り外側に肥厚する。ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、橙～にぶい橙。	
326	741	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土師器	甑	－	(12.60)	(7.60)	内湾し端部丸い。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、灰白～にぶい橙。	
326	742	31－西区	SR3101		土師質	匙	長(2.45)	幅(5.20)	厚(1.30)	手づくね、匙本体の接合部で割れている。やや反る。	橙。	
326	743	31－西区	SR3101	上層	土師器	竈	－	(14.60)	－	ユビ成形、断面は隅丸長方形の板状で、竈の端部に脚のように付くものであろう。	ナデ、浅黄橙～灰白。	
327	744	31－西区	SR3101	黒シルト	土師器	竈	(29.40)	31.70	(40.20)	内傾し、裾端部は内側につまみ出し大きく面になる。端部は角張りやや肥厚、端部5cm下に断面台形の突帯が付く。把手は外反する。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい褐～橙。	
327	745	31－西区	SR3101	暗褐砂	土師器	竈	－	(25.00)	－	僅かに反る庇、ユビ成形、口縁端部やや肥厚する。	ナデ、体部は縦方向のハケ整形。	
327	746	31－西区	SR3101	黒シルト上面	土師器	円筒形土器	－	(17.70)	(12.00)	全体的には直線的ながら歪に開いていき、断面M字の突帯が裾端部近くにある。端部は外側につまみ出す。ユビ成形。	縦方向のハケ整形、ナデ、橙～浅黄橙。	
327	747	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土師器	イイダコ壺	(5.30)	13.55	－	手捏ね、内湾する体部で端部内側に尖りぎみ、把手部は角張る。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙～にぶい黄橙。	
327	748	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土師器	イイダコ壺	(5.80)	11.10	－	内湾する体部で、口縁部大きく内傾し端部丸い。把手部は円錐形で円孔がある。	ナデ、橙～灰白。	二次焼成。
327	749	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	土製品	土錘	長8.90	幅2.90	厚2.20	平面長方形で頭部角張り、円孔径小さい。ユビ成形。	ハケ、ナデ、にぶい橙～橙。	重さ74.5g
327	750	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土製品	土錘	長7.60	幅2.25	厚1.70	両端が幅が広くなり、断面楕円形。ユビ成形。	ナデ、灰白。	重さ26.9g

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
327	751	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土製品	土錘	長6.35	幅2.30	厚2.10	両端の頭部が丸くなっている。両側に円孔。断面円形、絞り目、ユビ成形。	ナデ、灰白～橙。	重さ35.9g
328	752	31－西区	SR3101	暗褐砂	土師器	鍋	(29.70)	(8.90)	－	内湾する体部から外反する口縁部になり、端部内外に肥厚する。	ハケ整形、ヨコナデ、橙～灰白。	
328	753	31－西区	SR3101	暗褐砂	土師器	鍋	(37.30)	(9.65)	－	僅かに内湾する体部から外傾する口縁部で端部外側につまみ出す。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、橙～灰白。	
328	754	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	土師器	鍋	(35.50)	(16.40)	－	内湾する底部から体部で、口縁部外反する。端部角張り内外に肥厚する。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、淡橙～褐灰。	
328	755	31－西区	SR3101	上層	土師器	鍋	(31.30)	26.00	－	内湾する体部から外傾する口縁部で、端部肥厚する。底は平たい。ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ、ナデ、橙～にぶい橙。	
328	756	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	蓋	(9.50)	4.55	－	内湾する天井部で口縁部直立し端部尖る。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	
328	757	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	蓋	(9.40)	5.25	－	器高高く天井部平たく、内湾し直立ぎみの口縁部、端部外側に尖る。歪む。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白～暗灰。	自然釉付着。
328	758	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	蓋	(11.15)	4.05	－	内湾する天井部から体部で、口縁部外反し端部丸く、明瞭な稜線を持つ。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	身なら高丘？
328	759	31－西区	SR3101		須恵器	蓋	11.80	3.80	－	平たい天井部から僅かに内湾する口縁部、端部薄く丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、暗灰～灰白。	自然釉付着。
328	760	31－西区	SR3101		須恵器	蓋	(12.00)	4.40	－	内湾する天井部から体部で、口縁部は直立から外反ぎみで、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白～暗灰。	
328	761	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	蓋	(10.50)	3.80	－	やや平たい天井部から内湾し内傾ぎみの口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、沈線、灰白～明オリーブ灰。	自然釉付着。
328	762	31－西区	SR3101		須恵器	杯身	11.20	4.60	－	不安定な平底から外傾する。反りは外反する。受部意図的に割ったか。	ロクロナデ、灰。	
328	763	31－西区	SR3101		須恵器	杯身	(10.30)	3.70	－	不安定な平底から内湾する体部で、受部丸く短い。反りも短い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	自然釉付着。
328	764	31－西区	SR3101	上層	須恵器	杯身	－	(3.30)	(6.10)	平底から僅かに内湾する体部、受部は水平で短く端部丸い。	ロクロナデ、浅黄橙～にぶい橙。	生焼け。
328	765	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	須恵器	杯身	12.05	4.80	－	内湾する底部で端部近くで外傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、緑灰。	
328	766	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯身	12.05	4.20	－	内湾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～灰白。	
328	767	31－西区	SR3101		須恵器	杯身	12.40	4.10	－	丸底から外傾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰～灰白。	
328	768	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	須恵器	杯身	11.80	4.20	－	内湾する体部で端部反り丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
328	769	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯身	10.95	3.80	－	やや平たい底部で体部から口縁部内湾する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
328	770	31－西区	SR3101	黒シルト	須恵器	杯身	11.05	3.40	－	内湾する底部から直立ぎみの口縁部で端部尖る。糸切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰～灰白。	
328	771	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯身	11.75	3.20	6.20	やや平たい底部から内湾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
328	772	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯身	8.65	3.35	6.60	平底で口縁部は外反し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白～灰。	自然釉付着。
329	773	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	蓋	14.05	2.85	－	内湾する天井部で端部垂下する。つまみ部はボタン状。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白～白。	
329	774	31－西区	SR3101	上層 暗褐砂	須恵器	蓋	(9.40)	2.35	－	平坦な天井部から内湾して口縁部になり端部垂下する。つまみはボタン状。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白～オリーブ灰。	自然釉付着。
329	775	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯	(10.60)	3.90	(7.10)	平坦な底部から外傾する体部になる。端部丸く、高台は断面方形で薄く外側に肥厚する。	ロクロナデ、ナデ、灰白～灰。	
329	776	31－西区	SR3101	上層	須恵器	皿	(15.65)	3.40	(12.35)	平たい底部に方形の高台が付く。口縁部は薄く外傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	
329	777	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯	(12.90)	4.30	(10.00)	外傾する口縁部で端部尖りぎみ、端部肥厚した外に開く高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
329	778	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	杯	(13.80)	4.90	(10.30)	平底から外傾する口縁部で端部尖る。やや外側に開く高台。	ロクロナデ、灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
329	779	31－西区	SR3101	黒シルト	須恵器	高杯	(14.80)	14.40	(12.25)	外反する口縁部で端部角張る。脚部は外反し端部付近で屈曲し角張る。	ロクロナデ、ロクロケズリ、沈線、灰白。	
329	780	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	高杯	(14.30)	12.15	(12.10)	杯部は内湾し端部近くで外傾し丸い。脚部は外反し端部下方につまみ出す。	ロクロナデ、ナデ、沈線、灰白～灰。	
329	781	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	高杯	14.10	(9.70)	－	杯部は内湾し口縁部外傾し端部丸い。脚部は外反する。歪む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～黒褐。	
329	782	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	台付椀	(12.00)	(7.90)	－	丸底から外傾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、ナデ、沈線、灰白。	
329	783	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	台付椀	(12.35)	11.10	(10.65)	内湾する底部から直立する口縁部で端部丸く、脚台は外反し、端部は稜線を持って外傾する。端部下方につまみ出す。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～暗灰。	
329	784	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	須恵器	台付椀	9.80	(5.40)	－	丸底から直立に近い内傾する口縁部で、端部付近で外反し丸い。	ロクロナデ、ナデ、灰～青灰。	
329	785	31－西区	SR3101		須恵器	台付椀	(11.85)	(8.60)	－	僅かに内湾する直立する体部で、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白～にぶい褐。	
329	786	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	須恵器	壺	－	(11.05)	－	不安定な平底から内湾する体部で肩は張る。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ハケ整形、ナデ、沈線、灰。	
329	787	31－西区	SR3101	黒シルト	須恵器	硯	－	(5.20)	(19.10)	陸部は残っていない。外反する脚部で端部開き肥厚する4方透孔か？	ロクロナデ、灰～灰白。	
329	788	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	ミニチュア壺	3.60	6.05	－	丸底から肩の張る球形の体部で、口縁部外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
329	789	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	須恵器	鉢	－	(5.95)	9.70	不安定な平底で側部突出する。体部は僅かに外反、底部に円孔。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
329	790	31－西区	SR3101	上層	須恵器	大型杯か鉢蓋	(25.60)	(7.20)	－	僅かに内湾する口縁部で、受部は丸い。	ロクロナデ、灰白。	蓋で791とセットか。
329	791	31－西区	SR3101		須恵器	鉢	26.60	11.20	－	内湾する半球形で、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	790とセットか。
329	792	31－西区	SR3101	暗褐砂	須恵器	甑	(24.00)	26.75	(9.60)	僅かに内湾する体部、端部角張る。タタキ。	ロクロナデ、カキメ、ナデ、灰白～明黄褐。	
330	793	31－西区	SR3101	黒シルト	須恵器	甕	(19.30)	(6.55)	－	内湾する体部から外傾する口縁部になり、端部内側に肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、灰白。	
330	794	31－西区	SR3101		須恵器	甕	(21.60)	(15.20)	－	内湾する体部から外反する口縁部で、端部付近で直線になり方形になる。タタキ。	ロクロナデ、カキメ、灰。	
330	795	31－西区	SR3101	下層 黒シルト	須恵器	横瓶	(11.70)	26.75	－	扁平な球形の体部で、口縁部外傾し端部内側につまみ出す。タタキ。	ロクロナデ、カキメ、灰白～灰。	外面にイタチの爪跡。
331	796	31－東区	SR3102		土師器	竈	(35.20)	(17.00)	－	器壁厚く内湾し大型の中空の把手だが先端欠く、断面三角の突帯端部下に付く。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、灰黄褐～にぶい黄橙。	
331	797	31－東区	SR3102		土師器	竈	－	(28.00)	－	内湾する体部、断面長台形の鍔が付く。ユビ成形。	ナデ、ヨコナデ、淡橙～にぶい橙。	798と同一個体。
331	798	31－東区	SR3102		土師器	竈	(21.20)	(27.00)	－	内湾する体部、端部丸い。断面台形の突帯付く。ユビ成形、外面ケズリ。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰黄褐～橙。	797と同一個体。
331	799	31－東区	SR3102		土師器	竈	－	(6.70)	－	突帯部分に把手が付く。体部は直線的に延びる。ユビ成形。	ハケ整形把手内面中空、ハケ整形、ナデ、にぶい橙～灰白。	
332	800	31－東区	SR3102		土師器	竈	－	(8.20)	－	庇は内湾する。端部角張る。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙～にぶい橙。	
332 333	801	31－東区	SR3102		土師器	竈	(35.40)	31.90	(46.30)	湾曲する庇で両側に把手が付く。口縁部は短く外反し端部角張る。端部に3ヶ所の凹みがあり端部下にも貫通しない円孔が穿たれる。庇はやや外反。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～浅黄。	
334	802	31－東区	SR3102		土師器	椀	(17.45)	5.95	－	丸底で内湾する体部、口縁部端部内側につまみ出す。	ナデ、ヨコナデ、灰白～にぶい橙。	
334	803	31－東区	SR3102		土師器	甕	－	(7.15)	－	丸底で球形の体部。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、灰白～明褐灰。	二次焼成。
334	804	31－東区	SR3102		土師器	甕	(9.40)	(8.10)	－	長胴の内湾する体部で底部は丸い。口縁部外傾し端部角張り外側に肥厚。ユビ成形、ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、口縁部ヨコナデ、橙～褐灰。	黒斑あり。
334	805	31－東区	SR3102		土師器	甕	(21.70)	(8.00)	－	内傾する体部から僅かに外反する口縁部で、端部下やや窪む。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～浅黄橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
334	**806**	31－東区	SR3102		土師器	鍋	33.10	(12.70)	－	内湾する体部から外傾し、端部内側につまみ出す。ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙～黒褐。	
334	**807**	31－東区	SR3102		須恵器	蓋	(11.40)	3.45	－	内湾する天井部から体部で口縁部は直立する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
334	**808**	31－東区	SR3102		須恵器	蓋	(12.20)	4.55	－	内湾する体部で口縁部外傾し端部尖りぎみ。ヘラ切り。	ロクロナデ、生焼け、灰白～褐灰。	
334	**809**	31－東区	SR3102		須恵器	蓋	(11.50)	3.50	－	平たい天井部から内湾し口縁部外傾する。端部外側に尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰。	
334	**810**	31－東区	SR3102		須恵器	杯身	(9.60)	(2.80)	－	内湾する底部から体部で、受部は短く外傾する。反りは内傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
334	**811**	31－東区	SR3102		須恵器	杯身	11.60	3.55	6.10	不安定な平底から内湾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～褐灰。	自然釉付着。
334	**812**	31－東区	SR3102		須恵器	短頸壺	(5.80)	(6.40)	－	算盤玉状の体部で短く直立する口縁部で、端部丸い。	ロクロナデ、灰。	
334	**813**	31－東区	SR3102		須恵器	短頸壺	(7.00)	(4.30)	－	扁平な体部で内湾する。頸部稜線不明瞭で口縁部内傾し端部丸い。	ロクロナデ、灰～灰白。	
334	**814**	31－東区	SR3102		須恵器	鉢	－	(6.10)	－	平坦な底部から外傾する体部になる。	ロクロナデ、沈線、灰。	
334	**815**	31－東区	SR3102		須恵器	甕	(21.10)	7.15	－	内湾する体部から外傾する頸部で、口縁部屈曲し端部反る。タタキ。	ロクロナデ、灰白～灰。	
334	**816**	31－東区	SR3102		須恵器	甕	(23.30)	8.25	－	内湾する体部から外反する口縁部で、端部内外に肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、自然釉、灰～明オリーブ灰。	
334	**817**	31－東区	SR3102		須恵器	甑	(28.00)	(28.80)	－	外傾する体部から口縁部で端部角張り外側につまみ出す。ケズリ。	ロクロナデ、凹線、灰～灰白。	
335	**818**	32区	SR3201	黒褐シルト	弥生土器	脚台	－	(4.40)	－	ハの字状に開く低い脚台部。端部は丸く収める。	体部内面ナデ、外面ハケメ、脚台部はユビ成形の後ナデで整えられる。	
335	**819**	32区	SR3201	上層	須恵器	杯蓋	11.80	(5.00)	－	天井部丸く、口縁部は直立し端部外側に尖らす。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
335	**820**	32区	SR3201	暗灰シルト	須恵器	杯蓋	(10.10)	3.60	－	内湾する天井部から直立する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	自然釉付着。
335	**821**	32区	SR3201		須恵器	杯身	8.50	(2.50)	－	平ための底部から外傾し、受部端部丸い。反り短く外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～オリーブ黒。	自然釉付着。
335	**822**	32区	SR3201	黒褐シルト	須恵器	杯身	(11.40)	4.35	－	不安定な平底から外傾する体部が受部に延び、端部丸い。反りは外反し端部尖る。	ロクロナデ、灰～灰白。	自然釉付着。
335	**823**	32区	SR3201	暗灰シルト	須恵器	杯身	－	(3.70)	－	丸底から内湾する体部で、受部は短く外反し水平に近くなる。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	自然釉付着。
335	**824**	32区	SR3201	茶灰細砂	須恵器	杯身	9.05	3.30	7.35	丸底から外傾する口縁部で、端部尖りぎみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰～暗灰。	自然釉付着。
335	**825**	32区	SR3201	灰極細砂	須恵器	杯身	(10.60)	3.55	(8.70)	丸底から僅かに内湾する体部で端部は外反し丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
335	**826**	32区	SR3201	洪水砂礫	須恵器	杯身	10.10	3.60	5.20	平底から内湾し口縁部直立し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	自然釉付着。
335	**827**	32区	SR3201	暗灰シルト	須恵器	杯身	(10.80)	4.25	(5.90)	突出平底で内湾する体部で端部薄く丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
335	**828**	32区	SR3201	暗灰シルト	須恵器	杯身	10.15	3.40	6.20	内湾する底部から体部で、口縁部外傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
335	**829**	32区	SR3201	茶灰極細砂～細砂	須恵器	杯身	9.60	3.00	5.80	平たい底部から内湾し、口縁部僅かに外反し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
335	**830**	32区	SR3201	灰極細砂	須恵器	杯身	10.55	4.10	5.65	平底から内湾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
335	**831**	32区	SR3201	黒シルト	須恵器	杯身	10.95	4.10	－	尖り底に近く内湾する体部から口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	重ね焼の痕跡。自然釉付着。
335	**832**	32区	SR3201	灰極細砂	須恵器	壺	(23.00)	(8.90)	－	内湾する体部から僅かに開きぎみに外傾する口縁部で、端部肥厚する。タタキ。	ロクロナデ、灰～灰白。	
335	**833**	32区	SR3201		土師器	イイダコ壺	5.50	12.10	－	内湾する体部で端部肥厚して丸い。頭部は角張る。ユビ成形。	ナデ、ヨコナデ、灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
335	834	32区	SR3201		土師器	イイダコ壺	(5.50)	(11.95)	−	頭部丸い把手部で内湾する体部。ユビ成形。	ナデ、灰白〜にぶい褐。	
335	835	32区	SR3201	茶灰極細砂〜細砂	土師器	イイダコ壺	(4.80)	11.80	−	内湾する口縁部で端部丸い。把手は頭が角張るもので円孔あり、断面は長方形。	ナデ、ヨコナデ、灰白〜褐。	黒斑あり。
335	836	32区	SR3202	灰茶腐植質シルト	須恵器	杯蓋	10.00	3.00	−	天井部平たく、口縁部は内湾し端部内湾ぎみに尖る。反りは短く三角、小さな宝珠つまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
335	837	33区	SX3307		須恵器	平瓶	(11.70)	(3.00)	−	外傾し端部外側に尖り角張る。	ロクロナデ、灰白〜灰オリーブ。	自然釉付着。
335	838	33区	SD3322		須恵器	短頸壺	(5.55)	4.20	−	扁平な体部で口縁部短く外反する。端部丸い。	ロクロナデ、沈線、灰白。	
335	839	33区	SD3326		須恵器	杯身	(11.00)	(2.60)	−	内湾する体部から外傾する口縁部で端部丸い。	ロクロナデ、灰白〜オリーブ灰。	自然釉付着。
335	840	35区	SD3502		須恵器	椀	15.70	4.90	6.00	糸切り底で平底、体部内湾し端部丸い。	ロクロナデ。	重ね焼の痕跡。
335	841	35区	落ち込み1		須恵器	椀	(14.00)	4.90	(5.80)	内湾する体部で口縁端部丸い、ベタ高台で糸切り底。	ロクロナデ。	重ね焼の痕跡。
335	842	35区	落ち込み1		須恵器	壺	−	(16.70)	−	肩の張る球形の体部で頸部外反する。タタキ成形。	ロクロナデ、カキメ。	
335	843	36区	P050		土師器	ミニチュア鉢	5.00	4.20	−	手づくね。ほぼ完形。		
335	844	41区	SB4102 P012		弥生土器	壺	−	(4.10)	(12.00)	底部片。平底で器壁が薄い。	外面は板ナデ調整で、内面は器壁の痛みが激しく不明。	
336	845	37区	SH3701	上層	須恵器	皿	20.10	2.50	18.00	平底から体部は短く立ち上がる。	底部はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、底部内面は仕上げナデを施す。	志方窯跡群産。
336	846	37区	SH3702		土師器	甕	(12.40)	11.50	−	ややつぶれた丸底で、球形の体部を持ち、口縁部は外反して開き、端部は外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面はナデを施す。	
336	847	37区	SH3702		須恵器	壺	−	(6.60)	7.30	底部は平底で扁平な球形の体部を持つ。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
336	848	37区	SH3703		須恵器	鉢	(19.80)	(4.80)	−	口縁付近で直立する体部を持つ。	回転ナデを施す。	
336	849	37区	SH3703		土師器	竈	−	(9.90)	−	竈前面の破片で、幅広のつばが付く。	口縁部はヨコナデ。他は、横方向のナデ。	
336	850	37区	SB3707 P304		須恵器	杯	(7.80)	3.60	(5.75)	突出気味の平底で、体部は直立気味に伸び、端部は尖る。	底部はヘラ切り後未調整、体部は回転ナデを施す。	
336	851	37区	SB3709 P064		須恵器	杯蓋	(16.60)	2.90	−	天井部は平たく、丸みを帯びて口縁部に至る。平たいつまみが付き、口縁部は下方に肥厚させる。	天井部外面はヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデを施す。	
336	852	37区	SB3709 P063		土師器	製塩土器	−	(5.90)	−	大きく開く口縁部で、端部は尖る。	ユビオサエの後ナデを施す。	
336	853	37区	SB3709 P063		土師器	製塩土器	−	(4.50)	−	大きく開く口縁部で、端部は尖る。	ユビオサエの後ナデを施す。	
336	854	37区	SB3711 P148		土師器	甕	(21.30)	(3.80)	−	外反する口縁部で、端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデを施す。	
336	855	37区	SB3712 P020		土師器	製塩土器	−	(4.20)	−	大きく開く口縁部で、端部は丸く収める。	ユビオサエの後ナデを施す。	
336	856	37区	P014		土師器	高杯	−	(9.35)	−	杯部底部は水平で、直線的に伸びる脚柱部から裾部は大きく開く。脚柱部には面取りを行う。	杯内面はヘラミガキ、脚柱部は面取り、裾部はヨコナデを行う。	
336	857	37区	P024		土師器	甕	12.80	(8.50)	−	球形の体部から頸部で緩く屈曲し、口縁部は外反する。端部は外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はタタキの後ナデ、内面はヘラケズリを行う。	顕著な二次焼成が認められる。
336	858	37区	P024		須恵器	甑	−	(7.60)	−	扁平な球形の体部に細い頸部が付く。体部中央に円孔を穿つ。	底部外面にヘラケズリ、内面底部に円筒状の工具による押圧痕が残る。	
336	859	37区	SB3701 P126		土師器	イイダコ壺	3.90	11.50	−	釣り鐘状の形態で、断面形はゆがんだ楕円状を呈する。	ユビオサエ、板ナデ、ナデを併用する。	完形。
336	860	37区	SH3701 P135		土師器	イイダコ壺	−	(5.50)		円孔を穿った釣り手部分である。	ユビオサエの後ナデを施す。	
336	861	37区	P151		弥生土器	(底部)	−	(8.60)	(9.80)	平底から体部は斜めに立ち上がる。	外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリを施す。	
336	862	37区	P171(SK3745)		須恵器	鉢	(11.20)	4.40	7.20	丸みを帯びた平底から、体部は内彎して低く立ち上がり、頸部で鋭く屈曲した短い口縁部が付く。	底部外面はヘラ切り後未調整。体部は回転ナデを施す。	
336	863	37区	P364		土師器	甕	(19.30)	(8.00)	−	丸みを帯びた体部から、頸部で鋭く屈曲し、口縁が外反して開く。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面は板ナデを施す。	
337	864	37区	SK3709		須恵器	杯蓋	(13.90)	(1.45)	−	天井部は水平で、口縁部は斜めに伸びる。口縁端部を下方に肥厚させる。	天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデ、天井部内面は仕上げナデを施す。	
337	865	37区	SK3711		土師器	高杯	(15.00)	(4.40)	−	浅い皿状の杯部である。	口縁部はヨコナデ、杯部外面は横方向のヘラミガキ、内面は放射状のヘラミガキを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
337	866	37区	SK3711		土師器	甕	(22.60)	(2.20)	−	外反して広がる口縁で、端部を肥厚させる。	ヨコナデを施す。	
337	867	37区	SK3719		須恵器	杯蓋	14.30	3.70	−	天井部は丸みを帯び、そのまま口縁部に至る。口縁端部をわずかに下方に肥厚させる。頂部に扁平なつまみが付く。	天井はヘラケズリの後つまみをナデで付ける。内面には仕上げナデを施す。	
337	868	37区	SK3719		須恵器	平瓶	−	(5.10)	8.00	輪高台の付いた平底から体部が斜めに立ち上がる。鋭く屈曲した肩から天井部が丸みを帯びて伸び、端に頸部が付く。天井部には取っ手の剥離痕が2カ所認められる。	天井部はナデ、体部は回転ナデ、底部外面はヘラ切り後ナデを施す。	
337	869	37区	SK3719 西端		須恵器	稜椀	16.80	(5.90)	−	底部は丸みを帯び、高台の痕跡がある。底部と口縁部の境界には稜があり、口縁端部は外反する。	天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデを施す。	
337	870	37区	SK3719		須恵器	長頸壺	−	(12.00)	9.80	平底に輪高台が付く。体部は斜めに立ち上がり、肩部で鋭く屈曲する。	底部外面は回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ。	
337	871	37区	SK3719		須恵器	長頸壺	−	(15.80)	−	体部は肩で鋭く屈曲し、丸みを帯びた肩から細い頸部が開きながら立ち上がる。	外面は回転ナデ、内面の頸部と体部の結合箇所にナデを施す。	
338	872	37区	SK3725		須恵器	杯蓋	10.50	4.20	−	天井の頂部は水平で、天井部と口縁部の境界は不明瞭である。全体に焼け歪みが著しい。	天井頂部はヘラ切り後未調整。体部は回転ナデを施す。	天井頂部にヘラ記号あり。
338	873	37区	SK3725		弥生土器	(底部)	−	(11.40)	6.20	平底から体部は斜めに伸びる。	体部外面はヘラミガキ、内面はユビオサエの後板ナデ。	底部に焼成後穿孔を施す。
338	874	37区	SK3730		弥生土器	甕	(23.80)	(14.60)	−	倒卵形の体部から、頸部は鋭く屈曲して、口縁部は外反して大きく開く。	摩滅が著しく調整不明。	
338	875	37区	SK3730		弥生土器	壺	−	(5.50)	(10.30)	底部は平底である。	底部はナデ、体部外面はヘラミガキ、内面はナデとヘラケズリを併用する。	
338	876	37区	SK3730		弥生土器	壺	−	(6.80)	8.60	平底から体部は斜めに伸びる。	体部外面はヘラミガキ、内面はナデを施す。	
338	877	37区	SK3730		弥生土器	甕	(21.60)	(5.50)	−	頸部は鋭く屈曲して、口縁部は大きく開く。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部にヨコナデを施す。	
338	878	37区	SK3730		弥生土器	広口壺	(19.40)	(12.70)	−	開きながら伸びる頸部から、口縁部は屈曲して斜め下方に伸び、端部を下方に肥厚させる。	口縁外面と口唇部に円形浮文をめぐらせ、内面屈曲部に貼り付け突帯2条をめぐらせる。頸部下位に断面三角形突帯2条が残存する。摩滅が著しく調整不明。	
338	879	37区	SK3730		弥生土器	壺	−	(10.20)	9.30	平底から体部は斜めに伸びる。	体部外面はヘラミガキ、内面は板ナデとナデを併用する。	
338	880	37区	SK3731		弥生土器	蓋	(21.00)	(9.50)	−	水平な天井から体部は斜めに広がり、屈曲して口縁部は水平に伸びる。全体に歪む。	外面はヘラミガキ、口縁部はヨコナデ、内面はナデを施す。	
338	881	37区	SK3733		弥生土器	直口壺	12.10	(7.20)	−	開きながら伸びる口縁で、端部は上方に面を持つ。	口縁部下に凹線3条を施す。摩滅が著しく調整不明。	
338	882	37区	SK3736		須恵器	短頸壺	6.60	(4.60)	−	肩が張り直線的に頸部に続き、短い口縁部が直立し端部丸い。	ロクロナデ。	自然釉付着。
338	883	37区	SK3736		土師器	皿	(22.60)	3.30	(14.00)	僅かに内彎する底部からS字状に屈曲する口縁部になる。端部肥厚。	ヨコナデ、板ナデ。	
338	884	37区	SK3742		土師器	皿	(20.60)	2.70	(18.30)	平底から体部は短く斜めに立ち上がる。	口縁部内面に沈線状の段が付く。回転ナデを施す。	
338	885	37区	SX3702		須恵器	杯	9.50	3.50	6.20	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部外面は回転ヘラ切り、体部は回転ナデを施す。	内面に自然釉付着、外面も灰被り。
338	886	37区	SX3702		須恵器	杯	10.20	3.30	7.20	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
338	887	37区	SX3702		土師器	甕	(12.60)	(5.10)	−	胴の張らない体部から、屈曲して口縁部は外反する。	口縁部はヨコナデ、体部外面はナデ、内面は板ナデ。	
338	888	37区	SX3707		弥生土器	広口壺	(27.80)	(13.60)	−	大きく開く口縁部で、端部を上下に肥厚させる。	口縁外面に円形浮文をめぐらせ、頸部下位に断面三角形突帯が3条残存する。口縁部はヨコナデ、突帯付近は強いヨコナデ、内面はナデを施す。	
339	889	37区	SD3710		須恵器	杯	(11.20)	3.50	(7.60)	平底から体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	底部外面はヘラ切り後ナデ、底部直上をヘラケズリ、体部は回転ナデを施す。	杯蓋か。
339	890	37区	SD3710		須恵器	杯	(9.60)	3.30	5.50	少し突出する平底から体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁部はほぼ直立して、口縁端部は内傾する。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
339	891	37区	SD3711		土師器	杯	(17.90)	4.50	−	平底から体部は斜め上方に伸びる。体部中位から口縁部にかけて器壁がやや厚くなる。	体部から口縁部はヨコナデ、底部内面はナデを施す。	
339	892	37区	SD3711		土師器	甕	16.00	(11.00)	−	胴の張らない体部から、頸部は軽く屈曲して、口縁部は外反する。端部を細めて収める。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面は摩滅が著しく調整不明。	
339	893	37区	SD3711		土師器	把手付甕	10.70	8.60	−	ややつぶれた丸底で、球形の体部を持ち、口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。体部に細い取っ手の痕跡がある。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面はユビオサエの後板ナデ。	
339	894	37区	SD3711		須恵器	杯	11.2	4.05	6.25	平底から体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は丸く収める。	底部外面は回転ヘラ切り後未調整、体部は回転ナデを施す。	
339	895	37区	SD3711		須恵器	瓶	−	(9.20)	−	丸底で、扁平な球形の体部を持つ。頸部は外反して開く。	頸部に沈線2条、肩部に沈線2条を施し、肩部沈線を切って円孔を穿つ。体部上半までは回転ナデ、体部下半は回転ヘラケズリの後、多方向のヘラケズリを施す。	
339	896	37区	SD3711		須恵器	長頸壺	−	(10.00)	−	扁平な胴の張る体部である。	体部中位に2本のヘラ描き沈線で帯状の区画を作り、その中にヘラ状工具による斜め方向の刻み目を充填する。体部全体に回転ナデ、体部下半にヘラケズリを施す。	
339	897	37区	SD3715		須恵器	杯身	(13.00)	5.80	(15.30)	底部は平底で、体部は内彎気味に伸びる。受け部の張り出しは弱く、立ち上がり部は短く、外反する。	底部外面はヘラ切り後未調整。体部は回転ナデ、底部内面は仕上げナデを施す。	
339	898	37区	SD3716		土師器	杯	(11.90)	3.10	(7.80)	ふくらんだ平底から、体部は斜めに開く。	摩滅が著しく調整不明。	
339	899	37区	SD3716		須恵器	杯	(14.80)	6.30	(8.50)	底部は平底で輪高台が付く。体部は斜めに立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	体部は回転ナデを施す。	焼け歪みが顕著。
339	900	37区	SD3716		須恵器	椀	(16.20)	5.80	7.80	平高台から屈曲して内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は外反する。	高台外面はヘラ切り後板ナデ、体部は回転ナデを施す。	
339	901	37区	SD3716		須恵器	(底部)	−	(2.75)	(12.40)	輪高台が付く底部である。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
339	902	37区	SD3719 肩部		須恵器	杯蓋	9.50	3.50	−	丸みを帯びた天井部を持ち、天井部と口縁部の境界に明瞭な段を持たない。口縁端部はわずかに外反する。	天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、天井部内面は仕上げナデを施す。	
339	903	37区	SD3724		須恵器	椀	(15.30)	5.00	(9.00)	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は軽く外反する。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
340	904	37区	SE3701 掘方		土師器	杯	(12.20)	3.45	(4.20)	狭い平底から体部は丸みを帯びて立ち上がる。	摩滅が著しく調整不明。	
340	905	37区	SE3701 掘方		土師器	杯	15.30	3.80	10.40	平底から体部は斜め上方に立ち上がる。口縁内面に凹線状のくぼみがある。	体部は回転ナデ、底部内外面はナデ、外面の底部と体部の境界にヘラケズリを施す。	
340	906	37区	SE3701		土師器	杯	(17.20)	4.00	(12.40)	平底から体部は斜め上方に立ち上がる。口縁内面に凹線状のくぼみがある。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、見込み部に仕上げナデを施す。	
340	907	37区	SE3701		土師器	皿	(19.00)	2.50	−	平底から外反して立ち上がる短い体部を持つ。口縁端部は外側に面を持つ。	内面に暗文を施す。体部は回転ナデ、底部外面はヘラケズリの後ナデを施す。	
340	908	37区	SE3701		土師器	甕	(23.30)	(4.00)	−	頸部で屈曲して斜めに開く口縁部である。	口縁部はヨコナデを施す。	
340	909	37区	SE3701 掘方		土師器	甕	23.40	(20.10)	−	倒卵形の体部に外反する口縁部が付く。	口縁部はヨコナデ、内面はハケを施す。体部外面はハケ、内面はナデ、板ナデを施す。	
340	910	37区	SE3701	井戸側内下層灰シルト	土師器	甕	(17.60)	19.20	−	最大径を下位に持つ球形の胴部に、頸部で屈曲して外反する口縁部を持つ。口縁端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、内面はハケ。体部外面はハケ、内面は板ナデを施す。	内外面とも炭化物付着。外面底部に二次焼成。
340	911	37区	SE3701 掘方		土師器	高杯	−	(6.50)	−	杯底部は水平で、直線的な面取りした脚柱部を持つ。	杯内面はナデ、脚柱部内面はナデ、裾部内面はハケを施す。	
340	912	37区	SE3701	上層	土師器	高杯	−	(7.30)	−	杯底部は水平で、直線的な面取りした脚柱部から屈曲して開く裾部を持つ。	杯内面はナデかヘラミガキ、脚柱部内面はナデ、裾部内面はハケを施す。	
340	913	37区	SE3701		須恵器	椀	9.80	3.70	8.10	平底から体部は垂直に立ち上がる。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、見込み部に仕上げナデを施す。	
340	914	37区	SE3701		須恵器	杯	(15.60)	3.50	12.50	平底から体部は斜め上方に伸びる。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、底部内面は仕上げナデを施す。	
340	915	37区	SE3701		須恵器	杯	(16.00)	2.95	(12.50)	平底から体部は斜め上方に伸びる。	底部外面は回転ヘラケズリ、一部未調整。体部は回転ナデを施す。	
340	916	37区	SE3701		須恵器	杯	(16.00)	2.90	(12.50)	平底から体部は斜め上方に伸びる。	底部外面は回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ、底部内面は仕上げナデを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
340	917	37区	SE3701		須恵器	杯	(12.50)	4.20	(9.20)	輪高台の付いた平底から体部は斜め上方に伸びる。口縁部内側に凹線状のくぼみがある。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
340	918	37区	SE3701		須恵器	杯	(12.80)	3.90	9.30	輪高台の付いた平底から体部は斜め上方に伸びる。口縁端部は尖る。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、見込み部に仕上げナデを施す。	
340	919	37区	SE3701	井戸側内下層灰シルト	須恵器	杯	(13.00)	4.10	9.20	輪高台の付いた平底から体部は斜め上方に伸びる。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。見込み部に仕上げナデを施す。	高台内にヘラ記号あり。
340	920	37区	SE3701		須恵器	杯	12.55	4.05	9.00	輪高台の付いた平底から体部は斜め上方に伸びる。口縁端部は尖る。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ、見込み部に仕上げナデを施す。	高台内に墨書「廿二」。
340	921	37区	SE3701		須恵器	杯蓋	13.80	2.60	−	天井部は水平で口縁部は斜めに開く。端部を下方に肥厚させる。扁平な宝珠つまみが付く。	天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は仕上げナデを施す。	天井部外面に墨書「二廿」。
340	922	37区	SE3701		須恵器	杯蓋	(19.60)	(2.00)	−	口縁端部を上下に肥厚させる。	口縁部は回転ナデを施す。	
340	923	37区	SE3701		須恵器	杯蓋	(19.40)	(2.00)	−	天井部は水平で、斜めに開く口縁部は屈曲して水平に伸びる。端部を下方に肥厚させる。	天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデを施す。内面に仕上げナデを施す。	
340	924	37区	SE3701		須恵器	壺蓋	(17.00)	(2.30)	−	天井部は水平で、口縁部は屈曲して直立する。つまみの痕跡がある。	天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は仕上げナデを施す。	
340	925	37区	SE3701	上層	須恵器	杯	18.10	6.30	13.30	輪高台が付く平底から、体部は斜め上方に伸びる。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
340	926	37区	SE3701		土師器	イイダコ壺	5.80	(7.60)	−	釣り鐘型の体部を持つ。	ヨコナデを施す。	
340	927	37区	SE3701		土師器	イイダコ壺	4.80	(7.60)	−	釣り鐘型の体部を持つ。	ユビオサエ、ヨコナデを施す。	
340	928	37区	SE3701	井戸側内下層灰シルト	須恵器	壺	(7.10)	15.30	7.40	底部に輪高台が付き、体部は扁平な球形で、細い頸部から口縁部は斜めに開く。底部に焼成後穿孔を穿つ。	底部外面はヘラ切り後ナデ、口縁部から体部は回転ナデを施す。	
340	929	37区	SE3701	井戸側内下層灰シルト	須恵器	壺	−	(14.20)	11.90	平底から体部は斜め上方に立ち上がり、屈曲して丸みを帯びた肩部を持つ。細い頸部は斜めに開く。	外面は回転ナデ、底部外面はヘラ切りの後ナデとヘラケズリを施す。	
340	930	37区	SE3701	上層	須恵器	壺	(8.40)	(6.70)	−	直立気味の細い頸部に外反して開く口縁部を持つ。端部は上方に肥厚させる。	回転ナデを施す。	
340	931	37区	SE3701	上層	須恵器	壺	9.80	(5.50)	−	斜めに立ち上がる頸部に外反して開く口縁部を持つ。端部は上方に肥厚させる。	回転ナデを施す。	
340	932	37区	SE3701	井戸側内下層灰シルト	須恵器	壺	−	(18.80)	11.40	輪高台が付いた平底から体部は斜め上方に立ち上がり、屈曲して直線的な肩部を持つ。頸部は斜めに大きく開く。	頸部に沈線を１条、肩部に２条めぐらせる。外面は回転ナデ、体部下端はヘラケズリ後ナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。	
341	933	38区	P026		須恵器	杯蓋	(15.00)	(2.20)	−	扁平な天井部から口縁部は斜めに伸び、端部は下方に垂下して外側に面を作る。	天井部はヘラケズリの後回転ナデ、口縁部は回転ナデ、天井部内面に仕上げナデを施す。	口縁端部が重ね焼の痕跡で変色。
341	934	38区	P026		須恵器	杯	(14.80)	4.30	(9.40)	輪高台を持つ底部から、屈曲して斜めに伸びる体部、口縁端部は丸く収める。	輪高台は貼り付け、底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ。	焼け歪みあり。
341	935	38区	P040		須恵器	鉢	(18.05)	(8.40)	−	僅かに内彎して立ち上がる体部で、口縁端部を丸く収める。	回転ナデ。	
341	936	38区	P066		須恵器	杯	(12.80)	4.10	(9.20)	平底から斜めに伸びる体部、口縁端部は丸く収める。	底部はヘラ切り、その他は回転ナデ。	
341	937	38区	P066		土師器	鍋	(37.30)	(7.10)	−	丸みを帯びた体部に大きく外反する口縁を持ち、口縁端部は外傾する。	体部外面はハケ、口縁部は内面にハケの痕跡が残り、ヨコナデ。	
341	938	38区	SK3806		土師器	甕	(31.20)	(13.20)	−	緩やかに屈曲する頸部に外反する口縁部が付く。口縁端部は上方に僅かに肥厚し、外側に面を作る。	口縁部ヨコナデ、口縁内部にはハケが残る。体部外面は縦方向のハケ、内面は頸部下に横方向の板ナデ、体部はナデを施す。	外面に煤、内面に有機物付着。
341	939	38区	SK3811		弥生土器	甕	(20.00)	(4.30)	−	大きく屈曲する頸部、口縁部は短く、端部は上に肥厚して外側に面を作る。	摩滅が著しく、不明。	
341	940	38区	SK3815		須恵器	杯	(15.05)	3.15	(9.60)	平底から斜めに伸びる体部、口縁は外反し、端部は丸く収める。	底部はヘラ切り、その他は回転ナデ。	
341	941	38区	SK3815		土製品	紡錘車	長7.20	幅7.45	厚2.55	扁平な円盤状を呈し、中央に孔を穿つ。	ナデ。	完形。
341	942	38区	SK3809		弥生土器	無頸壺	(27.50)	(10.60)	−	丸みを帯びた体部、頸部は大きく屈曲し、短く厚い口縁部が付く。端部は僅かに上方に肥厚し、外側に面を作る。	口縁部横ナデ、体部外面は板ナデ？、内面はナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
341	943	38区	SK3809		弥生土器	甕	(32.00)	(13.00)	−	大きく屈曲する頸部、口縁部は外反し、口縁端部は外側に面を作る。	口縁部横ナデ、体部外面はハケ、内面は板ナデ。	
342	944	38区	SK3809		弥生土器	壺	−	(48.00)	(14.00)	底部は平底で、腰の張った体部は最大径が中位にくる。	体部外面は上位がナデ、中位が横方向のヘラミガキ、下位が斜めから縦方向のヘラミガキを施す。内面は下半に板ナデ、上半にハケの痕跡が残り、所々に指頭圧痕がある。体部上半には櫛描き直線文・斜格子文、円形浮文を施す。	図上復原。
342	945	38区	SX3801		須恵器	甕	(22.60)	(5.00)	−	頸部は鋭く屈曲し、口縁部は斜め上方に伸びた後、外側に折れる。端部は垂下し、外側に面を作る。	タタキあるいは櫛状工具による連続刺突文の後回転ナデ。	
342	946	38区	SX3802		須恵器	稜椀	(15.00)	3.80	(9.80)	輪高台を持つ底部から、屈曲して斜めに伸びる体部、口縁部は外反し、端部は丸く収める。高台は内側に傾く。	輪高台は貼り付け、底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ。	口縁端部が重ね焼の痕跡で変色。
342	947	38区	SD3801		須恵器	杯蓋	(16.70)	3.85	−	扁平な天井部に扁平な宝珠形のつまみが付く。口縁部は斜めに伸び、端部は下方に垂下して外側に面を作る。	天井部はヘラケズリで、つまみを付ける際のナデが残る。口縁部から内面にかけては回転ナデ。天井部内面には多方向のナデ。	
342	948	38区	SD3801		須恵器	皿蓋	(36.40)	(3.10)	−	扁平な天井部から口縁部は斜めに伸び、端部は下方に垂下して外側に面を作る。	天井部はヘラケズリの後回転ナデ、口縁部は回転ナデ。	盤蓋か。
342	949	38区	SD3801		須恵器	壺	−	(8.45)	(10.30)	平底に輪高台が付く。体部は斜めに立ち上がった後、大きく屈曲する。	高台は貼り付け、体部下半にハケの痕跡が残る。内外面とも回転ナデを施す。	底部の高台内にヘラ記号。
342	950	38区	SD3801		土師器	甕	(16.00)	(7.60)	(14.80)	胴の張らない体部に外反する口縁が付く。口縁端部は丸く収める。	体部内外面にはハケが残り(外面は縦、内面は横)、口縁部はヨコナデ。	
342	951	38区	SD3801		土師器	鍋	(4.38)	(7.50)	−	浅い体部から、屈曲して大きく開く口縁部を持ち、端部は丸く収める。	体部内外面にはハケが残り(外面は縦、内面は横)、口縁部はヨコナデ。	
343	952	38区	SD3804		弥生土器	甕	(21.70)	(10.60)	−	大きく屈曲する頸部を持ち、口縁部は一度外反した後、内彎気味に終わる。口縁端部は微かに上下に肥厚し、外側に面を持つ。	剥離が著しく調整不明。	
343	953	38区	SD3804		弥生土器	甕	(29.50)	(5.10)	−	大きく屈曲した頸部から外反する口縁部を持ち、端部は外側に面を持つ。	剥離が著しく調整不明。	
343	954	38区	SD3804		弥生土器	甕	(30.00)	(21.70)	−	胴のあまり張らない体部と大きく屈曲する頸部を持ち、口縁部は外反して開く。口縁端部は微かに上方に肥厚し、外側に面を持つ。	口縁部ヨコナデ、体部外面はハケ、内部は板ナデ。	
343	955	38区	SD3804		弥生土器	甕	29.30	(27.40)	−	最大径が上1/3に位置する体部と大きく屈曲した頸部を持ち、口縁部は斜め上方に伸びる。端部は微かに上に肥厚し、端部は外傾する面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はヘラミガキを施すが、一部ハケが残る。体部内面は上半にハケが残り、下半には粗いヘラミガキが認められる。	
344	956	38区	SD3804		弥生土器	甕	(43.40)	(32.10)	−	胴の張った体部と大きく屈曲する頸部を持ち、口縁部は一度外反した後、内彎気味に終わる。口縁端部は微かに上方に肥厚し、外側に面を持つ。	口縁部ヨコナデ、体部外面は下半にヘラミガキが残る。内面はハケの後ナデを施す。	外面に二次焼成による変色が顕著に認められる。
344	957	38区	SD3804		弥生土器	高杯	(23.80)	(7.50)	−	椀形の体部から屈曲して水平に伸びる口縁部を持ち、口縁端部は外に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部内外面にはハケが残り、内面は仕上げナデを行う。口縁端部に連続する刻み目を入れ、内面の口縁部と体部の境界に断面三角形の貼付突帯を1条巡らせる。	
344	958	38区	SD3804		弥生土器	高杯	(9.70)	(22.0)	15.8	椀形の体部から屈曲して水平に伸びる口縁部を持ち、口縁端部は外に面を持つ。脚部は緩やかに外反し、端部は内傾する面を持つ。	脚部上端に断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。全体に剥離が著しく調整不明。	二次焼成による変色が激しい。
344	959	38区	SD3804		弥生土器	直口壺	(15.20)	(12.40)	−	緩やかに外反しながら伸びる頸部を持ち、口縁端部は左右に肥厚して上方に面を持つ。	口縁端部はヨコナデを施し、口縁部から頸部には縦方向のハケが残る。頸部下半には連続するヘラ描きの刻みを施し、その下には断面三角形の貼付突帯が4条残っている。	
344	960	38区	SD3804		弥生土器	短頸壺	(8.30)	(14.35)	5.10	平底で、最大径が下1/3に位置する体部と短く直立する頸部を持ち、口縁部は大きく屈曲して水平に開く。口縁端部は外向きに面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面は剥離が著しく調整不明。内面はハケと指頭圧痕がある。	
344	961	38区	SD3804		弥生土器	壺	−	(6.00)	(5.00)	平底。	底部外面はナデ、体部外面はヘラミガキ、内面はハケを施す。	
345	962	38区	SD3804		弥生土器	無頸壺	(26.80)	(6.50)	−	大きく屈曲した頸部から斜め上方に開く口縁部を持ち、端部は下方に肥厚し、外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、他は剥離が著しく調整不明である。口縁端部にヘラ描きによる格子目状の刻みを連続して施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
345	963	38区	SD3804		弥生土器	短頸壺	30.80	72.30	13.40	平底で、倒卵形の体部を持つ。頸部は短く立ち上がり、口縁は外反して端部を下方に拡張する。	頸部に指頭圧痕突帯を巡らせる。口縁部はヨコナデ、外面は体部上半にナデ、下半にヘラミガキを施す。内面は上半にユビナデと板ナデ、下半は剥離が著しく調整不明。	
346	964	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	(20.25)	6.80	−	斜めに伸びる頸部から口縁部は大きく屈曲し水平に開く。口縁端部は下方に肥厚し、外傾する面を作る。	全体に剥離が著しく調整不明。頸部下半に断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。	
346	965	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	20.70	(10.90)	−	斜めに開く頸部を持ち、口縁部は屈曲して水平に開く。口縁端部は微かに肥厚し、外側に面を持つ。	口縁端部に連続する刻みを入れ、頸部には断面三角形の突帯を3条めぐらせる。口縁部はヨコナデ、頸部外面は縦方向のハケ、内面はナデを施す。	
346	966	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	(17.60)	(37.00)	(7.00)	平底で、胴の張った体部を持ち、斜め上方に伸びる頸部と大きく屈曲して水平に開く口縁部を持つ。口縁端部は上下に肥厚して外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、外面は頸部にハケ、体部上半はナデ、下半は横と縦のヘラミガキを施す。口縁端部には綾杉状のヘラによる連続した刻み目を施す。体部上半には櫛描直線文3単位、櫛描波状文4単位、櫛描列点文を1単位施す。	図上復原。
346	967	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	(25.80)	(4.80)	−	斜めに開く頸部を持ち、口縁部は大きく屈曲して斜め下方に伸びる。口縁端部は微かに上下に肥厚し、外側に面を持つ。	内面の頸部と口縁部の境界に、刻み目の入った断面三角形の貼付突帯が2条巡らされる。口縁端部には上半に連続する刻み目を入れ、その上に2個1組の円形浮文を置き、下半には沈線を一条巡らせる。	
346	968	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	22.00	(11.40)	−	僅かに外反する頸部から、大きく開いて斜め下方に伸びる口縁部を持ち、口縁端部は下方に肥厚する。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはナデを施す。内面の口縁部と頸部の境界に突帯を貼り付け、連続する刻み目を施す。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を2条巡らせる。	
346	969	38区	SD3804		弥生土器	広口壺	25.20	(15.60)	−	僅かに外反する頸部から、大きく開いて斜め下方に伸びる口縁部を持ち、口縁端部は下方に肥厚する。	口縁部ヨコナデ、頸部外面にはハケ、内面にはナデを施す。内面の口縁部と頸部の境界に突帯を貼り付け、連続する刻み目を施す。口縁端部には綾杉状の刻み目を連続して施す。頸部下端には断面三角形の貼付突帯を5条巡らせ、その上から2本1組の棒状浮文を6箇所に貼付する。	
346	970	38区	SD3804		弥生土器	甕	−	6.20	(9.15)	中央が少し窪んだ平底。	体部外面下半は縦方向のヘラミガキ。底部外面はナデ、内面は剥離が著しく調整不明。	
346	971	38区	SD3804		弥生土器	甕	−	(6.05)	(10.10)	中央が少し窪んだ厚い平底。	体部外面下半は縦方向のヘラミガキ。底部外面はナデ、内面はナデで指頭圧痕がある。	
346	972	38区	SR3801		須恵器	杯	9.30	3.70	4.90	平底の狭い底部から、体部は僅かに内彎して立ち上がり、口縁部は直立し、端部は丸く収める。	底部外面はヘラ切り、後は回転ナデ。	焼け歪みが激しいが、完形。
347	973	40区	SH4001		土師器	甕	(13.50)	(12.60)	−	内湾する胴長で、下膨れの体部。外反する口縁部、端部丸い。ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ、明褐灰〜灰褐。	
347	974	40区	SH4001		土師器	杯	(17.00)	6.85	−	比較的平たい丸底に、内湾する体部から口縁部で、端部丸い。	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ、灰白〜浅黄橙。	
347	975	40区	SH4001		須恵器	杯	(12.40)	4.20	−	内湾する体部で内傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
347	976	40区	SH4001 東横		土製品	土錘	長8.10	幅3.30	厚3.90	管状でユビ成形、断面不定円形。	ナデ、灰白〜にぶい黄橙。	黒斑あり。重さ141.3g
347	977	40区	SK4001		須恵器	杯蓋	(13.40)	3.80	−	平たい天井部から内湾する体部で、口縁部外反する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜オリーブ灰。	
347	978	40区	SX4004		須恵器	不明	−	(3.95)	−	僅かに内湾する。	灰白。	外面にヘラ記号あり。
347	979	40区	SK4020		須恵器	杯	(9.20)	3.15	(7.20)	平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜青灰。	
347	980	40区	SK4020		須恵器	杯	(16.25)	4.35	(10.20)	平底から外傾する口縁部、端部僅かに反り丸い。内側に肥厚する高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰〜灰白。	
347	981	40区	SK4020		須恵器	台付壺	−	(10.40)	7.80	球形の体部で内外に肥厚する高台が付く。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、オリーブ灰〜灰白。	自然釉付着。
347	982	40区	SK4036		土師器	甕	19.80	30.70	−	やや長胴の球形体部に外傾する口縁部が付く。端部角張る。内面ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ。	黒斑あり。
347	983	40区	SK4041		土師器	鉢	(26.50)	(11.40)	−	内湾する体部から口縁部、端部上方につまみ出す。片口。	ハケ整形、ヨコナデ、ミガキ、灰白〜にぶい赤褐。	
347	984	40区	SK4045		土師器	鉢	(17.40)	(5.80)		内湾する体部から直立し、端部内湾し外側に肥厚し角張る。ヘラケズリ。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい褐〜灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
347	985	40区	SX4001		須恵器	皿	(19.50)	3.50	(14.00)	平坦な底部から外傾する口縁部、端部丸い。端部が内外に肥厚する高台。	ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	
347	986	40区	SX4001		土製品	土錘	長8.55	幅2.00	厚1.65	断面円形で両端が僅かに厚くなる。手づくね、砂粒多く含む。	ナデ、灰白～褐。	重さ31.8g
347	987	40区	SX4001		土製品	土馬	長(9.65)	幅5.15	厚4.25	断面不定円形で、底は片側に引き伸ばし足先とする。手づくね。	ナデ、灰白～橙。	
347	988	40区	SX4006		須恵器	皿	(18.20)	4.10	(13.60)	平たい底部で外傾する体部からやや外反する。丸い端部、高台外側に尖らす。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～暗灰。	自然釉付着。
347	989	40区	SX4009		須恵器	皿	(15.80)	4.05	(9.80)	平たい底部から外傾する口縁部、端部丸い。断面方形の高台は内側に尖らす。	ロクロナデ、灰。	
347	990	40区	SX4016		須恵器	杯身	(10.25)	3.15	(7.20)	不安定な平底から内湾し口縁部外傾する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～灰白。	
347	991	40区	SX4019		須恵器	杯蓋	(10.10)	(1.40)	－	外傾する口縁部で端部丸くやや肥厚、カエリ断面三角形で短い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	自然釉付着。
347	992	40区	SX4021		土師器	高杯	－	(4.60)	10.50	短めの脚部で外傾し、裾近くで大きく外反する。端部内外に肥厚、絞り目あり。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～橙。	
347	993	40区	SX 不明		須恵器	皿	－	(1.55)	(10.70)	平底で屈曲して外傾する体部で、断面方形の高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	重ね焼の痕跡。
348	994	40区	SD4001		須恵器	杯	(13.40)	3.35	(10.60)	平底から外傾する口縁部で端部付近やや外反し丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白～灰。	重ね焼の痕跡。自然釉付着。
348	995	40区	SD4002 東半		土師器	甕	(25.25)	(7.45)	－	内傾する体部から外反する口縁部、端部角張る。	ヨコナデ、ハケ整形、灰白～浅黄橙。	
348	996	40区	SD4002 東半		土師器	甕	(24.80)	(8.20)	－	内湾する体部に外反する口縁部、端部角張る。ユビ成形。	ヨコナデ、灰白。	
348	997	40区	SD4002		土師器	不明	(14.00)	(11.45)	－	直立する体部で端部角張りやや外反する。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、橙～明赤褐。	
348	998	40区	SD4002		須恵器	杯身	(10.20)	3.25	(4.50)	平底から外傾する体部、受部短く厚く丸い。立ち上がり短く外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰～暗灰。	
348	999	40区	SD4002		須恵器	高杯	－	(6.60)	8.55	杯部底平坦で内湾する体部、脚部は外反し屈曲して端部下方に延びる。	ロクロケズリ、ロクロナデ、ナデ、灰～灰白。	
348	1000	40区	SD4015		土師器	甕	(25.40)	(19.00)	－	内湾する体部から僅かに外反する口縁部、端部丸い。	ハケ整形から板ナデ・ナデ、ヨコナデ。	黒斑あり。
348	1001	40区	SD4015		土師器	鍋	(37.40)	(13.00)	－	内湾する体部で、口縁部外反し端部内外に肥厚する。	ハケ整形から板ナデ・ナデ、ヨコナデ。	
348	1002	40区	SD4015		土師器	竈	－	(13.50)	(30.10)	直立する裾部で、端部角張りやや肥厚する。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、黒～褐灰。	
348	1003	40区	SD4015		土師器	竈	－	(6.00)	－	歪な内湾する庇、端部角張る。	ナデ、灰白。	
348	1004	40区	SD4015		土師器	高杯	(12.40)	(4.40)	－	内湾する杯部で端部丸い。中実。	ハケ整形、ナデ、褐灰～明赤褐。	
348	1005	40区	SD4015		土師器	ミニチュア鉢	(6.10)	4.40	－	手づくね、内湾し端部丸い。強く被熱している。	ナデ、黄灰～明赤褐。	取瓶か。
348	1006	40区	SD4015		須恵器	杯蓋	11.20	2.95	－	内湾する天井部から外傾する口縁部、反り短く外反する。宝珠つまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～灰黄。	自然釉付着。
348	1007	40区	SD4015		須恵器	杯蓋	(12.50)	3.00	－	内湾する天井部から口縁部になり、端部僅かに内湾し丸い。カエリ短く断面三角、宝珠つまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～灰。	自然釉付着。
348	1008	40区	SD4015		須恵器	杯身	(9.20)	3.60	(5.80)	不安定な平底で、口縁部外傾する。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白～灰。	
348	1009	40区	SD4015		須恵器	杯身	(10.80)	3.30	5.90	平底から内湾する口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～暗灰。	
348	1010	40区	SD4015		須恵器	鉢	(11.90)	(11.15)	－	内湾する体部から口縁部、端部丸い。	ロクロナデ、灰白～灰。	
348	1011	40区	SD4015		須恵器	甕	－	(8.25)	5.05	扁平な球形で頸部外反する。高台外に開く。断面方形、円孔あり。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	
349	1012	40区	SD4027		須恵器	杯	(14.20)	4.30	(10.80)	平坦な底部から外傾する口縁部、高台外側にやや開く。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
349	1013	40区	SD4032 上半	にぶい黄褐シルト質極細砂	土製品	土錘	長6.60	幅2.30	厚2.20	両端に円孔があり、中央が幅広になり断面円形。	ナデ、灰白～にぶい黄橙。	重さ43.03g
349	1014	40区	SD4047		須恵器	蓋	(12.60)	(2.20)	－	天井部丸く外傾する口縁部、端部尖りぎみ、カエリ厚く短い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
349	1015	40区	SD4047		須恵器	杯身	(9.80)	3.20	6.40	丸底から僅かに内湾する口縁部で端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
349	1016	40区	SD4047		須恵器	杯身	(11.30)	3.80	6.20	丸底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	底部外面にヘラ記号あり。
349	1017	40区	SD4056		土師器	甑	－	(5.20)	－	手づくね、上方に延び僅かに反る。中空。	ナデ、淡橙～明赤褐。	
349	1018	40区	SD4056		須恵器	高杯	－	(4.10)	9.80	大きく外反する脚部、器壁厚く、端部角張る。	ロクロナデ、ナデ、灰白～灰。	
349	1019	40区	SR4001	洪水砂礫上面まで	須恵器	杯蓋	(13.40)	(2.35)	－	平たい天井部から外傾し、端部下側内傾するように垂下。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白～褐灰。	重ね焼の痕跡。
349	1020	40区 東半	SR4001	洪水砂礫上面まで	須恵器	杯身	－	(1.35)	(9.60)	平坦な底部から外側に開く高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、青灰～暗青灰。	
349	1021	40区 東半	SR4001	洪水砂礫上面まで	須恵器	杯蓋	－	(2.10)	－	内湾する天井部に扁平な宝珠つまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	自然釉付着。
349	1022	40区 南半	SR4001	洪水砂礫上面まで	須恵器	椀	7.90	(2.10)	7.90	厚めの平底で、端部が肥厚した高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ、灰白。	
349	1023	40区 東半	SR4001	洪水砂礫上面まで	須恵器	杯蓋	－	(1.40)	－	ほぼ水平に延びる天井部にボタン状のつまみ部付く。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	
349	1024	40区 中央	SR4001	洪水砂礫中	須恵器	杯蓋	(18.00)	(1.90)	－	丸い天井部から屈曲し、端部下方に垂下する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、黄灰～にぶい赤褐。	重ね焼の痕跡。
349	1025	40区	水田5		須恵器	杯	－	(0.80)	(8.80)	平底、ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	外面に墨書あり。
349	1026	40区	水田9		須恵器	杯蓋	(14.00)	(2.15)	－	内湾する天井部から体部で端部は垂下する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～暗灰。	
349	1027	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	杯	(15.75)	3.60	－	内湾し口縁端部僅かに反り尖る。ケズリ。	ナデ後ミガキ、浅黄橙。	
349	1028	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	杯	(15.60)	(5.00)	－	内湾する体部で、口縁部外側に開く。	ナデ、ミガキ、灰白～浅黄橙。	
349	1029	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	盌	－	(6.40)	－	内湾する体部で、口縁部外側に開きぎみになろうか。	ヨコナデ、ナデ、灰白～橙。	
349	1030	40区 中央	SR4001	3層 灰シルト	土師器	甕	(13.90)	(9.10)	－	湾曲ぎみに内傾する体部に外傾し端部上方につまみ上げる。ユビ成形、ヘラケズリ。	ハケ整形、ナデ、灰白～灰黄。	
349	1031	40区	SR4001	2層 灰黄砂	土師器	甕	(17.00)	(8.40)	－	内湾する体部から外反する口縁部、端部やや肥厚し丸い。	ハケ整形、ナデ、灰白。	
349	1032	40区	SR4001	2層 灰黄砂	土師器	甕	(22.20)	(17.20)	－	内湾する体部で口縁部外反する。ユビ成形。	ハケ整形、ヨコナデ、灰白～にぶい橙。	
349	1033	40区	SR4001	4層 黒シルト	土師器	甕	－	(14.20)	－	下膨れの球形の体部に直立ぎみに外傾する頸部が付く。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～灰黄。	
350	1034	40区	SR4001	2層 灰黄砂	土師器	鍋	(33.00)	(7.00)	－	内湾する体部から大きく外反する口縁部、端部角張り外側につまみ出す。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、浅黄橙～橙。	
350	1035	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	鍋	(33.80)	(10.70)	－	やや扁平な球形の体部に外反する口縁部、端部方形で凹線状になる。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、煤付着。	
350	1036	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	甕	(21.80)	(12.80)	－	内湾する体部に外反する口縁部、端部丸い。ヘラケズリ、ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、灰白～にぶい橙。	
350	1037	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	竈	(27.70)	(13.6)	－	内傾し端部角張る。突帯断面M字。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙～橙。	
350	1038	40区	SR4001	2層 灰黄砂	土師器	甕	－	(22.70)	－	下膨れの長胴甕底部で、体部内湾する。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、灰白～黒。	
350	1039	40区	SR4001	1層 水田土壌中褐極砂	土師器	イイダコ壺	(4.80)	9.00	－	小さな上げ底から内湾する体部と口縁部で、端部外側に尖る。	ナデ、ヨコナデ、オリーブ黒～暗灰黄。	
350	1040	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	羽口	長(5.10)	幅(5.10)	厚2.20	内湾する。	赤褐～黒褐、灰～灰白。	内側強く被熱、外面ガラス滓付着。
350	1041	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	こね鉢	－	(6.80)	(9.40)	突出する平底で、体部外傾する。ヘラケズリ。	ヨコナデ、ナデ、灰。	
350	1042	40区	SR4001	3層 灰シルト	弥生土器	(底部)	－	5.60	2.55	小さな平底中央を穿孔、外傾する体部。ユビ成形、ヘラケズリ。	ナデ、浅黄橙～にぶい黄橙。	黒斑あり。
350	1043	40区	SR4001	5層 褐灰シルト質細砂	弥生土器	(底部)	－	(7.90)	5.70	平底。	内面にヘラケズリ、外面は調整不明。	
350	1044	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	高杯	－	(6.05)	11.00	外反し端部丸い。絞り目、ユビ成形。	ナデ、灰白～橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
350	1045	40区	SR4001	3層 灰シルト	土師器	高杯	−	(7.25)	−	中実の脚部で外反する。杯部は水平。絞り目、ユビ成形。	ナデ、ミガキ、杯部内面ハケ、浅黄橙〜灰白。	
350	1046	40区	SR4001	4層 5層上面	須恵器	杯蓋	(11.90)	3.40	−	平坦な天井部から湾曲ぎみに延び口縁部は外傾、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
350	1047	40区	SR4001	2層 灰黄砂	須恵器	杯蓋	(11.30)	3.70	−	内湾する天井部から体部、口縁部外傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
350	1048	40区	SR4001	2層 灰黄砂	須恵器	杯蓋	−	4.40	−	平ための天井部から内湾する体部と口縁部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜褐灰。	自然釉付着。
350	1049	40区	SR4001	2，3層	須恵器	杯蓋	(12.30)	3.60	−	平たい天井部から内湾する口縁部で、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	自然釉付着。
350	1050	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	杯蓋	(11.35)	4.30	−	丸い天井部から内湾し、口縁部は外傾、端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
350	1051	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	杯蓋	(12.40)	3.10	−	内湾する天井部で、口縁部外傾し端部尖る。カエリは短く断面三角、宝珠つまみが付く。	ロクロナデ、ロクロケズリ、1方向の仕上げナデ、灰〜灰白。	
350	1052	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	杯	(9.90)	3.10	(5.70)	丸底から内湾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜オリーブ灰。	自然釉付着。
350	1053	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	杯身	(11.30)	3.80	(6.20)	平底から内湾する体部、受部やや内反し端部丸い。立ち上がり外反する。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白〜暗灰。	自然釉付着。
350	1054	40区	SR4001		須恵器	杯	(9.00)	3.90	5.60	平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	
350	1055	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	甕	(15.30)	(7.05)	−	内湾する体部から外反する口縁部、端部内側につまみ出す。タタキ。	ロクロナデ、カキメ、灰白〜暗灰。	
351	1056	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	台付椀	−	(6.75)	−	下膨れに内湾する体部に内傾する口縁部になる。中実の脚部が付く。	ロクロナデ、ナデ、灰〜暗青灰。	
351	1057	40区	SR4001	4層 黒シルト	須恵器	台付鉢	−	(6.00)	13.75	外反し端部内外に肥厚する脚台、内湾する体部。	ロクロナデ、灰白〜灰オリーブ。	自然釉付着。
351	1058	40区	SR4001 西肩	1層 水田土壌中褐灰砂	須恵器	甕	−	(8.30)	−	扁平な球形から直立する頸部になる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、オリーブ黒〜灰白。	自然釉付着。
351	1059	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	長頸壺	(6.65)	11.60	−	無花果形の体部に外反する口縁部で、端部角張りぎみ、内面絞り目。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
351	1060	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	長頸壺	−	10.60	−	扁平な球形の体部、頸部は外傾する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	
351	1061	40区	SR4001 南端	2層 灰黄砂	須恵器	長頸壺	−	(7.70)	−	肩が張る内湾する体部。	ロクロナデ、肩部に刺突文、灰〜灰白。	
351	1062	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	長頸壺	(7.50)	(19.65)	−	方形に近い体部で歪、口縁部は外反し端部角張る。底部ケズリ。	ロクロナデ、沈線、灰〜暗灰。	図上復原。
351	1063	40区	SR4001	3層 灰シルト	須恵器	甕	−	(54.00)	−	歪に湾曲する。タタキ。	ナデ。	
352	1064	42区	SR4202		須恵器	杯身	(13.90)	(3.10)	−	立上がりわずかに内傾、端部外側へ尖る。	回転ナデ。	
352	1065	42区	SR4202		土師器	椀	(14.80)	5.20	(7.95)	断面三角形の高い高台で外傾する体部。	横方向のナデ。	
352	1066	43区	SX4203		須恵器	捏鉢	(25.40)	(4.20)	−	端部肥厚。	回転ナデ。	
352	1067	46区	SB4601 P003		須恵器	椀	(15.60)	6.35	(6.55)	平底から内湾する体部。	内外面回転ナデ。	
352	1068	48区	SD4806		弥生土器	甕	(13.70)	(7.50)	−	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	体部外面ハケ。	
352	1069	48区	SD4806		弥生土器	甕	(16.40)	(15.15)	−	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	体部外面タタキ後ハケ。	
352	1070	48区	SD4806		弥生土器	甕	(15.50)	(6.50)	−	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	体部外面タタキ。	
352	1071	48区	SD4806		弥生土器	甕	−	(6.50)	4.70	平底から外傾する体部。	外面横方向のタタキ後タテ方向のハケ。	
352	1072	48区	SD4806		弥生土器	甕	−	(5.70)	4.55	平底から外傾する。	タテ方向ハケ。	
352	1073	48区	SD4806		弥生土器	甕	−	(12.30)	3.75	平底から外傾する体部。	外面横方向のタタキ後タテ方向のハケ。	
352	1074	49区	P021		須恵器	鉄鉢形鉢	(20.00)	(11.55)	(12.00)	内湾し、端部は面をもつ。	調整不明。	
352	1075	49区	SD4902		須恵器	椀	−	(4.20)	(12.60)	ハの字に開く高台で、外傾する体部。	回転ナデ。	
353	1076	50区	P001		縄文土器	深鉢	(27.60)	(6.60)	−	外傾し端部角張る、2個1組の突起付く。	条痕文。	
353	1077	50区	SD5001		弥生土器	鉢	−	(5.85)	5.25	僅かに上げ底から内湾する体部。	ハケ整形、ナデ。	
353	1078	50区	SD5001		弥生土器	高杯	−	(7.45)	(10.50)	外反し裾端部丸い。絞り目、ユビ成形。	ナデ、ヘラ状工具で調整。	
353	1079	52区 南半	SD5201		弥生土器	直口壺	(12.30)	(10.00)	−	長い頸部で外反する。端部尖る。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
353	1080	53区	P001		須恵器	鉢	(26.70)	(8.20)	11.60	平底から外傾し端部近くで外反する。底部は回転糸切りで切り離す。	ロクロナデ、内面は不定方向の仕上げナデ。灰白～灰。	
353	1081	53区	P003		土師器	甕	(25.20)	(4.00)	－	くの字で直線的に開く口縁部、端部やや膨らむ。内面ケズリ、砂粒多く含む。	外面はハケ、内面はナデで仕上げる。頸部に沈線。外面黒・黄灰、内面浅黄橙。	
353	1082	53区	P004		土師器	甕	(17.70)	(4.35)	－	くの字で端部丸い。内面ケズリ、粗砂含む。	外面ハケ整形で口縁部はヨコナデ。外面浅黄橙、内面灰。	
353	1083	53区	SK5301		土師器	甕	(19.40)	(3.70)	－	屈曲して外反し、端部角張る。	ナデ、にぶい黄橙。	
353	1084	53区	SK5302		土師器	甕	(21.30)	(3.30)	－	外傾する口縁部。	ヨコナデ、内面ケズリ、橙。	
353	1085	53区	SK5302		土師器	甕	(17.50)	(6.60)	－	くの字で外傾する。	ハケ整形からナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
353	1086	53区	SK5305		土師器	甕	(25.30)	(4.15)	－	外傾する口縁部で端部角張る。チャートなどの小石粒含む。	ナデ調整、褐。	
353	1087	53区	SK5305		土師器	(把手)	－	(3.50)	－	上方へ反る。チャート含む。	ユビ成形、灰白。	
353	1088	53区	SK5319		土師器	甕	(25.70)	(12.40)	－	内湾する体部から外反する口縁部。	ナデ、にぶい黄橙。	
354	1089	53区	SK5328		須恵器	杯蓋	14.45	5.15	－	内湾する天井部から体部、口縁端部尖る。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
354	1090	53区	SK5328		須恵器	杯蓋	15.00	5.10	－	内湾する天井部から体部、口縁端部尖り肥厚。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
354	1091	53区	SK5328		須恵器	杯身	12.30	5.25	－	内湾する体部から外反する立ち上がり、受部小さい。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
354	1092	53区	SK5328		須恵器	杯身	13.30	4.95	－	内湾する体部で受部は短く水平に、立ち上がりは外反する。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
354	1093	53区	SK5328		須恵器	短頸壺	8.00	6.60	－	扁平な球形の体部で口縁部は内傾する。砂粒含む。	ロクロケズリ、ロクロナデ、暗灰。	
354	1094	53区	SK5328		須恵器	壺	10.45	15.30	－	球形の体部から外反する口縁部で、端部肥厚する。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
354	1095	53区	SX5301		弥生土器	広口壺	(19.40)	(5.75)	－	外反する口縁部で端部三角形に肥厚、砂粒含む。	ハケ整形、端面綾杉状刻み目、頸部貼付突帯に指圧痕。	
354	1096	53区	SX5301 東側		弥生土器	直口壺	(13.70)	(6.40)	－	外反し端部角張り面となる。砂粒含む。	ハケ整形後ナデ、外面灰黄～にぶい黄褐、内面灰黄。	
354	1097	53区	SX5301		弥生土器	甕	(12.40)	(3.30)	－	内湾する体部から短く外傾する口縁部、端部角張る。チャートなど含む。	ハケ整形後ヨコナデ、外面明赤褐、内面にぶい橙。	
354	1098	53区	SX5301 東側		弥生土器	(底部)	－	(2.35)	6.80	平底から僅かに外反する。砂粒多く含む。	磨滅顕著、外面黒～にぶい黄橙、内面明黄褐。	
354	1099	53区	SX5301 東側	下層	弥生土器	壺	－	(3.15)	(5.95)	平底から外反する。粗砂多く含む。	ナデ仕上げ、にぶい黄橙。	
354	1100	53区	SX5301 南側		弥生土器	(底部)	－	(3.35)	(5.95)	平底から外傾する。砂粒多く含む。	磨滅顕著、外面灰白、内面褐灰。	
354	1101	53区	SX5301 東側	下層	弥生土器	壺	－	(3.80)	(6.55)	平底から外傾する。チャートなどの砂粒含む。	ナデ調整、外面灰白内面暗灰黄、磨滅。	黒斑あり。
354	1102	53区	SX5301 東側	下層	弥生土器	壺	－	(4.25)	(4.10)	不安定な平底から内湾、ユビ成形、チャートの砂粒含む。	ナデ仕上げ、にぶい黄橙～灰黄。	
354	1103	53区	SX5301 南側		弥生土器	壺	－	(6.70)	6.50	平底から外傾する。砂粒多く含む。	ヘラミガキで仕上げる。外面灰黄褐、内面にぶい黄橙。	
354	1104	53区	SX5301 南側		弥生土器	(底部)	－	(5.20)	(7.05)	平底から直立ぎみに外反しチャート多く含む。	表面磨滅、にぶい黄橙。	
354	1105	53区	SX5301 南半		須恵器	甕	(22.00)	(7.20)	－	湾曲する頸部から外傾し端部角張る。砂粒含む。	ロクロナデ、外面灰～黄灰、内面灰白。	
354	1106	53区	SX5301 東側		須恵器	甕	(22.80)	(6.60)	－	外反し端部肥厚する。粗砂少量含む。	ロクロナデ、にぶい黄橙。	
354	1107	53区	SX5301 南側		須恵器	甕	(21.10)	(9.10)	－	内湾する体部から直線的に延び、口縁端部角張る。内外面タタキ、砂粒含む。	ロクロナデ、カキメ、灰白～にぶい黄橙、焼成不良。	
354	1108	53区	SX5301 南側		須恵器	甕	(33.00)	(10.85)	－	外反する口縁部で端面になり台形である。	ロクロナデ、ナデ。	
354	1109	53区	SX5301 南半		土師器	甕	(28.50)	(5.15)	－	内湾する体部から外反する口縁部、端部丸い。砂粒多く含む。	ハケ整形、口縁部ヨコナデ、外面灰黄～灰、内面にぶい黄橙。	
354	1110	53区	SX5301 南側		須恵器	短頸壺	(6.70)	8.70	－	扁平な球形の体部に短い口縁部、細砂多く含む。	外面下半はロクロケズリ、ロクロナデ、灰白～灰、焼成良。	
354	1111	53区	SX5301 南側	下層 黒砂	土製品	土錘	長(8.80)	幅2.50	厚1.65～1.35	ユビ成形後ナデ、両端膨らむ。細砂多く含む。	円形の孔両端に。淡黄～明黄褐。	重さ32.6g
355	1112	53区	SX5302 北半	下層(弥生土坑)	弥生土器	甕	(23.85)	(32.50)	8.65	内湾する体部でバチ形の短い口縁部、細砂含む平底から内湾する体部。	ハケ整形からナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙、底部ハケ整形からナデ・ミガキ、にぶい黄橙。	図上復原。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
355	1113	53区	SX5302 北半	下層(弥生土坑)	弥生土器	甕	(16.50)	23.95	5.50	平底から内湾し器高があり口縁部は短く外傾、細砂多く含む。	ハケ整形からヘラミガキ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
355	1114	53区	SX5302 南半		弥生土器	壺	−	(3.30)	6.50	上げ底から外傾する。細砂多く含む。	ナデ仕上げ、浅黄橙。	黒斑あり。
355	1115	53区	SX5302 南半		須恵器	杯身	12.35	4.10	5.90	ロクロケズリ、内湾する体部で端部丸い。チャート含む。	ロクロナデ、内面仕上げナデ、灰。	
355	1116	53区	SX5302 南半		弥生土器	鉢	(15.35)	(6.30)	−	内湾する体部から短く外傾する。細砂含む。	ハケ整形・ミガキ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
355	1117	53区	SX5302		弥生土器	甕	(23.50)	(10.80)	−	内湾する体部から短く外傾し、端部角張る。	ハケ整形からナデ、にぶい黄橙。	
355	1118	53区	SX5302 南半		埴輪	石見型盾	−	(15.05)	−	平坦で円筒部との接合面で割れる鰭部、小孔1、細砂含む。	裏面は強いナデ、表面はナデで平滑に仕上げる。明赤褐〜にぶい黄橙。	
355	1119	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	−	(16.90)	−	弧状となる2辺で、ヘラで円弧を文様として描く。円孔1、裏面に円筒との接合痕。	ナデ、明赤褐〜橙。	
355	1120	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	−	(14.80)	−	鋭角となるコーナー部、円孔1。2本単位のヘラ状(竹管か)で周囲は直線、内側は円弧を描く。	ナデ、明赤褐〜灰黄褐。	
355	1121	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	−	(10.80)	−	鋭角となるコーナー部、円孔は貫通せず、2本単位のヘラ状(竹管か)で直線文。	ナデ、明赤褐〜橙。	
356	1122	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	−	(15.30)	−	2本単位で文様する。直線と弧が混じる。鋭角になる隅部。円孔1。	ナデ、明赤褐〜橙・灰褐。	
356	1123	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	−	(17.65)	−	ユビ成形、2本単位で直線と弧を描く、円孔1、裏に円筒部との接合部。	ナデ、明赤褐〜灰黄褐。	
356	1124	53区	SX5302		埴輪	形象	−	(5.20)	(33.50)	平面で円形になる裾部で花弁の台座状になる。円孔2。	ナデ、明赤褐〜灰黄褐。	
356	1125	53区	SX5302		埴輪	形象	−	(11.20)	−	石見型盾に似るが直線で文様も異なる。円孔1。	ナデ、明赤褐〜灰黄褐。	
356	1126	53区	SX5303		弥生土器	広口壺	(20.40)	(9.60)	−	頸部外傾し口縁部外反し、端部肥厚。	ハケ整形からナデ、端面円形浮文、頸部突帯3条、黄橙。	
356	1127	53区	SX5303		弥生土器	壺	−	(5.75)	(6.60)	平底から外傾する。砂粒多く含む。	板ナデ・ナデ・ヘラミガキ、にぶい黄褐。	
356	1128	53区	SX5303		弥生土器	甕	−	(6.85)	7.60	平底から外傾する。砂粒多く含む。	ハケ整形からナデ、黒褐。	
356	1129	53区	SX5305		土師器	高杯	−	(5.85)	−	外反する裾部で、細砂含む。	内面絞り目・ハケ整形からナデ、外面ユビ成形からナデ、にぶい黄橙。	
357	1130	53区	SX5304		弥生土器	広口壺	(16.60)	30.50	8.40	平底から球形の体部、頸部外反し口縁部垂下する。波状文・直線文・斜格子文・円形浮文・棒状浮文、砂粒含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、橙。	体部下半に焼成後穿孔を施す。
357	1131	53区	SX5304		弥生土器	広口壺	14.00	27.60	6.90	平底から器高の高い算盤玉状体部、外反する頸部で口縁部垂下する。砂粒含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、外面ヘラミガキ、円形浮文・直線文、にぶい黄橙。	底部に焼成後穿孔を施す。
357	1132	53区	SX5304		弥生土器	直口壺	10.90	32.15	(6.40)	倒卵型の体部、わずかに外傾する口頸部で口頸部の下端と口縁部にそれぞれ2条の突帯をめぐらせる。細砂含む。	ハケ整形後ヘラミガキ、刺突文、刻み目の付く突帯、灰白〜にぶい黄橙。	体部下半に焼成後穿孔の可能性。
357	1133	53区	SX5304 南側		須恵器	甕	(18.00)	(15.90)	−	内湾する体部で、口縁部僅かに反り外傾、端部角張る。チャートなど含む。	タタキ後カキメ、口縁部ロクロナデ、灰白。	
357	1134	53区	SX5304 南側		須恵器	瓶？	−	(6.35)	(6.70)	僅かな上げ底から直立ぎみに延びる。砂粒含む。	ロクロナデ、灰白。	
357	1135	53区	SX5307		弥生土器	広口壺	(16.60)	(6.30)	−	頸部外反し、端部肥厚し広がる。砂粒多く含む。	ハケ整形・ナデ、口縁部ヨコナデ・刻み目、2条突帯、浅黄橙。	1136と同一固体か。
357	1136	53区	SX5307		弥生土器	壺	−	(17.90)	(7.00)	平底から倒卵形の体部で、細砂含む。	ハケ整形後ナデ・ヘラミガキ、にぶい黄橙。	1135と同一固体か。
357	1137	53区	SX5307		弥生土器	鉢	−	(6.55)	5.50	平底から内湾する体部で、細砂多く含む。	ユビ成形からナデ・ミガキ、黄灰。	
358	1138	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	石見型盾	−	(18.80)	−	頂部に2つの突起、平坦、小孔3、ヘラ装飾、細砂含む。	ナデ、円筒部との接合部ユビ成形のまま、端面ヘラ切り。橙。	
358	1139	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	石見型盾	−	(21.20)	−	裏面側に反る盾上部、突出部付く。円孔2、ヘラ装飾、細砂含む。	裏面は強いナデで未調整、表面はナデで平滑に仕上げる。橙。	
358	1140	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	石見型盾	−	(16.65)	−	直線的で鰭部分の下部、小孔1、ヘラ描き装飾、チャートなど含む。	ナデ、浅黄橙〜にぶい黄橙。	
358	1141	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	石見型盾	−	(29.45)	−	直線的で鰭部分の下部、小孔2、ヘラ描き装飾、粗砂多く含む。	裏面は強いナデ、表面はナデで平滑に仕上げる。橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
359	1142	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(15.70)	−	歪に内傾する。低い台形のタガ、細砂多く含む。	板ナデ・ナデ、橙〜にぶい黄橙。	
359	1143	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(15.60)	−	外傾し不定形の低いタガ、円孔あり。	強いナデ、灰黄褐〜灰白。	
359	1144	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(9.30)	(22.00)	外傾し端部角張る。	板ナデ・ナデ、橙〜にぶい赤褐。	
359	1145	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(17.00)	(23.40)	外傾しており、端部少し開き面になる。砂粒含む。	板ナデ。	
359	1146	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(18.15)	(28.40)	外傾しており、端部少し開き面になる。低い突帯、砂粒含む。	板ナデ、明赤褐〜灰白。	
359	1147	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(8.40)	−	内傾し、タガ不定形、チャートなどの砂粒含む。	板ナデ・ナデ、黄橙〜橙。	石見型盾の脚台か。
359	1148	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(18.10)	−	歪に内傾する。低いタガ、透孔、細砂少量含む。	板ナデ・ナデ、黄橙〜橙。	石見型盾の脚台か。
359	1149	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(14.80)	−	歪に内傾する。低い台形・M字のタガ、透孔、細砂多く含む。	板ナデ・ナデ、橙〜にぶい赤褐。	
359	1150	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(17.25)	−	歪に内傾する、低いM字のタガ、透孔、細砂少量含む。	板ナデ・ナデ、浅黄橙〜灰白。	
359	1151	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	円筒	−	(23.25)	−	直線に延び低いM字形のタガ、砂粒含む。	ハケ整形から強いナデ・板ナデ、橙。	
360	1152	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(人物)	長(7.90)	幅(4.90)	−	中空で先端が細くなっている。粗砂・細砂含む。	ナデ、灰白〜橙。	
360	1153	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(鹿)	長(9.65)	幅(2.15)	厚1.85	断面円形で3つに分かれ、先を尖らす。	ユビ成形、ナデ、にぶい橙〜橙。	
360	1154	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(馬？鹿？)	長(7.75)	幅(4.60)	厚0.90	くの字に折り曲げ、先に向かって広がり先を尖らす。	内面絞り目、端部ヘラ切り、橙。	
360	1155	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(馬)	長(15.35)	幅(17.10)	厚2.45	内湾する体部で突帯で鞍を表現、円形刺突文がある。チャートなど含む。	ナデ、にぶい黄橙〜灰白。	
360	1156	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(盾持ち人)	長27.35	幅(8.95)	厚1.45	僅かに内湾するが直線的、側面は両端が狭まる。チャートなど含む。	ナデ、端面はヘラ切り、橙〜にぶい赤褐。	
360	1157	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(馬)	長(13.55)	幅(8.00)	厚(1.25)	円形で中空、細砂多く含む。	タタキ、ナデ、橙〜にぶい橙。	
360	1158	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(馬)	−	(22.00)	−	底部は平坦で両側に突出する。全体は外反する中空、チャートなど含む。	タタキ後ナデ、橙。	
360	1159	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(馬)	−	(3.80)	−	円形で中空、細砂多く含む。	タタキ、ナデ、橙〜にぶい橙。	
360	1160	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(家形)	長(8.60)	幅(10.60)	厚1.55	直線的で、細砂多く含む。	ハケ整形、ナデ、橙。	
360	1161	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(家形)	長(5.80)	幅(9.80)	厚(1.25)	直線的で台形のタガ巡る。チャートなどの砂粒含む。	ハケ整形、ナデ、橙〜浅黄橙。	
360	1162	53区	SX5305 窯体床面		埴輪	形象(家形)	長(12.30)	幅(24.10)	厚1.55	隅円方形になり底面は幅広くなる。上部は直線的に延びる。粗砂多量。	ユビ成形からハケ・ナデ、橙〜灰黄。	
361	1163	53区	SX5305 灰原		埴輪	石見型盾	−	(63.20)	−	頂部に2つの突起、平坦、小孔2、ヘラ装飾、細砂含む。	ナデ、円筒部との接合部ユビ成形のまま、端面ヘラ切り。灰白〜浅黄橙。	
361	1164	53区	SX5305 灰原		埴輪	石見型盾	−	(16.20)	−	平坦、小孔1、ヘラ装飾、チャートなど含む。	ナデ、端面はヘラ切り。浅黄〜灰黄。	
361	1165	53区	SX5305 灰原		埴輪	石見型盾	−	(19.20)	−	平坦な鰭部と内湾する円筒部、小孔1、ヘラ装飾、チャートなど含む。	ナデ、円筒との接合部はユビ成形、端面はヘラ切り。浅黄〜灰黄。	
362	1166	53区	SX5305 灰原	黒シルト	埴輪	石見型盾	−	(16.50)	−	僅かに反る盾上部、円筒部の上端、小孔1、ヘラによる装飾、チャートなど含む。	表面はナデにより平滑に仕上げ、裏面はナデを施すが未調整部多い。灰白〜明黄褐。	
362	1167	53区	SX5305 灰原	黒シルト	埴輪	石見型盾	−	(17.30)	−	頂部の突起2、円孔3、裏側に円筒との接続部あり、円弧の文様。	ナデ、明赤褐〜灰黄褐。	
363	1168	53区	SX5305 灰原		埴輪	石見型盾	−	(25.9)	−	円筒部は平面円形で直線的、鰭部は平坦、小孔2、ヘラ装飾、小石粒含む。	ナデ、裏面は未調整、灰黄〜黄橙。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
363	1169	53区	SX5305 灰原		埴輪	石見型盾	－	(15.10)	－	平坦、円孔１、ヘラによる装飾。細砂少量。	裏面はユビ成形後ナデ、表面はナデで平滑に仕上げる。明赤褐～にぶい黄橙。	
363	1170	53区	SX5305 灰原	黒シルト	埴輪	石見型盾	－	(23.40)	－	円筒部分で鰭が剥離した状態で、円形になり未貫通の円孔１。ユビ成形。	ナデ、明赤褐～灰黄褐。	
364	1171	53区	SX5305 灰原		埴輪	円筒	－	(25.20)	(22.20)	外傾し端部反りぎみで角張る。タガ低いＭ字。細砂少量。	板ナデ・ナデ、浅黄。	
364	1172	53区	SX5305 灰原		埴輪	円筒	－	(17.50)	－	歪に内湾ぎみに広がる。低いＭ字形のタガ。円形透孔、粗砂少量。	ユビ成形、板ナデ、ナデ、灰黄～灰白。	
364	1173	53区	SX5305 灰原		埴輪	円筒	－	(5.75)	－	歪に外傾する。細砂多量。	板ナデ・ナデ、灰黄。	
364	1174	53区	SX5305 灰原		埴輪	円筒	－	(9.00)	－	外傾しタガ低いＭ字、透孔、粗砂多く含む。	ユビ成形、ナデ、浅黄～浅黄橙。	
364	1175	53区	SX5305 灰原		埴輪	形象(馬)	長(12.40)	幅(11.00)	厚1.75	歪に内湾し、突帯と文様で馬具を表現する。細砂多量。	端面ケズリ、ハケ整形、ナデ、灰黄褐～灰黄。	
364	1176	53区	SX5305 灰原	黒シルト	埴輪	形象(馬)	長(12.60)	幅(17.80)	厚2.00～2.40	歪に内湾し、突帯と文様で馬具を表現する。細砂多量。	ナデ、灰～灰黄。	
364	1177	53区	SX5305 灰原		埴輪	形象(馬)	－	(18.80)	－	中空で直線的、底部両側に突出する。粗砂多量。	ユビ成形、ハケ・ナデ、灰黄～灰白。	
364	1178	53区	SX5305 灰原		埴輪	形象(馬)	長(17.10)	幅(8.80)	厚1.85	円形で中空。細砂含む。	ハケ整形、ナデ、灰黄～灰黄褐。	
365	1179	53区	SD5301		須恵器	杯蓋	－	(2.30)	－	僅かに内湾する天井部に平たく先が尖るつまみ部。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
365	1180	53区	SD5302		土師器	竈	(35.20)	(35.80)	(45.70)	内傾する体部で両端は肥厚している。把手下向き、粗砂多く含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、橙～灰黄褐。	
366	1181	53区	SR5301		弥生土器	甕	(17.80)	(4.70)	－	内湾する体部から外傾する口縁部で、端部肥厚する。	口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
366	1182	53区	SR5301	黒砂	弥生土器	甕	(23.05)	29.25	6.10	平底から内湾する体部で、口縁部外傾する。細砂含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、外面ヘラミガキ、灰黄～にぶい黄橙。	体部下半に焼成後穿孔を施す。
366	1183	53区	SR5301	黒砂	弥生土器	広口壺	(11.10)	(16.45)		長円形の体部から外反する口縁部で、端部肥厚する。細砂含む。	ハケ整形からナデ・ミガキ、口縁部ヨコナデ、体部に刺突文。黄橙。	
366	1184	53区	SR5301	黒砂	弥生土器	壺	－	(9.95)	(5.60)	平底から内湾する体部で、細砂含む。	ハケ整形からナデ・ヘラミガキ、黄橙。	
366	1185	53区	SR5301		須恵器	壺	(13.40)	3.95	－	外反する口縁部で、端部肥厚する。	ロクロナデ、灰。	
366	1186	53区	SR5301		須恵器	椀	－	(2.90)	(7.80)	内湾する体部から外反する口縁部。	ロクロナデ、底部ヘラ切り、灰。	
366	1187	53区	SR5301		須恵器	(底部)	－	(1.95)	(11.10)	逆台形の高台で水平の底部から内湾する体部、チャートなどの小石粒含む。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
366	1188	53区	SR5301		須恵器	甕	(16.00)	(13.10)	－	内湾する体部から外傾する口縁部。端部肥厚。	内外面タタキ、ロクロナデ、灰。	
367	1189	53区	水田上面	灰砂	土師器	鉢	(20.20)	18.05	9.60	平底から球形の体部、短く外傾する口縁部、細砂多く含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄。	
367	1190	53区	水田上面	黒シルト	土師器	高杯	－	(9.90)	(11.45)	外傾する筒部から広がる裾部、杯部内湾する。細砂含む。	内面絞り目、ユビ成形からナデ、灰白～にぶい黄褐。	
367	1191	53区	水田上面	黒シルト	土師器	高杯	－	(6.80)	(9.95)	外傾する筒部から屈曲して緩やかな裾部になる。細砂多く含む。	ユビ成形からナデ、端部ヨコナデ・ヨコナデ、灰黄。	
367	1192	53区	水田上面	黒シルト～下層ピート層	土師器	(把手)	－	(5.05)	－	直線的に反る取っ手、チャートなどの砂粒含む。	ユビ成形からナデ、内面板ナデ、にぶい黄橙。	
367	1193	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	(10.40)	4.05	－	直線的な天井部から僅かに内湾する口縁部。砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、凹線、灰～灰白。	
367	1194	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	10.90	5.10	－	内傾する体部から内湾する口縁部で、端部丸い。チャートなど含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰～灰白。	
367	1195	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	(11.80)	3.70	－	平たい天井部から内湾する口縁部で、砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰黄～灰白。	
367	1196	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	(11.60)	4.30	－	内湾する天井部から外傾する口縁部で、端部反りぎみで丸い。細砂少量。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰白。	
367	1197	53区	水田上面		須恵器	杯蓋	(13.20)	4.30	－	天井部平坦で、体部内湾し口縁部外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、にぶい黄。	
367	1198	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	(11.85)	3.70	－	内湾し端部丸い。	ロクロナデロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
367	1199	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯蓋	(10.90)	3.00	−	内湾する体部で端部反りぎみで丸い。細砂多量。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰。	
367	1200	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	10.05	4.05	−	内湾する体部から短い受部、立ち上がり外反し、粗砂含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰〜灰白。	
367	1201	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	(11.00)	3.75		丸底から内湾する体部で受部短く反る。立ち上がり内傾し端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面1方向の仕上げナデ、灰。	
367	1202	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	(9.70)	3.50	−	内湾する体部で、受部端部肥厚ぎみに丸い。チャート含む。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰。	
367	1203	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	10.70	3.80	7.40	内湾し端部丸く、細砂含む。	ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ灰〜灰白。	
367	1204	53区	水田上面		須恵器	杯身	(12.60)	(5.50)		内湾し端部丸く肥厚、細砂含む。	ロクロナデ、内面1方向の仕上げナデ、浅黄。	
367	1205	53区	水田上面		須恵器	杯身	12.55	4.75		内湾する体部で、端部丸い。砂粒含む。	ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ、内面1方向の仕上げナデ、暗緑灰〜灰白。	
367	1206	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	11.20	3.60		内湾する体部で端部丸い。細砂含む。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰〜灰白。	底部外面にヘラ記号。
367	1207	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	杯身	(11.40)	2.70	(6.15)	内湾する体部で端部反りぎみで丸い。細砂少量。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰黄褐〜灰白。	
367	1208	53区	水田上面		須恵器	杯身	(11.20)	(3.20)	(7.90)	内湾する体部で、端部僅かに反り尖りぎみ、細砂含む。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰白。	
367	1209	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	椀	10.00	5.35	7.80	内湾する体部で端部尖る。細砂含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、底部ヘラ切り、灰。	
367	1210	53区	水田上面		須恵器	椀	(10.30)	6.45	−	内湾する底部で直立ぎみに緩やかに屈曲し端部丸い。小石粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
367	1211	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	高杯	12.35	7.10	8.95	内湾する体部からやや外反する口縁部、裾部大きく外反する。細砂含む。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰。	
367	1212	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	高杯	−	(5.80)	(9.80)	歪に外反する脚部で、水平から外傾する杯部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面仕上げナデ、灰白。	
367	1213	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	高杯	15.50	8.30	10.10	内湾する体部で端部丸い杯、裾部は外反し端部肥厚する。チャート含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、絞り目、灰〜黄灰。	
367	1214	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	高杯	(13.55)	11.85	10.30	外反する裾部、杯部は内湾し端部丸い。細砂多量。	ロクロナデ、ロクロケズリ、不定方向の仕上げナデ、灰白。	
367	1215	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	高杯	(13.30)	11.05	10.95	内湾する体部で端部丸い杯、裾部は外反する。チャート含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面1方向の仕上げナデ、灰。	
367	1216	53区	水田上面	黒シルト	須恵器	甕？	(11.60)	(3.40)	−	頸部外反し、口縁部外傾する。チャートなど含む。	ロクロナデ、灰〜灰オリーブ。	
367	1217	53区	水田上面	黒シルト〜下層ピート層	須恵器	台付椀	−	(9.25)	(10.00)	外反する脚台で端部尖る。体部内湾し、砂粒含む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	図上復原。
367	1218	53区	水田上面	黒シルト〜下層ピート層	須恵器	短頸壺	−	(7.35)	−	算盤玉状の体部から内傾する口縁部。細砂少量。	ロクロナデ、ロクロケズリ、仕上げナデ、灰。	
367	1219	53区	水田上面		須恵器	甕	(23.80)	(8.85)	−	内湾する体部から反りぎみに外傾する口縁部で、端部外側に尖る。	タタキ、ロクロナデ、灰〜灰白。	
367	1220	53区	水田上面		須恵器	甕	(14.80)	(12.35)	−	内湾する体部から内湾する口縁部に、端部外側に尖る。	体部タタキ、口縁部ロクロナデ。	
368	1221	53区 下	包含層	黒シルト	須恵器	直口壺	(10.10)	(12.90)		球形の体部から内湾ぎみの口縁部で、端部外側に尖り面になる。小石粒含む。	ロクロナデ、凹線、灰〜灰白。	
368	1222	53区 下	包含層		須恵器	横瓮	10.00	(9.65)	−	内湾する体部から外反する口縁部で、端部肥厚、大きく歪む。	体部タタキ、口縁部ロクロナデ、灰。	頸部外面にヘラ記号あり。
368	1223	53区 下	包含層	黒シルト	須恵器	提瓶	7.25	22.10	−	球形の体部から外傾する口縁部、端部尖る。側面は1面平坦で1面内湾、チャートなど含む。	ロクロナデ、浮文部ナデ。	
368	1224	54区	SD5401		土製品	土錘	長(6.90)	幅2.20	厚1.75	断面円形で棒状、頭部幅広くなり穿孔。	ユビ成形後ナデ、灰黄。	重さ26.8g
368	1225	55区	大畦畔下	暗灰砂	土製品	土馬	−	(10.45)	−	手づくねで、湾曲した脚を作る。断面円形、細砂多量。	ユビ成形後ナデ、浅黄〜黄灰。	
368	1226	55区	北側水田		土師器	イイダコ壺	(6.30)	10.95	−	僅かに内湾し頭部張る。円形円孔、細砂多量。	ユビ成形後ナデ、灰黄〜灰白。	
368	1227	56区	SH5601		弥生土器	直口壺	9.45	(16.9)	−	短く直立する口縁部。	外面一部にタテ方向のミガキ。	
368	1228	56区	SH5601		弥生土器	甕	(11.80)	25.20	(3.20)	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	外面横方向のタタキ後ナデ、内面ヘラケズリ。	
368	1229	56区	SH5601		弥生土器	広口壺	(8.20)	14.20	2.70	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	外面ハケ目、体部下半ユビオサエ後ナデ。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
368	1230	56区	SH5601		弥生土器	広口壺	(10.87)	(6.80)	−	短く立ち上がり外反する口縁部。	外面ヨコナデ、内面ハケ調整。	
368	1231	56区	SH5601		弥生土器	甕	(11.45)	17.30	(4.20)	内湾ぎみの体部から屈曲する口縁部。	外面タタキ、内面ナデ、ハケ。	
368	1232	56区	SH5601		弥生土器	壺	−	11.75	4.70	扁平な球状の体部から突出する底部。	外面タテ方向のミガキ、ハケ。	
368	1233	56区	SH5601		弥生土器	鉢	15.50	7.15	4.30	内湾する口縁部。	外面タテ方向にミガキ。	
368	1234	56区	SH5601		弥生土器	甑	−	(3.90)	3.15	底部焼成前穿孔。	ナデ。	
368	1235	56区	SH5601		弥生土器	鉢	9.00	4.25	3.75	平底から外傾内湾する体部。	横方向のナデか。	
368	1236	56区	SH5601		弥生土器	器台	(19.40)	16.50	17.30	外傾する柱状部から外反し柱状部に穿孔２段４方向。	外面タテ方向のミガキ。	
369	1237	56区	SH5602		土師器	壺	(17.50)	(14.70)	−	口縁部はくの字で端部丸く体部内湾する。	内外面ともユビオサエ後ナデ。	
369	1238	56区	SI5602		縄文土器	深鉢	(42.60)	45.35	3.40	内湾する体部から緩やかに外反して開く口縁部で、端部に刻み目、４ヶ所の波状突起部。	左斜方向の条痕。	
370	1239	56区	SI5601		縄文土器	深鉢	(32.00)	(26.40)	−	口頸部が外反して立ち上がる。頸部でくびれて胴部に続く。	外面横および左斜方向の条痕。内面調整不明、口縁端部に刻み目。	
370	1240	56区	SI5604		縄文土器	深鉢	(33.55)	(41.95)	(5.35)	内湾する体部から緩やかに外反して開く口縁部で、端部に山形状突起３ヶ所。	体部ケズリ、頸部横方向の条痕、連続刺突による文様。	
371	1241	57区	SK5701		埴輪	円筒	(20.80)	(4.50)	−	外傾し端部外側につまみ出す。	ハケ、ヨコナデ。	
371	1242	57区	SK5701		埴輪	円筒	−	(13.90)	11.95	内湾ぎみに窄まり、端部内側に踏ん張るように平たくなる。内側が段になって突き出る。ユビ成形。	ハケ、ヨコナデ板ナデ、底部ヘラ切り。	
371	1243	57区	SK5701		埴輪	円筒	−	(22.35)	(12.00)	内傾し底部内側に踏ん張る。底面外側は１段凹んでいる。M字形の崩れた突帯。	ハケ、ヨコナデ板ナデ、底部未調整。	
371	1244	57区	SK5701		埴輪	円筒	−	(10.60)	−	僅かに開くが直線的で、端部角張り内外に肥厚、断面台形の突帯。	ハケ、ナデ。	
371	1245	57区	SK5701		埴輪	円筒	−	(10.60)	−	外傾しM字形の突帯が付く。	ハケ、ナデ。	
371	1246	57区	SK5701		埴輪	円筒	−	(19.15)	(14.30)	内湾ぎみに底部に狭まり、端部は内側だけが延びる。崩れたM字形の突帯。	ハケ、ナデ。	
371	1247	57区	SK5702		埴輪	円筒	(25.30)	(7.30)	−	外反し端部さらに広がる。	ハケ、ナデ、ヨコナデ。	
371	1248	57区	SX5701		埴輪	円筒	(24.80)	(5.70)	−	外反し端部尖りぎみ、口縁部に段がある。	ハケ、ナデ、ヨコナデ。	
371	1249	57区	SX5701		埴輪	円筒	(27.80)	(3.95)	−	外反し端部角張る。端部外側に僅かに肥厚する。	ハケ、ナデ。	
371	1250	57区	SX5701		埴輪	円筒	−	(11.10)	−	外反し低い台形の突帯。	ハケ、ナデ。	外面にヘラ描きの文様あり。
371	1251	57区	SX5701		埴輪	円筒	(27.00)	(17.45)	−	外反し端部角張る。低い台形の突帯。	ハケ、ナデ。	外面にヘラ描きの文様あり。
372	1252	53区 下		包含層	縄文土器	深鉢	(47.70)	(8.25)	−	外反する口縁部で端部尖る。粗砂含む。	条痕文でナデ仕上げ、黒～にぶい黄橙。	
372	1253	53区 下		黒シルト～下層ピート層	土師器	鍋	(30.70)	(5.90)	−	内傾する体部から内湾ぎみに延びる口縁部で、端部角張る。	ハケ整形からナデ、口縁部ヨコナデ、灰黄。	
372	1254	53区 下		下層ピート層下面	縄文土器	深鉢	(26.50)	(6.80)	−	外反し、端部下で突帯状に段を有し、端部尖る。砂粒多く含む。	にぶい黄橙。	
372	1255	１区		包含層	土師器	鍋	(29.70)	(6.50)	−	直立気味に立ち上がる体部から口縁部は外反して伸び、端部を上方に肥厚させる。	口縁部はヨコナデ、外面はタタキ痕跡があり、内面にはヘラケズリが認められる。	
372	1256	１区		包含層	弥生土器	壺	−	(3.00)	−	口縁部片で、口唇部直下を肥厚させる。	口唇部および突帯状に肥厚させた部分に刻み目を施す。ヨコナデで外面の一部にヘラミガキが認められる。	128と同一個体あるいは同一器種。
372	1257	１区		包含層	縄文土器	鉢	−	(4.70)	−	外反する口縁部で、口縁をわずかに肥厚させる。	摩滅が著しく調整不明。	
372	1258	１区		精査面	縄文土器	鉢	−	(3.00)	−	外反する口縁部である。	外面は条痕、内面は摩滅が著しく調整不明。	
372	1259	１区		暗褐砂	縄文土器	鉢	−	(3.20)	−	外反する口縁部である。	外面は条痕、内面は摩滅が著しく調整不明。	
372	1260	１区		包含層	縄文土器	鉢	−	(3.50)	−	体部片である。	摩滅が著しく調整不明。	
372	1261	１区		包含層	縄文土器	鉢	−	(2.30)	−	体部片である。	外面に連続刺突文が残る。外面は条痕、内面は摩滅が著しく調整不明。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
372	1262	37区	SD3719		弥生土器	広口壺	(29.00)	(2.35)	−	大きく開く口縁部で、屈曲して斜め下に伸びた端部を上下に肥厚させる。	口縁外面に円形浮文を巡らせ、その上から櫛状工具による刻みを施す。摩滅が著しく調整不明。	
372	1263	40区 西半		遺構面検出中	弥生土器	広口壺	(24.00)	(1.90)	−	外反して開く口縁部。端部を上下に肥厚する。	端面に凹線文を巡らせ、円形浮文の剥離痕が等間隔に残る。	河内産。
372	1264	40区		褐灰色混礫極細砂	弥生土器	広口壺	(23.60)	(3.70)	−	筒状の頸部から外反して大きく開く口縁部で、端部を上下に肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
372	1265	53区 下		灰砂	弥生土器	甕	(25.45)	(15.30)	−	内湾する体部から外傾する断面バチ形の口縁部である。砂粒含む。	ハケ整形からナデ、口縁部ヨコナデ・ミガキ、灰黄褐。	
372	1266	53区		面検出	弥生土器	甕	(18.50)	(8.70)	(18.70)	僅かに内湾する体部から外傾する口縁部で、端部内側につまみ出す。砂粒含む。	板ナデ・ナデ仕上げ、口縁部ヨコナデ、明橙〜灰黄褐。	
372	1267	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	土師器	甕	(12.00)	(4.50)	−	やや湾曲する体部で、口縁部は大きく外反する。端部丸い。	表面摩滅。	
372	1268	53区 下		灰砂	弥生土器	壺	−	(3.25)	5.20	平底から外反ぎみに広がる体部で、砂粒多く含む。	ユビ成形からナデ、灰白。	
372	1269	53区 下段すそ		黒シルト	弥生土器	壺	−	(5.20)	5.60	平底から外反ぎみに広がる体部で、砂粒多く含む。	板ナデ・ミガキ、灰白〜黄灰。	
372	1270	53区 下		黒シルト	弥生土器	直口壺	7.40	(5.40)	−	外傾する口縁部で、端部丸い。チャート含む。	外面ヘラミガキ、灰白〜灰黄。	
372	1271	53区 下		黒シルト	弥生土器	壺	−	(5.20)	6.25	平底から外傾する体部で、砂粒多く含む。	ハケ整形からナデ・ミガキ、灰〜黄灰。	
372	1272	53区 下		下層ピート層下面	弥生土器	壺	−	(5.25)	(7.00)	平底から外反ぎみに外傾する体部で、砂粒多く含む。	ユビ・ハケ整形からナデ・ミガキ、黄灰。	
372	1273	53区 下		下層ピート層下面	弥生土器	壺	−	(3.90)	(6.05)	平底から外傾する体部で、砂粒多く含む。	ユビ・ハケ整形からナデ・ミガキ、黄灰。	
372	1274	53区 下		下層ピート層下面	弥生土器	壺	−	6.30	(9.40)	平底から外傾する体部で、砂粒多く含む。	ハケ整形からナデ・ミガキ、灰黄褐。	
372	1275	53区 下		下層ピート層下面	弥生土器	壺	−	(3.40)	8.45	平底から外傾する体部で、砂粒多く含む。	ユビ・ハケ整形からナデ、黄橙。	
372	1276	53区 下段すそ		黒シルト	弥生土器	壺	−	(2.25)	5.30	不安定な平底から外反する体部で、砂粒含む。	ユビ成形からナデ、黒。	
373	1277	52区 北半		黒シルト 人力掘削	弥生土器	無頸壺か台付鉢	−	(9.15)	9.85	外反し裾端部角張る。内外に肥厚、脚部低い。	ナデ。	黒斑あり。
373	1278	52区 中央付近		黒シルト内	弥生土器	蓋	−	(7.15)	(19.00)	中実の厚いつまみ部で外傾し、端部肥厚。円孔1。	ハケ整形、ヘラミガキ。	
373	1279	1区 南西部低地部		黒褐礫混砂	弥生土器	高杯	(12.00)	(11.50)	−	深い鉢状の杯部を持ち、口縁部は水平に伸びた後端部を垂下させる。脚柱部はまっすぐに伸びる。	口縁内面に突帯を巡らせる。口縁部はヨコナデ、杯部にはナデを施す。脚部外面はヘラミガキ、内面には絞り痕跡が認められる。	杯底部に焼成後穿孔を施す。
373	1280	53区 下		下層ピート層下面	弥生土器	壺	−	3.70	(5.45)	わずかな上げ底から外傾する。	ユビ成形からナデ、灰黄。	
373	1281	17区 東半		遺構検出時	弥生土器	ミニチュア壺	−	(2.50)	2.90	わずかに上げ底状の小さい底部。	内外面共にユビオサエ後ナデ。	
373	1282	44区 東半		包含層	須恵器	杯蓋	12.25	4.25	−	天井部丸く、稜線明瞭、口縁部内湾し、端部面をもつ。	回転ナデ、天井部ヘラケズリ、内面仕上げナデ。	
373	1283	42区		包含層	須恵器	杯蓋	(12.25)	4.35	−	天井部丸く、稜線明瞭、口縁部内湾し、端部外側に尖る。	回転ナデ、天井部ヘラケズリ、内面仕上げナデ。	
373	1284	1区 南側湿地部		砂層	須恵器	杯蓋	14.60	3.85	−	天井頂部は水平で、天井部と口縁部の境界は不明瞭になっている。口縁端部は内傾する。	天井部は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、天井部内面はナデを施す。	外面に自然釉付着。
373	1285	28区 谷部		旧河道 青灰砂	須恵器	壺蓋	9.20	3.60	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部近くで緩やかに屈曲し端部外側に尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰。	自然釉付着。
373	1286	28区		灰砂 機械掘削	須恵器	杯蓋	(11.40)	4.30	−	平たい天井部から内湾し端部丸い。ヘラ切り後未調整。	ロクロナデ、灰。	自然釉付着。
373	1287	28区 谷部		青灰砂礫(黒シルト)	須恵器	杯蓋	12.60	4.40	−	内湾する天井部から口縁部になり、端部丸い、ヘラ切り、歪む。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰。	
373	1288	37区		包含層	須恵器	壺蓋	(9.50)	3.30	−	天井頂部は水平で、口縁部は垂直に伸びる。端部は内傾する。	天井部外面はヘラ切り後未調整。口縁部は回転ナデを施す。	
373	1289	37区 北西		包含層	須恵器	杯蓋	10.80	2.80	−	天井頂部は水平で、口縁部は垂直に伸びる。端部は内傾する。	天井部外面はヘラ切り後未調整。口縁部は回転ナデを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
373	1290	16区	SX1602 西肩		須恵器	杯身	14.00	4.30	5.60	平坦な底部からやや内湾する体部になり、受部は直線的で反りは外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰～にぶい黄。	自然釉付着。
373	1291	28区		包含層	須恵器	杯身	(11.10)	4.15	(5.20)	平底から内湾する体部で、受部短く外傾し、端部尖る。立ち上がり内傾し端部尖る。	ロクロナデ、仕上げナデ、黄灰～灰。	底部にヘラ描き直線あり。
373	1292	31－西区		暗褐砂	須恵器	杯身	(9.80)	2.90	6.80	平底から外傾し端部丸い。反りは短く外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
373	1293	31－西区		暗褐砂	須恵器	杯身	(9.70)	3.00	6.70	平底から内湾し端部丸い、反りは短く外反し尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
373	1294	31－西区		包含層	須恵器	杯身	(10.10)	3.10	(5.50)	平底から外傾する体部、受部外反し端部肥厚、立ち上がり短く外反する。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰～青灰。	
373	1295	31－西区		排土	須恵器	杯身	(10.00)	3.60	(5.60)	平底で内湾ぎみに外傾し、受部短く丸い。立ち上がり短く外反する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～灰黄褐。	生焼け。
373	1296	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯身	(10.00)	3.30	(3.00)	内湾する底部から体部で受部は短く開き丸い、カエリは外反し尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、内面が赤灰。	
373	1297	27区		包含層	須恵器	杯身	(11.00)	(2.70)	－	直線的に受部になり、立ち上がり短く外反する。	ロクロナデ、灰～暗灰。	
373	1298	37区		包含層	須恵器	杯身	(8.60)	3.45	－	底部は丸みを帯び、口縁部が外側に向かって水平に伸び、端部を下方に肥厚させる。口縁部内面に短いカエリを持つ。	底部外面は回転ヘラ切り、他は回転ナデを施す。	
373	1299	53区 下		黒シルト	須恵器	杯身	(9.80)	3.10	(5.80)	平底から内湾し端部丸い。細砂含む。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰～灰白。	
373	1300	53区(30T)		黒褐	須恵器	杯身	(12.10)	(3.10)	－	内湾し端部近くで外反し端部丸い。細砂含む。	ロクロナデ、灰黄。	
373	1301	28区 段丘下	南側溝 東半	ピート層	須恵器	杯身	(10.80)	3.50	4.95	丸底で口縁部外傾する。ヘラ切り後タタキ。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
373	1302	28区		黄(暗)灰砂 人力掘削	須恵器	杯身	(11.80)	3.70	5.85	平底から内湾する口縁部で端部反りぎみで丸い。ヘラ切り後未調整。	ロクロナデ、灰。	
373	1303	27区 東半		遺構面まで	須恵器	杯身	(11.20)	(3.90)	－	歪に湾曲する体部で端部尖る。ヘラ切り、砂粒多い。	ロクロナデ、灰～赤褐。	
373	1304	53区 下		黒シルト	須恵器	杯身	(9.80)	3.00	(5.40)	内湾する体部で口縁部内湾し、細砂少量含む。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰白。	
373	1305	50区 西端		掘立周辺面検出	須恵器	杯身	(10.20)	4.20	(6.20)	平底から外側に開く体部で、口縁部は斜めに延び端部丸い。底部ヘラ切り。	ロクロナデ成形。	
374	1306	36区		包含層	須恵器	甕	(11.50)	(4.80)	－	内湾気味に立ち上がった後、口縁端部は僅かに外反する。	口縁中位に突帯2条を施し、その間に櫛状工具による細かい波状文を施す。	
374	1307	35区		側溝掘削中	須恵器	甕	(12.00)	(13.50)	－	球形の体部から長い頸部は外反し屈曲して口縁部に続く、端部反って尖る。	ロクロナデ、カキメ。	
374	1308	21区		機械掘削	須恵器	甕	－	(6.80)	－	扁平な球形で肩が張る。円孔あり。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白～灰。	
374	1309	31－西区		暗褐砂	須恵器	甕	－	(13.90)	－	底が平たい球形の体部で外反する口縁部。ヘラケズリ。	ロクロナデ、沈線、灰白～灰オリーブ。	自然釉付着。
374	1310	19区 段丘崖南端		黒褐腐植質シルト	須恵器	高杯	－	(5.80)	8.80	外傾し端部垂直ぎみに直立し尖る。3方透孔あり。	ロクロナデ後仕上げナデ、カキメ、灰。	奈良水田土壌中。
374	1311	1区 南側湿地部		砂層	須恵器	甕	(25.00)	(15.60)	－	肩の張る丸みを帯びた体部から、頸部は大きく屈曲し、口縁部は外反して開く。端部は肥厚する。	口縁部は回転ナデ、体部はタタキで、内面に同心円状の当て具痕跡、外面に縦方向のタタキ板痕跡が認められる。体部外面にカキ目を施す。	
374	1312	17区		中世耕土～灰白土まで	須恵器	甕	12.00	5.80	－	外傾する口縁部で端部面になり角張る。体部タタキ成形。	ロクロナデ、灰。	自然釉付着。
374	1313	42区		包含層	須恵器	壺	－	(9.70)	－	ほぼ球形の体部。	回転ナデ、体部中位にカキメ、波状文。	
374	1314	19区 段丘崖南端		黒褐腐植質シルト	須恵器	壺	－	(15.20)	－	球形の体部で頸部は直立、下半はタタキ成形、砂粒含む。	ロクロナデ、外面カキメ、灰。	奈良水田土壌中。
374	1315	1区		黄褐砂	須恵器	甕	(15.80)	(4.40)	－	大きく開く口縁で、端部を肥厚させる。	回転ナデを施す。	内面に自然釉付着。
374	1316	44区 東半		包含層	須恵器	甕	(16.50)	(7.30)	－	内湾ぎみに立ち上がり外反して開く口縁部、1条の突帯、端部肥厚である。	回転ナデ、2帯の櫛描波状文。	
374	1317	31－南区		暗褐砂	須恵器	甕	(15.40)	(6.65)	－	内傾する体部で、緩やかな頸部から外傾する口縁部、端部丸い。タタキ。	ロクロナデ、灰白～オリーブ灰。	自然釉付着。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
374	1318	16区 東半		遺構面検出時	須恵器	甕	−	(4.50)	−	外反し端部面になる。	ロクロナデ、灰〜灰白。	自然釉付着。
374	1319	1区		黄褐砂	須恵器	甕	−	(5.00)	−	外反ぎみに広がる口縁部で、端部をわずかに内彎させ、外側に肥厚させる。	回転ナデを施す。	内面に自然釉付着。
374	1320	21区		包含層	須恵器	甕	−	(3.90)	−	外傾し端部尖る。砂粒やや多く含む。	波状文、灰白〜暗灰。	
374	1321	27区 東半		遺構面まで	須恵器	甕	−	(4.00)	−	内湾ぎみの口縁部で、端部折り返して面になる。	ロクロナデ、灰白。	
374	1322	19区		砂礫面まで	須恵器	甕	−	(3.20)	−	僅かに内湾ぎみで端部外側に肥厚する。	ロクロナデ、端面に2段の刺突文帯。	
375	1323	28区		黄灰砂 人力掘削	土師器	杯	12.00	4.70	−	内湾する底部から口縁部、端部丸く直立ぎみ。	ヘラミガキ、橙〜にぶい黄橙。	
375	1324	28区		黄灰砂 人力掘削	土師器	椀	(16.55)	7.60	−	内湾する半球形の体部で、端部外側に尖らす。	磨滅著しいが底部外面ケズリか、橙。	
375	1325	28区		黄灰砂 人力掘削	土師器	椀	(17.75)	5.95	7.60	内湾する底部から口縁部、端部丸く反りぎみ。	ヘラミガキ、橙〜にぶい橙。	
375	1326	28区		包含層	土師器	椀	(15.75)	6.70	6.85	不安定な平底から内湾する体部で、端部反りぎみで丸い。ユビ成形後ケズリ。	ナデ、ヨコナデ、灰黄。	
375	1327	28区		青灰砂礫	土師器	杯	(11.80)	3.80	−	内湾する体部で、口縁部は外側に尖らす。	ナデ、ヘラミガキ、ヨコナデ、浅黄。	
375	1328	31区(68T)		黒シルト	土師器	高杯	(15.90)	(5.00)	−	内湾する杯部で、端部に近づくほど薄くなり、端部丸く反る。	ナデ、ミガキ、内面ハケ、ヨコナデ、浅黄橙〜橙。	
375	1329	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	土師器	杯	(13.40)	3.30	(9.90)	輪高台が底部と体部の境界に付き、斜めに伸びる体部、口縁部は外反し、端部は丸く収める。	摩滅著しいが、回転ナデと思われる。	須恵器模倣土師器。
375	1330	53区 下		包含層	土師器	甕	(13.30)	(12.05)	−	丸底から内湾する体部で、口縁部外傾する。	ユビ成形からハケ整形、ナデ・ヨコナデ、黄褐。	
375	1331	36区		包含層	土師器	小型丸底壺	−	(6.10)	−	丸底で、やや扁平な球形の体部を持ち、頸部の屈曲は明瞭。	外面は剥離が著しく調整不明。内面はユビナデを施す。	
375	1332	31区(60T)		褐灰	土師器	鉢	(9.90)	7.35	−	内湾する体部で、口縁部短く僅かに外傾し端部角張りぎみ。	ナデ、ユビオサエ、黒〜浅黄橙。	強く被熱している。
375	1333	28区		青灰砂礫	土師器	皿	(17.50)	2.15	(12.15)	平底から外傾する口縁部で、端部肥厚する。	ロクロナデ、ミガキ、浅黄橙〜橙。	
375	1334	36区		包含層	土師器	甕	(17.00)	(9.40)	−	球形の胴部から頸部は屈曲して、口縁部は斜め上方に伸び、端部は上に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケで、内面はヘラケズリ。	
375	1335	27区 東半		遺構面まで	土師器	甕	(23.00)	(4.30)	−	内傾する体部から外傾する口縁部で、端部角張る。	ハケ整形、ヨコナデ、にぶい黄橙。	
375	1336	53区 下		黒シルト	土師器	甕	(14.85)	(4.80)	−	くの字口縁で直線的、端部角張る、チャートなど含む。	板ナデ・ナデ仕上げ、にぶい黄橙。	
375	1337	26区 西半中心		包含層	土師器	甕	(12.50)	(5.80)	−	体部内傾し口縁部外傾する、端部内側につまみ出す。	表面磨滅、灰白〜黄褐。	
375	1338	53区 下		黒シルト	土師器	甕	(26.40)	(7.40)	−	内傾する体部から外反する口縁部、粗砂含む。	ユビ成形からハケ・ナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
375	1339	53区 下		黒シルト	土師器	甕	(20.40)	(9.35)	−	外反ぎみの口縁部から外傾する体部、細砂多量。	ハケ整形からナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
375	1340	53区 下		黒シルト砂層	土師器	甕	(25.80)	(6.85)	−	内湾する体部から外反する口縁部、端部角張る。	ユビ成形からハケ・ナデ、灰白〜灰黄。	
375	1341	53区 下		黒シルト	土師器	甕	(28.60)	(6.55)	−	内傾する体部から僅かに外反する口縁部、端部肥厚である。	ハケ整形からナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
376	1342	37区(54T)		包含層	土師器	甕	(21.00)	(4.90)	−	外反して開く口縁部で、端部は外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部はナデを施す。	
376	1343	37区		包含層	土師器	甕	(15.80)	(6.90)	−	長胴形の体部に外反する口縁が付く。口縁端部はわずかに上方に肥厚させる。	摩滅が著しく調整不明。	
376	1344	37区		灰褐粗砂混シルト	土師器	甕	(25.20)	(6.70)	−	頸部で緩やかに屈曲し、外反ぎみに伸びる口縁部を持つ。端部は上方に面を持つ。	摩滅が著しく調整不明。	
376	1345	37区		機械掘削	土師器	甕	(24.00)	(15.60)	−	長胴形の体部に外反ぎみの口縁が付く。口縁端部は外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面は板ナデかナデを施す。	
376	1346	40区 北西端		包含層	土師器	杯	−	(2.50)	(11.50)	外傾する体部、高台外側に開き、端部内側に肥厚し角張る。	ヨコナデ、ミガキ、灰白〜橙。	外面に有機質付着。
376	1347	37区		機械掘削	土師器	甕	(29.20)	5.55	−	外反ぎみに伸びる口縁部である。	口縁部はヨコナデ、体部内面はハケを施す。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
376	1348	37区		灰褐粗砂混シルト	土師器	甕	(28.00)	(9.10)	−	体部は丸みを帯び、屈曲した頸部から口縁部は斜め上方に立ち上がる。端部は上方に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面はケズリの後ハケを施す。	
376	1349	31−西区		包含層	土師器	甑	(20.20)	(16.90)	−	直立ぎみに僅かに内湾する体部で口縁部は短く外反し端部丸い。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、橙〜灰白。	
376	1350	31−南区		暗褐砂	土師器	把手付鍋	−	(20.60)	−	扁平な球形で外反する把手が付く。	ハケ整形、ナデ、浅黄橙〜にぶい黄橙。	
376	1351	1区(81T)	SD0101		土師器	壺	(21.40)	(10.50)	−	内傾する体部から外反する口縁部になる。端部角張りぎみ。ユビ成形。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、にぶい黄橙。	確認調査。
377	1352	28区		包含層	土師器	竈	(28.30)	(20.00)	−	僅かに内湾し端部角張る。中央上位に断面台形の突帯付く。ユビ成形。	縦方向のハケ整形、ヨコナデ、ナデ、橙〜浅黄橙。	
377	1353	28区		包含層	土師器	竈	(33.00)	30.80	(39.20)	内湾し裾端部は丸く端部は角張る。断面方形の突帯が付く。鍔は残存しない。下に反る把手が付く。	ハケ整形、ナデ、ヨコナデ、橙〜黄灰。	
378	1354	28区		黄(暗)灰砂 人力掘削	須恵器	蓋	(14.50)	(1.75)	−	緩やかに内湾する天井部から水平に開く端部、反りは短く尖る。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰〜灰白。	
378	1355	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	−	(2.65)	−	扁平な宝珠つまみ、平たい天井部で内湾する。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰白。	
378	1356	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	−	(1.90)	−	扁平な宝珠つまみ、平たい天井部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	
378	1357	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(13.30)	2.70	−	扁平な宝珠つまみ、平たい天井部から斜めに下がる。垂下する端部で丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白。	
378	1358	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(11.70)	(1.70)	−	内湾する天井部で、端部僅かに垂下する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、灰白〜灰。	
378	1359	40区 中央南半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(15.60)	(1.30)	−	器高の低い内湾する天井部で、端部垂下し丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
378	1360	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(15.00)	(1.40)	−	平坦な天井部から外傾し、端部垂下し丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	
378	1361	37区		灰褐粗砂混シルト	須恵器	蓋	(15.10)	2.85	−	水平な天井部から口縁部は丸みを帯びて伸び、端部を下方に肥厚させる。扁平な宝珠つまみが付く。	天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデを施す。内面には仕上げナデを行う。	
378	1362	37区(54T)		包含層	須恵器	蓋	(13.70)	2.40	−	天井部は水平で、扁平な宝珠つまみが付く。口縁は直角に垂下する。	天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、天井部内面は仕上げナデを施す。	
378	1363	8区③		面検出	須恵器	蓋	(14.00)	(1.10)	−	水平に近く延び、端部直立する。	ロクロナデ、ロクロケズリ。	自然釉付着。
378	1364	29区		洪水砂礫32区北側部分	須恵器	蓋	(13.80)	(3.15)	−	内湾し端部下方につまみ出す。ヘラ切り。	ロクロナデ、暗青灰〜青灰。	
378	1365	53区		面検出	須恵器	蓋	(15.80)	(1.40)	−	外傾し端部つまみ出す。	ロクロナデ、ヘラ切り、灰白。	
378	1366	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(18.30)	3.35	−	内湾する天井部で、端部丸く垂下する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜灰。	
378	1367	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(16.80)	(2.20)	−	内湾し、端部つまみ出すように垂下する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	重ね焼の痕跡。
378	1368	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(19.10)	(1.70)	−	平たい天井部で垂下する端部。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜明褐灰。	
378	1369	40区		排土	須恵器	蓋	(17.40)	(2.25)	−	平たい天井部から内湾する口縁部で、端部内傾ぎみに垂下し、丸い。	ロクロナデ、ナデ、明オリーブ灰〜灰白。	
378	1370	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(17.80)	(1.55)	−	天井部平たく僅かに垂下させる。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	転用硯。
378	1371	22区(38T)		淡黄褐	須恵器	蓋	(9.80)	(1.70)	−	内湾ぎみの天井部で外反し、端部下方に延びる。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
378	1372	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(16.20)	2.40	−	内湾する天井部で屈曲して端部になる。端部肥厚ぎみに下方に出す。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	
378	1373	40区 北西端		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	蓋	(16.70)	(1.00)	−	内湾する天井部で、僅かに屈曲して端部下方につまみ出す。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
378	1374	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	蓋	(19.40)	1.60	−	扁平な天井部、口縁部は屈曲した後水平に伸びる。端部は下方に肥厚させる。	天井部はヘラ削りで、抓みを付ける際のナデが残る。口縁部から内面にかけては回転ナデ。	
378	1375	40区		機機掘削	須恵器	蓋	(17.90)	(1.80)	−	僅かに内湾する天井部から外反する口縁部で、端部肥厚ぎみに垂下。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白。	重ね焼の痕跡。
378	1376	26区 東半		包含層	須恵器	蓋	(15.80)	1.60	−	器高低く、屈曲する天井部で端部垂下する。ボタン状のつまみ。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰。	
378	1377	29区 中央東より		遺構面まで	須恵器	蓋	−	(1.45)	−	水平に近く開く天井部に扁平なつまみ付く。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	
378	1378	40区 中央		遺構検出時	須恵器	蓋	(13.80)	2.20	−	内湾する天井部で端部下につまみ出し丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰〜灰白。	重ね焼の痕跡。
378	1379	38区 東半		灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	蓋	(13.00)	2.50	−	扁平な天井部に扁平な抓みが付く。口縁端部を斜め内側に肥厚させる。	天井部はヘラ削りで、抓みを付ける際のナデが残る。口縁部から内面にかけては回転ナデ。	口縁部外面に重ね焼の痕跡が同心円状にある。
378	1380	11区		面精査	須恵器	杯	(9.60)	(2.75)	−	内湾し口縁部僅かに外反し端部丸い。	ロクロナデ、灰白。	
378	1381	40区 西		遺構面検出中	須恵器	杯	9.10	3.00	6.25	不安定な底部で内湾ぎみに延びる。端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、仕上げナデ、灰白〜灰。	
378	1382	40区 西		遺構面検出中	須恵器	杯	(9.60)	3.35	(7.00)	内湾する体部で端部付近で反って丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰。	ヘラ記号、有機質付着
378	1383	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯	(9.20)	3.50	(6.40)	平底で外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白〜灰。	底面から外面に火襷状になっている。ヘラ記号、重ね焼の痕跡。
378	1384	38区 西半	包含層	灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	杯	(10.80)	3.50	(7.65)	平底から斜めに伸びる体部、口縁部は丸く収める。口縁部で器壁が薄くなる。	底部はヘラ切り、その他は回転ナデ。	
378	1385	37区 北西	包含層		須恵器	杯	(14.60)	3.30	(11.90)	平底から体部は斜め上方に伸びる。口縁部は外反する。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
378	1386	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯	(15.00)	3.15	(11.55)	平底で外傾する口縁部、端部外側に尖る。	ロクロナデ、灰。	
378	1387	40区 東半		遺構面まで 流路東肩周辺	須恵器	杯	(12.70)	3.50	(9.80)	平底から僅かに内湾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ナデ、ロクロナデ、灰白〜灰黄。	
378	1388	53区(30T)		淡黄褐	須恵器	杯	(13.00)	4.00	7.80	低い高台で底部水平で体部内湾、端部反る。	ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ、灰〜灰白。	
378	1389	40区 北西端		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯	(13.80)	3.90	(8.00)	平底から外傾する体部で口縁部は外反し、端部丸い。ヘラ切り、外側に開く方形の高台。	ロクロナデ、ナデ、灰白〜灰。	
378	1390	37区		人力掘削	須恵器	壺蓋	8.40	4.70	−	天井頂部は水平で、口縁部は垂直に伸びる。端部をやや尖らせる。	天井部外面はヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデを施す。	
378	1391	31−西区		包含層	須恵器	杯	(13.40)	4.50	(8.30)	内湾する底部から体部、口縁部外傾し端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	自然釉付着。
378	1392	37区(54T)		包含層	須恵器	杯	(16.00)	4.40	(11.60)	底部には輪高台が付く。体部は底部から屈曲して斜め上方に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反する。	底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
378	1393	37区		灰褐粗砂混シルト	須恵器	杯	(14.00)	4.60	10.65	平底から体部は斜め上方に伸びる。外側に開く輪高台が付く。	体部は回転ナデ、底部外面は回転ヘラ切りを行う。高台はナデで貼り付ける。	
378	1394	38区		機械掘削	須恵器	杯	(13.00)	4.25	(9.05)	輪高台を持つ底部から、屈曲して斜めに伸びる体部、口縁部は丸く収める。	輪高台は貼り付け、体部は回転ナデ。	
378	1395	40区 東半		遺構検出時	須恵器	杯	(13.10)	4.00	(8.80)	平坦な底部から外傾する口縁部で端部尖る。台形の高台。	ロクロナデ、ナデ、灰。	
379	1396	40区 西半中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯	(13.60)	4.40	9.50	平坦な底部から外傾する口縁部で端部丸い。端部が肥厚する台形の高台。	ロクロナデ、ナデ、底面ヘラ状工具の痕跡、灰〜灰白。	
379	1397	19区 段丘崖南端		黒褐腐植質シルト	須恵器	杯	(15.10)	4.10	(10.10)	平底で外傾する口縁部になる。端部尖る。端部僅かに肥厚する方形の輪高台。	ロクロナデ、灰〜灰白。	奈良水田土壌中。
379	1398	40区 西半		遺構面まで	須恵器	杯	(13.00)	3.35	(10.00)	平底から内湾ぎみの体部から口縁部、端部丸い。断面方形の高台。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、灰白。	
379	1399	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	椀	(17.40)	4.30	(11.75)	輪高台を持つ底部から、屈曲して延びる体部、口縁部は外反し、端部は丸く収める。	輪高台は貼り付け、底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ。	内面に漆状の付着物が少し残る。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
379	1400	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	杯	(16.20)	3.75	(12.25)	輪高台を持つ底部から、屈曲して斜めに伸びる体部、口縁端部は丸く収める。	輪高台は貼り付け、底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ。	焼き歪みがあり、内面に漆状の付着物が少し残る。外面に自然釉付着。
379	1401	37区		包含層	須恵器	杯	(18.30)	6.10	(11.40)	平底に輪高台が付く。体部は斜め上方に開く。	底部外面は回転ヘラ切りの後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
379	1402	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	須恵器	杯	(15.40)	4.40	(9.60)	輪高台を持つ底部から、屈曲して斜めに伸びる体部、口縁部は丸く収める。	輪高台は貼り付け、底部外面はヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデ。	
379	1403	37区 北半		遺構面精査中	須恵器	杯	14.00	4.30	8.50	輪高台の付く平底から緩い稜を作った後、体部は斜め上方に伸びる。	底部外面はヘラ切り、底部と体部の境は回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ、底部内面に仕上げナデを施す。	
379	1404	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	杯	−	(1.50)	(9.00)	歪な平底。高台は外に開く方形で端部肥厚する。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ。	
379	1405	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	椀	−	(2.35)	(5.00)	内湾する体部に低く方形の高台が付く。	ロクロナデ。	
379	1406	37区 北半		遺構面精査中	須恵器	稜椀蓋	(20.60)	1.70	−	水平な天井部から、口縁部は屈曲して水平に伸びる。端部を下方に肥厚させる。輪形のつまみが付く。	天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデを施す。内面には仕上げナデを行う。	
379	1407	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	稜椀蓋	(18.10)	3.20	−	筒状の頸部から外反して大きく開く口縁部。端部を上下に肥厚する。	風化顕著で調整不明。	
379	1408	40区 西半		褐灰混礫極細砂	須恵器	稜椀	(17.00)	(2.80)	−	外傾し端部如意状に反る。	ロクロナデ、沈線1条。	
379	1409	37区 西南		灰褐粗砂混シルト	須恵器	稜椀	(16.80)	(3.30)	−	体部は稜を持ち、口縁部は外反する。	回転ナデを施す。稜の下にヘラケズリ後ナデを施す。	
379	1410	40区 北西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	稜椀	(16.80)	(4.30)	−	内湾し、稜線を持って外反する口縁部で端部反って丸い。	ロクロナデ。	重ね焼の痕跡
379	1411	40区 中央		黄灰極細砂上面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	皿	(15.70)	2.20	(13.10)	平底から外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ。	
379	1412	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	皿	(17.80)	1.95	(14.40)	平底から外傾し端部丸い。	ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ。	
379	1413	17区		中世耕土〜灰白土まで	須恵器	皿	(14.20)	2.55	(7.40)	やや高い輪高台で底部は水平、口縁部外反し端部外側に短く開く。端部丸い。	ロクロナデ、ロクロケズリ後仕上げナデ。	
379	1414	31－西区		暗褐砂	須恵器	皿	9.55	2.85	7.25	不安定な平底から直立ぎみに内湾する体部、端部外側に開き丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、ナデ、青灰〜灰。	
379	1415	31－西区		暗褐砂	須恵器	多嘴壺	(5.20)	(8.10)	−	小型の口縁部で内傾する体部から外傾する口縁部になり端部丸い。頸部に突帯が上向きに付く。	ロクロナデ、ナデ、灰白〜暗灰。	
379	1416	37区(54T)		包含層	須恵器	壺	4.30	(3.30)	−	直立気味に伸びる頸部、口縁部は外反して端部を上下に肥厚する。	回転ナデを施す。	自然釉付着。
379	1417	37区 南西		灰褐シルト	須恵器	壺	−	(4.00)	4.40	平底に輪高台が付く。体部は丸みを帯びる。	体部は上半に回転ナデ、下半に回転ヘラケズリ、底部外面はナデを施す。	
379	1418	11区		表採	須恵器	(底部)	−	(1.10)	(4.70)	外反し端部角張る。端部外側に僅かに肥厚する。	ロクロナデ、灰白〜灰。	
379	1419	26区 西半		遺構面まで	須恵器	高杯	(14.00)	(12.30)	(11.20)	内湾する体部で端部丸い。裾部は外反し端部内外に肥厚する。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜黄灰。	
379	1420	35区		西側溝南半	須恵器	短頸壺	(6.80)	9.00	−	器高のある算盤玉状の体部で、口縁部短く直立し端部丸い。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
379	1421	40区 中央〜東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	壺	6.35	7.35	−	尖りぎみの球形体部で口縁部短く外傾する。ユビ成形。	ロクロナデ。	体部外面にヘラ記号あり。
379	1422	37区		灰褐粗砂混シルト	須恵器	高杯	−	(7.10)	11.00	杯部の底は水平で、大きく開く脚部が付く。脚裾は水平に開き、端部を下方に肥厚させる。	脚中央にヘラ描き沈線1条を巡らせる。杯内面はナデ、脚部は回転ナデを施す。	
380	1423	37区		灰褐粗砂混シルト	須恵器	長頸壺	−	(12.10)	10.00	外側に踏ん張る高い輪高台の付いた平底から体部が斜めに立ち上がる。鋭く屈曲した肩部が丸みを帯びて伸びる。	外面の体部下半に回転ヘラケズリ、他の部分は回転ナデを施す。	外面全体と底部内面に自然釉付着。
380	1424	40区 北西端		溝交差部	須恵器	壺	−	(7.20)	8.00	内湾する底部から体部、高台外側に開き、端部内外に肥厚。	ロクロナデ、ロクロケズリ、灰白〜オリーブ灰。	自然釉付着。
380	1425	40区 北西端		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	壺	−	5.15	(9.30)	外側に開き端部肥厚する高台で体部内湾する。	ロクロナデ、ナデ仕上げ。	自然釉付着。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
380	1426	40区 北端中央		遺構面まで 流路肩付近砂礫	須恵器	壺	−	(5.85)	(11.20)	平底から内湾する体部、高台は方形で垂下。	ロクロナデ。	生焼け。
380	1427	53区下		下層ピート上層	須恵器	短頸壺	(12.10)	15.60	(12.60)	外側に開く高台に肩の張る球形の体部、短い直立する口縁部、細砂多量。	ロクロナデ、ロクロケズリ、不定方向の仕上げナデ、灰〜灰白。	
380	1428	37区西南		灰褐粗砂混シルト	須恵器	壺	(11.40)	5.40	−	頸部で屈曲して外反する口縁部で、端部はやや尖る。	口縁部は回転ナデ、体部はタタキで、内面に当て具痕、外面にタタキメが残る。	
380	1429	40区 中央〜東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	壺	−	(6.00)	−	直線的に開き、縦方向の半楕円形の耳が付く。小さな円孔。	ロクロナデ、ナデ。	
380	1430	37区		不明	須恵器	甕	−	(6.80)	(5.00)	丸みを帯びた底部に輪高台が付く。体部は丸く立ち上がり、肩で屈曲して頸部に至る。	肩部にヘラ書き沈線1条を巡らせ、円孔を穿つ。体部上半を回転ナデ、下半にヘラケズリを行う。	
380	1431	1区		包含層	須恵器	鉢	−	(8.20)	−	内彎気味に立ち上がる体部で、口縁端部はわずかに外傾して外側に肥厚する。	回転ナデを施し、内面の一部に板ナデを施す。	
380	1432	53区 下		黒シルト〜下ピート層	須恵器	(把手)	−	−	−	半円形の把手、断面円形、粗砂少量。	内面タタキ、ユビ成形後ナデ、灰白〜黄灰。	
380	1433	37区		包含層	須恵器	鉢	(22.20)	(8.60)	−	直線的に立ち上がる体部で、口縁端部は内側に大きく肥厚する。	外面には櫛状工具による連続刺突文2単位と沈線文2条がある。全体に回転ナデを施す。	
380	1434	1区		包含層	須恵器	鉢	(24.00)	(4.20)	−	体部から緩やかに屈曲して外反する口縁を持つ。	回転ナデを施す。	内面に自然釉付着。
380	1435	37区 南西		遺構検出中	須恵器	鉢	(20.50)	(5.65)	(18.40)	平底から、体部は垂直に立ち上がる。	底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部は回転ナデを施す。	
380	1436	27区		包含層	須恵器	鉢	(29.20)	(8.50)	−	僅かに内湾する口縁部で端部角張る。タタキ成形。	ロクロナデ、灰白。	
380	1437	37区 南西		包含層	須恵器	横瓶	−	(29.00)	−	楕円球状の体部に頸部が付く。	タタキを施し、内面に同心円状の当て具痕跡、外面に格子状のタタキメが残る。	杯、甕などの融着が認められる。
380	1438	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	緑釉陶器	椀	(16.70)	(13.70)	−	湾曲ぎみに開き稜線を持ってから外反し端部丸い。	ロクロナデ。	
380	1439	40区		排土	緑釉陶器	椀	−	(3.30)	(6.00)	断面台形の低い高台が内湾する体部に付く。	全体に施釉。	
381	1440	40区 西半		遺構面まで	須恵器	円面硯	−	(5.45)	(17.60)	陸部は水平、脚部やや内湾し端部内側に肥厚、透孔不明、突帯付く。	ロクロナデ、綾杉状の文様。	
381	1441	37区		包含層	須恵器	円面硯	(17.40)	(2.30)	−	磨面は水平で、周辺に海を持つ。脚部には方形の透孔を連続して入れる。	回転ナデを施す。	
381	1442	37区		機械掘削	須恵器	円面硯	(17.00)	(3.30)	−	磨面は水平で、周辺に海を持つ。	回転ナデを施す。	
381	1443	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	須恵器	円面硯	−	(1.00)	−	水平に開く。	ロクロナデ。	
381	1444	37区		遺構面直上 (人力掘削土中)	須恵器	円面硯	(25.80)	(2.60)	−	磨面は水平で、周辺の海との境界に突帯を持つ。脚部には方形の透孔を連続して入れる。	回転ナデを施す。	
381	1445	28区		黄灰砂 人力掘削	須恵器	円面硯	(13.60)	(2.95)	−	平たい陸部で低い突帯が巡る、外傾する脚部で方形の透孔がある。	ロクロナデ、灰白。	
381	1446	37区		包含層	須恵器	風字硯	−	(2.80)	−	方形の磨面に脚が付く。	磨面は回転ナデ、脚はナデを施す。	
381	1447	37区		包含層	須恵器	風字硯	−	(4.90)	−	水平の磨面に脚が付く。	磨面、脚にナデを施す。	
382	1448	17，22区		機械掘削 遺構面直上まで	土師器	羽釜	(24.00)	(5.10)	−	外傾する口縁部で端部直下に方形の鍔が付く。	ヨコナデ、にぶい黄橙。	
382	1449	22区(38T)		淡黄褐	土師器	羽釜	(25.00)	(6.40)	−	直立する口縁部に台形の鍔がやや下方に付く。	ハケ整形ののちナデ、口縁部ヨコナデ、にぶい黄橙。	
382	1450	9区		機機掘削	土師器	甕	(26.00)	(3.50)	−	外反し端部角張り内外に肥厚する。	ヨコナデ、橙〜にぶい橙。	
382	1451	1区		包含層	土師器	甕	(28.80)	(14.20)	−	直立気味に立ち上がる体部から口縁部は斜め上方に、端部は外側に面を持つ。	口縁部はヨコナデ、体部外面はユビオサエの後ハケ、内面は板ナデ、明赤褐。	
382	1452	1区 西端低地部		黒腐植シルト	土師器	小皿	(9.20)	1.85	5.50	平底から斜めに開く体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部は回転ヘラ切り、体部は回転ナデ、底部内面には仕上げナデ、にぶい黄橙。	
382	1453	53区 下段		黒シルト	土師器	小皿	9.90	1.65	6.65	回転糸切りの平底から短く外傾する口縁部、チャート含む。	ロクロナデ、回転糸切り、灰黄〜浅黄。	
382	1454	53区 上段		黒シルト	土師器	小皿	(8.70)	1.25	(7.20)	不安定な平底で内湾する口縁部。	ナデ、口縁部ヨコナデ、灰黄褐。	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
382	1455	1区		包含層	須恵器	小皿	7.20	1.70	4.50	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部は回転糸切り、体部は回転ナデ。	内面に灰を被り、外面には重ね焼の痕跡がある。
382	1456	16区 段丘下		Ⅶ層黒シルト	須恵器	椀	(14.30)	(3.05)	−	やや内湾し端部角張る。	ロクロナデ、褐灰。	
382	1457	16区 西半		Ⅳ層茶灰シルト	須恵器	椀	(16.50)	(2.70)	−	外傾し端部付近で肥厚し端部丸い。	ロクロナデ、暗灰。	
382	1458	15区 中央		遺構面上の砂礫主	須恵器	椀	(15.00)	(5.40)	−	体部は僅かに内湾気味に外上方に延び、口縁端部は尖り気味に収める。	口縁部～体部内外面は回転ナデ調整、灰白。	焼成は堅緻。
382	1459	1区		包含層	須恵器	椀	15.00	5.90	5.60	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部はヘラ切り、体部は回転ナデ、見込み部はナデを施す。	
382	1460	1区		包含層	須恵器	椀	(14.20)	5.50	5.00	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部はヘラ切り、底部側面は未調整、体部は回転ナデ、見込み部はナデを施す。	外面に重ね焼の痕跡。
382	1461	3区		人力掘削	須恵器	椀	(14.80)	5.80	(5.70)	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部は糸切り、底部側面は未調整、体部は回転ナデ、暗灰。	
382	1462	35区		遺構面まで	須恵器	椀	(13.40)	5.00	(5.00)	平底から内彎気味に立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸く収める。	底部は糸切り、体部は回転ナデ、見込み部はナデ、暗灰。	
382	1463	17区	SR1702	Ⅰ層(灰褐～淡茶砂) 第1水田層まで	須恵器	鉢	(23.30)	(3.60)	−	外傾する体部に内側につまみ出すように端部肥厚した口縁部になる。	ロクロナデ、灰。	重ね焼の痕跡。
382	1464	53区 下		黒シルト～下層ピート層	須恵器	鉢	(25.20)	(2.60)	−	外傾し内側に肥厚、チャートなど含む。	ロクロナデ、灰～灰白。	
382	1465	53区 下		面検出	須恵器	鉢	(29.30)	(4.95)	−	外傾し端部両側につまみ出す、細砂含む。	ロクロナデ、灰。	重ね焼の痕跡。
383	1466	53区 下		黒シルト	須恵器	椀	−	(2.05)	(5.95)	平底から内湾する体部。	ロクロケズリ、ロクロナデ、灰。	
383	1467	17区		SR1702 西隣遺構面まで	須恵器	椀	−	(1.70)	(5.00)	回転糸切りの平底から低く外傾する体部に続く。	ロクロナデ、灰。	
383	1468	17，22区		機械掘削 遺構面直上まで	白磁	皿	(15.80)	(2.10)	−	口縁部僅かに反り、端部丸い。	端部のみ露胎、それ以外施釉、灰白。	
383	1469	17，22区		機械掘削 遺構面直上まで	白磁	碗	(12.70)	(2.20)	−	外傾し端部近くで反る。端部丸い。	残存部全面施釉。明緑灰。	
383	1470	40区 中央		機械掘削	青磁	碗	−	(2.15)		口縁部片。口縁端部で器壁を厚くする。	帯状に格子目タタキを残し、その上下に貼り付け突帯を巡らせる。暗緑灰。	焼成不良の瓦質土器か。
383	1471	33区		第1面上の土壌層	青磁	碗	−	(4.90)	−	内湾する。	淡黄緑。	
383	1472	41区		包含層	青磁	碗	−	(2.15)		口縁部片。胎土は灰色で釉は薄い。	外面に形骸化した沈線による蓮弁文を施す。釉は灰オリーブ色に発色する。	
383	1473	41区		包含層	青磁	碗	(11.50)	(4.80)	−	口縁部片。胎土は灰色で釉は薄い。	外面に形骸化した沈線による蓮弁文を施す。釉は淡黄緑色に発色する。	
383	1474	40区 東半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	白磁	碗	−	(3.20)	−	高台は比較的細く高い。体部は内湾気味に外上方に立ち上がる。	内外面とも透明釉施釉。灰白色に発色。	大宰府分類 白磁碗Ⅷ類。12世紀後半。
383	1475	41区		包含層	瓦質土器	火鉢	−	(3.80)	−	口縁端部を内側に引き出し幅のある端面を作り出す。	口縁部外面に凸帯2条。凸帯間に格子目文スタンプ。	立石分類 浅鉢Ⅴ類。14世紀後半。
383	1476	32区 中央北より		遺構面まで	青白磁	合子(蓋)か 壺蓋	(4.00)	1.95	−	平たい天井部から内傾する口縁部、反りは垂下し短く丸い。	天井部に文様、施釉、淡青灰。	
383	1477	48区 南半		包含層	須恵器	壺	−	(5.55)	(14.10)	平底から外傾する体部。	外面縦方向ナデ、内面回転ナデ、灰。	
384	1478	31－西区		暗褐砂	土製品	紡錘車	長7.00	幅7.00	厚1.60	手づくね。	ナデ、灰白～浅黄 須恵質。	二次焼成。
384	1479	16区 西半		段丘崖直上 黒褐シルト	土製品	紡錘車	長8.00	幅8.00	厚1.70	ユビ成形からヘラで仕上げる。断面低い台形で平面は円形。	ナデ。	自然釉付着。
384	1480	40区 西		遺構面検出中	土製品	紡錘車	長10.00	幅9.20	厚2.40	扁平なレンズ状で上部がドーナツ状に高くなっている。円孔、ユビ成形。	ナデ、灰白～にぶい黄褐。	
384	1481	40区 中央		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	土製品	土錘	長7.90	幅6.50	厚6.30	大形土錘で円筒形。ユビ成形。	ナデ、浅黄橙～淡橙。	重さ351.2g
384	1482	40区		排土	土製品	土錘	長(4.00)	幅1.45	厚1.35	中央が幅広く両端が狭い。ユビ成形。	ナデ、褐灰～灰白。	重さ8.4g

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
384	1483	38区 西半		包含層	土製品	土錘	長9.25	幅2.05	厚1.65	棒状を呈し、両端に1箇所、計2箇所の孔を穿つ。	全体にナデ調整。	重さ33.9g
384	1484	20, 21区		排土	土製品	土錘	長(5.35)	幅2.00	厚1.65	手づくね。円孔、断面楕円形。	浅黄橙～明褐。	重さ20.2g
384	1485	40区 西半		遺構面まで	土製品	不明	長(5.50)	幅(3.10)	厚2.30	楕円球形の破片、ユビ成形。	ナデ。	
384	1486	31－南区		包含層	土師器	イイダコ壺	長(5.90)	幅2.95	厚1.95	手づくね、把手部断面円形で中央に円孔。	ナデ、にぶい橙～浅黄。	
384	1487	11区		面精査	土製品	不明	長4.30	幅4.40	厚1.75	底部の再利用、砂粒含む。	ナデ、暗褐～浅黄橙。	
384	1488	53区 下		黒シルト	土師器	イイダコ壺	(5.20)	(4.55)	－	内湾する、端部丸い、細砂少量。	ユビ成形後ナデ、端部ヨコナデ。	
384	1489	37区		包含層	土製品	土馬	－	(5.80)	－	胴体部分の破片で、心棒を差し込む穴がある。	ハケとナデを併用する。	
384	1490	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	土製品	土馬	長(4.40)	幅(5.55)	厚(4.70)	手づくねで、胴部から脚部の破片。	ナデ。	
384	1491	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	土製品	土馬	長(3.00)	幅2.65	厚2.60	ユビ成形、歪な球形。	ナデ。	
384	1492	40区 西半		遺構面まで 褐灰混礫極細砂	土製品	土馬	－	(1.20)	－	ユビ成形。	ナデ。	
384	1493	28区		黄(暗)灰砂 人力掘削	土製品	土馬	－	8.70	－	断面円形で手づくね。	浅黄橙。	
385	1494	23区 北		表採	須恵器	器台	39.00	51.90	27.55	直線的に広がる脚台部で端部肥厚、上台は僅かに内湾し端部付近で屈曲し角張る、5段の透孔、砂粒含む。	タタキ後カキメ・ロクロナデ、波状文・凹線、灰～オリーブ黒。	
385	1495	23区 北		表採	須恵器	長頸壺	11.30	(13.20)	－	肩の張る球形の体部から外反する頸部。端部肥厚、台欠如。	ロクロナデ、ロクロケズリ、刺突文帯3条。	
385	1496	23区 北		表採	須恵器	瓏	－	(15.30)	－	やや扁平な球形体部から外反する頸部、円孔、砂粒含む。	ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ、灰～灰白。	
385	1497	53区(30T)		黒褐	埴輪	石見型盾	－	(15.80)	－	僅かに内湾、小孔1、ヘラ装飾、砂粒服務。	ナデ、裏面は強いナデ、灰白～灰黄。	
386	1498	37区		灰褐粗砂混シルト	須恵器	稜碗蓋	(19.40)	2.85	－	天井部は水平で口縁部は斜めに開く。端部を下方に肥厚させる。輪状のつまみが付く。	天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は仕上げナデを施す。	つまみ部内に墨書「飯杯」?
386	1499	16区 西半段丘下		茶灰シルト	須恵器	杯	15.20	3.10	12.50	やや不安定な平底から外傾する口縁部、端部丸い。ヘラ切り。	ロクロナデ、灰白。	底部外面に墨書「林」。
本文編 P.142	1500	53区	SX5302		埴輪	石見型盾	(51.10)	(131.10)	－	ユビ成形で、単位のある工具で円弧を施文。前面は直線で裏に扁平な円筒が付く。頂部に2つの突起、左右に3ヶ所三角に尖る。	ナデ調整、橙。	図上復原。化粧土塗布か。
写真図版 233	1501	2区	SD0201		須恵器	椀	－	－	－	口縁部片。	ロクロナデ成形。	写真のみ。
写真図版 233	1502	2区	SB0202 P002		須恵器	椀	－	－	－	口縁部片。	ロクロナデ成形。	写真のみ。
写真図版 233	1503	2区	SK0203		須恵器	椀	－	－	－	口縁部片。	ロクロナデ成形。	写真のみ。
写真図版 234	1504	2区	SD0209		須恵器	椀	－	－	－	口縁部片。	ロクロナデ成形。	写真のみ。
写真図版 234	1505	3区	SD0305		白磁	碗	－	－	－	口縁部片。口縁端部を水平に折り曲げる。胎土は灰色で釉は薄い。	ロクロ成形。	太宰府分類Ⅴ類椀。写真のみ。
写真図版 252	1506	22区	SD2201		土師器	椀	－	－	－	口縁部片。	回転ナデ成形。	写真のみ。
写真図版 266	1507	28区	SR2802		須恵器	壺	－	(6.30)	－	内湾する。タタキ。	ロクロナデ、灰白。	外面に自然釉付着。写真のみ。
写真図版 301	1508	37区	SE3701	上層	土師器	高杯	－	－	－	脚柱部片。外面に面取り(11面)。	外面はヘラ状工具による面取りの後丁寧なミガキ、内面はナデ。	写真のみ。
写真図版 303	1509	38区	P306		須恵器	稜椀	－	－	－	口縁部片。体部と口縁部の間には稜があり、口縁部は外反する。	ロクロナデ成形。	写真のみ。
写真図版 339	1510	4区		人力掘削	土師器	鍋	－	－	－	口縁部片。	口縁部はヨコナデ、体部外面はハケ、内面はケズリの後ナデ。	写真のみ。

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			形態・成形技法の特徴	文様・調整技法の特徴	備考
							口径	器高	底径			
写真図版350	1511	37区 北東		検出中	須恵器	円面硯	−	−	−	口縁部片。脚部には細長い透かし(痕跡5箇所)。	回転ナデ成形。	写真のみ。
写真図版353	1512	3区		人力掘削	須恵器	壺	−	−	−	体部片。	回転ナデ成形。外面にヘラによる樹木文。	自然釉付着。写真のみ。
写真図版353	1513	2区		人力掘削	青磁	碗	−	−	−	口縁部片。端部は外反する。釉は薄い。	ロクロ成形。	太宰府分類Ⅳ類椀。写真のみ。
写真図版353	1514	2区		人力掘削	白磁	碗	−	−	−	口縁部片。端部を僅かに外側に拡張する。釉は薄い。	ロクロ成形。	太宰府分類Ⅴ類椀。写真のみ。
写真図版353	1515	2区		人力掘削	青磁	碗	−	−	−	口縁部片。釉は薄い。	ロクロ成形。陰刻の蓮弁文。	太宰府分類Ⅳ類。写真のみ。
写真図版353	1516	2区		人力掘削	白磁	皿	−	−	−	口縁部片。釉は薄く、口縁内側から端部を釉剥ぎ。	ロクロ成形。	太宰府分類Ⅸ類。写真のみ。

第10表　出土瓦観察表

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	器種	法量(cm)			色調	凹面	凸面	端面	備考
					最大長	最大幅	厚さ					
387	T1	38区	SK3814周辺	軒丸	(3.00)	(7.55)	2.60	にぶい橙～灰		ナデ		蓮華文
387	T2	31－西区	SR3101	軒平	(20.80)	31.10	6.00		布目、ナデケズリ	ケズリ	面取り2面	北宿式
387	T3	38区 西半	包含層	丸	(9.25)	(9.65)	1.70	灰白～にぶい黄橙	コビキ痕	ナデ	鈍い面取り、ケズリ	
387	T4	26区	SB2609 P019	丸	(8.30)	(7.20)	1.50	灰白～灰黄褐	布目	ナデ		
387	T5	37区	機械掘削	丸	(10.80)	(6.00)	1.90	にぶい黄橙～褐灰	ナデ、工具痕	ナデ	鈍い面取り、ケズリ	
387	T6		包含層	丸	(4.95)	(10.70)	2.10	灰白～灰	布目	ケズリ	面取り1面、ケズリ	
388	T7	37区	包含層	丸	(12.80)	(11.20)	2.30	灰白～灰	布目	磨滅	鈍い面取り、ケズリ	
388	T8	53区 下	包含層	丸	(19.95)	(12.90)	1.60	灰白～灰	布目	タタキからナデ	鈍い面取り、ケズリ	
388	T9	53区	SR5301	丸	(11.55)	(10.55)	2.10	灰白～にぶい黄橙	布目、ナデ	磨滅	鈍い面取り、ケズリ	
388	T10	76T	北側溝	丸	(15.00)	(12.60)	2.20	灰白	布目	タタキからナデ	面取り1面	
388	T11	17.22区	SR1701	丸	(9.00)	(13.80)	1.85	浅黄橙～にぶい橙	布目	ナデ	鈍い面取り、ケズリ	
388	T12	28区	SB2806 P083	丸	(10.10)	(9.15)	1.70	灰白～オリーブ褐	布目、ナデ	ナデ	面取り2面、ケズリ	
388	T13		包含層	丸	(9.35)	(11.00)	2.00	褐灰～にぶい褐	布目	磨滅	鈍い面取り、ケズリ	
388	T14	46T	包含層	丸	(9.60)	(12.10)	2.20	淡橙～橙	布目、コビキ痕	磨滅	鈍い面取り、ケズリ	行基葺あるいは雁振瓦
388	T15	59T	包含層	丸	(9.85)	(10.50)	2.00	灰白～灰	布目	ケズリ	面取り2面、ケズリ	
388	T16	28区	人力掘削	丸	(7.40)	(11.80)	2.90	灰白～灰	布目	縄目タタキ？	面取り2面、ケズリ	
389	T17	10T(南北道)	SD01より南	平	(11.60)	(10.30)	2.80	灰白～にぶい黄橙	磨滅	タタキ		
389	T18	37区	包含層	平	(8.10)	(7.10)	2.00	灰白～灰	ケズリ	縄目タタキ	面取り3面	
389	T19	31－西区	SR3101	平	(13.30)	(9.40)	2.30	灰白～灰	布目	縄目タタキ	面取り2面、ケズリ	
389	T20	37区	SD3716	平	(14.05)	(15.10)	2.35	灰白～灰	布目、ナデ	縄目タタキ	面取り2面、ケズリ	
389	T21	53区	SR5301	平	(6.70)	(14.70)	2.20	灰白～にぶい褐	布目、ナデ	縄目タタキ	面取り2面、ケズリ	
389	T22	30区 段丘上	包含層	平	(9.80)	(8.30)	2.05	灰白～灰	布目、ケズリ	縄目タタキ		
389	T23		包含層	平	(7.05)	(8.10)	2.70	灰白～灰	布目	縄目タタキ		
389	T24	3区	人力掘削	平	(10.70)	(8.60)	2.25	灰～暗灰	布目、コビキ痕	縄目タタキ		
389	T25	37区	SD3716	平	(12.30)	(13.95)	1.50	灰	磨滅のため不明	縄目タタキ		
389	T26	26区 西半中心	人力掘削	平	(7.65)	(12.30)	1.90	にぶい橙～暗灰	布目	縄目タタキ		
390	T27	30区 段丘下東半	包含層	平	(11.90)	(11.40)	2.00	灰白	布目、ナデ	格子タタキ	面取り2面	
390	T28	50区	P010	平	(10.50)	(14.95)	2.55	灰白	布目	格子タタキ、ケズリ	面取り2面	柵列
390	T29	30区 段丘下	包含層	平	(6.40)	(9.35)	1.80	灰白～灰	布目	格子タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
390	T30	37区	包含層	平	(19.85)	(12.35)	1.80	灰白～黄灰	布目	格子タタキ	面取り2面	
390	T31	40区	包含層	平	(10.20)	(5.35)	1.80	灰	布目	格子タタキ		
390	T32	37区	包含層	平	(8.50)	(8.65)	1.60	灰白～灰	ナデ	格子タタキ		
390	T33		人力掘削	平	(9.25)	(4.40)	1.90	灰白～灰	布目	格子タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
390	T34	27区	包含層	平	(19.50)	(9.20)	1.60	灰～暗灰	布目、ナデ	格子タタキ		
390	T35	38区 東半	包含層	平	(12.00)	(9.70)	1.55	灰白～暗灰	布目	格子タタキ	面取り2面	
391	T36	35区	SD3502	平	(7.50)	(8.00)	2.00	灰	布目、ナデ	格子タタキ、ケズリ	面取り2面、ケズリ	
391	T37	37区	SD3717	平	(14.30)	(11.95)	2.00	灰	布目	格子タタキ	面取り2面	
391	T38	19区	SR1901	平	(16.30)	(11.25)	1.95	灰～暗灰	布目	格子タタキ、ケズリ	鈍い面取り、ケズリ	
391	T39	38区 東半	包含層	平	(14.50)	(10.35)	2.30	灰白～灰	布目	格子タタキ	面取り2面、ケズリ	
391	T40	28区	人力掘削	平	(11.30)	(7.35)	2.00	灰白～暗灰	布目	格子タタキ		
391	T41	31区－西区	機械掘削	平	(6.50)	(6.00)	1.80	灰	布目	格子タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
391	T42	17区	SX1705	平	(10.00)	(9.75)	2.10	灰白～暗灰	布目、ナデ	格子タタキ	面取り2面、ケズリ	
391	T43	26区	SD2609	平	(9.15)	(14.40)	2.40	灰白～浅黄橙	布目、ナデ	格子タタキ	面取り2面、ケズリ	
391	T44	37区	包含層	平	(4.45)	(6.75)	2.40	灰白	ナデ	格子タタキ		
391	T45		人力掘削	平	(7.65)	(11.50)	2.05	灰	布目、コビキ痕	格子タタキ	ケズリ	

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	器種	法量(cm)			色調	凹面	凸面	端面	備考
					最大長	最大幅	厚さ					
392	T46	37区	包含層	平	(9.40)	(9.85)	1.60	灰白～にぶい黄橙	ナデ	格子タタキ		
392	T47	31区－南区	P053	平	(10.10)	(10.50)	1.65	灰白～にぶい黄橙	布目、ナデ	格子タタキ		
392	T48	41区	SK4101	平	(6.70)	(7.00)	2.50	灰白～にぶい黄橙	磨滅	縄目タタキ		
392	T49	37区	SK3720	平	(7.40)	(8.20)	1.40	灰白～褐灰	磨滅	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
392	T50	26区	SB2619 P117	平	(15.40)	(8.60)	2.00	灰白～暗灰	布目、ナデ	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
392	T51	37区 南西	包含層	平	(10.85)	(14.00)	1.80	灰白	磨滅	格子タタキ	面取り１面、ケズリ	
392	T52	26区	SB2609 P019	平	(17.40)	(8.30)	2.30	灰白	布目	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
392	T53		包含層	平	(13.40)	(8.80)	2.10	灰白	布目、ナデ	格子タタキからナデ		
392	T54	17区	SR1702	平	(7.70)	(11.50)	2.50	灰白	布目	格子タタキ	面取り３面、ケズリ	
392	T55	37区	SK3709	平	(9.05)	(12.90)	2.30	灰白～にぶい黄橙	コビキ痕	格子タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
393	T56	53区	SR5301	平	(13.75)	(12.10)	1.75	灰白～灰	布目	格子タタキ	ケズリ	
393	T57		包含層	平	(21.70)	(17.30)	1.80	灰白～にぶい黄橙	布目、ナデ	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
393	T58	22区(38T)	SD2201	平	(15.50)	(15.75)	1.40	灰～にぶい褐	布目、ナデ	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
393	T59	28区	人力掘削	平	(12.30)	(10.80)	2.00	褐灰～にぶい黄褐	布目	格子タタキ		
393	T60	37区	P064	平	(9.40)	(6.65)	1.80	暗灰	ケズリ	格子タタキ		
393	T61	29区	SR2901	平	(12.20)	(15.50)	1.75	灰白～明黄褐	布目、ナデ	格子タタキ		
393	T62	37区 南西	包含層	平	(17.10)	(13.50)	1.75	灰白～灰	布目	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
394	T63	53区 下	包含層	平	(50.55)	(26.50)	2.60	灰白～にぶい黄橙	布目、ナデ	タタキ	面取り２面、ケズリ	
394	T64	37区	SK3719	平	(17.20)	(16.30)	3.00	灰白～明褐	布目	縄目タタキ	面取り２面、ケズリ	
394	T65	37区 南西	精査中	平	(7.65)	(5.00)	2.50	灰白～灰	磨滅	格子タタキ		
394	T66	40区(69T)	包含層	平	(9.60)	(7.60)	1.80	灰白～黄褐	布目	格子タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
394	T67	37区	SK3719	平	(19.90)	(19.60)	2.70	灰白～明黄褐	工具痕	格子タタキ	面取り２面、ケズリ	
395	T68	35区	SD3502	平	(14.85)	(12.60)	1.70	黄灰	布目	不定形タタキ	鈍い面取り、ケズリ	
395	T69	35区	包含層	平	(8.90)	(8.30)	2.00	灰白～灰	布目	不定形タタキ		
395	T70	37区 北半	遺構面精査	平	(18.60)	(13.55)	2.10	灰白～暗灰黄	布目、板状工具	不定形タタキ		
395	T71	17区	人力掘削	平	(8.15)	(11.00)	2.15	灰白	布目	不定形タタキ		
395	T72	19区	段丘肩部	平	(6.00)	(10.10)	2.25	灰白～灰	布目	不定形タタキ		
395	T73	17区	SR1702	平	(9.05)	(12.30)	2.90	灰白	布目	不定形タタキ		
395	T74	53区 下	人力掘削	平	(16.90)	30.50	2.40	灰白～黄	布目、板状工具	不定形タタキ	未調整	
396	T75	37区	包含層	平	(8.80)	(7.50)	2.20	灰白～灰	布目	格子タタキ		
396	T76	28区	人力掘削	平	(12.75)	(9.20)	2.20	灰白～明黄褐	布目	不定形タタキ		
396	T77	37区	SD3716	平	(12.50)	(14.20)	3.10	灰白	布目	工具痕	ケズリ	
396	T78	76T	包含層	平	(21.40)	(16.75)	2.40	灰白	布目、ナデ	タタキ	面取り１面、ケズリ	
396	T79	37区	包含層	平	(16.00)	(12.70)	2.60	灰白～暗灰	ケズリ	磨滅	面取り２面	
397	T80	53区	SR5301	平	(10.55)	(12.50)	2.40	にぶい黄橙～にぶい褐	布目	磨滅	面取り２面、ケズリ	
397	T81	26区	SB2609 P019	平	(10.10)	(14.90)	1.85	灰白～明黄褐	布目、工具痕	ナデ、工具痕	面取り２面、ケズリ	
397	T82	31－西区	SR3101	平	(9.40)	(10.50)	2.00	灰白～黒褐	布目	ナデ	面取り２面、ケズリ	
397	T83	47区	SX4701	平	(6.80)	(7.55)	1.40	灰白	布目	タタキ後ナデ	ケズリ	
397	T84	37区	P296	平	(9.25)	(16.20)	1.55	灰白～灰	摩滅	工具痕		
397	T85		人力掘削	平	(9.00)	(8.05)	2.40	灰白～明緑灰	布目、ケズリ	ケズリ		
397	T86		包含層	平	(10.10)	(15.10)	1.80	灰白	布目	ハケ	面取り４面	
397	T87	26区	SD2609	平	(7.45)	(6.15)	1.20	灰白～黒	ケズリ	ハケ	ハケ	
397	T88		包含層	平	(10.40)	(6.00)	1.60	灰白	布目	ハケ	面取り３面、ケズリ	

第11表　出土石器計測表

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考
							長さ(mm)	厚み(mm)	幅(mm)	重さ(g)	
398	S 1	27区 東半		遺構面まで	ナイフ形石器	サヌカイト	45.50	21.70	8.00	5.70	
398	S 2	28区		黄(暗)灰砂 人力掘削	台形石器	サヌカイト	35.80	21.00	7.90	4.90	
398	S 3	1区		包含層	石鏃	チャート	24.30	17.40	3.70	0.90	
398	S 4	1区	SK0106		石鏃	サヌカイト	16.30	14.50	3.80	0.60	
398	S 5	37区 東半		検出中	石鏃	サヌカイト	21.20	16.40	3.40	0.70	
398	S 6			表採	石鏃	サヌカイト	19.50	16.40	4.00	0.60	
398	S 7			表採	石鏃	サヌカイト	12.50	12.40	2.90	0.20	
398	S 8	1区	SX0101 主体部		石鏃	サヌカイト	19.30	11.00	3.40	0.50	
398	S 9	1区	SK0106		石鏃	サヌカイト	20.90	14.20	2.80	0.70	
398	S10	1区	SK0106		石鏃	サヌカイト	24.00	19.40	3.50	1.50	
398	S11				石鏃	サヌカイト	25.10	18.20	3.80	1.60	
398	S12	1区	SX0103 主体部2		石鏃	サヌカイト	11.40	17.00	3.40	0.60	
398	S13	1区	SX0101 主体部		石鏃	サヌカイト	18.50	13.90	3.40	0.40	
398	S14			表採	石鏃	サヌカイト	23.30	15.60	4.20	0.80	
398	S15	33区 中央		遺構面検出時	石鏃	サヌカイト	29.30	16.80	4.60	1.30	
398	S16	56区	SK5601	埋土	石鏃	サヌカイト	25.00	17.10	5.00	1.20	
398	S17	1区	SK0106		石鏃	サヌカイト	23.60	17.60	4.10	1.40	
398	S18			表採	石鏃	サヌカイト	22.10	12.50	3.50	0.70	
398	S19	1区	SK0106		石鏃	サヌカイト	29.70	14.80	4.20	1.60	
398	S20	1区	SX0101 主体部		打製石剣	サヌカイト	121.10	32.70	10.70	48.50	
398	S21	2区		表採	打製石剣	サヌカイト	49.40	23.60	11.00	10.70	
398	S22	41区		遺構面直上	石錐	サヌカイト	41.50	18.30	7.80	4.90	
399	S23	26区 西半中心		包含層	削器	サヌカイト	124.20	80.70	21.60	154.00	
399	S24	53区	SR5301(SX5301北側)		削器	サヌカイト	71.30	47.00	10.20	35.90	
399	S25	37区 北東		検出中	使用痕のある剥片	サヌカイト	73.10	38.40	9.30	18.80	
399	S26	52区 西半		黒シルト	使用痕のある剥片	サヌカイト	71.70	94.20	14.40	76.10	
400	S27	1区		精査(溝上面)	楔形石器	サヌカイト	43.40	36.20	6.30	9.90	
400	S28	53区	SR5301(SX5301北側)		楔形石器	サヌカイト	35.30	53.90	7.50	12.80	
400	S29	53区 西半		人力掘削	楔形石器	サヌカイト	45.20	49.00	26.90	57.10	
400	S30	52区 中央付近		黒シルト内	剥片	チャート	27.70	27.20	8.10	4.20	
400	S31	36区		包含層	剥片	サヌカイト	38.00	53.20	10.40	15.60	
400	S32	37区	SD3710		剥片	サヌカイト	56.80	40.80	8.50	18.10	
400	S33	40区 西半		褐灰色混礫極細砂 遺構面まで	加工痕のある剥片	サヌカイト	66.70	32.30	12.00	19.20	
400	S34	53区		面精査	加工痕のある剥片	サヌカイト	36.80	40.20	8.00	11.20	
401	S35	30区 段丘落ち際	溝？		打製石包丁	サヌカイト	138.00	50.30	14.40	105.10	
401	S36	37区		遺構面直上	打製石包丁	サヌカイト	53.70	45.40	10.20	31.80	
401	S37	38区 西半		灰褐粗砂混じりシルト	磨製石包丁	粘板岩	62.30	52.30	8.00	25.00	
401	S38			表採	砥石	砂岩	65.50	28.60	10.10	27.60	
401	S39	40区 西半		褐灰混礫極細砂 遺構面まで	砥石	砂岩	76.20	51.30	38.10	201.50	
402	S40	31－南区	SH3106 中央土坑		石皿	砂岩	110.10	95.70	58.90	795.40	
402	S41	53区	SX5304		砥石	砂岩	136.20	86.80	73.90	1240.00	
402	S42	59T		黒グライ層	砥石	凝灰岩？	181.00	97.60	59.80	1330.00	
402	S43	46T		包含層	石皿	砂岩	118.90	127.30	37.90	732.10	
402	S44	36区		包含層	凹石	閃緑岩	138.10	121.60	67.50	1785.00	
403	S45	26区	SX2606 上層		敲石	砂岩	123.00	78.20	56.60	684.10	
403	S46	37区	SK3704 掘方		敲石	砂岩？	90.70	55.70	50.80	387.30	
403	S47	26区		遺構面まで	磨石	閃緑岩	87.90	97.30	63.80	886.40	
403	S48	31区	SR3102		磨石	砂岩	71.30	57.10	14.40	72.30	
403	S49	37区		包含層	石棒	緑色片岩	166.80	46.90	35.00	417.10	
403	S50	1区	SX0102		石棒	緑色片岩	137.30	61.70	31.50	370.50	
403	S51	30区 段丘下東半		灰茶腐植質砂礫	石棒	緑色片岩	220.10	70.90	61.00	1345.00	

第12表　出土金属器計測表

図版番号	報告番号	出土地区	出土遺構	種別	器種	法量				備考
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
273	M1	59T	第6層	銅銭	和同開珎	縦2.47	横2.48	0.13	2.50	
404	M2	1区	SD0101	鉄器	鉄鏃	(10.60)	1.80	0.40	8.22	平根系圭頭式
404	M3	31－東区	P030	鉄器	刀子	(4.40)	1.40	0.60	4.58	断面三角、木質残る
404	M4	37区 北半	包含層	鉄器	刀子	5.80	1.60	1.20	13.53	三つに折りたたまれている
404	M5	31－東区	SR3102	鉄器	鎌	(7.20)	2.40	0.30	9.04	
404	M6	2区	SK0201	鉄器	釘	6.50	1.25	0.40 最大0.90	2.14	
404	M7	2区	SK0201	鉄器	釘	(4.45)	1.00	0.30 最大0.95	1.43	
404	M8	2区	SK0201	鉄器	釘	4.20	0.80	0.40 最大0.50	1.88	
404	M9	2区	SK0201	鉄器	釘	(1.90)	1.25	0.40 最大1.00	0.83	
404	M10	2区	SK0201	鉄器	釘	(3.75)	1.00	0.40 最大0.65	1.82	
404	M11	49区	P019	鉄器	釘	11.50	0.90	0.50 最大1.10	7.96	完形
404	M12	19区 段丘上 南半	SR1901	鉄器	釘	(2.05)	0.60	0.40	0.86	
404	M13	31－西区	SK3118	鉄器	釘	(3.30)	0.40	0.50	1.65	
404	M14	37区 中央南	包含層	鉄器	釘	(8.40)	0.70	0.65	10.30	断面四角
404	M15	13区	SK1304	鉄器	釘	(7.00)	0.70	0.60	5.35	
405	M16	19区 段丘上南半	SR1901	鉄器	釘？	(2.20)	0.75	0.40	1.53	
405	M17	31－西区	SR3101	鉄器	釘？	(3.20)	0.65	0.30	1.00	断面、扁平な長方形
405	M18	41区	包含層	鉄器	釘？	(4.50)	0.90	0.50	4.88	
405	M19	31－南区	SX3104	鉄器	釘？	(11.90)	0.50	0.40	4.57	断面四角
405	M20	26区	SR2601	鉄器	不明	(13.50)	0.70	0.60	9.16	断面三角の部分と半円の部分がある
405	M21	31－西区	SR3101	鉄器	釘	(3.50)	0.70	0.60	2.33	木質残る
405	M22	31－西区	機械掘削	鉄器	釘	(2.90)	0.80	0.70	2.78	断面四角
405	M23	40区	包含層	鉄器	不明	5.90	4.30	1.60	46.19	
405	M24	28区	P057	鉄器	不明	(2.70)	1.80	0.60	3.35	
405	M25	37区	P057	鉄器	鉄滓	4.50	3.50	0.70～2.70	25.90	
405	M26	38T(22区)	SD2201	鉄器	馬鍬	縦26.50	横12.35	8.20	805.60	馬鍬の刃(7本)

第13表　出土木製品計測表

図版番号	報告番号	出土地区	種別	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	器高	備考
406	W 1	28区 谷部	木簡	(60.15)	4.00	1.00～1.50	-	墨書あり　奈良
406	W 2	30区 段丘下 東半	木簡	30.10	3.55	0.60	-	墨書あり　灰茶色はピートと同化している
406	W 3	30区 段丘下湿地	木簡	(29.00)	3.35	0.60	-	墨書あり
406	W 4	30区 段丘下湿地	木簡	(10.95)	3.20	0.30	-	墨書あり
407	W 5	30区 段丘下西半	人形	(22.60)	(4.70)	0.35	-	墨書あり
407	W 6	53区 下	人形頭部	(12.55)	(3.45)	0.50	-	墨書あり
407	W 7	19区 南端 段丘崖下	人形頭部	(14.80)	7.00	0.60	-	
407	W 8	30区 段丘下	人形の足	(12.40)	(1.90)	0.35～0.65	-	木札はピート層？
407	W 9	28区 谷部	斎串	(9.50)	1.30	0.40	-	
407	W10	28区 段丘落ち際	斎串	(7.85)	1.45	0.25	-	
407	W11	28区 SR2803	斎串	(17.40)	1.40	0.70	-	
407	W12	30区 西半	斎串	(8.60)	1.30	0.35	-	
407	W13	37区	斎串	(27.30)	0.85	0.40	-	
407	W14	30区 段丘下湿地	斎串	(9.25)	1.00	0.40	-	
407	W15	19区 段丘下	斎串	(26.50)	2.35	0.70	-	黒灰シルト直上層
407	W16	19区 南半 段丘下	斎串	(15.30)	1.80	0.50	-	
407	W17	19区 段丘下	斎串	(27.80)	2.10	0.70	-	
408	W18	52区 南半	ナスビ形鋤	(8.25＋5.65)	(7.50)	1.10	-	2分割
408	W19	52区 南半	大足	(27.05)	8.00	1.65～2.20	-	
408	W20	28区 谷部	横槌	39.60	7.50	5.50	-	
408	W21	28区 谷部	木錘	16.00	5.85	6.10	-	
408	W22	28区 段丘落ち際	(把手)	(14.85)	4.10	3.95	-	
408	W23	53区	田下駄	(41.50)	(5.20)	1.10	-	2分割
408	W24	53区	大足	(46.20)	1.30	1.40	-	2分割
408	W25	53区	唐鋤の柄	52.60	4.50	3.70	-	
409	W26	54区	把手	14.00	4.05	3.05	-	
409	W27	37区 SE3701	柄	(9.25)	2.90	3.00	-	
409	W28	28区 段丘落ち際	柄	(14.20)	1.40	1.40	-	
409	W29	37区 SE3701	柿	24.90	(6.30)	1.65	-	
409	W30	28区 SR2803	陽物形？	22.50	2.00	2.10	-	
409	W31	28区 谷部	下駄(左)	(23.60)	(10.00)	(3.20)	-	
409	W32	53区 下	下駄(右)	24.60	8.50	2.50	-	
409	W33	53区 下	下駄(右)	25.20	(8.70)	(2.10)	-	
409	W34	28区 谷部	ヘラ	12.55	(6.25)	0.75～0.95	-	
410	W35	28区 谷部	椅子(天板)	54.80	15.05	2.55	-	
410	W36	53区	板材	60.60	(10.80)	1.05	-	
410	W37	53区	田下駄	(44.40)	(10.30)	1.55	-	有孔
410	W38	53区	折敷(底板)	38.40	(7.20)	0.75	-	有孔
411	W39	28区 谷部	槽	(28.40)	(8.30)	3.05	-	
411	W40	30区 南壁 SR3001直上	曲物(側板)	46.30	(12.50)	0.95	-	
411	W41	30区 段丘下 SR3001直上	曲物(側板)	(7.50)	(17.90)	0.85	-	
411	W42	30区 段丘下湿地中央	曲物(側板)	36.30	10.40	0.70	-	
411	W43	30区 段丘下東半	曲物(側板)	9.80	(59.00)	0.80	-	
411	W44	30区 段丘下湿地	曲物(側板)	4.50	(41.80)	0.60	-	
411	W45	54区	曲物(側板)	(11.50)	(27.00)	0.50	-	2分割
412	W46	30区 段丘下湿地	曲物(底板)	17.70	(4.40)	0.70	-	
412	W47	30区 段丘下東半	曲物(底板)	(21.10)	(3.50)	0.60	-	
412	W48	30区 南壁面	曲物(底板)	16.10	4.40	0.60	-	
412	W49	28区 段丘落ち際	曲物(底板)	(16.80)	(5.05)	1.10	-	
412	W50	30区 段丘下東半	曲物(底板)	(14.70)	(3.00)	0.65	-	
412	W51	30区 段丘下東半	曲物(底板)	(25.10)	(6.25)	0.80	-	
412	W52	30区 段丘下 SR3001直上	曲物(底板)	32.60	(2.70)	1.05	-	
412	W53	30区 段丘下東半	曲物(底板)	37.65	(19.70)	1.15	-	
412	W54	30区 段丘下湿地中央	曲物(底板)	35.85	(7.75)	1.85	-	
412	W55	30区 段丘下	曲物(底板)	(5.60＋3.40)	(15.00)	0.90	-	
412	W56	30区 段丘下湿地	曲物(底板)	(10.10)	(5.90)	0.50	-	
412	W57	30区 段丘下東半	曲物(底板)	(12.90)	(7.00)	0.70	-	
413	W58	28区 谷部	曲物(底板)	47.20	(8.60)	1.45	-	
413	W59	28区 段丘落ち際	曲物(底板)	(36.90)	(6.30)	1.50	-	
413	W60	30区 段丘下西半	挽物(皿)	19.00	(11.30)	0.70	1.20	有孔
413	W61	30区 段丘下東半	挽物(皿)	15.80	(6.10)	0.60	1.10	
413	W62	55区	挽物(皿)	(19.90)	(15.10)	0.70	1.40	有孔　3分割
413	W63	30区 段丘下東半	挽物(皿)	16.95	16.95	0.60	0.95	有孔
413	W64	30区 段丘下湿地	挽物(皿)	(11.35)	(4.25)	1.00	1.80	有孔
413	W65	30区 段丘下東半	挽物(皿)	(17.00)	(2.80)	(0.90)	-	
414	W66	30区 段丘下東半	挽物(皿)	18.00	(9.50)	0.50	1.10	
414	W67	53区 北側段下	挽物(皿)	(19.10)	(10.00)	0.70	1.70	
414	W68	30区 段丘下	挽物(皿)	(18.00)	(7.90)	0.70	1.20	木札はピート層？
414	W69	55区	挽物(皿)	(22.90)	(11.70)	0.70	2.00	5分割
414	W70	30区 段丘下東半	挽物(皿)	(22.20)	(2.35)	0.70	1.30	
414	W71	54区	棒状	(32.00)	2.00	1.90	-	
414	W72	30区 段丘下湿地	棒状	(38.40)	2.10	2.00	-	紡織具の一部か。
414	W73	54区	棒状	(21.20)	2.50	(1.70)	-	
414	W74	28区 谷部	棒状	24.20	3.00	1.90	-	
414	W75	30区 段丘下東半	棒状	42.20	1.90	(1.70)	-	
414	W76	53区 下段	棒状	(17.30)	1.10	0.65	-	斎串か？
414	W77	30区 段丘下湿地	棒状	(12.65)	1.10	0.80	-	
414	W78	54区	棒状	(12.20)	1.60	1.25	-	
415	W79	53区 下	角材	(64.50)	(4.90)	2.40	-	
415	W80	28区 谷部	角材	(19.30)	2.60	(2.70)	-	
415	W81	30区 段丘下東半	角材	(25.30)	1.70	1.40	-	
415	W82	30区 段丘下東半	角材	26.25	2.30	1.20	-	
415	W83	28区 SR2803	板材	(27.80)	2.70	1.50	-	
415	W84	19区 南半 段丘崖下	板材	(38.90)	6.20	1.30	-	
415	W85	53区	板材	(39.00)	(3.50)	0.70	-	
415	W86	52区 南半	板材	(20.40)	6.65	0.95	-	有孔　3分割
415	W87	30区 段丘下東半	角材	9.70	3.00	2.20	-	
415	W88	40区 SR4001	建築材	(26.75)	13.95	7.00	-	
415	W89	52区 南半	建築材	17.90	7.95	1.60	-	
416	W90	52区 南半	楔状	13.25	5.10	1.75	-	
416	W91	30区 段丘下	楔状	24.70	5.90	1.15	-	
416	W92	30区 段丘下湿地中央	楔状	24.80	5.30	4.00	-	
416	W93	30区 段丘下湿地中央	椅子(端部)	(9.70)	(10.25)	3.40	-	
416	W94	19区 南半 段丘崖下	矢板	41.05	18.00	2.90	-	
416	W95	19区 南半 段丘崖下	不明	18.05	19.75	3.55	-	
416	W96	30区 段丘下 SR3001北	容器？	-	-	-	14.60	底径4.65cm、ヒョウタン
417	W97	28区 段丘下東半	井戸枠	125.95	10.70	11.95	-	
417	W98	30区 段丘下湿地西半	井戸枠	83.90	12.60	5.30	-	
417	W99	53区	板材	(94.80)	11.70	2.35	-	矢板か。
417	W100	53区 北側段下	板材	79.00	4.35	2.95	-	
417	W101	28区 西側低地	杭	(71.00)	3.10	3.10	-	

報　告　書　抄　録

ふりがな	さかもといせき
書名	坂元遺跡Ⅱ
副書名	東播都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第366冊
編著者名	渡辺　昇(編集)、西口圭介、山上雅広、篠宮　正、鐵　英記、長濱誠司、友久伸子、青木哲哉、パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社加速器分析研究所
編集機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中500　　TEL079-437-5589
発行機関	兵庫県教育委員会
所在地	〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目10番１号　　TEL078-341-7711
発行年月日	2009(平成21)年３月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
坂元遺跡	加古川市野口町坂元・野口	28210	110634	34度45分36秒	134度51分11秒	確認調査(2002160) 20021114～20030205	1,620㎡	東播都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業
						本発掘調査(2003162・2003197・2003198・2003199) 20031023～20040308	7,626㎡	
						確認調査・本発掘調査(2004001) 20040707～20050314	本発掘調査 18,502㎡ 確認調査 576㎡	
						本発掘調査(2005001) 20050607～20051017	7,215㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坂元遺跡	集落・墳墓・窯	旧石器時代		ナイフ形石器、台形石器	
		縄文時代	土坑、埋甕	縄文土器、石器	
		弥生時代	住居跡、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑	弥生土器、石器	Ⅲ期～Ⅳ期の方形周溝墓15基
		古墳時代	住居跡、古墳、埴輪窯、祭祀土坑、水田	土師器、ガラス玉、形象埴輪、円筒埴輪	古墳とそこに樹立された埴輪を焼成した窯
		奈良時代	掘立柱建物、井戸、水田、溝、水田	土師器、須恵器、墨書土器、播磨国府系瓦、木製祭祀具、土馬、和同開珎、押印須恵器	土地区画の変化に対応した２時期の集落跡。賀古駅に属する駅家郷か。墨書土器「大家」・「吉家」・「小殿」など。
		鎌倉時代	掘立柱建物、鍛冶遺構、水田、溝	須恵器、土師器、陶磁器	

要約	区画整理事業に伴う記録保存のための調査。旧石器時代～中世にいたる遺構と遺物を検出した。旧石器時代のものは遺物のみの出土である。縄文時代は埋甕と土坑を検出し、墓域が営まれていたと思われる。弥生時代は中期半ばから後半の集落と方形周溝墓群、後期後半の集落を検出した。古墳時代は後期の集落と古墳を検出した。古墳には埴輪が樹立されており、その埴輪を焼成した窯跡も同時に調査した。窯跡は２基あり、１基は形象埴輪、もう１基は円筒埴輪を焼成している。奈良時代前半の集落は正方位に沿って建てられており、奈良時代後半の掘立柱建物は西に約45°振った地割りに沿って建てられている。駅家郷の可能性がある。平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物も検出されている。

兵庫県文化財調査報告　第366冊

坂元遺跡 II

—本文編—

東播都市計画事業坂元・野口土地区画
整理事業に伴う発掘調査報告書

平成21年３月23日

編　集　　兵庫県立考古博物館
〒675-0142　加古郡播磨町大中500
TEL 079-437-5589

発　行　　兵庫県教育委員会
〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目10番１号

印　刷　　丸山印刷株式会社
〒676-8566　高砂市神爪１丁目11番33号